

DIGITAL PROPORTIONAL R/C SYSTEM

T6PV



WEB フル・マニュアル

1M23Z10801

Futaba®

このたびは T6PV をお買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
また、お読みになられたあとも大切に保管してください。

はじめにお読みください。

下記に 2.4GHz システムを安全にご使用いただくための基本的な注意事項が記載されています。
製品をご使用前に必ずお読みください。

2.4GHz システムを安全にご使用いただくための基本的な注意事項

- ① ご使用の際は製品に付属の取扱説明書や注意書をよく読んでください。
- ② 2.4GHz はラジコン専用の周波数ではありません。この周波数帯は電子レンジ、無線 LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ・ゲーム機や携帯電話の Bluetooth、VICS などの近距離通信に利用される ISM（産業・科学・医療）バンドと共用されているため、都市部では 2.4GHz システムの操縦レスポンスが低下する可能性があります。また、アマチュア無線、移動識別用構内無線にも使用されているため、これらの影響に注意をして使用してください。なお、既設の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の発射を停止し、干渉回避対策を実施してください。
- ③ 走行場では、送受信機に影響を与える可能性のある機器の使用は最小限にし、事前に安全性を確認するようにしてください。また、施設の管理者の指示に従ってください。
- ④ 同一走行場では、同時に使用する 2.4GHz プロポの台数は 15 台以内にしてください。同時に使用される 2.4GHz のプロポの台数が判るように施設のボード等を利用してください。
- ⑤ 建物、鉄塔や樹木などの後ろを走行させ、電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスが低下したり操縦不能になる場合があります。常に目視で確認できる範囲で走行してください。
- ⑥ 日本国内では、電波法に基づく技術基準適合証明試験を受け、認証番号を記載した認証ラベルが外から見える場所に貼られているプロポが使用できます。ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- ⑦ 海外からの輸入品等の場合で、上記認証ラベルが貼られていないプロポの使用は電波法違反になります。
- ⑧ (一財)日本ラジコン電波安全協会は、ラジコン運用を安全に行っていただくための啓発を行っています。同協会の名称の入った認証ラベルが貼られているプロポをご使用ください。

[認証ラベルの例]



2.4GHz 送信機操作時の注意事項

- ① 送信機のアンテナ（内蔵）には構造上、電波の弱い方向があります。アンテナ先端を模型方向に向けしないでください。
- ② 送信機のアンテナの特性上、金属クリップなどを送信機ケースの内蔵アンテナ部分に取り付けしないでください。また、この部分を手などで覆い隠さないようにしてください。

2.4GHz 受信機搭載時の注意事項

- ① 受信機のアンテナは、できるだけ金属や地面から離し、金属等の電波の遮へい物がないように搭載してください。
- ② 受信機のアンテナを折り曲げたり、長さを詰めたり、切断しないでください。
- ③ 振動が大きい場所、電気ノイズ・機械ノイズが多い場所への搭載は避けてください。

- 本書の内容の一部または全部の無断転載を禁じます。
- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書のイラスト・画面の画像は参考図です。現品と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- お客様が機器を使用された結果につきましては、責任を負いかねることがございます。

●安全にお使いいただくために …………… 6	●カーボンハンドル（オプション） …… 17
●表示の意味 …………… 6	●電源用単三乾電池の入れかた、交換方法 …………… 18
●システム設定と使用サーボの注意 …… 6	●オプションバッテリー LiFe/NiMH への交換 …………… 19
●走行（走航）時の注意 …………… 7	●オプション LiPo バッテリー LT2F2000B の使用 …………… 20
●オプションのバッテリーおよび充電器の取扱上の注意 …………… 7	●ホイールポジションの変更 …………… 21
●保管・廃棄時の注意 …………… 8	●ホイール動作角度の変更（ホイールアダプター 32°）と大径ホイールへの交換 22
●その他の注意 …………… 8	●アダプター APA の取り付け …………… 23
●特長 …………… 9	●アングルスペーサーを使用する場合 25
●セット内容 …………… 10	●トリガーブレーキレバーの交換 …… 26
●送信機 T6PV 各部の名称 …………… 11	●送信機のアンテナおよび受信機の取り扱い …………… 26
●電源（PWR）／ディスプレイ（DSP）スイッチ …………… 12	●受信機（R404SBS / R404SBS-E）各部の名称 …………… 27
●電源（PWR）スイッチを入れたときの画面表示 …………… 12	●受信機の搭載 …………… 27
●電源切り忘れアラームとオートパワーオフ …………… 13	●受信機・サーボの接続 …………… 28
●ローバッテリーアラーム …………… 13	●組込時の安全上の注意 …………… 29
●ステアリング／スロットルの操作 …… 13	●基本設定 …………… 31
●デジタルトリムの操作 …………… 14	●画面の基本操作 …………… 31
●トリムロック …………… 15	●メニュー画面の表示 …………… 31
●メカニカル ATL の調整 …………… 15	●エンドポイント画面の呼出→エンドポイント画面からホーム画面へもどる例 31
●ホイール／トリガーテンションの調整 16	●ジョグキー /DIR/END ボタン …………… 32
●トリガースライドの調整 …………… 16	●各機能の数値や設定データの変更 …… 33
●SW: プッシュスイッチ、DL: ダイアル 17	
●グリップラバー（オプション）の変更 17	

● F-4G システムの場合のリンク	34
--------------------	----

● 機能説明マップ	37
-----------	----

システムメニュー	39
----------	----

● ディスプレイ設定	39
------------	----

● システム情報	40
----------	----

● ブザー	42
-------	----

● バッテリー設定	43
-----------	----

● トータルタイマー	44
------------	----

● LED 設定	45
----------	----

● アジャスター	46
----------	----

● 受信機アップデート	48
-------------	----

モデルメニュー	50
---------	----

● モデルセレクト	50
-----------	----

● モデルコピー	51
----------	----

● モデルネーム	53
----------	----

● モデル削除 (SD カード内)	54
-------------------	----

● データリセット	55
-----------	----

● モデルタイプ	56
----------	----

セットアップメニュー	57
------------	----

● 受信機設定	57
---------	----

● F-4G システムの場合のリンク	57
--------------------	----

● T-FHSS システムの場合のリンク方法	60
------------------------	----

● S-FHSS システムの場合のリンク方法	62
------------------------	----

● MINI-Z EVO レシーバーユニット 82042 (RA-42) の場合のリンク方法	63
--	----

● MINI-Z EVO2 レシーバーユニット 82044 (RA-51), 82046(RA-53) のリンク方法	65
--	----

● MINI-Z FS-RM005 モジュールの場合のリンク方法	68
----------------------------------	----

● サーボビュー	70
----------	----

● スロットルモード	71
------------	----

● リバース	73
--------	----

● サブトリム	74
---------	----

● エンドポイント	75
-----------	----

● フェイルセーフ機能	78
-------------	----

● アクセレーション	80
------------	----

● トリム/ダイヤル設定	82
--------------	----

● スイッチ設定	85
----------	----

● アイドルアップ	88
-----------	----

● D/R, ATL	90
------------	----

● チャンネル設定	92
-----------	----

レーシングメニュー	93
-----------	----

● カーブ (EXP)	93
-------------	----

● ステアリングカーブ	93
-------------	----

● スロットルカーブ (前進側)	95
------------------	----

● ブレーキカーブ	97
-----------	----

● スピード	98
--------	----

● ステアリングスピード	98
--------------	----

● スロットルスピード	100
-------------	-----

● トラクションコントロール	102
----------------	-----

● A.B.S.	106
● スタート	111
● エンジンカット	113
● フィーリング	115
● ドラッグレース	116

ミキシングメニュー 117

● ステアリングミキシング	117
● ブレーキミキシング	121
● ジャイロミキシング	125
● 4WS ミキシング	128
● デュアル ESC	131
● CPS ミキシング (1, 2, 3)	133
● タンクミキシング	135
● プログラムミキシング (1, 2, 3, 4, 5)	137
● ウィンチミキシング	141

テレメトリーメニュー 143

● テレメトリーシステム	143
● テレメトリー	144
● テレメトリー：受信機電圧	145
● テレメトリー：外部電圧	146
● テレメトリー：回転数	147
● テレメトリー：温度	148
● テレメトリー：電流	149
● テレメトリー：MC/Acuvance	151

● センサーリスト	153
● センサーメニュー	155
● センサー再読み込み	156
● センサー登録	157
● スロット番号変更	158
● ログデータ間隔の設定	159




アクセサリメニュー 160

● タイマー	160
● ラップリスト	168
● S.BUS サーボ	169
● UR サーボの設定変更手順	176
● MC(ESC) リンク	180
● ジャイロリンク	191
● 指数表	196
● ギアレシオ表	197
● END/DIR ボタン設定	198
● ホーム画面表示設定	199
● カスタムメニュー編集	201
● REAL TIME ICS MiniZ	202
● ワーニング表示	204
● 修理を依頼されるときは	205

いつも安全に製品をお使いいただくために、以下の点に注意してください。

表示の意味

本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要がある内容を示しています。

表示	意味
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または、軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。

図記号：  ; 禁止事項  ; 必ず実行する事項

システム設定と使用サーボの注意

警告

- ❗ 使用するサーボとその動作モード(UR/SR/ デジタル/ アナログ)にしたがって送信機側の受信機設定を合わせてください。(各チャンネルごとに)

設定が合っていない場合、サーボや電池などにダメージを及ぼす恐れがあります。

設定とサーボが合っていないと動作できない場合や、動作できる場合でも所定の性能は発揮されません。他社製品との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。

- 動作モードが設定できるサーボは、使用するシステムに合わせて、サーボの動作モードを変更してください。使用するシステムに合わない動作モードに設定されている場合、故障や破損する恐れがあります。
- URモードはURサーボ(URモードに設定した)を、SRモードはSRサーボ(SRモードに設定した)を使用してください。
- UR(SR)モードON時、Futaba UR(SR)対応サーボ専用となります。UR(SR)対応サーボ以外を使用するとサーボや受信機の故障の原因となります。
- UR/SRモードがONのCHにノーマルサーボを接続すると破損する危険性があります。
- デジタルサーボモードでUR/SRサーボ(UR/SRモードに設定した)とアナログサーボを接続してはいけません。
- アナログサーボモードでUR/SRサーボ(UR/SRモードに設定した)を接続してはいけません。
- UR/SRサーボはノーマルモードに設定するとデジタル、アナログでも使用可能です。
- UR/SRモードに設定したUR/SR対応サーボを受信機のS.BUS2ポート(S)に接続するとサーボや受信機の故障の原因となります。
- 受信機側使用電源は受信機および接続するサーボの規格に合わせてください。
- F-4Gおよび、その他のシステムのデジタル(ハイスピード)モードでは、システムが異なるためフェイルセーフユニットは使用できません。送信機側のフェイルセーフ機能を使用してください。

走行（走航）時の注意

⚠警告

⓪雨の日、水たまりの中、夜間は絶対に走行させない。
装置内部に水が入り誤動作して暴走したり、見失ったりして大変危険で、暴走した場合大ケガをします。

⓪次のような場所では走行（走航）させない。

■他のラジコンサーキットの近く（3 km 程度以内）

■人の近くや道路

■手漕ぎボートがいるような池

■高圧線、通信施設の近く

電波の混信などにより暴走、または、万一、プロポや車（ボート）の故障により暴走した場合、大ケガをします。

⓪疲れているとき、病気のとき、酔っぱらっているようなときは走行（走航）させない。

集中力を欠き、正常な判断ができないため思わない操作ミスをおかします。

❶走行（走航）前には必ずプロポのテストを実行する。

プロポ、車（ボート）等のどこかに一つでも異常があれば暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。

（簡単なテスト方法）

車（ボート）は助手の人に持ってもらうか、台の上に乗せて走り出さないようにし、各舵を動作させてみて、追従動作することを確認します。追従動作しない場合や、異常な動作をする場合は、走行（走航）させないでください。また、モデルメモリーが、その車（ボート）に合ったものを選んでおくことも確認しておきましょう。

⓪使用中、使用直後には、エンジン、モーター、ESC 等には触れない。

高温になっているためヤケドします。

❶電源スイッチを入れるとき（フェイルセーフ機能を設定している場合でも）

送信機のスロットルトリガーを停止位置にした状態にする。

1. 送信機の電源スイッチを入れる。

2. 受信機側の電源スイッチを入れる。

操作の順番を逆にすると、不意に車（ボート）が暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。

❶電源スイッチを切るとき（フェイルセーフ機能を設定している場合でも）

エンジンまたはモーターを停止する。

1. 受信機側の電源スイッチを切る。

2. 送信機の電源スイッチを切る。

操作の順番を逆にすると、不意に車（ボート）が暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。

❶プロポの調整を行うときは、必ずエンジンを停止させた状態、またはモーターの接続をはずした状態で行う。

不意に車（ボート）が暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。

（フェイルセーフ機能）

❶安全のため必ずフェイルセーフ機能（F/S）を設定し、走行（走航）前にフェイルセーフ機能が作動することを確認する。

（確認方法）

エンジン始動前に次の方法で確認してください。

1) 送信機、受信機の順で電源スイッチを入れる。

2) 10 秒経過後、送信機の電源スイッチを切る。（フェイルセーフのデータは送信機の電源を入れてから 10 秒後に受信機へ自動転送し、その後 5 秒ごとに転送します）

3) スロットル等がフェイルセーフ機能で設定した位置に動作することを確認してください。

フェイルセーフ機能は受信不能時にあらかじめ設定した位置にサーボを動作させ、被害を最小限に抑えるための安全上の補助装置ですが、危険な位置に設定している場合は逆効果となります。また、リバース機能でサーボの動作方向を変えた場合は、フェイルセーフ機能の再設定が必要です。

設定例：スロットルをアイドルまたはブレーキの位置

オプションのバッテリーおよび充電器の取り扱い上の注意

⚠警告

⓪オプションの専用充電器を AC100 V 以外の電源コンセントには差し込まない。

AC100 V 以外のコンセントに差し込むと、発煙、発火、火災を引き起こします。

⓪ぬれた手で充電器をコンセントへ抜き差ししない。

感電の危険があります。

⓪オプションの送信機用バッテリーは、絶対に受信機側には使用しない。

送信機用バッテリーは負荷が大きくなると保護回路が働き出力が停止します。走行（走航）中に停止すると暴走する危険があります。

❶オプションの送受信機用バッテリーは、走行（走航）前に必ず充電する。

走行（走航）中に電池がなくなると暴走する危険があります。

❶オプションの送受信機用バッテリーの充電は、専用充電器を使用する。

規定値を越える充電は、異常発熱、破裂、漏液等により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こします。

オプションのバッテリーおよび充電器の取り扱い上の注意

⚠注意

- ① 市販の単3型ニッカド、ニッケル水素バッテリーは使用しない。
バッテリーホルダーの接点部分が異常発熱し装置が破損する場合があります。
- ② バッテリーの接続コネクターの端子をショートさせない。
ショートすると発火、異常発熱等により、ヤケドをする場合や、火災を引き起こす場合があります。
- ③ バッテリーは、落下させるなどの強い衝撃を与えない。
ショートして異常発熱したり、壊れて電解液が漏れると、ヤケドしたり、化学物質による被害を受けます。
- ④ バッテリーを接続していない状態で充電器を接続しない。
回路に負荷がかかり、本体が破損する恐れがあります。
- ⑤ 走行（走航）させないときは、必ず走行（走航）用バッテリーをはずしておく。
接続したままにしておくと、不意に車（ボート）が暴走する危険があります。
- ⑥ 専用充電器は、充電しないときにはコンセントから抜いておく。
異常発熱等による事故を防止します。

<ニッケル水素、ニッカドバッテリーの電解液について>

バッテリー内の電解液は強アルカリ性のため、電解液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。こすらずに、すぐにきれいな水でよく洗い流した後、直ちに医師の治療を受けてください。また、電解液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



保管・廃棄時の注意

⚠警告

- ① プロポ、電池、車体等を幼児の手の届くところに放置しない。
触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けたりします。
- ② 電池を火の中に投入したり、加熱したりしない。また、分解したり、改造したりしない。
破裂、異常発熱、漏液等により、ケガ、ヤケド、失明等をします。
- ③ 走行（走航）させない場合は、オプションのプロポ用リチウムバッテリーは、約50%充電した状態で保管し、次の走行（走航）前に再度充電するようにする。
長期間使用しない場合は、電池の劣化を防ぐため満充電ではなく、容量の半分程度の状態で保存することを推奨します。また、自己放電による過放電状態になることにも注意が必要です。定期的（3カ月程度ごと）に充電してください。また、必ずプロポから取りはずし、湿気の少ない15℃～25℃くらいの涼しい場所で保管してください。

⚠注意

- ① プロポは次のような場所には保管しない。
 - ・極端に暑いところ（40℃以上）、寒いところ（-10℃以下）。
 - ・直射日光があたるところ。
 - ・湿気の多いところ。
 - ・振動の多いところ。
 - ・ほこりの多いところ。
 - ・蒸気や熱があたるところ。上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。
- ② 長期間使用しない場合は、電池を送信機や車（ボート）から取り出して、湿気の少ない場所に保管する。
そのまま放置すると、電池の漏液により、送信機や車（ボート）の性能や寿命を低下させます。

その他の注意

⚠注意

- ① 燃料、廃油、排気等を送信機、受信機、サーボ、アクセサリなどにつけない、付着させない。燃料、廃油、排気等が付着した場合は速やかに拭き取る事。
そのままにしておくと破損の原因になります。
- ② 送信機、受信機、サーボ、ESC、バッテリーその他オプションパーツは、必ず Futaba 純正品の組み合わせで使用する。
Futaba 純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。

特長

●フルカラー液晶装備

3.2 インチカラーグラフィック液晶により、セッティング時の視認性を大幅に向上させています。

●ディスプレイスイッチ

電波を出さずに、機能設定ができます。

●F-4G システム

T-FHSS SR システムよりも高速レスポンスかつ、双方向通信を可能にした F-4G システムを搭載しました。

●6 チャンネル操作可能

S.BUS2 システムの併用で最大 6 チャンネルの操作が可能です。

●京商 MINI-Z システム対応

レシーバー設定メニューで、MINI-Z システムに切り替えること、京商 MINI-Z の対応車種がコントロールできます。

●ソフトウェアアップデート可能

microSD カードで、ソフトウェアアップデートが可能です。microSD カードにモデルデータを保存することもできます。

●40 台分のモデルメモリーを搭載

モデルネームには 15 文字迄の英数字、カタカナ、および記号が使用できるため、わかりやすい名前を設定できます。モデルコピー機能を使うと、微妙にセッティングの違うモデルメモリーを簡単に作れます。

●LiFe/LiPo バッテリー使用可能

Futaba オプションの LiFe バッテリーまたは LiPo バッテリーが使用可能です。走行時間を伸ばすことができます。

●フィーリング

高速化したレスポンスが敏感すぎる場合にレスポンスをマイルドにすることができます。

●モデルタイプ

ノーマル・1/5 ビッグカー・ドリフトの 3 タイプに最適な初期設定に変更できます。

●大型カー用ブレーキミキシング

1/5 ビッグカー等の前後輪のブレーキミキシングで、前後別々に調整が可能です。

●ステアリングミキシング

左右独立したステアリングサーボの設定でスムーズなコーナリングが可能です。

●4WS ミキシング

クローラー等 4WS タイプの、同位相、逆位相などのコントロールが可能です。

●デュアル ESC ミキシング

前後に独立した ESC をコントロールできます。

●ジャイロミキシング

T6PV 本体側で Futaba 製カー用レートジャイロの感度調整が 4 レート可能です。

●CPS ミキシング

Futaba 製チャンネル・パワー・スイッチ CPS-1 を使って LED を点灯、点滅のコントロールが、スイッチだけでなくステアリングやスロットル操作に合わせて、3 系統設定できます。

●タンクミキシング

戦車などの履帯車両向けのミキシングです。信地旋回、超信地旋回が可能です。

●ウインチミキシング

ウインチを装備したクローラー向けのミキシングです。スロットルからウインチ、ウインチからスロットルの双方向ミキシングを行うことで、車体とウインチを 1 つのコントロールで同時に作動させることができます。

●ドラッグレース

ドラッグレースのスタート時に使用します。全開からブレーキ解除で一気に加速します。

●受信機アップデート

受信機にアップデートソフトが公開された時に、アップデートソフトをコピーした microSD カードを送信機へ挿入し、受信機を送信機に接続してアップデートできます。

●S.BUS サーボ

PC の Link ソフトを使用して設定変更する Futaba 製 S.BUS サーボのパラメーター設定を T6PV 本体で設定できる専用機能です。S.BUS サーボを受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレス方式と、T6PV の com (コミュニケーション) ポートに接続して設定する有線方式の 2 通りが可能です。

●MC(ESC) リンク

Futaba 製 モーターコントローラー (ESC) の、可変周波数やその他のデータ変更を T6PV 本体で設定できる機能です。受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレスの設定が可能です。

※ワイヤレス対応 ESC : MC971CR/MC970CR (2024 年 11 月現在) 他社製 Acuvance Xarvis/XarvisXX にも対応

●ジャイロリンク

Futaba 製カー用ジャイロのパラメーターの変更を、T6PV 本体からワイヤレスで設定できる機能です。※対応ジャイロ : GYD550 (2025 年 1 月現在)

●スロットルスピード

スロットルスピード機能を設定することで、スムーズかつ楽に操縦できると同時にバッテリーの消耗を抑えます。

●ステアリングスピード

ステアリングサーボが速すぎると感じたときなどに、サーボの動作スピード (最高スピードを抑える方向) を調整できます。

●ダイヤル設定/スイッチ設定機能

ダイヤル類 (デジタルトリム、デジタルダイヤル) に機能を割り当てる機能です。その他、ステップ量や動作方向も調整可能です。このダイヤル類はすべてデジタル方式であるため、モデル呼び出しのたびにトリムの位置合わせをする必要はありません。3 個のスイッチに対して機能を割り当てる機能です。その他動作方向も設定可能です。

●ホイール/トリガーポジションの変更が可能

ホイールポジションアダプター APA (付属) を使用することによりホイール位置を細かくフィットできます。さらに、2 段階の角度調整が可能です。また、スロットルトリガーの位置を前後に移動でき、また動作角度も調整できます。

●トリム/ダイヤルロック機能

T6PV 本体のトリム/ダイヤルの操作を禁止するロック機能を装備しています。

●設定機能アイコン表示

各設定機能が見やすいアイコンで表示されます。

セット内容

次のものが付属します。ただし、セットにより付属品の内容が異なります。

送信機	T6PV (x1)
受信機	R404SBS-E(電動専用) あるいは R404SBS * 個数・機種はセットにより異なります。
その他	ホイールポジション変更アダプター APA -M (x1) 取り付けねじ袋詰 (x1) ホイールアダプター 32° (x1) ブレーキ・レバー L (x1) アングルスペーサー 5° (x1) 大径ステアリングホイール (x1) UR/SR ラベル 取扱説明書 (ショートマニュアル) 六角レンチ

- サーボ・ESC(EP カーの場合) は必要に応じて機種を選択しご購入ください。
- セット内容に、不足や不明な点があるときはご購入のお店にお問い合わせください。
- セット内容は変更される場合があります。

⚠ 警告

⊘ R404SBS-E は電動カー用です。エンジンカーには使用しないでください。

❗ 受信機、サーボ、ESC、バッテリーその他オプションパーツは、必ず Futaba 純正品の組み合わせで使用する。

Futaba 純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。

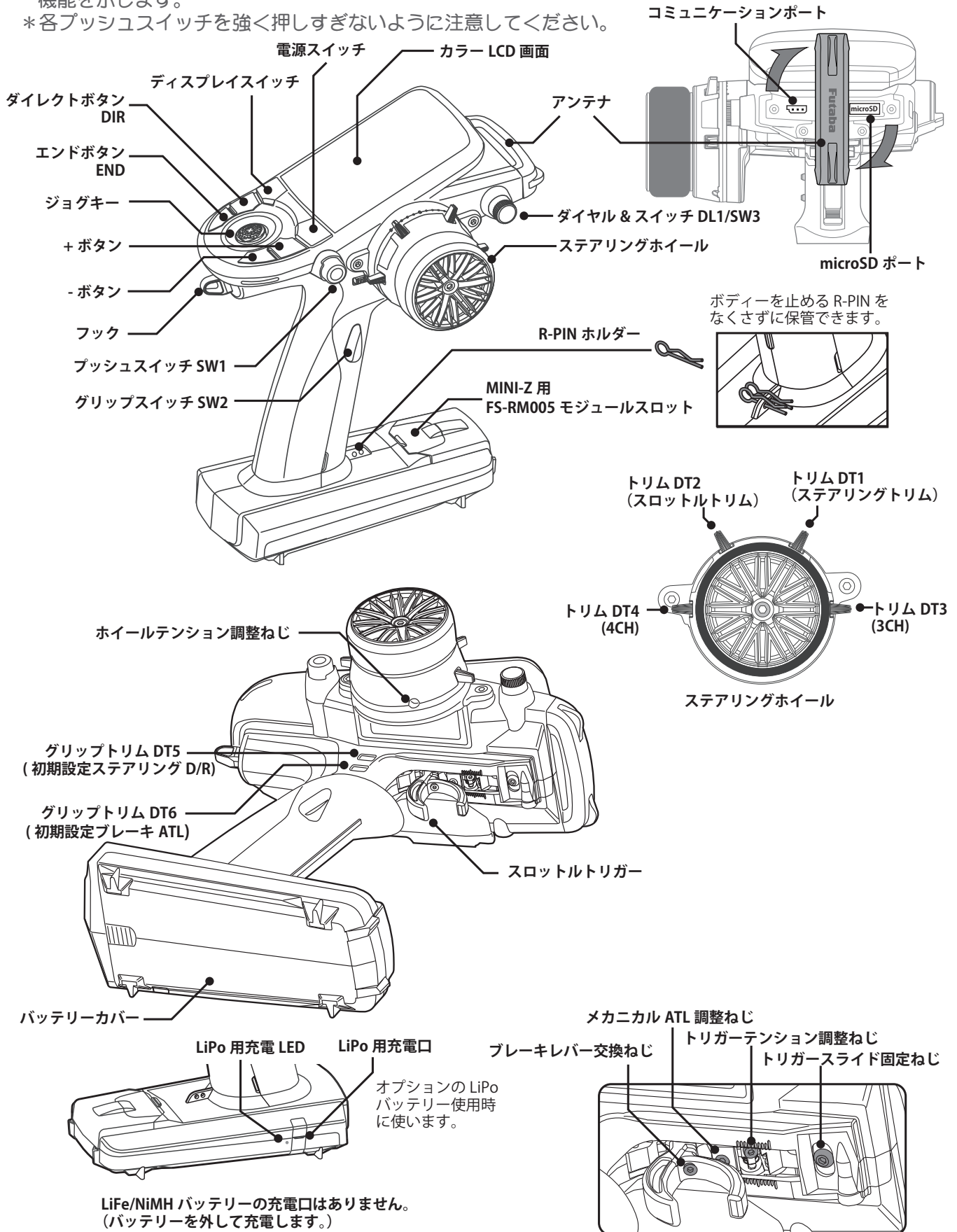


送信機の取り扱い方

送信機 T6PV 各部の名称

* 図のスイッチ、つまみ、トリム類に割り当てる機能は変更できます。図の表記は初期設定時の割り当て機能を示します。

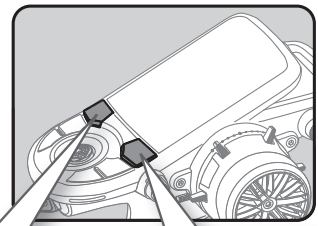
* 各プッシュスイッチを強く押しすぎないように注意してください。



電源 (PWR) / ディスプレイ (DSP) スイッチ

電源スイッチとディスプレイスイッチはプッシュスイッチです。

電源スイッチ (PWR) を押すと電波が送信され、ディスプレイスイッチ (DSP) を押すと電波を送信しないで画面を表示して、データの確認や設定ができます。電源を切る場合は、電源スイッチとディスプレイスイッチのどちらかを長押しします。また、両方のスイッチを同時に押すと素早く電源が切れます。



ディスプレイ

電源スイッチ

DSP

「ディスプレイ」と点滅表示します。

電波を送信しないで画面を表示することができます。

※送信機の各設定ができます。模型の操作はできません。

OFF

電源スイッチとディスプレイスイッチのどちらかを長押しすると電源が切れます。また、両方のスイッチを同時に押すと素早く電源が切れます。

※未使用時は電源を OFF にします。

PWR

電波が送信されます。各機能の確認、設定もできます。

※次に受信機側の電源を ON すると模型の操作ができます。

電源 (PWR) スイッチを入れたときの画面表示

T6PV は、ジョグキー・DIR・END・+・- ボタンで、画面の操作をします。

受信機設定
F-4G/T-FHSS/S-FHSS/MINI-Z EVO/
MINI-Z EVO2/MINI-Z FHSS
(DSP 側の場合ディスプレイと表示)

モデルネーム (15 文字)

トリムロックマーク

マイクロ SD カードマーク

ST (ステアリング) トリム表示

TH (スロットル) トリム表示

トータルタイマー

バッテリー電圧表示

受信機信号の受信感度

受信機電圧

デジタルトリム類に割り当てた機能名とレートを表示します。初期設定では DL1 に割り当てた機能はありませんので OFF と表示します。

トリム / ダイヤル

DT1	ステアリングトリム	0
DT2	スロットルトリム	0
DT3	チャンネル3 操作	+0
DT4	チャンネル4 操作	+0
DT5	デュアルレート	+100
DT6	ブレーキ1 レート(ATL)	+100
DL1	OFF	

* 上の図は、説明のため一部合成加工していますので、実際の画面表示とは違う部分があります。



電源切り忘れアラームとオートパワーオフ

T6PV のステアリング、スロットル、各プッシュスイッチやタッチパネルなどを、何も操作していない時間が 10 分経過すると、画面上部に「警告：オートパワーオフ」と表示し、警告音が鳴ります。このときステアリング、スロットルなどを操作すると、警告が解除されます。アラームを解除しないと、オートパワーオフ機能によって、5 分後に自動的に電源が OFF になります。このアラームと、オートパワーオフ機能を使用したくない場合は、システムメニューのバッテリー設定で解除できます。

ローバッテリーアラーム

送信機のバッテリー電圧が、使用できる限界近くまで下がると、LCD 画面に「バッテリーが少なくなっています」と警告を表示し、警告音が鳴ります。オプションの充電式バッテリーではバッテリーアラーム電圧が異なりますので、使用する電池の種類を替えた場合、必ずバッテリー設定で使用電源タイプの変更をしてください。なお、温度の影響でバッテリーの使用できる条件に違いがあるため、送信機の温度に対してローバッテリーアラーム電圧の補正をしています。そのためローバッテリーアラームの条件は、気温など周囲温度で変化します。

⚠注意

- ① ローバッテリーアラームが発生した場合、すぐに車（ポート）を回収し、走行（走航）を中止してください。走行（走航）中に電池がなくなると、車（ポート）が暴走する危険があります。

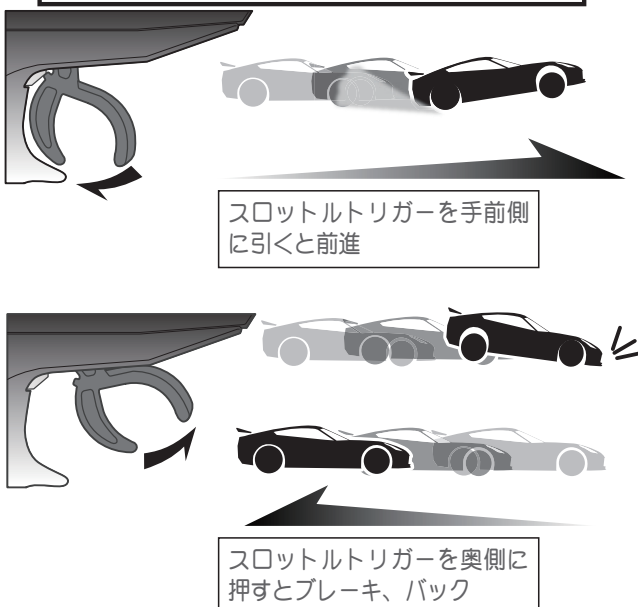
ステアリング／スロットルの操作 CH1 CH2（一般的な RC カーの操作例）

（CH1；ステアリングホイール、CH2；スロットルトリガー）

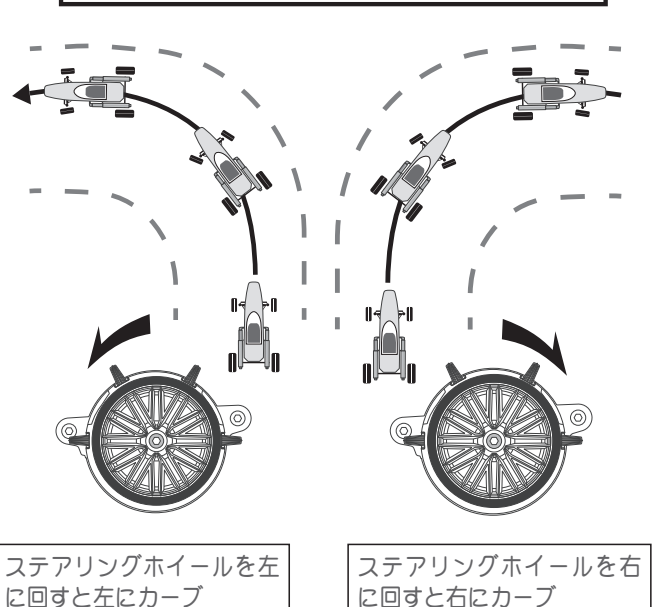
ステアリングホイールを左右に動かして、ステアリング操作をします。

スロットルトリガーを前後に動かして、前進、停止、ブレーキ、バックの操作をします。

スロットルトリガーの操作



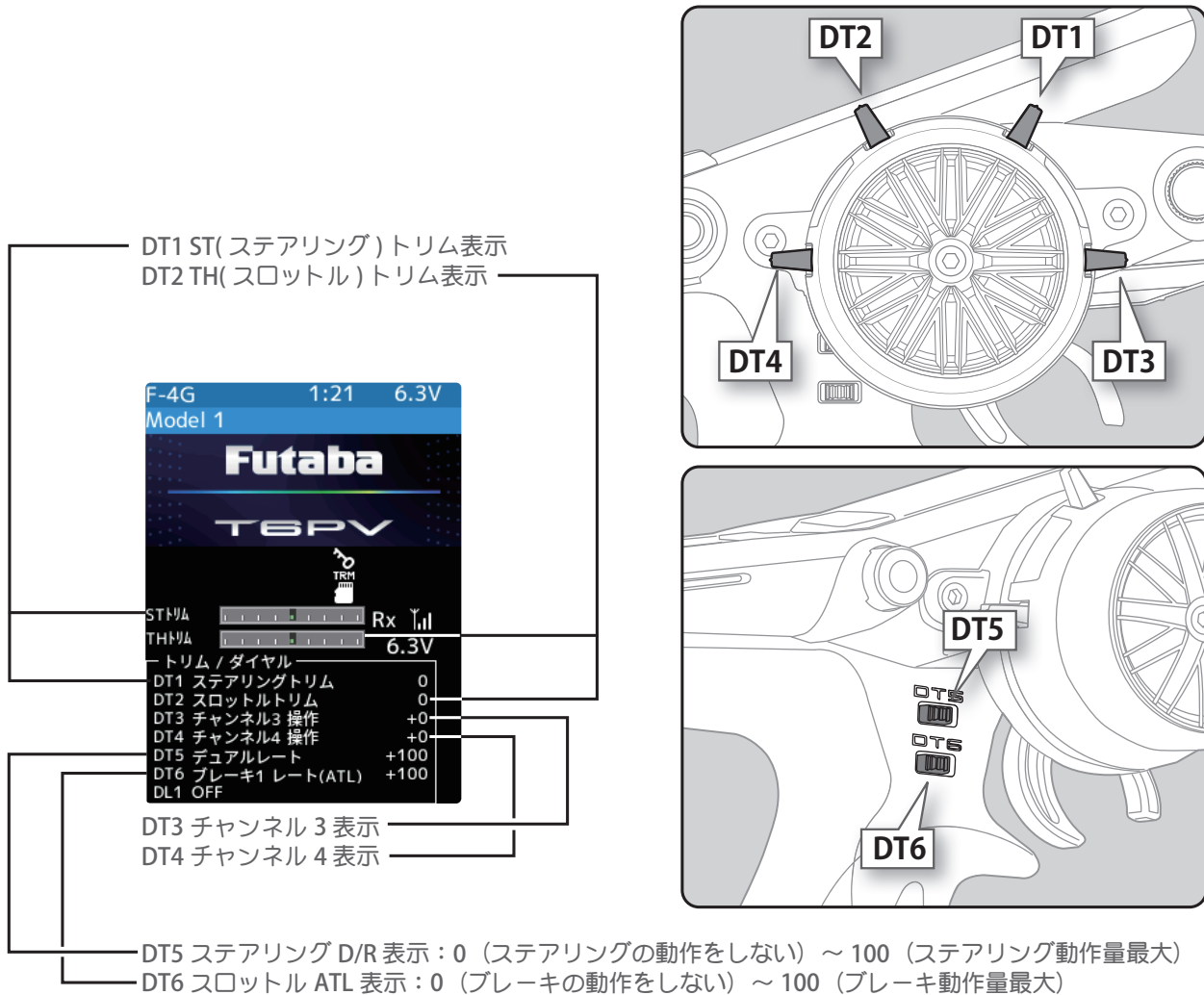
ステアリングホイールの操作



デジタルトリムの操作

(初期設定の状態では、DT1；ステアリングトリム、DT2；スロットルトリム、DT3；Ch3、DT4；Ch4、DT5；ステアリング D/R、DT6；スロットル ATL)

各トリムを両サイドに押して操作します。現在の設定値を LCD 画面に表示します。



- ステップごとにクリック音で知らせます。
- 両サイドの最大の位置で、クリック音が変わって知らせます。それ以上変化しません。

ステアリングホイールが中立のとき、車体が左右に曲がらず、直進するようにステアリングトリムで調整します。

スロットルトリガーが中立のとき、車体が停止、また、走行中にトリガーから指を放したとき、ブレーキが掛からないように、スロットルトリムで調整します。

ステアリング D/R は、ステアリングサーボの動作量を調整します。

スロットル ATL は、ブレーキ (バック) 側のサーボ動作量を調整します。

ステアリング/スロットルトリムの動作について

ステアリングトリムまたはスロットルトリムを操作して、ニュートラル位置を調整しても、最大舵角位置は変化しないセンタートリム方式を採用しています。そのため、トリム操作によるリンケージのロック等は発生しません。

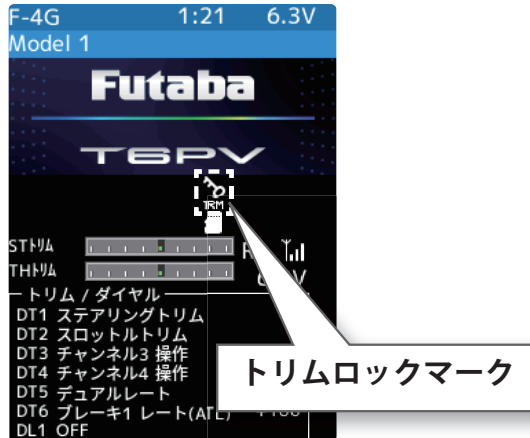


トリムロック

T6PV は本体のデジタルトリム DT1 ～ DT6 およびダイヤル DL1 による操作を、禁止することができます。

ロックと解除の方法

ホーム画面の状態では END ボタンを約 1 秒間押し、ピッという確認音が鳴り、画面に鍵マークが表示されロックします。ロック状態から END ボタンを約 1 秒間押し、画面から鍵マークが消えロックが解除されます。



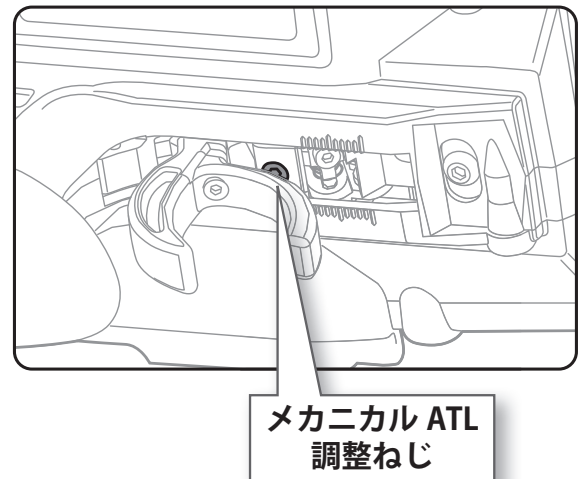
メカニカル ATL の調整

操作上の感覚で、機械的にスロットルトリガーのブレーキ(バック)側ストロークを狭くしたい場合に調整します。

調整方法

- 1 図の六角ねじを回して、トリガーのブレーキ(バック)側ストロークを調整します。(ねじがスロットルトリガーのストッパーの動きをします。)

●ねじを見ながら調整してください。



注意事項

ストロークを調整した場合、ブレーキ側のサーボ(モーターコントローラー)動作量も変わりますので、アジャスター機能でスロットル側の補正を行ってください。また、実際にスロットルサーボ(モーターコントローラー)の舵角量を確認し、必要であれば再度スロットルの舵角量を調整します。

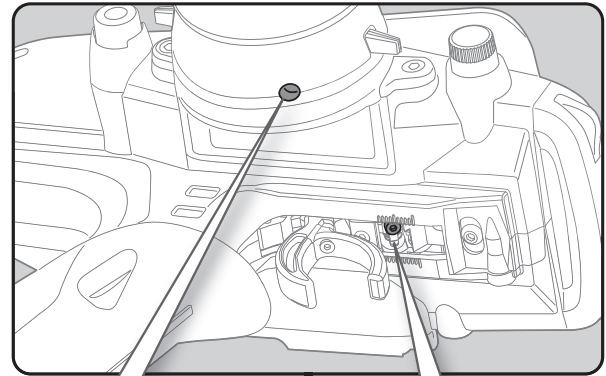
ホイール／トリガーテンションの調整

ステアリングホイールとスロットルトリガーの、バネの強さを変えたいときに調整します。

調整方法

1 六角レンチを使って、図のねじを回して、ホイールまたはスロットルのバネの強さを調整します。ホイール側は、調整穴の中にあります。

- 工場出荷時は一番弱い状態に設定してあります。
- 時計方向に回すとテンションが強くなります。



ホイールテンション
調整ねじ (調整穴の中)

トリガーテンション
調整ねじ

注意事項

反時計方向へ回しすぎると、ねじがぬけ落ちてしまいます。調整範囲は一番締め込んだ状態 (一番強い状態) から7～8回転までです。それ以上回すとねじがぬけ落ちてしまいます。

トリガースライドの調整

スロットルトリガーの位置を前後に移動できます。

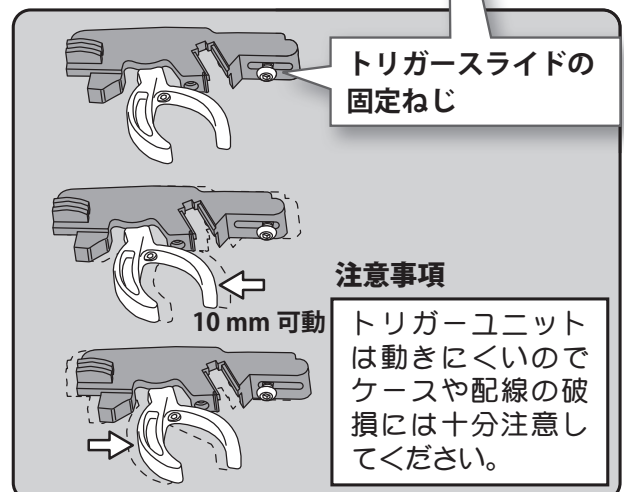
調整方法

1 トリガースライドの固定ねじを六角レンチで、反時計方向に少し回しゆるめます。

2 図のトリガーユニットをマーキングの範囲内で移動して調整してください。

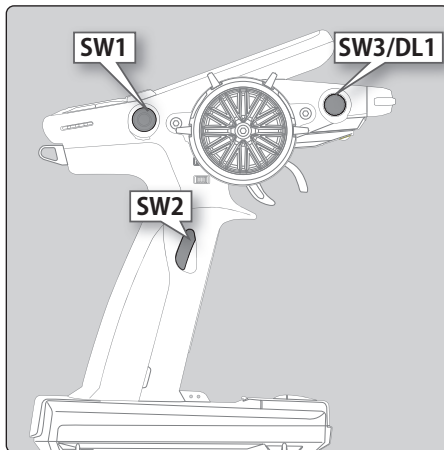
- 動かない場合は右ページの手順でケースのねじをゆるめてケースを少し開いてください。

3 最初の1でゆるめた固定ねじを締めて、トリガースライドを固定します。



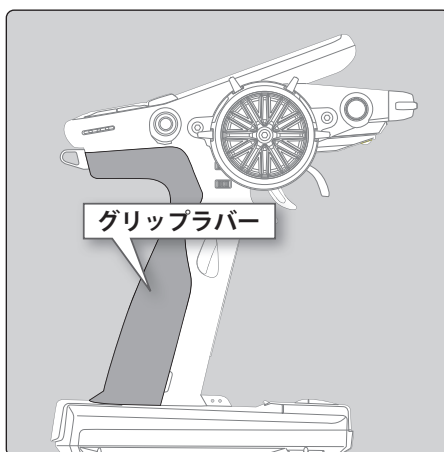
SW: プッシュスイッチ DL: ダイヤル

各種スイッチの位置です。各機能の割り当ては変更できます。



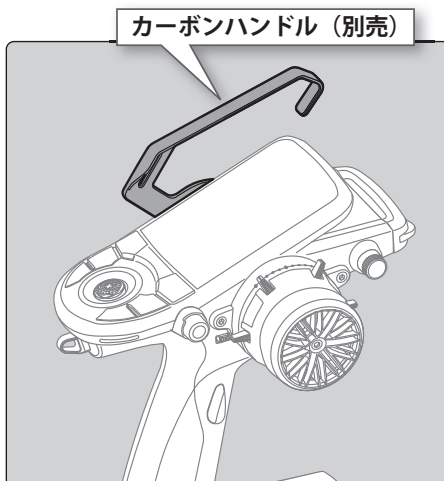
グリップラバー (オプション) の変更

オプションの T10PX 用グリップと交換するとグリップの太さを変更することができます。



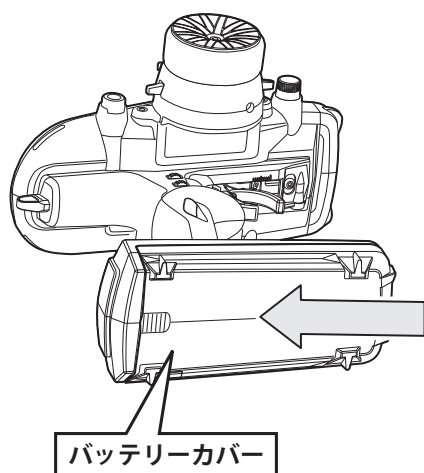
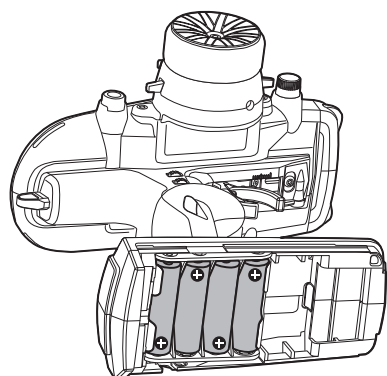
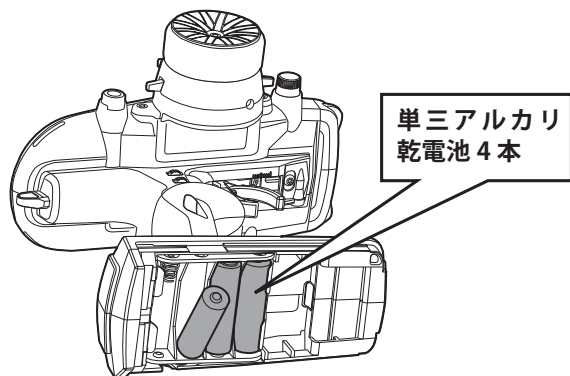
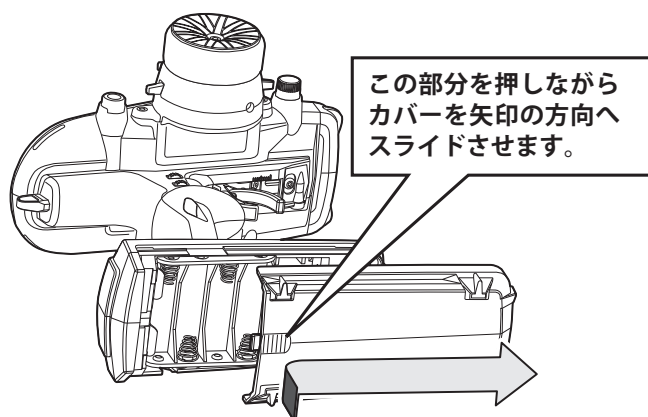
カーボンハンドル (オプション)

T10PX 用のオプションのカーボンハンドルが取付できます。



電源用単三乾電池の入れかた、交換方法

T6PV の電源は単三アルカリ乾電池 4 本です。



- 1 送信機のバッテリーカバーを図の部分を押しながら矢印の方向へスライドさせてはずします。
- 2 単三アルカリ乾電池 4 本をプラス・マイナスに注意して電池 BOX へ入れます。
- 3 バッテリーカバーを取り付けて終了です。

⚠ 注意

- ❗ 乾電池は＋を正しく入れること。
極性を間違えると送信機を破損します。
- ❗ 使用しないときは乾電池をはずすこと。
万一、液漏れしたときはケースや接点に付いた液をよく拭き取ってください。
- ⊘ 乾電池を使用している場合は絶対に充電しない。
充電すると、送信機を破損したり、乾電池の液漏れや破裂を引き起こします。
- ⊘ 市販の単 3 型ニッカド／ニッケル水素バッテリーは使用しない。
電圧がアルカリ乾電池より低いため、使用時間が極端に短くなります。また、急速充電時、バッテリーホルダーの接点部分が異常発熱し装置が破損したり、充電できない場合があります。

< 確認 >

電源スイッチを入れて、LCD 画面の電圧表示を確認してください。新品の乾電池で電圧表示があまり低い場合は、接触不良や、極性違いがないかチェックしてください。

< 乾電池の処理について >

使用済みの乾電池の処理方法は、お住まいの地域により異なります。お住まいの地域の処理方法に合わせ、正しく処分してください。

< ローバッテリーアラーム >



送信機のバッテリー電圧が使用できる限界近くまで下がると、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されます。

⚠ 警告

- ❗ ローバッテリーアラームが発生したら、すぐに車（ポート）を回収し、走行（走航）を中止する。次に走行する前に、必ず新しい乾電池に交換する。走行（走航）中に電池がなくなると、車（ポート）が暴走する危険があります。

オプションバッテリー LiFe/NiMH への交換

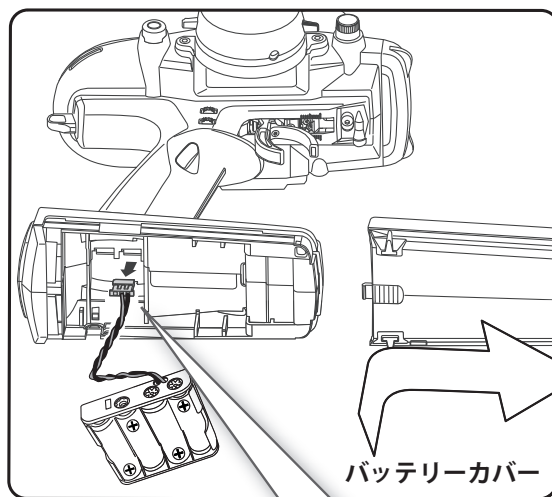
Futaba 純正の充電式バッテリーへ交換することができます。電池BOXをはずして対応バッテリーのコネクターを接続して使用します。

LiFe, NiMH バッテリーの充電は送信機からバッテリーをはずしてそれぞれの専用充電器で充電してください。送信機本体に充電ジャックはありません。

- バッテリーは必ず Futaba 純正の、LiFe バッテリー FT2F1100B / FT2F1700BV2 / FT2F2100BV2 / FT2F1700B / FT2F2100B、LiPo バッテリー LT2F2000B、NiMH バッテリー HT5F1800B を使用してください。
- バッテリーを交換した場合、交換したバッテリーに対応した充電器が必要です。

バッテリーの交換方法

- 1 送信機のバッテリーカバーを図の部分を押しながら矢印の方向へスライドさせてはずします。
- 2 本体から電池BOXを取り出してから、コネクターを抜きます。
- 3 図のようにオプションバッテリーの両サイドにスポンジテープを貼ってからバッテリーのコネクターをさして、本体におさめます。
- 4 配線をはさみこまないように注意してバッテリーカバーを取り付けて終了です。



電池BOXをはずしてコネクターを抜きます。

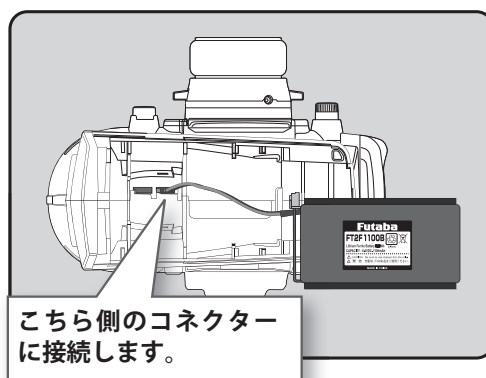
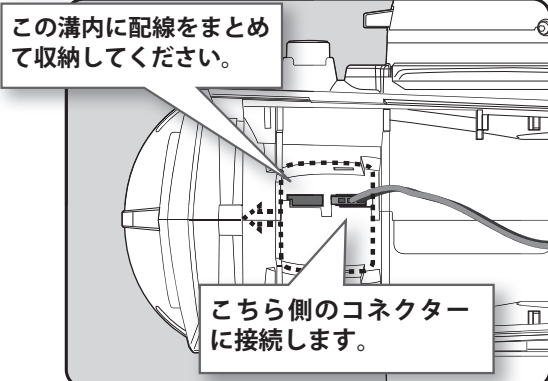
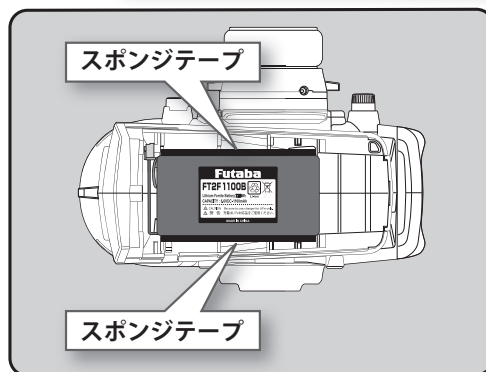
⚠ 注意 LiFe/NiMH に変更した場合必ず実行

● バッテリータイプの変更

LiFe/NiMH バッテリーに変更した場合はシステムメニュー→バッテリー設定でLiFe(2セル)またはNiMH(5セル)へ変更してください。

⚠ 注意

- ① 充電はこのコネクターを抜きバッテリーを送信機からはずして行う。



⚠ 注意

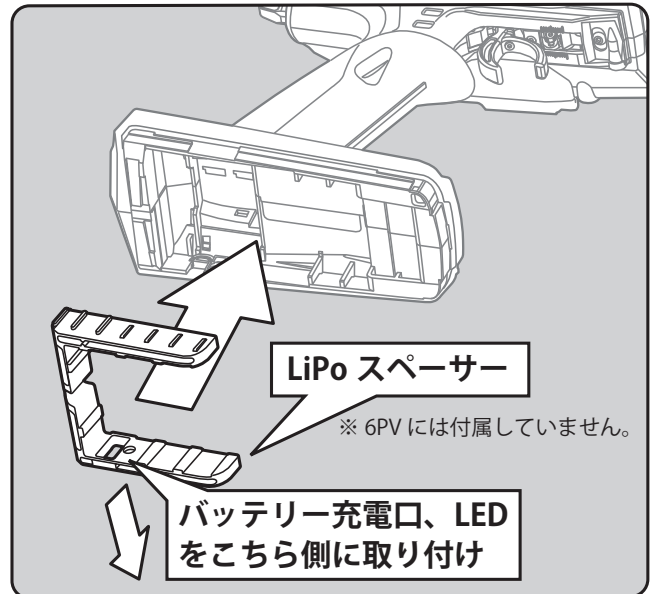
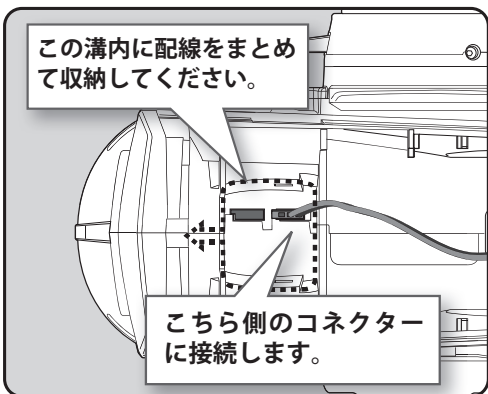
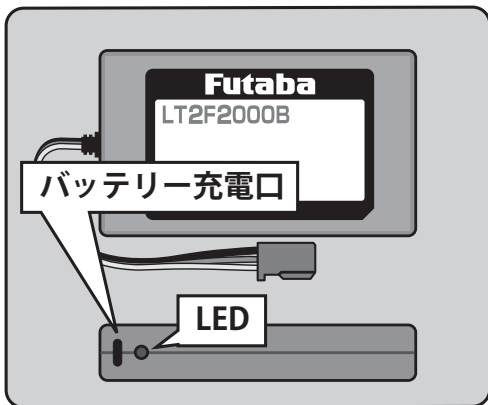
- ① バッテリーカバーを閉める時は、バッテリーのリード線をバッテリーカバーではさまないよう注意する。はさんでショートすると、発火や異常発熱等により、やけどしたり、火災の原因となります。



オプション LiPo バッテリー LT2F2000B の使用

T6PV はオプションの LiPo バッテリー LT2F2000B を使用することができます。

● LiPo バッテリー LT2F2000B の説明書を読んで注意事項を必ずお守りください。



● LiPo バッテリーの取り付け

LiPo スペースを送信機に取り付けてから LiPo バッテリーを取り付けます。

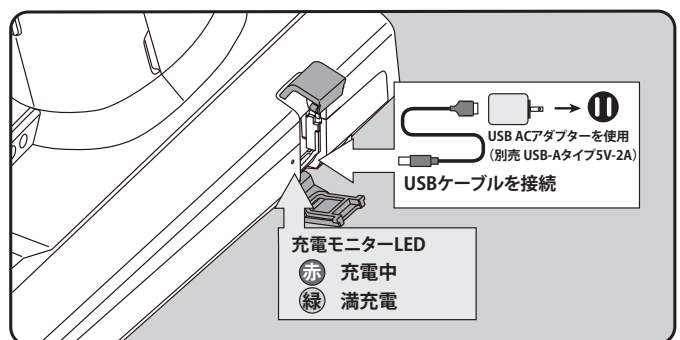
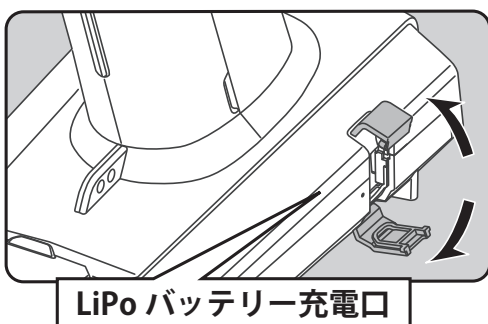
⚠ 注意 LiPo に変更した場合必ず実行

● バッテリータイプの変更

LiPo バッテリーに変更した場合はシステムメニュー→バッテリー設定で LiPo (2セル) へ変更してください。

オプション LiPo バッテリーの充電

充電は LiPo 専用充電口から Futaba オプションの USB AC アダプターか市販の USB AC アダプター (USB-A タイプ 5V-2A) にタイプ C の USB ケーブルを接続して行なってください。



⚠ 注意

⊖ LiPo 専用以外の充電器で LiPo バッテリーを充電してはいけません。

充電すると、発火や異常発熱等により、やけどしたり、火災の原因となります。

⊖ LiFe 専用非接触充電器 ICS LF-01 で LiPo バッテリーを充電してはいけません。

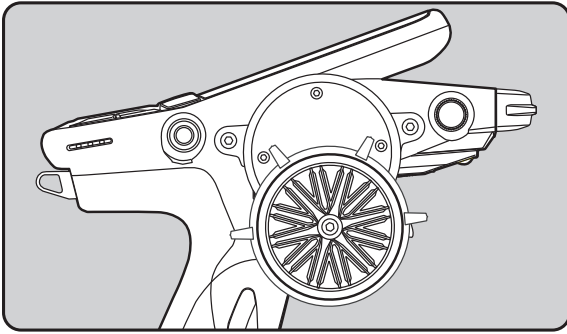
充電すると、発火や異常発熱等により、やけどしたり、火災の原因となります。

● 充電モニター

充電中は赤く点灯します。充電が完了すると緑点灯となります。

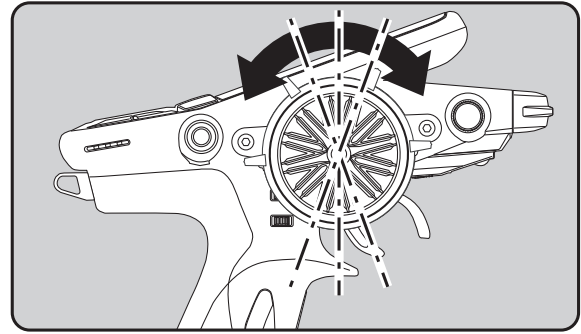


ホイールポジションの変更



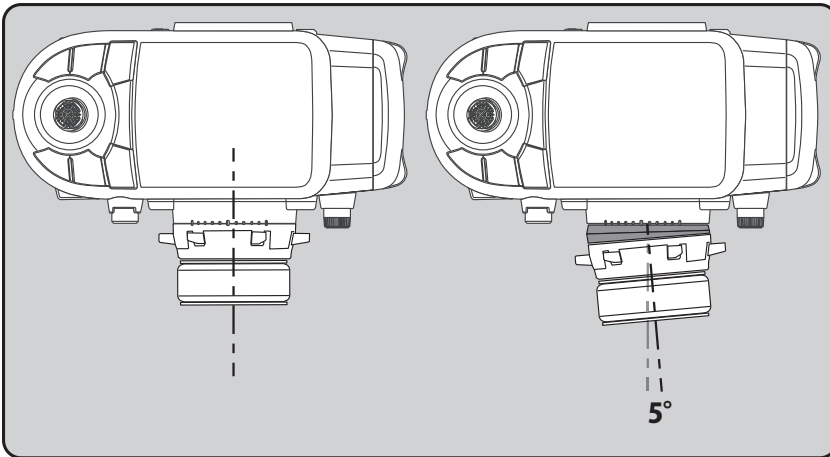
●ホイールポジションの変更

ホイールポジション変更用アダプター
APA(Adjustable Positioning Adaptor 付属)
を使用してホイール位置を移動するこ
とができます。



●ホイール全体の回転方向の角度の変更

回転方向の角度を好みの角度に調整でき
ます。(7.5° 刻み 48 ステップ)



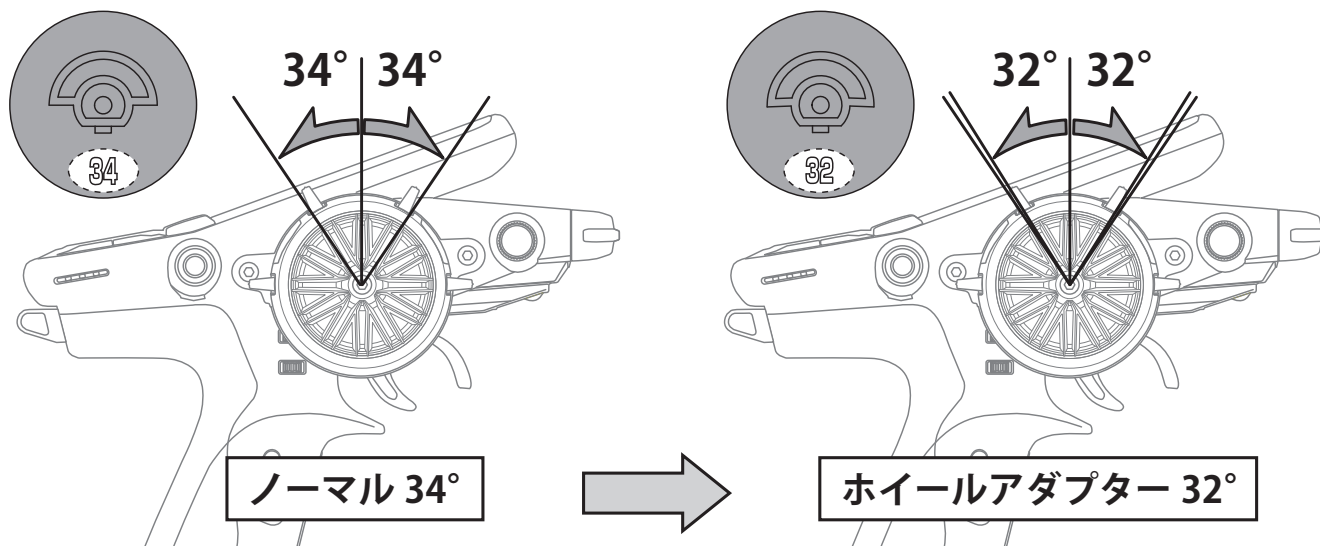
●ホイールアングルの変更

付属の角度スペーサーを使用して
ホイール角度を5°に変更することがで
きます。

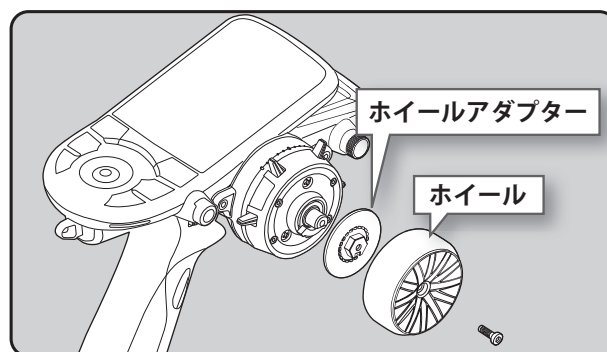
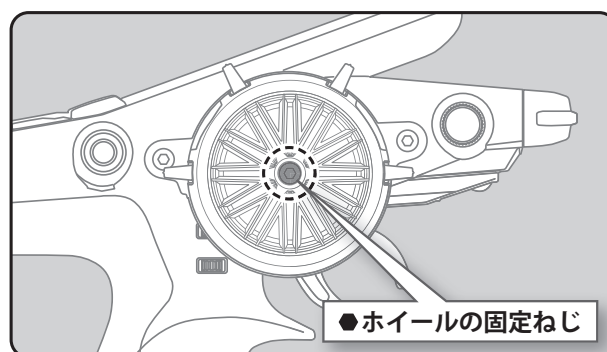
ホイール動作角度の変更 (ホイールアダプター 32°) と大径ホイールへの交換

ホイール動作角度の変更と大径ホイールへの交換方法

- ホイールアダプター 32° への交換で、ホイールの動作角度を 34° から 32° へ変更できます。ただし、32° に変更した場合は、システムメニュー→アジャスターでステアリング側の補正を行ってください。(工場出荷時は 34°)
- 大径ホイールへの交換ができます。



- 1** ホイールを手で押さえたまま、六角レンチを使って、ホイールの固定ねじをはずします。
- 2** ホイールとホイールアダプターを引き抜きます。
- 3** 六角レンチを使用して、ホイールの固定ねじで付属のホイールアダプター 32° とホイールを元のように取り付けます。このとき、好みにより大径ホイールに交換も可能です。
- 4** システムメニュー→アジャスターでホイールの補正をおこないます。



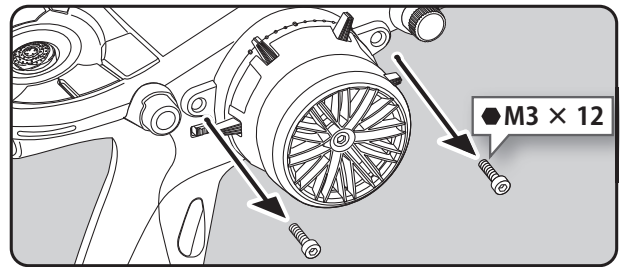
アダプター APA の取り付け ホイールポジションを下げたい場合

アダプター APA の取り付け方法

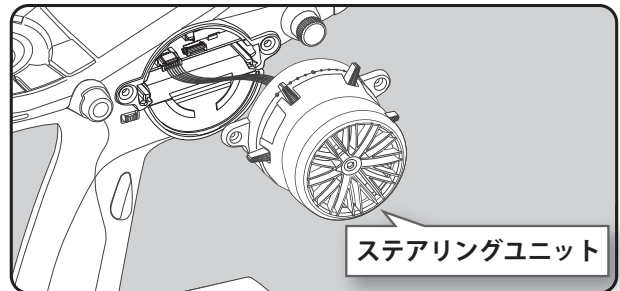
- 六角レンチとプラスドライバーをご準備ください。本体からバッテリーをはずしてください。
- 各部に使用されているねじは長さが異なります。組立て直すときは、必ず指定されたねじを使用してください。

1 六角レンチでホイールユニットの固定ねじ (M3 × 12 mm 六角) 2本をはずします。

- 2本の固定ねじは、本体から完全に抜き取ってください。

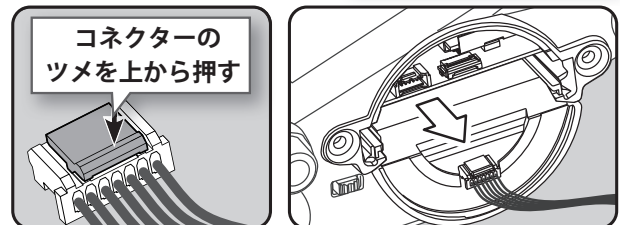


2 配線を引っ張り過ぎないように注意して、ステアリングユニットをはずします。

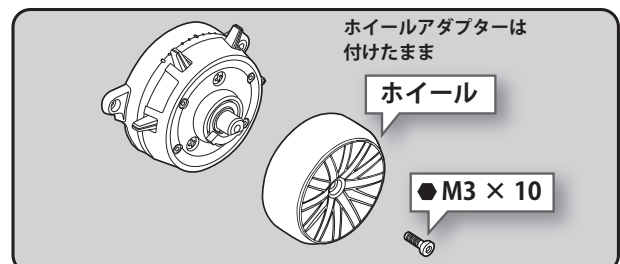


3 3箇所のコネクタを T6PV 本体の基板からはずします。

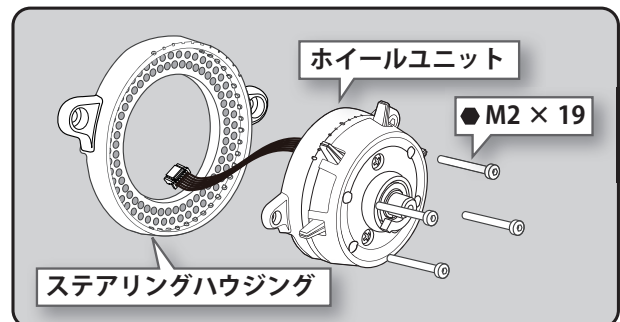
- コネクタを基板からはずすときは、図の矢印の方向に上側からツメを押しながら、ロックを解除してはずしてください。



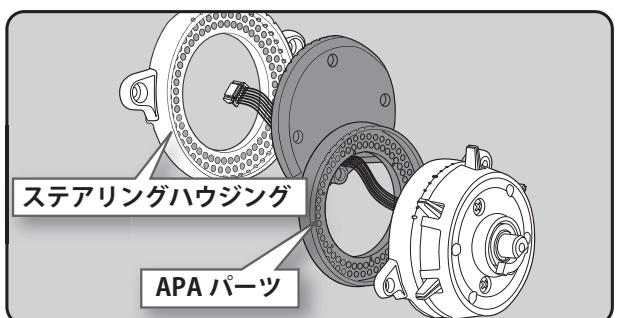
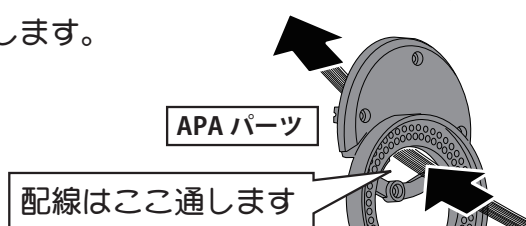
4 ホイールを手で押さえたまま、六角レンチを使って、ホイールの固定ねじをはずしてホイールをはずします。ホイールアダプターはホイールに付けておきます。



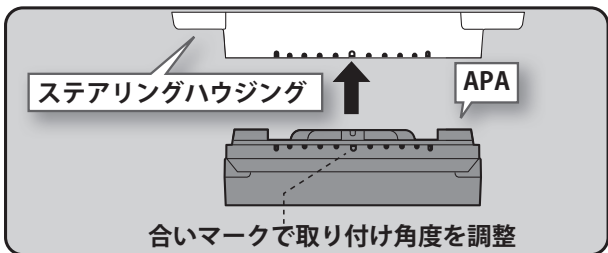
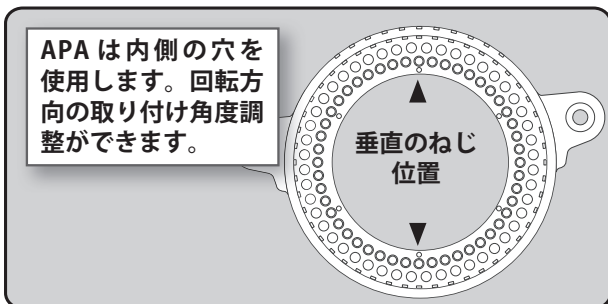
5 六角レンチを使用して、M2 × 19 ねじ4本をはずし、ステアリングハウジングからホイールユニットをはずします。



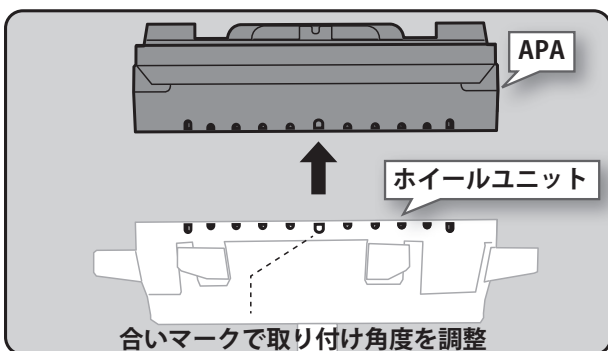
6 使用する APA パーツとステアリングハウジングにホイールユニットの配線を通します。



7 裏カバーをはめ込み M2 × 10 ねじ 3 本と M2 × 6 ねじ 1 本で APA をステアリングハウジングに取り付けます。



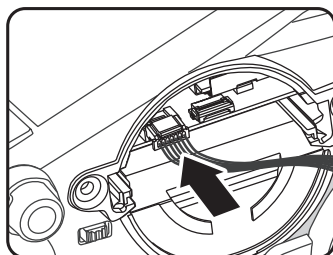
8 M2 × 19 ねじ 4 本で、ホイールユニットを APA に取り付けます。



●ホイール回転方向の角度調整ができます。

9 送信機にステアリングの配線を接続します。

●コネクター接続向きに注意！

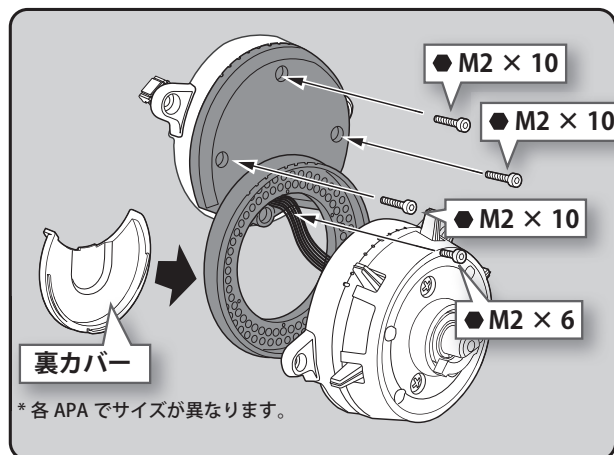


10 M3 × 12 mm 六角ねじ 2 本で、ホイールユニットを送信機に取り付けます。

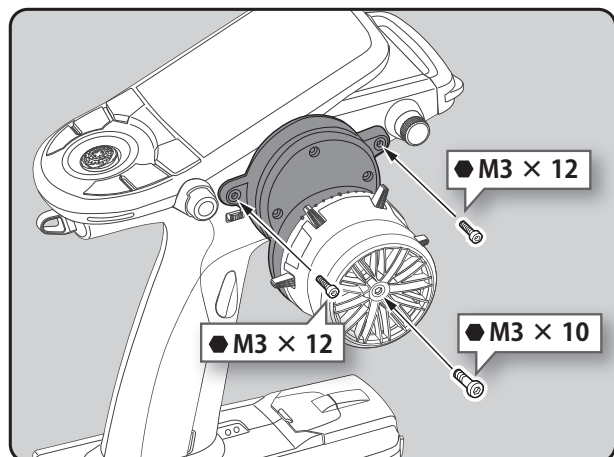
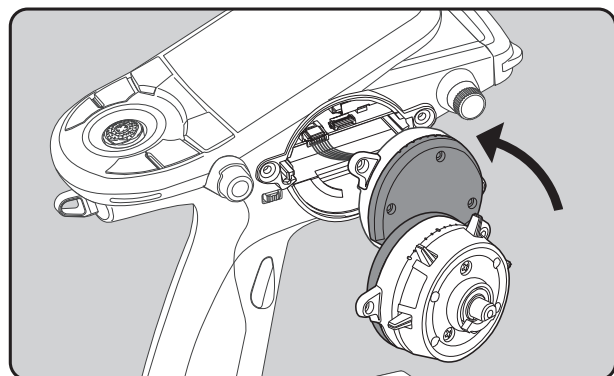
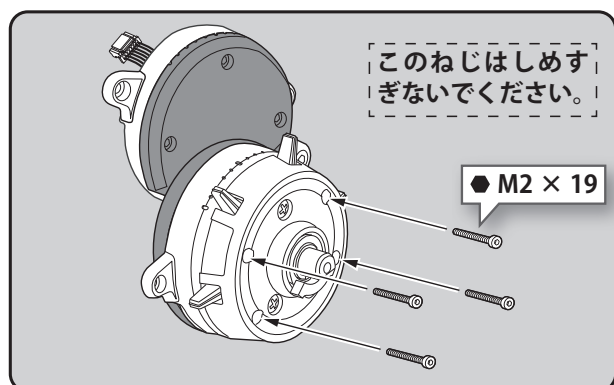
11 ホイールを挿入してホイールを手で押さえたまま、六角レンチを使って、ホイールの固定ねじをしめます。

注意事項

組み立てる時に配線を挟み込まないように十分注意してください。



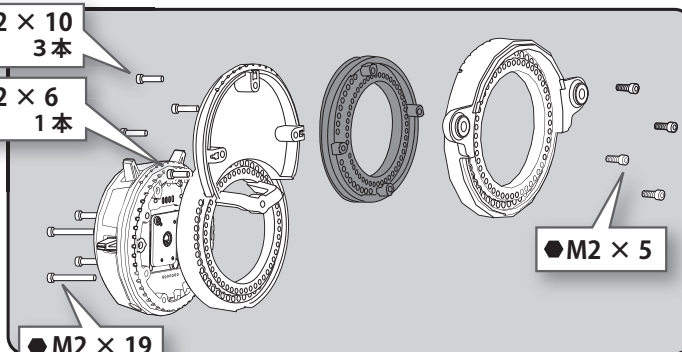
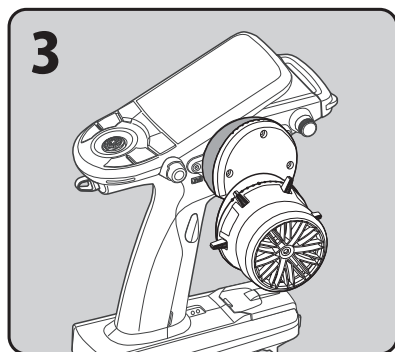
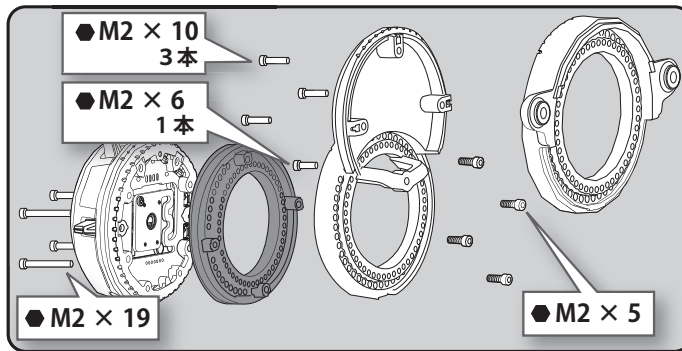
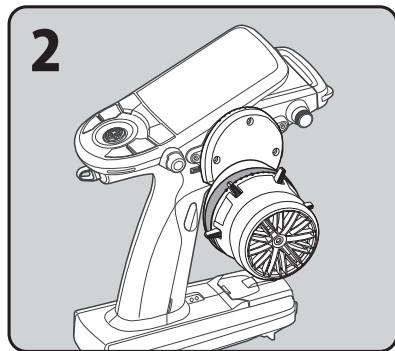
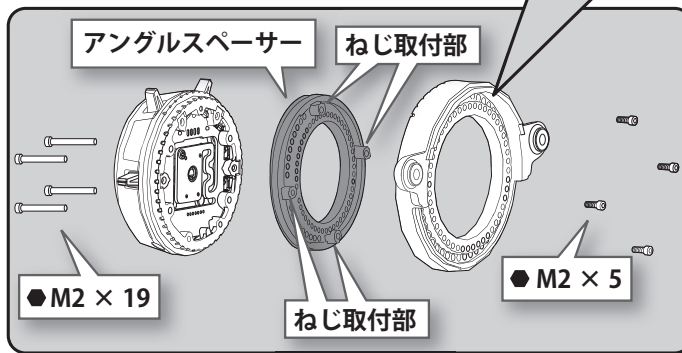
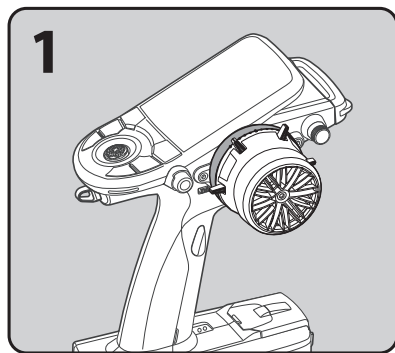
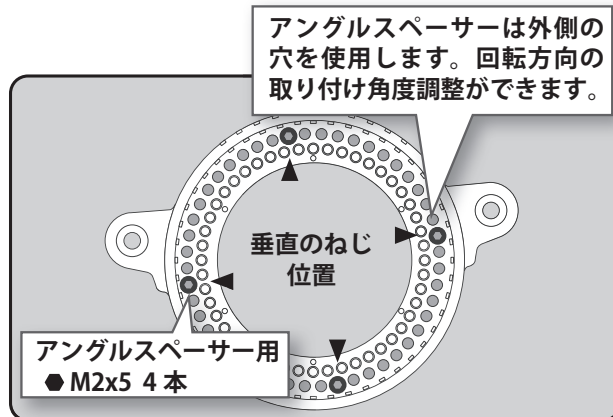
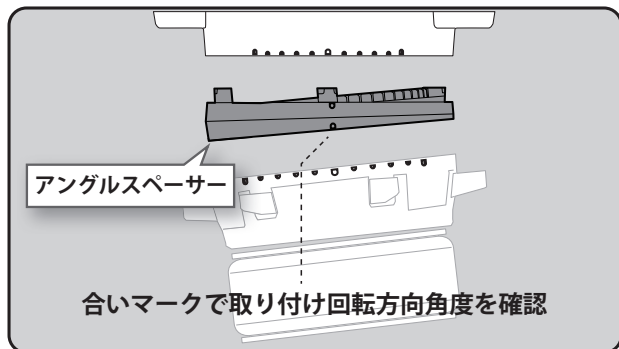
●本体からはずしたねじと付属のねじをご使用ください。ねじは予備用に余分に入っています。



アングルスパーサーを使用する場合

●付属の2種類のアングルスパーサー5°を使用して、ホイール取り付け角度を変更できます。

- アングルスパーサー用に M2x5 mm 六角ねじが付属しています。
- アダプター APA を使用する場合と使用しない場合で、以下の取り付けを参考にしてください。
- リアカバーを取り付けます。
- 配線を間違えないように接続してください。



- M2x5 ねじは一般のねじとは異なります。なくさないように注意してください。
- 本体からはずしたねじと付属のねじをご使用ください。ねじは予備用に余分に入っています。

トリガーブレーキレバーの交換

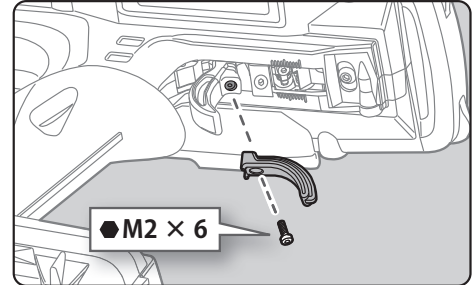
- トリガーのブレーキレバーを付属のブレーキレバーL、またはオプションの10PX/7PXR/7PX用トリガーブレーキレバーに交換できます。

*ブレーキレバーを交換した場合、システムメニュー→アジャスターでトリガーの補正を行ってください。

ブレーキレバーの変更方法

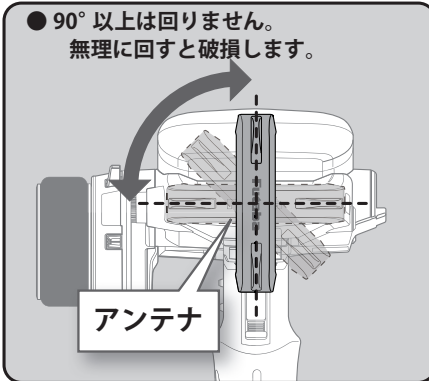
- 六角レンチをご準備ください。本体からバッテリーをはずしてください。

- 1 トリガーを持って、六角レンチでブレーキレバーの固定ねじをはずし、ブレーキレバーはずします。
- 2 六角レンチを使用して、ブレーキレバーの固定ねじでトリガーブレーキレバーを元のように取り付けます。



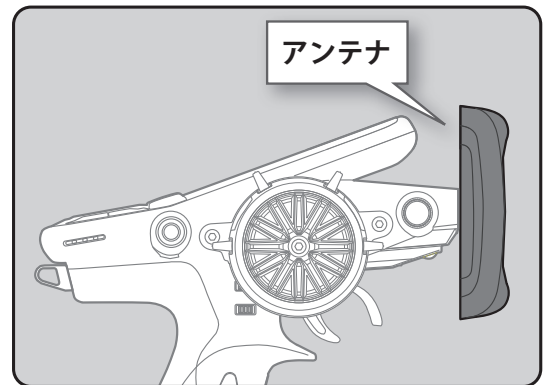
送信機のアンテナおよび受信機の取り扱い

T6PVのアンテナについて



アンテナの可動範囲

アンテナは45°または90°立てた位置にすると、水平の状態より電波の到達距離が伸びる場合があります。
(条件によって異なります。)



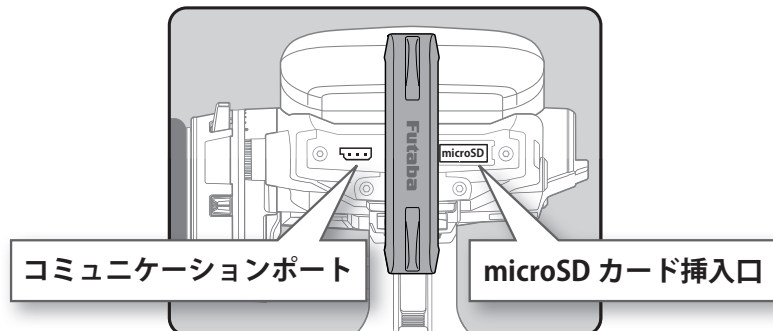
⚠注意

- ⊗ 走行中はアンテナを握らないでください。
電波の出力が弱くなるため、受信距離が短くなり危険です。
- ⊗ アンテナは上記の図の範囲で可動しますが、可動範囲以上に回したり、衝撃などのダメージを与えないでください。
内部ケーブルの断線、故障の原因となる恐れがあり、そのような場合受信距離が大幅に短くなり危険です。

- アンテナを90°回すと microSD カード挿入口とコミュニケーションポートがあります。

市販の microSD カードを使用すると、T6PV のモデルデータの保存と、テレメトリーのログデータを保存できます。また、T6PV のソフトのアップデートが Futaba ホームページへ公開された場合、microSD カードを使用してアップデートもできます。

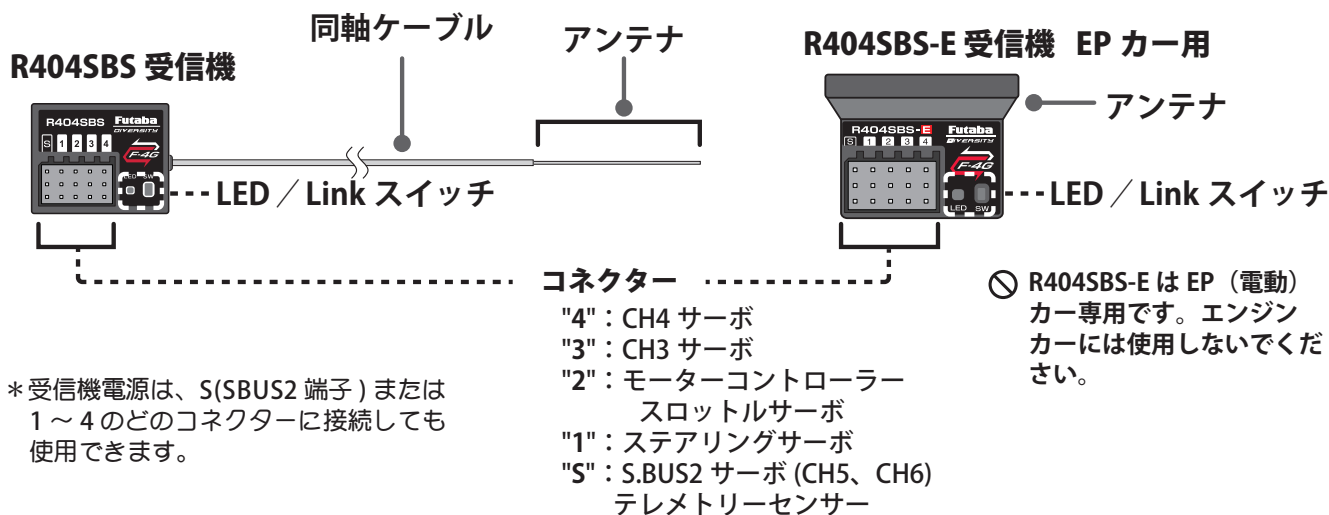
コミュニケーションポートは S.BUS サーボ / テレメトリーセンサー / ESC など設定可能な機器を接続し設定変更します。



*送信機のアンテナを受信機以外のサーボ、モーターコントローラー等に極端に接近させると誤動作する場合がありますが、強い高周波出力の影響による現象で異常ではありません。



受信機 (R404SBS / R404SBS-E) 各部の名称



受信機の搭載

受信機は、以下に書かれている内容に充分注意して、車体に搭載します。

注意: R404SBS / R404SBS-E 受信機とアンテナを搭載する場所により、受信距離が異なります。

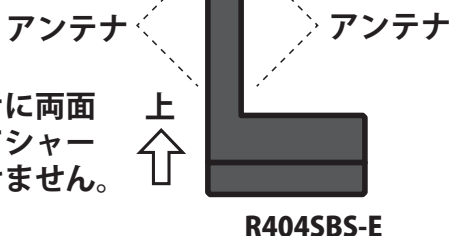
注意: R404SBS 受信機は、図のアンテナ部分 (先端から約 3 cm) を保護するために、アンテナチューブにアンテナを必ず入れ、先端を外部に出さないでください。

注意: R404SBS 外付けアンテナとケース内部にアンテナがあるダイバーシティ方式です。受信機上面に障害物があると、受信状態が悪くなり操作不能になる危険性があります。そのため、この場所に配線や電子機器を載せたり、ステッカーを貼りつけたりしないでください。受信距離に影響があります。

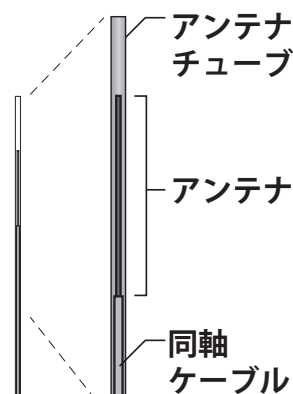
⊗ ここに両面テープやステッカーを貼ってはいけません。



⊗ 図のようにアンテナに両面テープを貼り付けてシャーシに固定してはいけません。



R404SBS-E



R404SBS

警告

① 図で示すような高い場所にアンテナ部分を設置してください。

⊗ アンテナ部分、同軸ケーブル部分は切断したり束ねたりしない。(R404SBS)

⊗ アンテナ部分は絶対に、折り曲げないでください。また、同軸ケーブル部分を無理に折り曲げないでください。(R404SBS)

⊗ 受信機アンテナの同軸ケーブルやアンテナを無理に引っ張らないでください。(R404SBS)
受信機内部破損の原因となります。

⊗ 受信機はバッテリー、モーターコントローラー、モーターやシリコンコードなどのノイズ源から可能な限り離す。特にアンテナ部は絶対に近付けない。

ノイズ源に近付けると、受信感度が下がって走行(走航)範囲が狭くなって暴走の原因となります。

① 受信機はスポンジゴム等で包むか、厚手の両面テープで固定し、防振対策を行う。湿気がある場合は、水の浸入を防ぐためにビニール袋等に受信機を入れ、防水対策をしてください。

注意

① サーボは必ず下記条件で使用してください。

・受信機側使用電源: 3.7V ~ 7.4V (乾電池の使用禁止)

・送信機の受信機設定レスポンスで設定したサーボに必ず合わせてください。(各チャンネル毎)

注意: 設定と異なるサーボを使用すると機器の故障の原因となります。



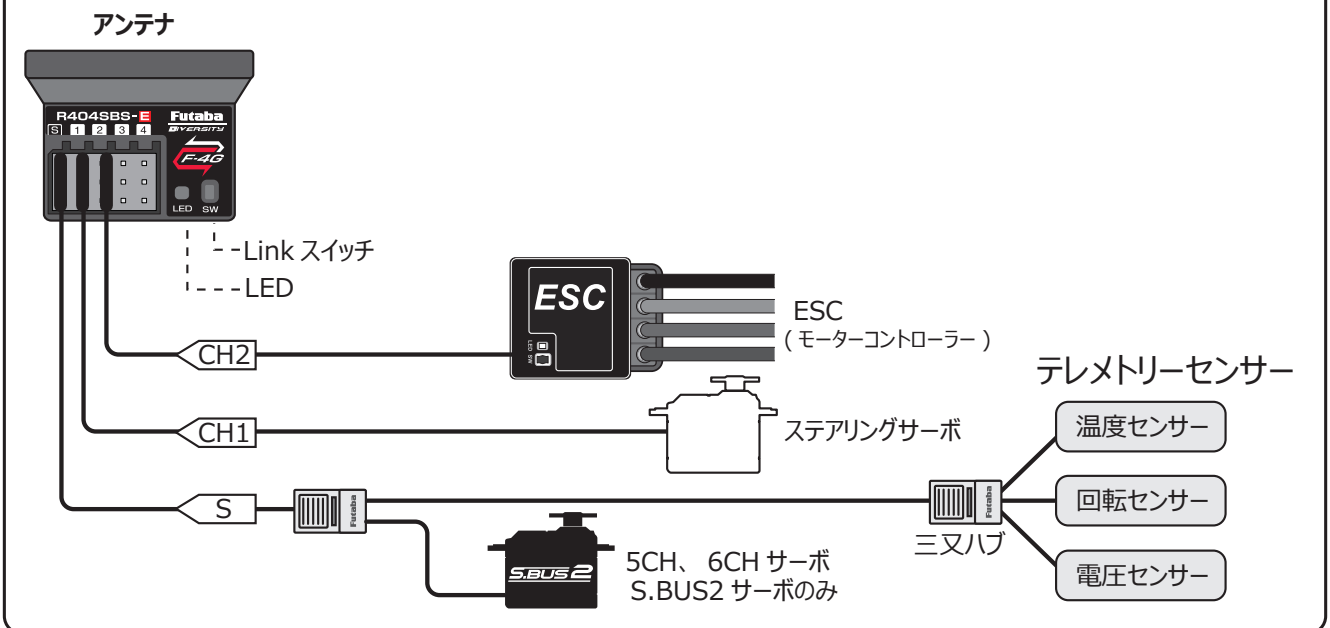
受信機・サーボの接続

受信機、サーボ等は下の図のように接続してください。また、次のページの「組込時の安全上の注意」を守って、接続および組込みをしてください。

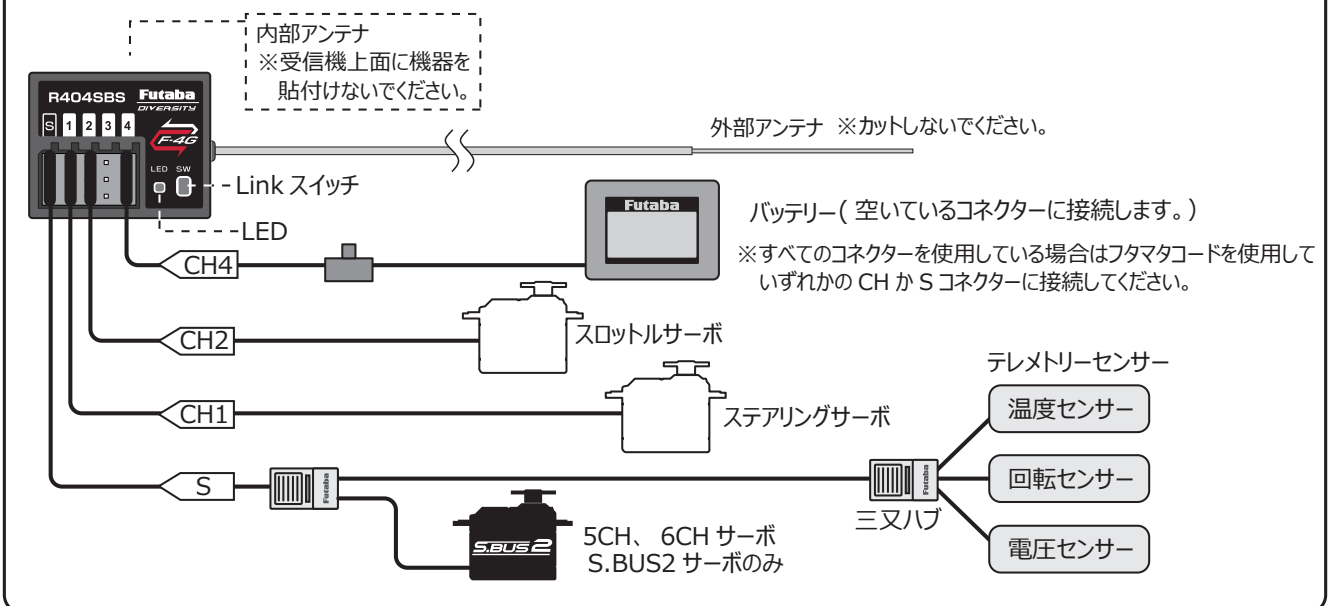
下の図は一例を示します。ESCからモーターおよびバッテリーへの接続方法は、使用するESCの種類により違いがあります。

ESCやサーボは別途ご準備ください。

ESC(モーターコントローラー)を使用する場合の接続例



エンジンカーの場合の接続例



組込時の安全上の注意

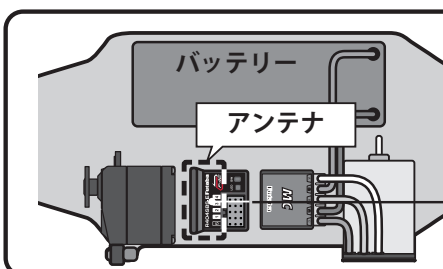
⚠ 警告

受信機（受信機アンテナ）

- ① アンテナ線は切断したり束ねたりしない。
- ② アンテナ線はサーボやモーターコントローラーのリード線と一緒に束ねない。(R404SBSの場合)
- ③ モーターや動力バッテリー等の大電流が流れる部分（配線を含む）に近付けない（1cm以上離す）。
- ④ 受信機上面にも内部アンテナがあります。この場所に配線や電子機器を載せたり、ステッカーを貼りつけたりしないでください。受信距離に影響があります。(R404SBSの場合)
- ⑤ 金属製、カーボン製、その他の導電性の材料で作られたプレートに、金属製の導電性のアンテナホルダーを使用しないでください。
- ⑥ アンテナホルダーは受信機にできるだけ近い位置に取り付ける。

切断したり、束ねたり、ノイズ源に近付けると、受信感度が下がって走行（走航）範囲が狭くなって暴走の原因となります。

* ノイズは金属やカーボン等の電気を通すものを伝わってくるので、それらのパーツからも離してください。



受信機はバッテリー、ESC、モーターやシリコンコードなどのノイズ源から可能な限り離す。特にアンテナ線は絶対に近付けない。

この場所（面）に、配線や電子機器を載せたり、ステッカー（シール）類を貼りつけたりしないでください。

⚠ 警告

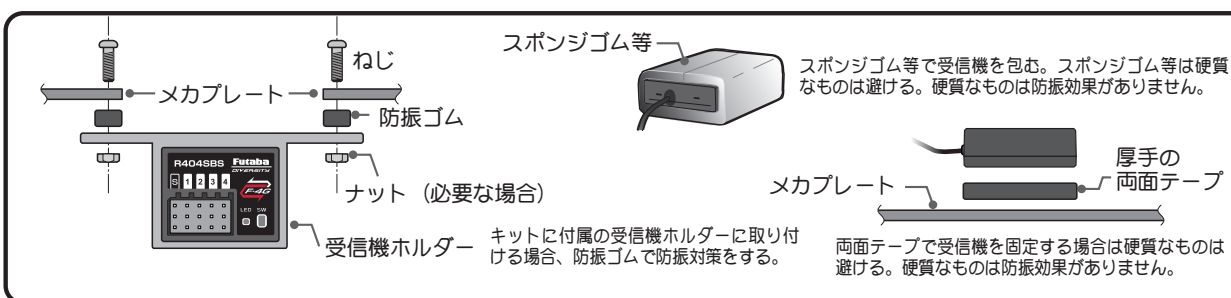
受信機の防振／防水

（車の場合）

- ① 受信機はスポンジゴム等で包むか、厚手の両面テープで固定し、防振対策を行う。
- ② キットに付属の受信機ホルダーを使用する場合、防振ゴム（ラバーグロメット）を介して車体に取り付ける。

（ボートの場合）

- ① 受信機はスポンジゴム等で包んで防振対策をする。また、ビニール袋等に入れて、防水対策を行う。強い振動やショックを受けた場合や、水滴の侵入によって誤動作すると暴走します。



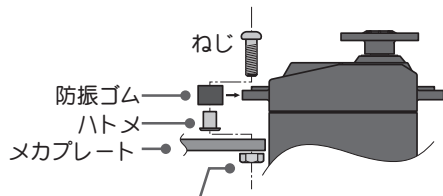
コネクタ接続

- ① サーボ、電池等の接続コネクタは奥まで確実に挿入する。走行（走航）中に、車（ボート）の振動等でコネクタが抜けると暴走の危険があります。

サーボの取り付け

- ① サーボは防振ゴム（ラバーグロメット）を使用してサーボマウント等に取り付ける。また、サーボケースがサーボマウント等の車（ボート）の一部に直接触れないように搭載する。サーボケースが直接車（ボート）に接触している状態が続くと、振動が直接サーボに伝わり、サーボが破損し暴走します。

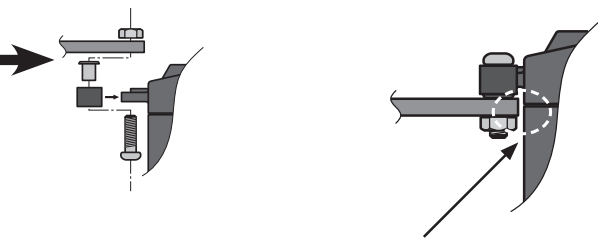




ナット (必要な場合)

サーボの取り付けには、必ずサーボに付属の防振ゴムとハトメを正しく装着する。(ハトメの向きに注意)

または

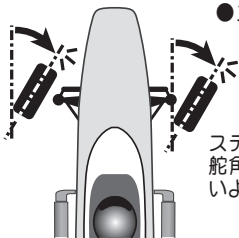
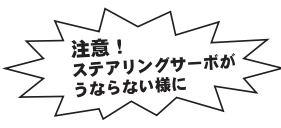


サーボケースと取り付けプレートは接触させない、接触していると正しく防振ゴムとハトメを装着しても、防振効果が得られません。

警告

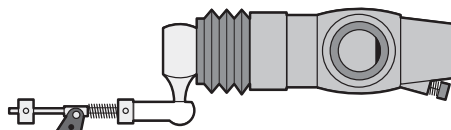
サーボの動作幅

- ① 各舵のサーボを動作幅いっぱいに動作させてみて、プッシュロッドがひっかかったり、たわんだりしないように調整する。サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損したり、電池の消耗が早くなって暴走の危険があります。



- ストッパーに触るところで最大動作量を決定

ステアリングサーボは、車体側の最大舵角で、サーボに無理な力が加わらないように調整する。



スロットルサーボはエンジンのキャブレターが全開、全閉とブレーキをいっぱいにかけたときに無理な力が加わらないように調整する。

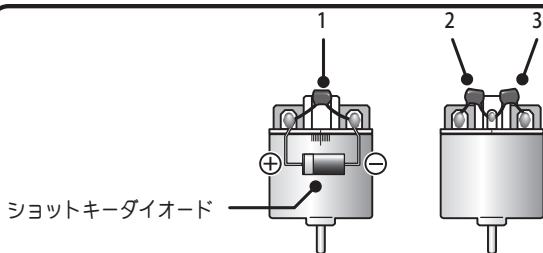
特にブレーキは、走行中にブレーキ本体が熱により効きが悪くなるため、ATLでブレーキ舵角を増やすケースがありますが、走行前に適正な最大舵角量をエンドポイントで調整し、走行中にATLで舵角を増やしてもサーボに無理な力が加わらないようにしてください。

モーターコントローラー

- ① ヒートシンク (放熱板) は、アルミやカーボンシャーシ等の電気を通すものに触れないように取り付ける。走行 (走航) 中に触れて、他の回路とショートした場合、暴走します。

ブラシモーターのノイズ対策

- ① 走行 (走航) 用 ブラシモーターには、必ずノイズ取りのコンデンサーを取り付ける。ノイズキラーコンデンサーがない場合、ノイズの影響で、走行 (走航) 可能範囲が狭くなり、暴走の危険があります。



ショットキーダイオード

ノイズキラーコンデンサーがないブラシモーター、あるいはノイズキラーコンデンサーが不十分な場合、受信機等を誤動作させる可能性があります。必ずコンデンサーを3個モーターにはんだ付けしてください。

また、ショットキーダイオードを必要とするモーターコントローラーを使用する場合は、カソード (白い帯) 側を+側に、もう一方の端子を-側にハンダ付けしてください。モーターの極性表示は必ずしも実際の配線の極性とは合っていないのでご注意ください。この極性を誤ると、モーターコントローラーおよびダイオードを破損します。

モーターコントローラー

- ① ヒートシンク (放熱板) は、アルミやカーボンシャーシ等の電気を通すものに触れないように取り付ける。走行 (走航) 中に触れて、他の回路とショートした場合、暴走します。

ブラシモーターのノイズ対策

- ① 走行 (走航) 用 ブラシモーターには、必ずノイズ取りのコンデンサーを取り付ける。ノイズキラーコンデンサーがない場合、ノイズの影響で、走行 (走航) 可能範囲が狭くなり、暴走の危険があります。

その他のノイズ対策

- ① 車 (ボート) に、振動で金属同士が接触するような部分がないように整備する。このような部分があると、受信特性に影響を受け、走行 (走航) 可能範囲が狭くなり、暴走の危険があります。



画面の基本操作

基本的な画面の操作方法を説明します。画面操作に使用するのは、ジョグキーです。

*各画面からホーム画面へは、END ボタンの長押しで戻ることができます。

メニュー画面の表示



の表示は、ボタンを通常の短押し



の表示は、ボタンを長押し



ホーム画面から、DIR キーを押すと、DIR キーに割り当てた画面に移動します。(初期設定はカスタムメニューです)



メニュー画面

ホーム画面から、ジョグキーを操作するとメニュー画面に移動します。



カスタムメニュー画面

エンドポイント画面の呼出→エンドポイント画面からホーム画面へもどる例



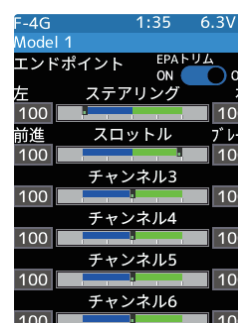
ホーム画面



メニュー画面



セットアップ
メニュー画面



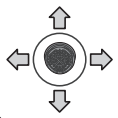
エンドポイント画面



メニュー画面



ジョグキー /DIR/END ボタン



●ジョグキーを上下左右に動かしてカーソルを移動します。ジョグキーを押すとそのカーソル位置のデータを設定できます。



●ジョグキーを左右に動かして画面のページを移動します。(数ページある場合)



●メニュー画面や各設定画面で END ボタンを押すと、一つ前の画面に戻ります。



●メニュー画面や各設定画面で END ボタンを長押しすると、ホーム画面に戻ります。カスタムメニューから移動した設定画面も、同じように移動してホーム画面に戻ります。



●±ボタンで数値・設定を変更します。同時押しで初期値にリセットします。



●ホーム画面で END ボタンを長押しすると、トリムロックが働き、T6PV は本体のデジタルトリム DT1～DT6 およびダイヤル DL1 による操作を、禁止することができます。



●DIR/END ボタンに、好みの機能画面を割り当てて、ワンタッチで移動することができます。

設定方法

ボタンの機能設定は、「アクセサリメニュー」の「END/DIRボタン設定」機能を使って以下の方法で変更できます。

メニュー画面



アクセサリメニュー
1 ページ



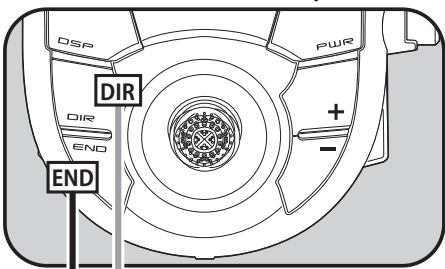
アクセサリメニュー
2 ページ



END/DIR ボタン設定画面



ジョグキー



END/DIR ボタンの呼び出し設定
特定の機能画面の表示を選ぶことができます。機能の一覧からジョグキー操作で選択して押します。
複数のページがありますので、ジョグキーを右または左方向に操作してページを移動します。



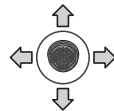
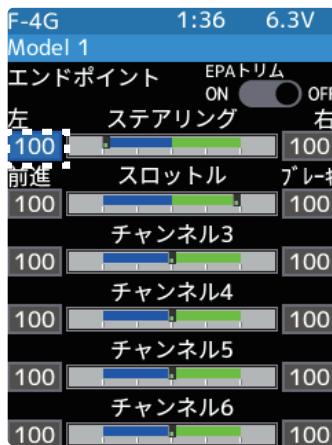
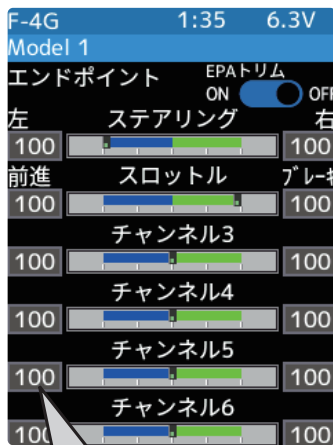
ジョグキー



各機能の数値や設定データの変更

各機能の設定画面で、データの数値の増減は、ジョグキーで項目を選択し、[+] ボタンまたは [-] ボタンを押して設定します。 [+] ボタンと [-] ボタンを同時に押すと、初期値に戻ります。

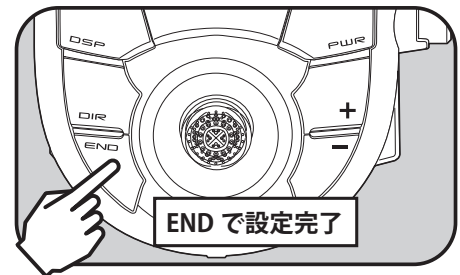
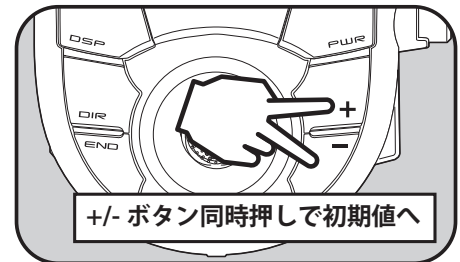
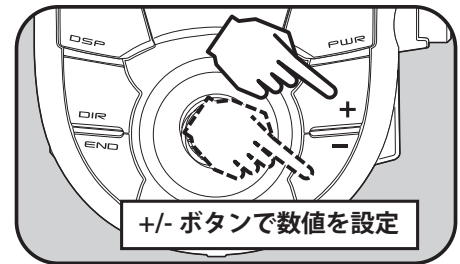
* 下図の例は、エンドポイント画面です。



ジョグキーで設定したい数値を選択

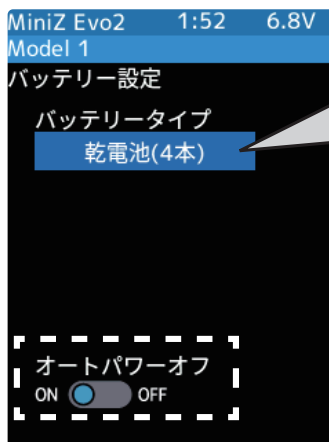
このように枠で囲われた項目は、±ボタンで設定を変更します。

±ボタン



ON/OFF の切り替えは、ON(●)または (●)OFF をジョグキーで選択して±ボタン押すと ON から OFF へ、OFF から ON へ切り替わります。

* 下図の例は、バッテリー設定画面です。

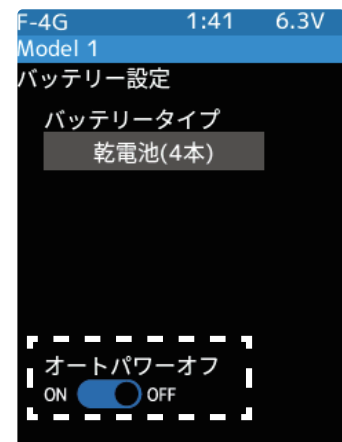


このように枠で囲われていない項目は、ジョグキーを押して操作します。(リンク操作、選択画面を開く等)



ジョグキーで選択

±ボタン



F-4G システムの場合のリンク

電源スイッチ (PWR) を入れたときの表示について

電源スイッチを入れると、現在選択されているモデルのモデル名を表示します。これから使用するモデルであることを確認してください。モデルの変更が必要な場合は、モデルメニューのモデルセレクト機能で変更してください。

高周波出力と受信機設定の確認

これから使用する受信機タイプに設定されているか確認します。

- * "PWR" 側の電源スイッチを ON にし、正常に電波が出力している場合、右図のように "F-4G" など通信システムを表示します。使用する受信機とシステムの設定が違っている場合は、"受信機設定" で変更してください。表示しない場合は、異常や故障が考えられます。Futaba カスタマーサービスセンターにご連絡ください。"DSP" 側で画面表示している場合は、同じ場所に "ディスプレイ" と表示します。
- * セットに付属の R404SBS / R404SBS-E は F-4G システムで動作しますので、この表示は F-4G になっている必要があります。



受信機設定の変更および、送信機と受信機のリンク

F-4G の場合

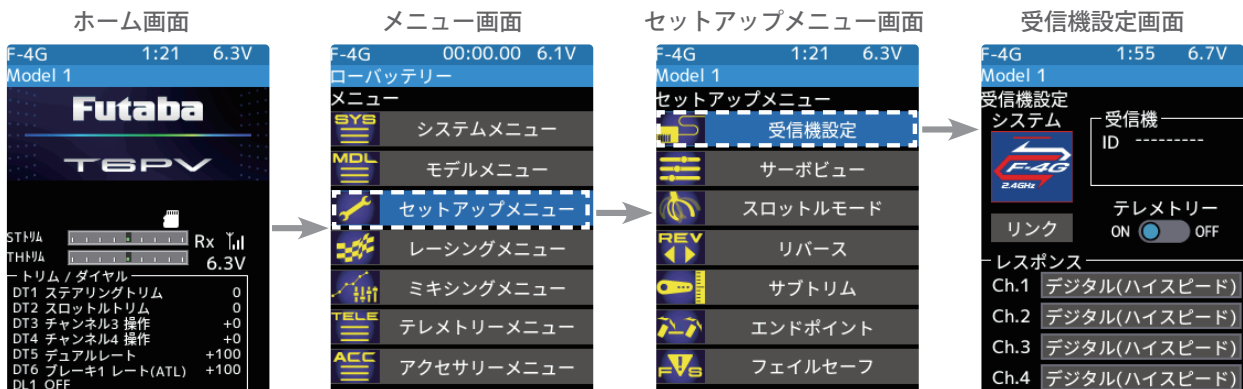
最初に受信機設定をします。次に送信機と受信機をリンクさせ、送信機の ID 番号を受信機が記憶し、他の送信機からの信号を受け付けないようにします。また、テレメトリーシステム F-4G/T-FHSS は、同時に受信機の ID 番号を送信機が記憶し、他の受信機からのデータを受け付けないようにします。

F-4G の場合の送信機と受信機のリンク方法を説明します。

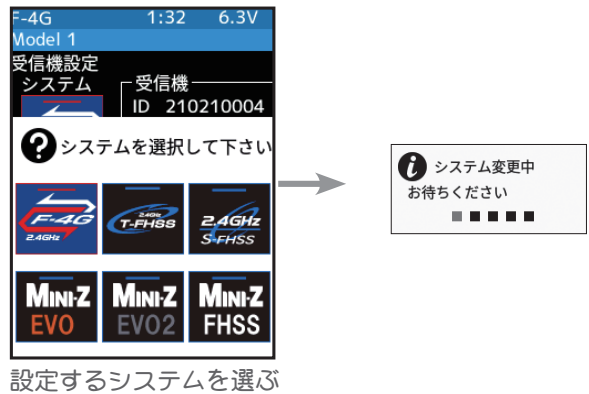
受信機設定の変更方法

- 1 電源スイッチ (PWR) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。ジョグキーを操作して受信設定画面を開きます。

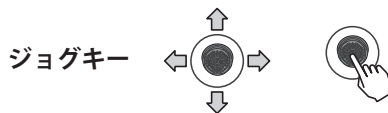
ホーム画面 → [メニュー] → [セットアップメニュー] → [受信機設定]



2 受信機設定からジョグキーでシステムタイプのアイコンを選択し、ジョグキーを押します。システムタイプ選択画面が表示されますので、設定するシステムを、選択しジョグキーを押します。



設定するシステムを選ぶ



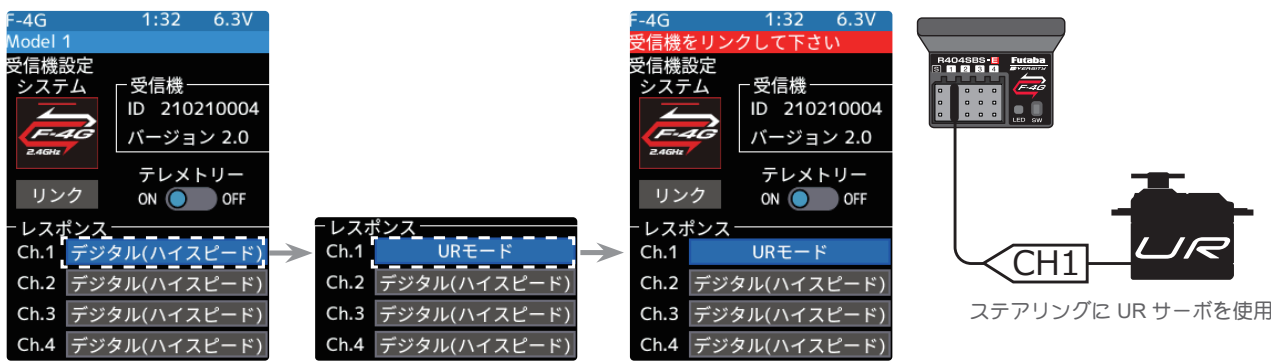
3 F-4G の場合、使用するサーボに合わせてレスポンス設定がチャンネル単位で設定できます。接続するサーボに応じて、以下のモードを設定してください。

- ・SR モード SR 対応サーボ (SR モードに設定)
- ・UR モード UR 対応サーボ (UR モードに設定)
- ・デジタル (ハイスピード) デジタルサーボ
- ・アナログ (ノーマル) アナログサーボ

注意：

- * SR/UR モードでは、通常のサーボは動作しません。SR/UR モードに対応した Futaba サーボをご使用ください。間違った組合せで使用すると、サーボ、その他の機器が故障しますので注意してください。
- * SR/UR モードに対応していない ESC やジャイロ、その他の機器を使用する場合は SR/UR モードに設定しないでください。

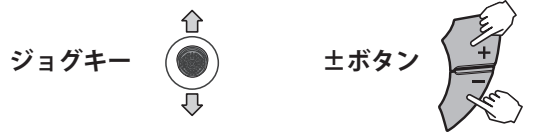
受信機設定画面



設定したいチャンネル(CH1ステアリング)を選択

サーボに合わせてURの場合にはURモードを選択

「受信機をリンクして下さい。」と表示されます。受信機をリンクしないとURモードに変更されません。



バッテリーフェイルセーフ使用時はセットアップメニューのフェイルセーフ設定のバッテリーフェイルセーフ電圧を設定してください。

- ※各CHのバッテリーフェイルセーフのON/OFFは別途設定してください。
- ※F-4Gの場合、バッテリーフェイルセーフ電圧はリンク時に受信機に設定されます。バッテリーフェイルセーフ電圧設定を変更した場合は、受信機を再度リンクしてください。

4 送信機と受信機を 50 cm 以内に近付け、(お互いのアンテナは接触させない) 受信機側の電源を ON にします。

5 送信機 T6PV のジョグキーで[リンク]を選択してジョグキーを押すと、チャイム音がしてT6PVが20秒間のリンクモードに入ります。20秒のリンクモードの間に受信機側のプッシュスイッチを約2秒以上押しします。

6 LED が赤点灯から緑点灯に変わり、T6PV のピピッと電子音と、画面に「リンクに成功しました」と表示したら、受信機の Link スイッチを離し、送信機のジョグキーが END ボタンを押します。これでお互いの ID の読み込みが終わり、T6PV の画面に受信機の ID ナンバーを表示します。F-4G/T-FHSS でテレメトリー ON では、受信機ソフトウェアバージョンも表示します。「受信機が見つかりません」とエラー画面を表示した場合は、リンクが失敗していますので END ボタンを押し、設定内容を確認して、再度リンク操作をしてください。設定が完了したら一旦受信機の電源を入れなおします。レスポンスとバッテリーフェイルセーフ電圧の設定は受信機の再起動後に反映されます。



- T6PV と F-4G 受信機 (R404SBS / R404SBS-E 等) または、T-FHSS 受信機 (R314SB 等) は、モデルメモリーごとに最後にリンクした組み合わせの ID を送信機と受信機がお互いに記憶します。
- T6PV は各モデルメモリーで、受信機の ID を 1 つしか記憶できませんので、同じモデルメモリーで複数の F-4G 受信機は使用できません。同じモデルメモリーで受信機を交換する場合は、以前リンク済みの受信機でも、再度リンクさせる必要があります。
- 複数の受信機を使用する場合は、T6PV のモデルメモリーごとにリンクした組み合わせで使用してください。1 台の受信機で複数のモデルメモリーにリンクして使用することはできません。
- テレメトリー機能の通信状態は T6PV のホーム画面で確認できます。
- F-4G システム以外の場合は、リンク手順が異なります。

リンクの注意

警告

- ⊗ リンク操作時は動力用モーターが接続された状態では行わないでください。
■ 不意にモーターが回転すると大変危険です。

- ① リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源を OFF とし、リンクした送信機で操作ができることを確認してください。
■ リンク後に再起動しなければリンク時の設定は反映されません。

※本マニュアルの各画面は Ver.1
より異なる場合があります。

ホーム画面



メニュー



システムメニュー 1



モデルメニュー



セットアップメニュー 1



レーシングメニュー 1



ミキシングメニュー 1



テレメトリーメニュー



アクセサリーメニュー 1



システムメニュー 2



セットアップメニュー 2



レーシングメニュー 2



ミキシングメニュー 2



アクセサリーメニュー 2



システムメニュー



ディスプレイ	システム情報	パザ	バッテリー設定	トータルタイマー	LED 設定	アジャスター	受信機 アップデート
---------------	---------------	-----------	----------------	-----------------	---------------	---------------	-------------------

モデルメニュー



モデルセレクト	モデルコピー	モデル名前	モデル削除	データリセット	モデルタイプ
----------------	---------------	--------------	--------------	----------------	---------------



セットアップメニュー



受信機設定 サーボビュー スロットモード リバース サブトリム エンドポイント フェイルセーフ アクセレーション

トリム/ダイヤル設定 スイッチ設定 アイドルアップ D/R, ATL チャンネル設定

レーシングゲームメニュー



カーブ (EXP) スピード トラクションコントロール A.B.S. スタート エンジンカット フィーリング ドラッグレース

ミキシングメニュー



ステアリングミキシング ブレーキミキシング ジャイロミキシング 4WSミキシング デュアルESC CPSミキシング タンクミキシング プログラムミキシング ウィンチミキシング

テレメトリーメニュー



テレメトリー センサーリスト センサーメニュー

アクセサリメニュー



タイマー ラップリスト S.BUSサーボ MC(ESC)リンク ジャイロリンク 指数表 ギアレシオ表 END/DIRボタン設定 ホーム画面表示設定

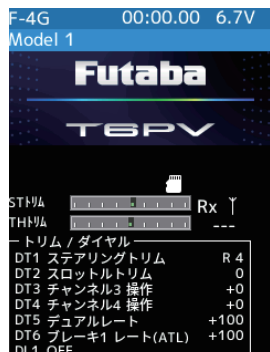




ディスプレイ設定

バックライト輝度、減光時間などの設定をするメニューです。
ディスプレイ設定画面は、次の方法で表示します。

ホーム画面



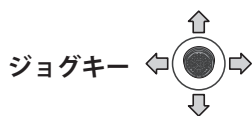
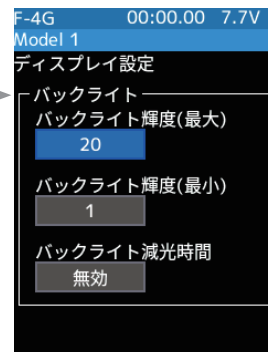
メニュー画面



システムメニュー画面



ディスプレイ設定画面



ディスプレイの設定方法

1 バックライト輝度 (最大) 設定

[バックライト輝度(最大)] をジョグキーで選択して押します。設定値の表示が青くなります。[+][-]ボタンで、バックライトの明るさの最大を調整します。

バックライト輝度 (最大)

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

2 バックライト輝度 (最小) 設定

T6PV は時間が経過すると画面の輝度を落とす減光機能が働き [バックライト輝度(最小)] で設定した輝度になります。
[バックライト輝度(最小)] をジョグキーで選択して押します。設定値の表示が青くなります。[+][-]ボタンで、減光時のバックライトの明るさを調整します。

バックライト輝度 (最小)

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

- 最小は減光時の明るさです。

3 バックライト減光時間の調整

減光機能の輝度を落とすまでの時間を設定します。[バックライト減光時間] をジョグキーで選択して押します。設定値の表示が青くなります。[+][-]ボタンで、減光時間を調整します。

バックライト減光時間
1 ~ 240 秒 / 無効(OFF)
初期値 : 10 秒

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

4 終了する場合は、**END ボタン**を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。



システム情報

このシステム情報では、ユーザーネームの設定や、表示言語、テレメトリー情報の使用単位をジョグキーで選択できます。また、ソフトバージョンを表示します。

ディスプレイ設定画面は、次の方法で表示します。



ユーザーネームの設定方法

1 (変更したい文字にカーソルを移動)

ユーザーネームは、[←][→]をジョグキーで選択して押しカーソルを移動し、設定または変更したいモデルネームの文字を選びます。選択された文字の前に縦線カーソルが表示されます。

ネームカーソル移動ボタン

- [←][→]をジョグキーで選択して押しカーソル移動します。また、文字を決定するとモデルネームのカーソル位置が右へ移動します。

2 (使用する文字の選択)

画面下側の文字リストから使用する文字をジョグキーで選びます。使用する文字が決まったらジョグキーを押します。文字が決定され、モデルネームの文字列が右に移動します。また、[削除]を選択すると、縦線カーソルの左文字が削除されます。やり直す場合は[取消]を選択します。

文字の選択 / 決定

- 文字をジョグキーで選択して押し文字を決定



3 終了する場合は、**END ボタン**を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

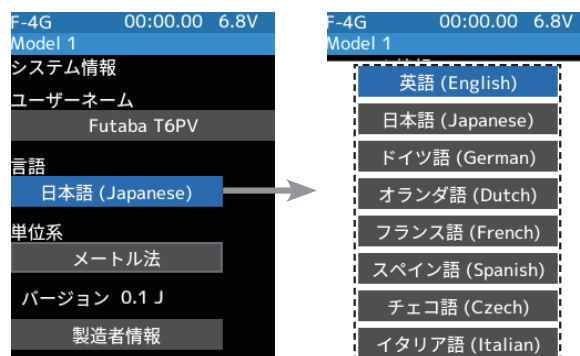
言語の設定方法

1 (表示される言語の選択)

[言語] をジョグキーで選択し押すと、画面に言語のリストが表示されますので、[日本語 (Japanese)]/[英語 (English)]/[ドイツ語 (German)]/[オランダ語 (Dutch)]/[フランス語 (French)]/[スペイン語 (Spanish)]/[チェコ語 (Czech)]/[イタリア語 (Italian)] からジョグキーで選択して押します。

言語の設定

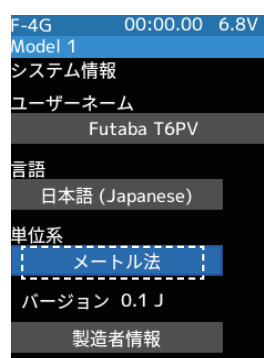
- ポップアップ画面をジョグキーで選択し押す。



単位の設定方法

1 (単位の設定)

[単位系] をジョグキーで選択して [+][-] ボタンでメートル法またはヤード・ポンド法のどちらかに設定します。

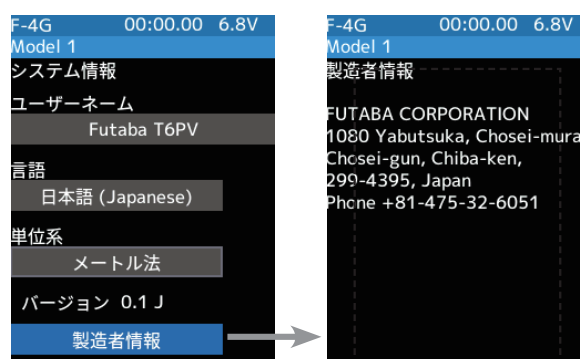


設定

- [メートル法]/[ヤード・ポンド法] を [+][-] で選択

製造者情報の表示

1 製造者情報をジョグキーで選択し押すと製造者情報が表示されます。



2 終了する場合は、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。



ブザー

スイッチ／トリム／ジョグキーの操作音、警告アラーム音の音程を調整するメニューです。

- スイッチ／トリム／ジョグキーを操作したときの操作音の音程を調整できます。
- 各警告アラームのアラーム音を調整できます。

ブザー画面は、次の方法で表示します。



音の設定方法

1 (操作音程の設定)

[操作音] をジョグキーで選択して押します。設定値の表示が青くなります。**[+][-]** ボタンで、音を調整します。

設定範囲
INH ~ 10 (初期値: 5)

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+][-]** 同時押しでリセット

2 (警告音程の設定)

[警告音] をジョグキーで選択して押します。設定値の表示が青くなります。**[+][-]** ボタンで、音を調整します。

設定範囲
0 ~ 10 (初期値: 5)

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+][-]** 同時押しでリセット

3 終了する場合は、**END ボタン**を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

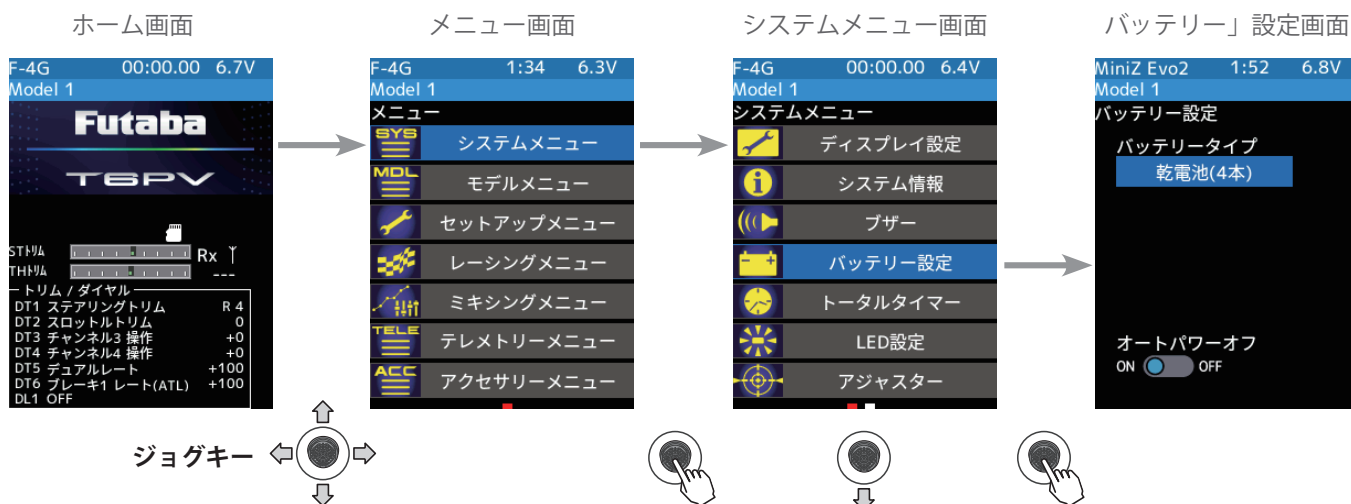


バッテリー設定

T6PV はローバッテリーアラームの設定がバッテリーのタイプによって異なりますので、バッテリータイプの設定を使用する電源に必ず合わせて **[LiFe(2セル)]** **[LiPo(2セル)]** **[ニッケル水素(5セル)]** **[乾電池(4本)]** のいずれかに設定してください。間違った設定の場合、ローバッテリーアラームから、システム停止までの時間が極端に短くなり大変危険です。

例外的に、それ以外のバッテリーを使用する場合は、**[その他]** に設定し、ローバッテリーアラームの電圧は自己責任の上で設定してください。指定バッテリー以外の使用によるトラブルにつきましては、弊社では一切責任を負いません。

バッテリー設定画面は、次の方法で表示します。



バッテリーの設定方法

1 (バッテリータイプの設定)

[バッテリータイプ] をジョグキーで選択し押すと、画面にバッテリーのリストが表示されますので、**[LiFe(2セル)]** / **[LiPo(2セル)]** / **[ニッケル水素(5セル)]** / **[乾電池(4本)]** / **[その他]** から、ジョグキーで選択して押します。

●**[その他]** に設定した場合、アラーム電圧を自分で設定してください。

バッテリータイプ
 LiFe(2セル)
 LiPo(2セル)
 ニッケル水素(5セル)
 乾電池(4本)
 その他
 初期設定: 乾電池(4本)

2 (オートパワーオフの設定)

オートパワーオフ設定が **ON(●)** の場合、送信機を何も操作していない時間が 10 分経過すると、画面上部に「警告: オートパワーオフ」と表示し、警告音が鳴ります。このときステアリング、スロットルなどを操作すると、警告が解除されます。アラームを解除しないと、オートパワーオフ機能によって、5 分後に自動的に電源が OFF になります。

オートパワーオフの **ON(●)** または (●)OFF をジョグキーで選択して **[+][-]** ボタンで変更します。

"(●)OFF" : 機能 OFF
 "ON(●)" : 機能が ON の状態

設定
 ●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。

3 終了する場合は、**END ボタン** を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

トータルタイマー

T6PV の電源が ON になっている積算時間 (トータルタイマー)、またはタイマーのいずれかをホーム画面に表示することができます。トータルタイマーのリセットはこのメニューでできます。

トータルタイマー画面は、次の方法で表示します。



トータルタイマーの設定方法

1 (トータルタイマーリセット)

[リセット] をジョグキーで選択し押すと、トータルタイマーがリセットされます。



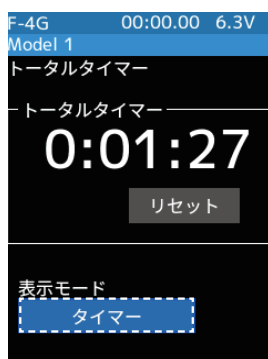
トータルタイマー

リセット方法

- [リセット] をジョグキーで選択
- ジョグキーを押すとリセット

2 (ホーム画面の表示設定)

表示モードをジョグキーで選択し [+/-] ボタンで [トータルタイマー] [タイマー] のいずれかを選択します。



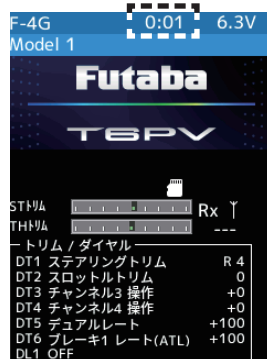
設定

- [表示モード] をジョグキーで選択。
- [+/-] を押す

表示モード

トータルタイマー
タイマー

ホーム画面表示モード:
トータルタイマー



ホーム画面表示モード:
タイマー



3 終了する場合は、**END ボタン** を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。



LED 設定

パイロット LED ライトの明るさと点灯方法（常時点灯、消灯、バックライト連動）を設定できます。

LED 設定画面は、次の方法で表示します。

ホーム画面

メニュー画面

システムメニュー画面

LED 設定画面



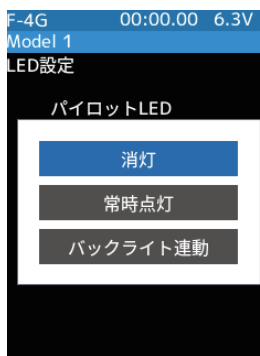
LED の設定方法

1 (パイロット LED の点灯設定)

[パイロットLED] をジョグキーで選択し押すと、画面に点灯方式のリストが表示されますので、**[消灯]** / **[常時点灯]** / **[バックライト連動]** から、ジョグキーで選択して押します。

- "消灯" : パイロット LED ライト OFF
- "常時点灯" : パイロット LED ライト ON
- "バックライト連動" : 液晶画面のバックライトの減光時間の設定に連動して、輝度が落ちると消灯し、ジョグキーと画面操作で点灯。

- "消灯" : パイロット LED ライト OFF
- "常時点灯" : パイロット LED ライト ON
- "バックライト連動" : 液晶画面のバックライトの減光時間の設定に連動して、輝度が落ちると消灯し、ジョグキーと画面操作で点灯。

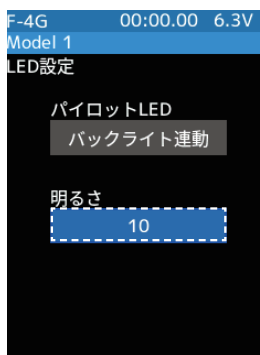


設定タイプ
 消灯
 常時点灯
 バックライト連動

設定
 ● **[常時点灯]** / **[消灯]** / **[バックライト連動]** をジョグキーで選択し押す。

2 (パイロット LED の輝度設定)

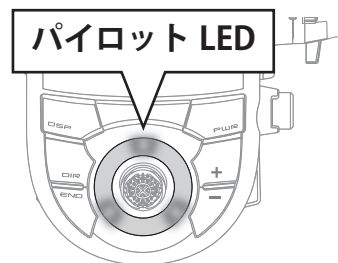
[明るさ] をジョグキーで選択して押します。設定値の表示が青くなります。 **[+]** / **[-]** ボタンで、LED の明るさを調整します。



パイロット LED 輝度
 0 ~ 20 / 初期値 : 10
調整

- **[+]** か **[-]** を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

3 終了する場合は、**END ボタン** を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。





アジャスター

ステアリングホイールとスロットルトリガーのニュートラル位置および、動作角の補正をすることができます。何らかの原因でメカ的なズレを生じた場合に使用します。

補正を実行した場合は、すべての設定機能の設定値を再確認する必要があります。

アジャスター設定画面は、次の方法で表示します。



ホイール (ステアリング) の調整

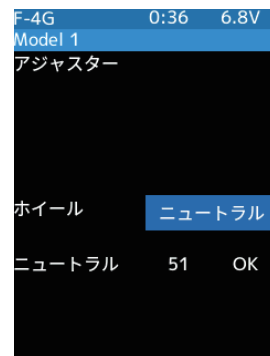
(準備)

- ・ **[ホイール]** をジョグキーで選択して押し、ホイール(ステアリング)のニュートラル補正画面にします。

1 (ステアリングのニュートラルの調整)

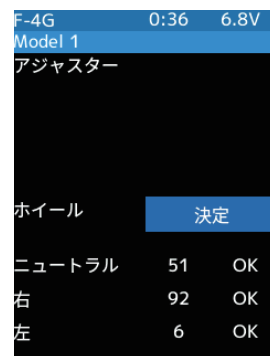
ステアリングホイールを左右に軽く弾いた後、ホイールに触れない状態で、ジョグキーを押します。ニュートラル補正がOKになるとエンドポイント補正画面になります。

補正範囲に入っていないとエンドポイント補正画面になりません。



2 (ステアリングの振り幅の調整)

エンドポイントの補正画面 (右図) の状態で、ホイールを左、右いっばいに軽く操作し左右とも OK の表示になったら、**[決定]** が選択された状態でジョグキーを押します。補正がOKになるとアジャスター画面に戻ります。補正範囲に入っていないと **[決定]** ができません。再度補正を実行しても正常に終了できない場合は、Futaba カスタマーサービスセンターへご連絡ください。



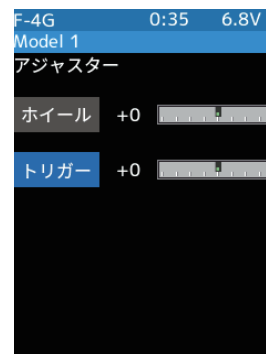
- 3 終了する場合は、**END ボタン** を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。



トリガー（スロットル）の調整

(準備)

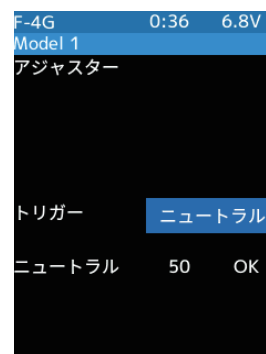
- ・[トリガー]をジョグキーで選択して押し、トリガー(スロットル)のニュートラル補正画面にします。



1 (スロットルのニュートラルの調整)

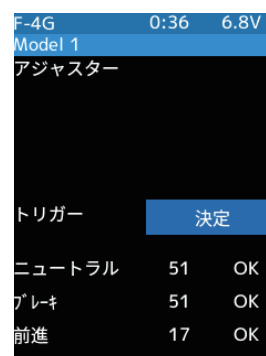
スロットルトリガーホイールを前進側、ブレーキ側に軽く弾いた後、トリガーに触れない状態で、ジョグキーを押します。ニュートラル補正がOKになるとエンドポイント補正画面になります。

補正範囲に入っていないとエンドポイント補正画面になりません。



2 (スロットルの振り幅の調整)

エンドポイントの補正画面(右図)の状態、トリガーを前進側、ブレーキ側いっぱい軽く操作し、両方ともOKの表示になったら、[決定]が選択された状態でジョグキーを押します。補正がOKになるとアジャスター画面に戻ります。補正範囲に入っていないと[決定]ができません。再度補正を実行しても正常に終了できない場合は、Futaba カスタマーサービスセンターへご連絡ください。



- 3 終了する場合は、**END ボタン**を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

受信機アップデート

受信機 (R404SBS/R404SBS-E)(R334SBS/R334SBS-E) のソフトウェア・アップデートを、T6PV から行う機能です。

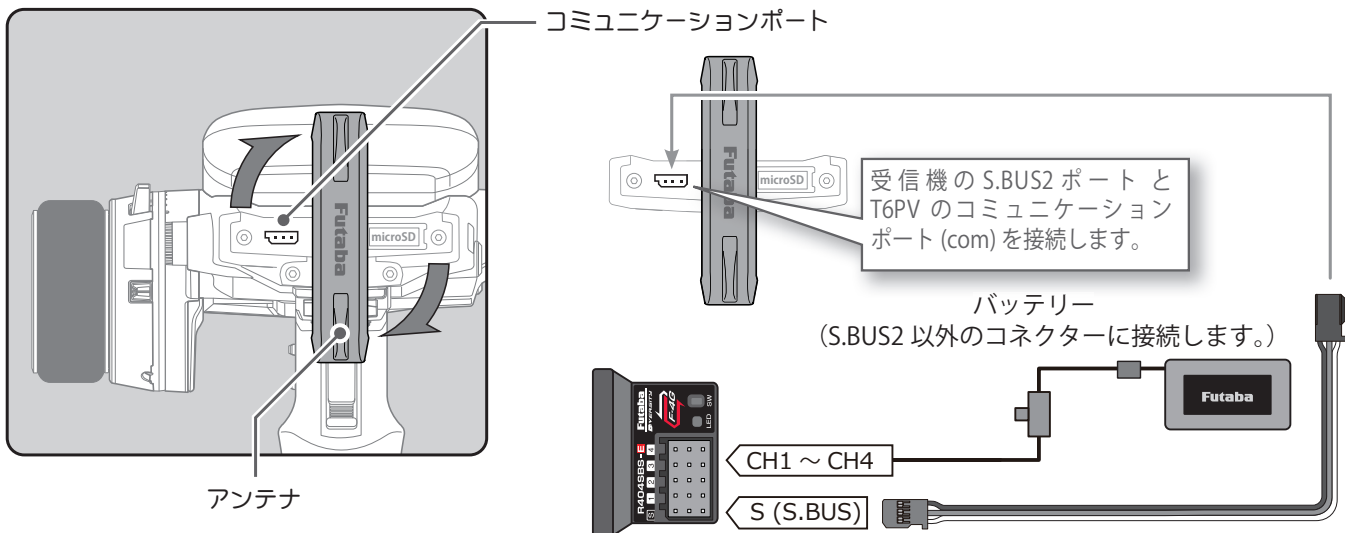
受信機のアップデートには、インターネットに接続可能なパソコンおよび、ミニドライバ（受信機のリンク SW 用）、microSD カード（別売）と CGY750/GY701/GY520 用コード（別売）または、アップデート用 DSC コードが必要です。



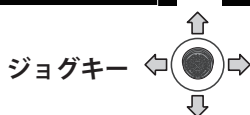
アップデートの準備

- 受信機のアップデートファイルを、Futaba WEB (<https://www.rc.futaba.co.jp/support/software/>) より、お持ちの PC にダウンロードします。
- ダウンロードしたアップデートファイル (zip 圧縮形式) を展開 (解凍) します。「FUTABA」という名前のフォルダが作成されますので、その「FUTABA」フォルダを、microSD カードにコピーします。
- 「FUTABA」フォルダをコピーした microSD カードを T6PV に挿入します。

T6PV と 受信機 の接続図



T6PV の DSP または PWR スイッチを ON にして、受信機アップデート画面を、次の方法で表示します。



アップデート方法

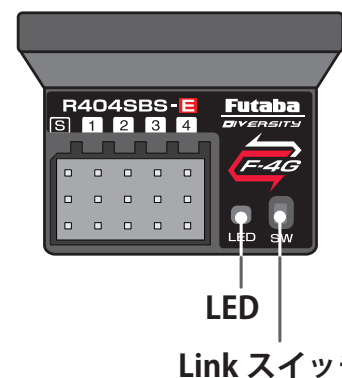
1 アップデートする受信機の種類をジョグキーで選択して押します。



2 受信機をアップデート準備状態にします。

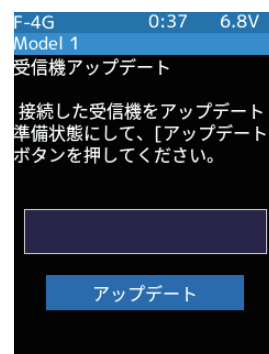
- ・リンクスイッチを押したまま受信機電源を ON します。
- ・LED が「赤に点灯」し、約 3 秒後に「赤が 1 回点滅」します。この点滅を確認したら、リンクスイッチを離して 1 秒以内にすぐ押し直し、そのまま押し続けます。
- ・押し続けて約 4 秒経過すると、LED が「赤緑同時点灯」に変わるので、変わったらスイッチを離します。この状態がアップデート準備 OK となります。

※もし赤緑同時点灯にならない場合は、最初からやり直してください。



3 送信機画面の [アップデート] ボタンが選択された状態でジョグキーを押します。アップデートが開始されます。プログレスバーが表示され、進行状況を示します。受信機の LED が緑点灯となり、T6PV からデータを受け付けるたびに一瞬だけ緑点滅となります。

※アップデート中は、T6PV の電源を OFF にしないでください。



4 アップデートが完了するとメッセージが表示され、受信機の LED は緑点灯のままとなります。受信機の電源を OFF にしてください。

走行（走航）前に、正常に動作することを確認してください。

5 終了する場合は、**END ボタン**を押してシステムメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

エラーメッセージ表示

次のような場合にはエラーメッセージが表示されます。状況を確認して、最初からやり直してください。

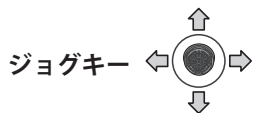
- 受信機がアップデート準備状態（LED が「赤緑同時点灯」）になっていない。
- ケーブルが接続されていない（外れた）。
- 電源が切れた。
- micro SD カードが挿入されていない。
- micro SD カードにアップデートファイルが正常にコピーされていない。



モデルセレクト

T6PV 送信機に 40 通りのモデルデータ (R/C カー 40 台分のデータ) を保存でき、そのモデルデータを読み出すときに使用します。ただし microSD カード内にコピーしたモデルはカードから直接呼び出して使用できません。使用する場合は T6PV 本体にコピーしてください。

モデルセレクト画面は、次の方法で表示します。



緑のカーソルが現在動作中のモデル

ジョグキーを左右に操作してページを移動



△ページ数を示す

モデルセレクト機能の使用法

1 (モデル No. の選択)

1 ページに 8 モデル、5 ページで全 40 モデルから選べます。ジョグキーを左右に操作してページを移動します。

モデルの選択

- ジョグキーで [モデル名] をジョグキーで選択。
- ジョグキーを押す

2 (モデルセレクトの実行)

使用するモデルをジョグキーで選択し押すと「よろしいですか?」と確認画面を表示します。実行する場合は [はい] が選択された状態でジョグキーを押します。ピピッという電子音がして変更が終了し、ホーム画面が表示されます。キャンセルする場合は [いいえ] を選びジョグキーを押します。

- ホーム画面のモデル名前が変更されればモデルセレクトは完了です。

3 [いいえ] で変更しない場合は、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

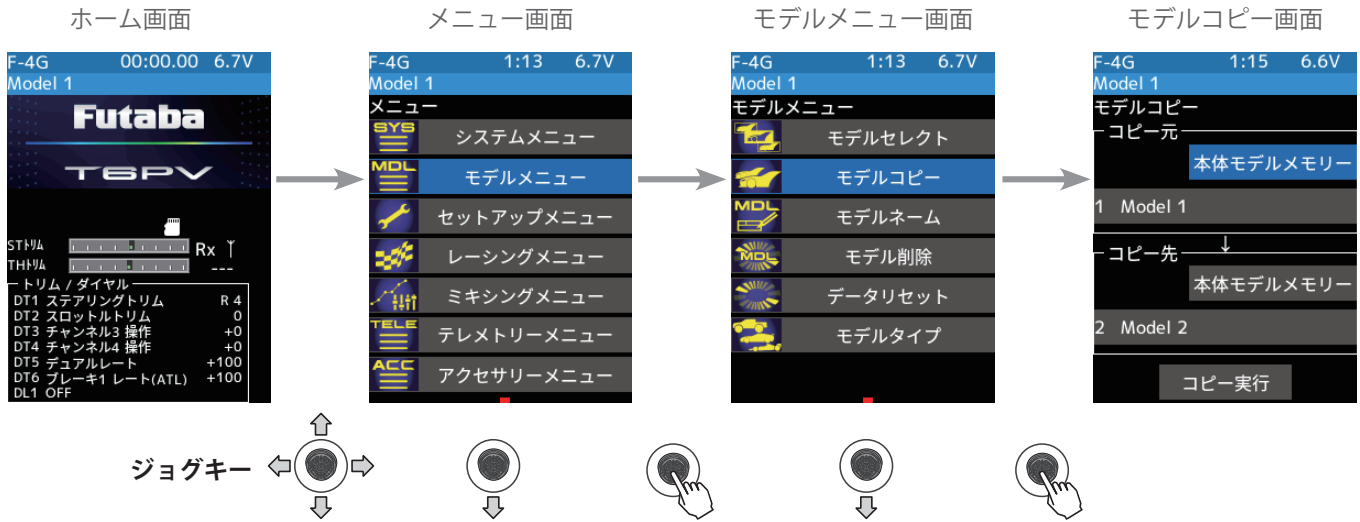


- ジョグキーで [はい] をジョグキーで選択。
- ジョグキーを押す



モデルコピー

モデルメモリーの内容を別のモデルメモリーにコピーできます。また、バックアップ用に保存、または、別の T6PV にコピーするために microSD カードに保存することができます。モデルコピー画面は、次の方法で表示します。



モデルコピーの方法

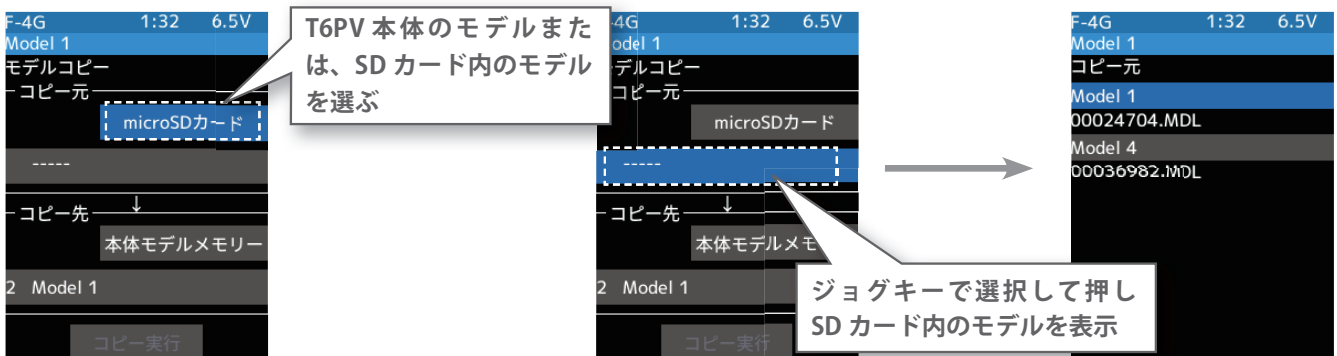
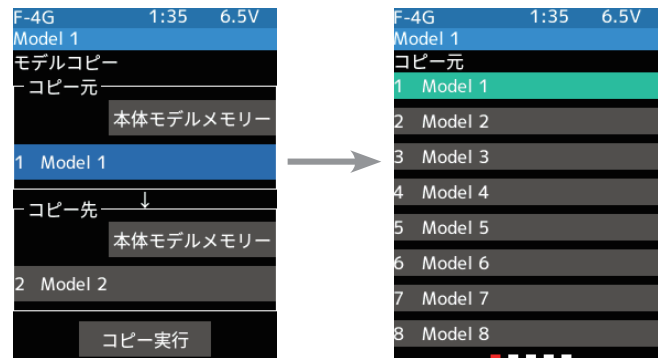
1 (コピー元モデルの選択)

コピー元 **[モデルネーム]** をジョグキーで選択、モデルリストを表示しますのでコピーするモデルを選んで押します。コピー元モデルが選ばれ、モデルリストが閉じます。

リストはジョグキーを左右に動かすとページ移動します。T6PV 本体に microSD カードを取付けている場合、T6PV 本体内のモデル、または microSD カード内のモデルのどちらかを選ぶボタンを表示しますので、T6PV 本体か microSD カードを選びます。

モデルの選択

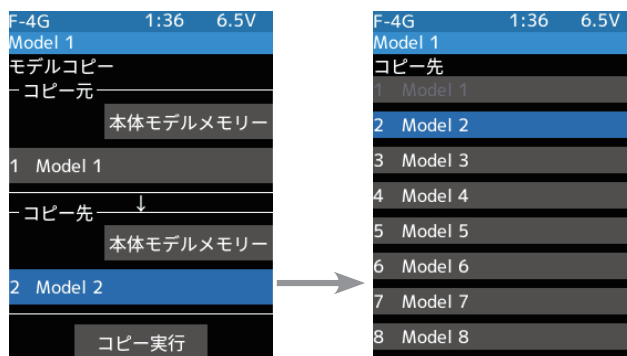
- ポップアップ画面をジョグキーで選択。



2 (コピー先モデルの選択)

コピー先 **[モデルネーム]** をジョグキーで選択し押すと、モデルリストを表示しますのでコピー先を選んで押します。コピー先モデルが選ばれ、モデルリストが閉じます。キャンセルする場合は、**END ボタン** を押してモデルコピー画面に戻ります。

- 現在使用中のモデルは選択できません。
- コピー先が microSD カードの場合は、上書きできませんので、モデルのリストは表示しません。直接 microSD カードに保存されます。



モデルの選択

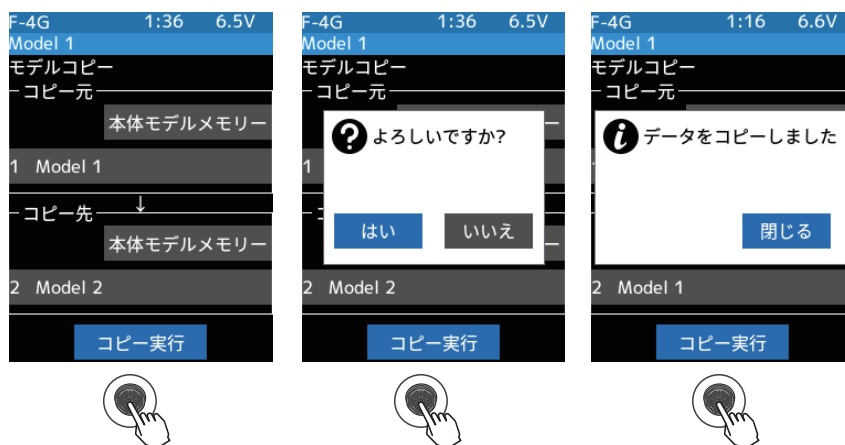
- ポップアップ画面をジョグキーで選択。

3 (コピーの実行)

モデルコピー画面で **[コピー実行]** をジョグキーで選択し押すと、「よろしいですか」と確認画面を表示します。実行する場合は **[はい]** を選択、キャンセルする場合は **[いいえ]** を選びジョグキーを押します。 **[はい]** を押して実行すると、ピピッという電子音がしてモデルコピーが完了、「**データをコピーしました**」と表示します。 **[閉じる]** を選択して押します。

コピー

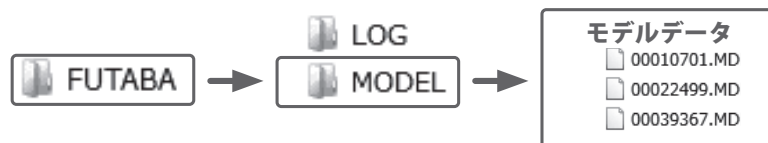
- **[コピー実行]** をジョグキーで選択し押す



4 終了する場合は、**END ボタン** を押してモデルメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

microSD カードの保存先

microSD カードを T6PV に取り付けると "Futaba" という名前のフォルダが作成され、その中に "LOG" と "MODEL" というフォルダが作成されます。モデルデータはこの "MODEL" というフォルダの中に保存されます。



モデルコピーをするときに、コピー元のデータを microSD カードに保存したモデルデータから選ぶと、モデルのリストは左図のように表示されます。



モデルネーム

各モデルメモリーごとにモデル名(15文字迄)を登録することができます。アルファベット、記号、カタカナおよび数字が使用できます。

モデルネーム画面は、次の方法で表示します。



モデルネームの設定方法

1 (変更したい文字にカーソルを移動)

モデルネームは、[←][→]をジョグキーで選択して押しカーソルを移動し、設定または変更したいモデルネームの文字を選びます。選択された文字の前に縦線カーソルが表示されます。

ネームカーソル移動ボタン

- [←][→]をジョグキーで選択して押しカーソル移動します。また、文字を決定するとモデルネームのカーソル位置が右へ移動します。

2 (使用する文字の選択)

画面下側の文字リストから使用する文字をジョグキーで選びます。使用する文字が決まったらジョグキーを押します。文字が決定され、モデルネームの文字列が右に移動します。また、[削除]をジョグキーで選択すると、縦線カーソルの左文字が削除されます。やり直す場合は[取消]をジョグキーで選択して押します。

文字の選択 / 決定

- 文字をジョグキーで選択して押し文字を決定



- 3 終了する場合は、**END ボタン**を押してモデルメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





モデル削除 (SD カード内)

SD カードに保存されたモデルデータを、削除する機能です。

SD カードを送信機のカードスロットにセットしている場合のみ、メニューに**モデル削除**が表示されます。

モデル削除画面は、次の方法で表示します。



SD カード内のモデルデータ削除方法

1 (モデルデータの選択)

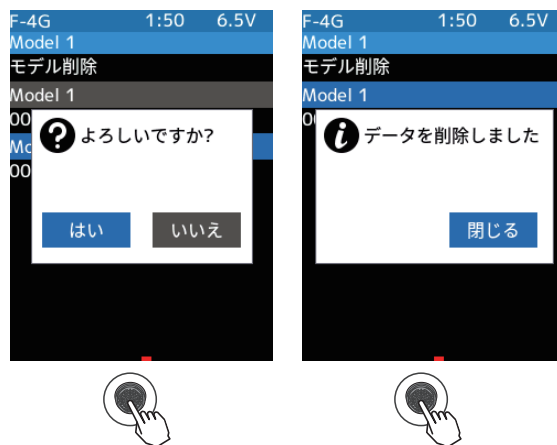
1 ページに収まらないモデル数が記憶されている場合、ジョグキーを左右に動かしページを移動します。

モデルの削除実行

● 削除するモデルをジョグキーで選択

2 (モデル削除の実行)

削除するモデルをジョグキーで選択して押します。「よろしいですか?」と確認メッセージが表示されます。削除を実行する場合は**[はい]**、キャンセルする場合は**[いいえ]**をジョグキーで選択して押します。「データを削除しました」と表示され、削除が完了します。



3 終了する場合は、**END ボタン**を押してモデルメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





データリセット

現在選んでいるモデルメモリーの内容をリセットする機能です。

リセット方法は次の4タイプから選択できます。どのリセットタイプも、アジャスター機能、システムメニューの設定は、初期化されません。

●モデルデータ

機能の設定データのみを初期化、ダイレクトメニューは初期化されません。

●カスタムメニュー

カスタムメニューを初期化します。そのほかの設定は初期化されません。

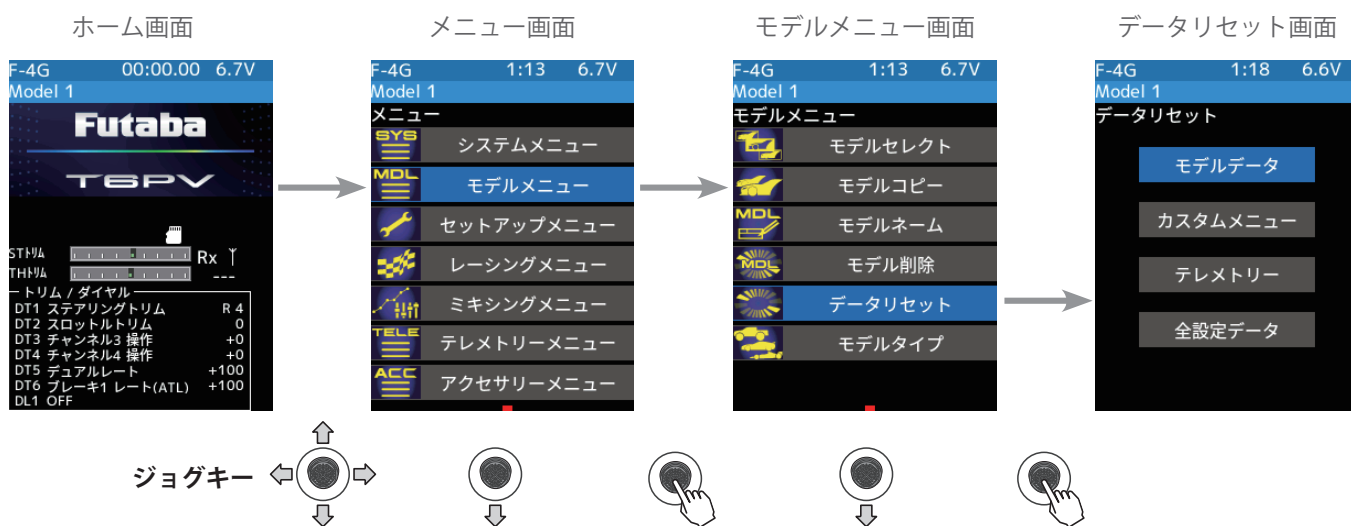
●テレメトリー

テレメトリー関連の設定データが初期化されます。

●全設定データ

システムメニューの設定以外がすべて初期化されます。

データリセット画面は、次の方法で表示します。

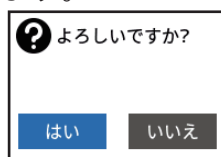


リセットの方法

1 (リセットの実行)

リセットするタイプをジョグキーで選択して押します。「よろしいですか?」と確認メッセージが表示されますので、実行する場合は **[はい]** でキャンセルする場合は **[いいえ]** をジョグキーで選択して押します。

これでリセットは完了です。



タイプ

モデルデータ
ダイレクトメニュー
テレメトリー
全設定データ
リセット実行

●リセットのタイプをジョグキーで選択

2 終了する場合は、**END ボタン**を押してモデルメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





モデルタイプ

1/5 ビックカー、ドリフトに適した初期設定に変更できます。たとえば 1/5 ビックカーはステアリングミキシングやブレーキミキシングがあらかじめ ON 設定となり、ドリフトはジャイロミキシングが ON になっていますのでそれぞれのタイプのマシンが設定しやすくなります。

また、モデルタイプに応じて、よく使われる機能がカスタムメニューに初期設定されます。

- 変更すると現在のモデルデータが初期化されます。
- 各機能設定前に変更してください。

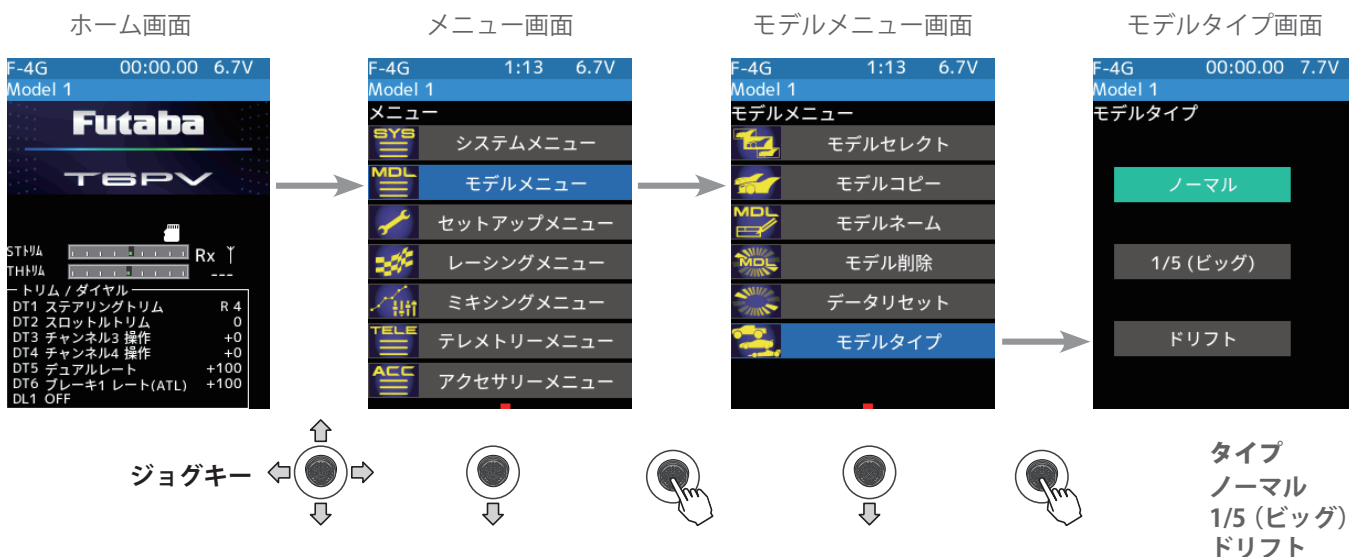
1/5(ビッグ)の初期設定

- ◆ステアリングミキシング ON
Ch3 をステアリング 2 ファンクション
- ◆ブレーキミキシング
Ch4 をブレーキ 2 ファンクション、DL1 にブレーキ 2 レートを割り当て

ドリフトの初期設定

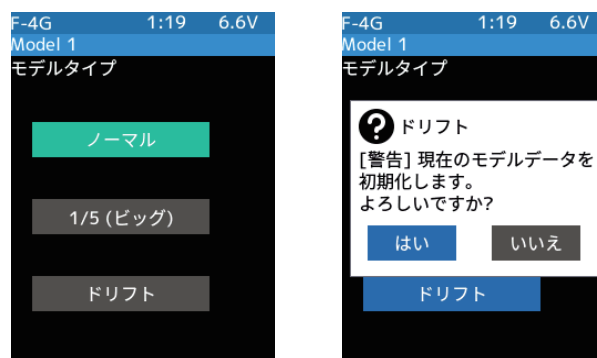
- ◆ジャイロミキシング
Ch3 をジャイロファンクション、DL1 にジャイロゲインを割り当て、DL1 ステップを 1 に設定

モデルタイプ画面は、次の方法で表示します。



モデルタイプ変更方法

1 希望のモデルタイプをジョグキーで選択して押します、「現在のモデルデータを初期化します。よろしいですか?」と確認メッセージが表示されますので、実行する場合は **【はい】**、キャンセルする場合は **【いいえ】** をジョグキーで選択して押します。



2 終了する場合は、**END ボタン**を押してモデルメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





セットアップメニュー



受信機設定

この受信機設定は、送信機と受信機のリンク、システムの変更、レスポンスの変更、テレメトリーの機能を ON/OFF (F-4G/T-FHSS システムの場合) をおこないます。

F-4G システムの場合のリンク

電源スイッチ (PWR) を入れたときの表示について

電源スイッチを入れると、現在選択されているモデルのモデル名を表示します。これから使用するモデルであることを確認してください。モデルの変更が必要な場合は、モデルメニューのモデルセレクト機能で変更してください。

高周波出力と受信機設定の確認

これから使用する受信機タイプに設定されているか確認します。

- * "PWR" 側の電源スイッチを ON にし、正常に電波が出力している場合、右図のように "F-4G" など通信システムを表示します。使用する受信機とシステムの設定が違っている場合は、"受信機設定" で変更してください。表示しない場合は、異常や故障が考えられます。弊社カスタマーサービスセンターにご連絡ください。"DSP" 側で画面表示している場合は、同じ場所に "ディスプレイ" と表示します。
- * セットに付属の R404SBS / R404SBS-E は F-4G システムで動作しますので、この表示は F-4G になっている必要があります。



F-4G の場合

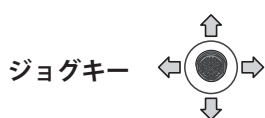
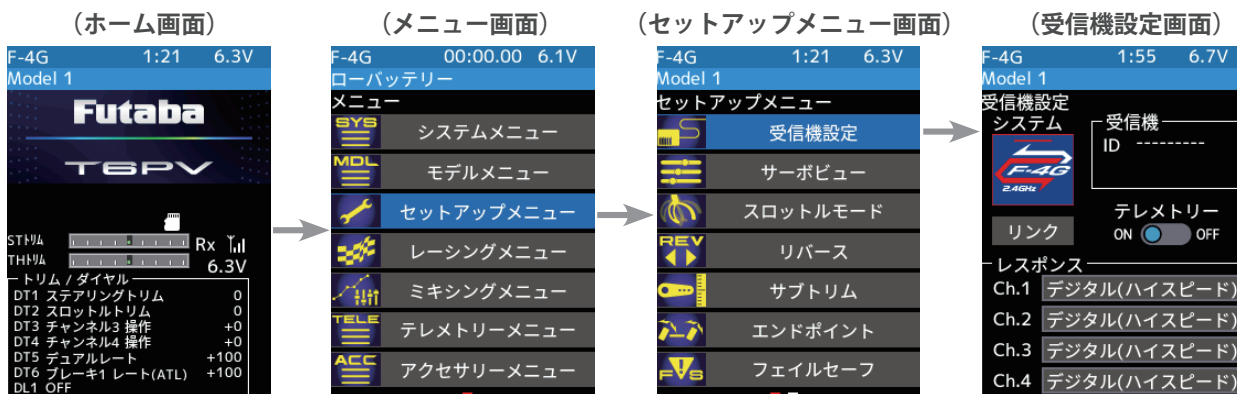
受信機設定の変更および、送信機と受信機のリンク

最初に受信機設定をします。次に送信機と受信機をリンクさせ、送信機の ID 番号を受信機が記憶し、他の送信機からの信号を受け付けないようにします。また、テレメトリーシステム F-4G/T-FHSS は、同時に受信機の ID 番号を送信機が記憶し、他の受信機からのデータを受け付けないようにします。

F-4G の場合の送信機と受信機のリンク方法を説明します。

受信機設定の変更方法

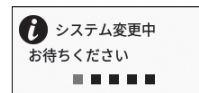
- 1 電源スイッチ (PWR) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。ジョグキーを操作して受信設定画面を開きます。



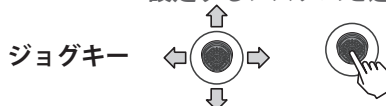


セットアップメニュー

2 受信機設定からジョグキーでシステムタイプのアイコンを選択し、ジョグキーを押します。システムタイプ選択画面が表示されますので、設定するシステムをジョグキーで選択して押します。



設定するシステムを選ぶ



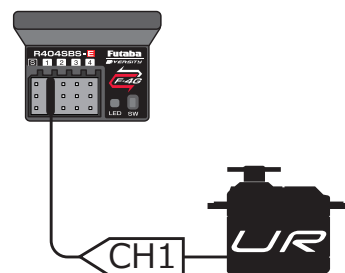
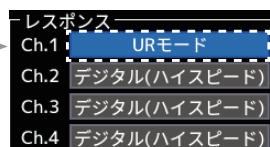
3 F-4G の場合、使用するサーボに合わせてレスポンス設定がチャンネル単位で設定できます。接続するサーボに応じて、以下のモードを設定してください。

- ・SRモード SR対応サーボ (SRモードに設定)
- ・URモード UR対応サーボ (URモードに設定)
- ・デジタル (ハイスピード) デジタルサーボ
- ・アナログ (ノーマル) アナログサーボ

注意：

- * SR/URモードでは、通常のサーボは動作しません。SR/URモードに対応した Futaba サーボをご使用ください。間違った組合せで使用すると、サーボ、その他の機器が故障しますので注意してください。
- * SR/URモードに対応していない ESC やジャイロ、その他の機器を使用する場合は SR/URモードに設定しないでください。

受信機設定画面

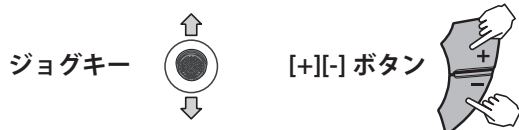


ステアリングに UR サーボを使用

設定したいチャンネル (Ch.1 ステアリング) をジョグキーで選択

サーボに合わせて UR の場合は UR モードをジョグキーで選択

「受信機をリンクして下さい。」と表示されます。受信機をリンクしないと UR モードに変更されません。



バッテリーフェイルセーフ使用時はセットアップメニューのフェイルセーフ設定のバッテリーフェイルセーフ電圧を設定してください。

※各 CH のバッテリーフェイルセーフの ON/OFF は別途設定してください。

※ F-4G の場合、バッテリーフェイルセーフ電圧はリンク時に受信機に設定されます。バッテリーフェイルセーフ電圧設定を変更した場合は、受信機を再度リンクしてください。

4 送信機と受信機を 50 cm 以内に近付け、(お互いのアンテナは接触させない) 受信機側の電源を ON にします。

5 送信機 T6PV のジョグキーで [リンク] をジョグキーで選択し押すと、チャイム音がして T6PV が 20 秒間のリンクモードに入ります。20 秒のリンクモードの間に受信機側のプッシュスイッチを約 2 秒以上押します。





セットアップメニュー

6 LEDが赤点灯から緑点灯に変わり、T6PVのピピッと電子音と、画面に「リンクに成功しました」と表示したら、受信機のLinkスイッチを離し、送信機のジョグキーかENDボタンを押します。これでお互いのIDの読み込みが終わり、T6PVの画面に受信機のIDナンバーを表示します。F-4G/T-FHSSでテレメトリーONでは、受信機ソフトウェアバージョンも表示します。「受信機が見つかりません」とエラー画面を表示した場合は、リンクが失敗していますので[閉じる]ジョグキーまたはENDボタンを押して設定内容を確認して、再度リンク操作をしてください。設定が完了したら一旦受信機の電源を入れなおします。レスポンスとバッテリーフェイルセーフ電圧の設定は受信機の再起動後に反映されます。

(受信機設定画面)





LEDとプッシュスイッチ



R404SBSの場合

リンク成功



リンク完了

F-4Gの場合



リンク失敗



再リンクへ

- T6PVとF-4G受信機(R404SBS/R404SBS-E等)または、T-FHSS受信機(R314SB等)は、モデルメモリーごとに最後にリンクした組み合わせのIDを送信機と受信機がお互いに記憶します。
- T6PVは各モデルメモリーで、受信機のIDを1つしか記憶できませんので、同じモデルメモリーで複数のF-4G受信機は使用できません。同じモデルメモリーで受信機を交換する場合は、以前リンク済みの受信機でも、再度リンクさせる必要があります。
- 複数の受信機を使用する場合は、T6PVのモデルメモリーごとにリンクした組み合わせで使用してください。1台の受信機で複数のモデルメモリーにリンクして使用することはできません。
- テレメトリー機能の通信状態はT6PVのホーム画面で確認できます。

リンクの注意

警告

- ⚠ リンク操作時は動力用モーターが接続された状態では行わないでください。
■ 不意にモーターが回転すると大変危険です。
- ⚠ リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源をOFFとし、リンクした送信機で操作ができることを確認してください。
■ リンク後に再起動しなければリンク時の設定は反映されません。





セットアップメニュー

T-FHSS システムの場合のリンク方法

受信機設定の変更および、送信機と受信機のリンク方法

最初にセットアップメニューの受信機設定でシステムを T-FHSS にします。次に送信機と受信機をリンクします。

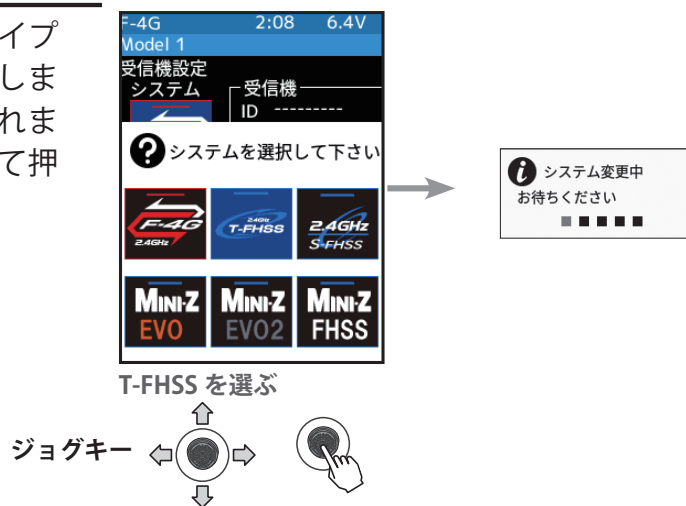
受信機タイプの設定方法と、送信機と受信機のリンク方法を説明します。

受信機設定の変更方法

- 1 電源スイッチ (PWR) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。ジョグキーを操作して受信設定画面を開きます。



- 2 受信機設定からジョグキーでシステムタイプのアイコンをジョグキーで選択して押します。システムタイプ選択画面が表示されますので、**T-FHSS** をジョグキーで選択して押します。



- 3 送信機と受信機を 50cm 以内に近付け、(お互いのアンテナは接触させない) 受信機側の電源を ON にします。

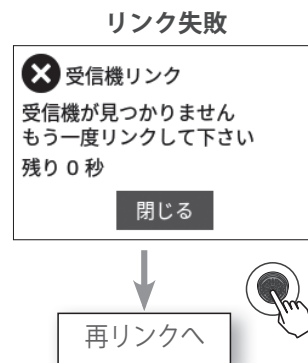
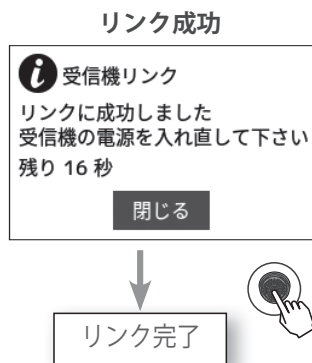
- 4 送信機 T6PV 画面の [リンク] をジョグキーで選択すると、チャイム音がして T6PV が 20 秒間のリンクモードに入ります。20 秒のリンクモードの間に受信機側のプッシュスイッチを約 2 秒以上押します。





セットアップメニュー

- 5 LED が赤点灯から緑点灯に変わり、T6PV のピピッと電子音と、画面に「リンクに成功しました」と表示したら、受信機の Link スイッチを離し、送信機のジョグキーか END ボタンを押します。これでお互いの ID の読み込みが終わり、T6PV の画面に受信機の ID ナンバーを表示します。T-FHSS でテレメトリー ON では、受信機ソフトウェアバージョンも表示します。「受信機が見つかりません」とエラー画面を表示した場合は、リンクが失敗していますので END ボタンを押し、設定内容を確認して、再度リンク操作をしてください。設定が完了したら一旦受信機の電源を入れなおします。レスポンスとバッテリーフェイルセーフ電圧の設定は受信機の再起動後に反映されます。



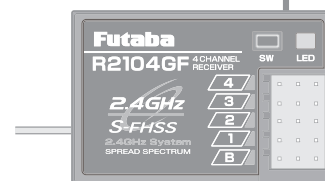
- T6PV と T-FHSS 受信機は、モデルメモリーごとに最後にリンクした組み合わせの ID を送信機と受信機がお互いに記憶します。
- T6PV は各モデルメモリーで、受信機の ID を 1 つしか記憶できませんので、同じモデルメモリーで複数の T-FHSS 受信機は使用できません。同じモデルメモリーで受信機を交換する場合は、以前リンク済みの受信機でも、再度リンクさせる必要があります。
- 複数の受信機を使用する場合は、T6PV のモデルメモリーごとにリンクした組み合わせで使用してください。1 台の受信機で複数のモデルメモリーにリンクして使用することはできません。
- テレメトリー機能の通信状態は T6PV のホーム画面で確認できます。



S-FHSS システムの場合のリンク方法

- 1 送信機のシステムを S-FHSS へ切り替えます。
- 2 送信機と受信機を 50cm 以内に近づけます。
- 3 電源スイッチ (PWR) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。
- 4 受信機側の電源 ON にします。
- 5 受信機側のプッシュスイッチを 1 秒以上押し続け LED が「緑」の点灯に変わったら離します。これにより、受信機は送信機 ID の読み込みが終わります。実際にサーボの動作を確認してください。

LED とプッシュスイッチ



R2104GF の場合

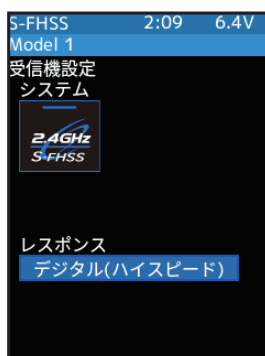
注意：受信機 LED の状態を確認

信号が受信されていない状態	赤点灯
受信状態 OK (ID 設定完了)	緑点灯
受信状態 (ID 設定前、または不一致)	緑点滅 *1 T-FHSSは赤点灯 *2
自動復旧できない異常 (EEPROM 異常, その他)	赤 / 緑の交互点灯

*1 緑点滅は、一時的に赤点灯する場合があります。 *2 T-FHSS 受信機は赤点灯します。

T-FHSS / S-FHSS の場合 レスポンス / デジタル / アナログの設定方法

- 1 T-FHSS / S-FHSS の場合、**受信機設定**で**"デジタル(ハイスピード)"**または**"アナログ(ノーマル)"**をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンで変更します。変更すると表示が変わります。受信機の電源が入っている場合、必ず電源を入れなおしてください。





セットアップメニュー

MINI-Z EVO レシーバーユニット 82042 (RA-42) の場合のリンク方法

システムの設定方法

- 1 電源スイッチ(PWR)を入れます。ディスプレイ(DSP)側では、リンクはできません。ジョグキーを操作して受信設定画面を開きます。



- 2 受信機設定からジョグキーでシステムタイプのアイコンをジョグキーで選択して押します。システムタイプ選択画面が表示されますので、**MINI-Z EVO**をジョグキーで選択して押します。

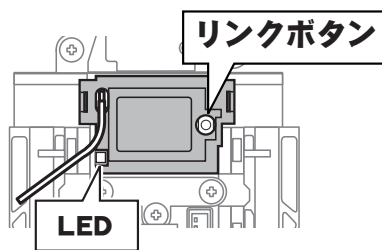




リンク方法

- 1 送信機と受信機（車体）を 50cm 以内に近づけます。
(※ アンテナ同士をできるだけ近接します。)
受信機 RA-42 の電源を ON します。
- 2 画面のリンクボタンをジョグキーで選択して押します。
送信機がリンクモードに入ります。

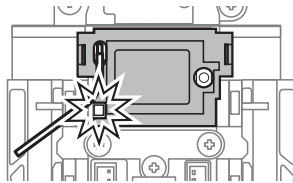
- 3 MINI-Z 受信機 RA-42 のリンクスイッチを 2 秒以上押した後、
放します。



- 4 受信機 の LED が 2 秒点灯し再度点滅したら、送信機のリンク画面の [閉じる] が選択された状態でジョグキーか END ボタンを押します。リンクモードから通常モードにもどります。

- 5 受信機 の LED が点灯したら、リンク成功です。

※リンク操作時、周囲で他の T-FHSS Mini-Z システムがリンク操作されている場合、それらの送信機の中の 1 台とリンクしてしまう場合があります。このため、リンク操作が完了したら、必ず動作を確認してください。



⚠ 警告

- ❶ ID 番号の読み込み操作を行うときは、必ずエンジンを停止させた状態（モーターの接続を外した状態）で行う。

不意に車（ボート）が暴走する危険があります。

- ❷ ID 番号の読み込み操作を行った後は、サーボの動作確認を必ず行ってください。

⚠ 注意

- ❶ 走行前に必ず受信機の電源を入れなおしてから、サーボの動作テストを行い、自分の送信機の ID 番号を読み込んでいることを確認してください。

サーキットなど、自分以外の Futaba 2.4GHz システムの電波が送信している場所で、ID 番号の読み込み操作を行うと別の送信機の ID 番号を読み込んで、受信機の LED が緑点灯に変わっている場合があります。この場合、自分の送信機でコントロールできません。



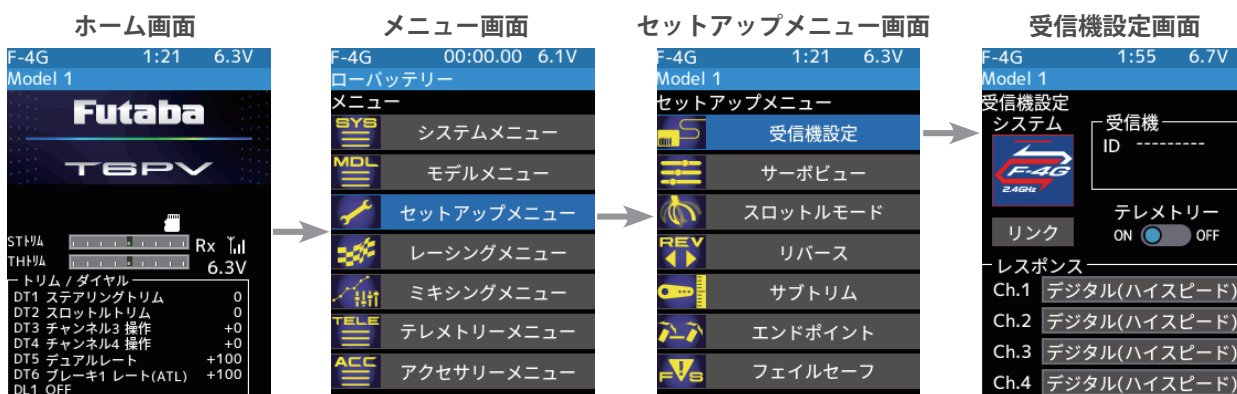


セットアップメニュー

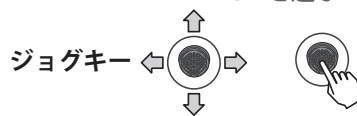
MINI-Z EVO2 レシーバーユニット 82044 (RA-51), 82046(RA-53) のリンク方法

システムの設定方法

- 1 電源スイッチ(PWR)を入れます。ディスプレイ(DSP)側では、リンクはできません。ジョグキーを操作して受信設定画面を開きます。



- 2 受信機設定からジョグキーでシステムタイプのアイコンをジョグキーで選択して押します。システムタイプ選択画面が表示されますので、MINI-Z EVO2 をジョグキーで選択して押します。



双方向対応レシーバーユニット 82046(RA-53) の場合

- 3 双方向(テレメトリー)を使用する場合[双方向]をジョグキーで選択し押します。確認画面が出現しますので「はい」が選択された状態でジョグキーを押すと双方向対応システムになります。





双方向対応レシーバーユニット 82046(RA-53) の場合

4 レスポンスが選択できます。

レスポンス スロー：テレメトリー対応です。
 レスポンス ファスト：テレメトリーは表示されません。
 REAL TIME ICS MiniZ の送信機からのパラメーター設定はどちらも対応します。

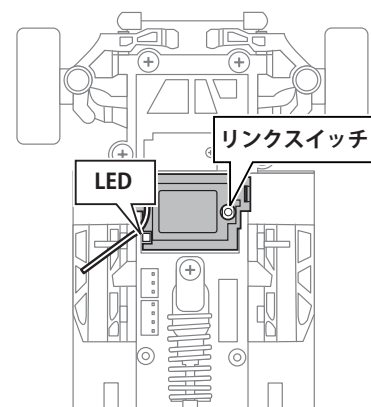


リンク方法

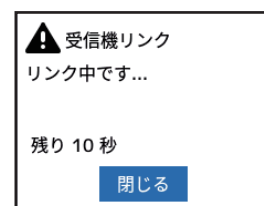
送信機 T6PV の電源が入った状態で、T6PV と RA-51 (車体) を 50cm 以内に近づけます。

(※ アンテナ同士をできるだけ近接します。)

1 MINI-Z 受信機の電源を ON します。

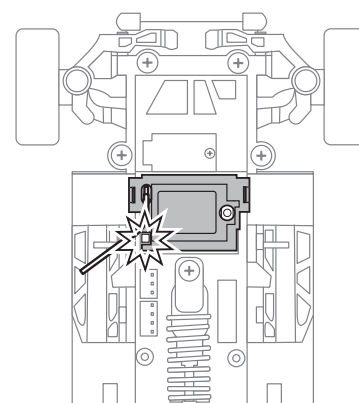


2 T6PV 受信機設定画面の【リンク】をジョグキーで選択して押します。T6PV がリンクモードに入り、メッセージが表示されます。



3 MINI-Z 受信機のリンクスイッチを 2 秒以上押した後、離し、LED が 2 秒点灯ののち、再度点滅したら、T6PV のリンクモードを解除し、通常モードにしてください。

4 MINI-Z 受信機の LED が点灯したら成功です。



※ 82042 と 82044 はリンク OK の表示が出ません。
 82046 は MINI-Z EVO/MINI-Z EVO2 リンク成功時に表示が出ます。また MiniZ-EVO2 双方向 ON 時は成功時 ID が表示されます。





セットアップメニュー

MINI-Z EVO は MR-03EVO シャシー対応の単方向プロトコルです。

対応車体

ミニッツレーサー MR-03EVO シャシーセット (W-MM/12000KV) 32790

ミニッツレーサー MR-03EVO シャシーセット (N-MM2/5600KV) 32791

対応受信機

FUTABA/FHSS レシーバーユニット (T7PX/T7XC 用) No82042

MINI-Z EVO 2 レシーバーユニット 双葉対応送信機用 82044

MINI-Z EVO2 レシーバーユニット V2 双葉対応送信機用 82046

MINI-Z EVO2 は MR-04EVO2 シャシー対応のプロトコルです。

ミニッツレーサー MR-04EVO2 シャシーセット (W-MM/8500KV) 32890

ミニッツレーサー MR-04EVO2 シャシーセット (W-MM/5600KV) 32891

ミニッツレーサー MR-04EVO2 シャシーセット (N-MM2/4100KV) 32892

MINI-Z EVO2 双方向 OFF は単方向プロトコルです。

MINI-Z EVO 2 レシーバーユニット 双葉対応送信機用 82044

MINI-Z EVO2 レシーバーユニット V2 双葉対応送信機用 82046

MINI-Z EVO2 双方向 ON は双方向プロトコルで 2 種類あります。

レスポンス スロー REAL TIME ICS MiniZ とテレメトリー対応

レスポンス ファスト REAL TIME ICS MiniZ 対応可

MINI-Z EVO2 レシーバーユニット V2 双葉対応送信機用 82046

	MR-03EVO	MR-04EVO2
82042	○ (MINI-Z EVO でリンク)	○ (MINI-Z EVO でリンク)
82044	○ (MINI-Z EVO でリンク)	○ (MINI-Z EVO or MINI-Z EVO2 双方向 OFF でリンク)
82046	○ (MINI-Z EVO でリンク)	○ (MINI-Z EVO or MINI-Z EVO2 双方向 OFF or MINI-Z EVO2 双方向 ON でリンク)

⚠警告

- ❶ ID 番号の読み込み操作を行うときは、必ずエンジンを停止させた状態（モーターの接続を外した状態）で行う。

不意に車（ボート）が暴走する危険があります。

- ❶ ID 番号の読み込み操作を行った後は、サーボの動作確認を必ず行ってください。

⚠注意

- ❶ 走行前に必ず受信機の電源を入れなおしてから、サーボの動作テストを行い、自分の送信機の ID 番号を読み込んでいることを確認してください。

サーキットなど、自分以外の Futaba 2.4GHz システムの電波が送信している場所で、ID 番号の読み込み操作を行うと別の送信機の ID 番号を読み込んで、受信機の LED が緑点灯に変わっている場合があります。この場合、自分の送信機でコントロールできません。





セットアップメニュー

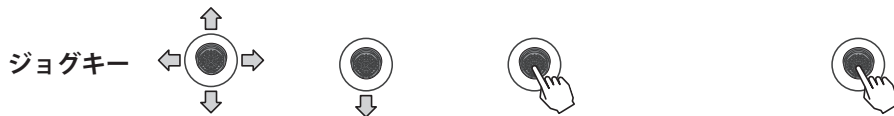
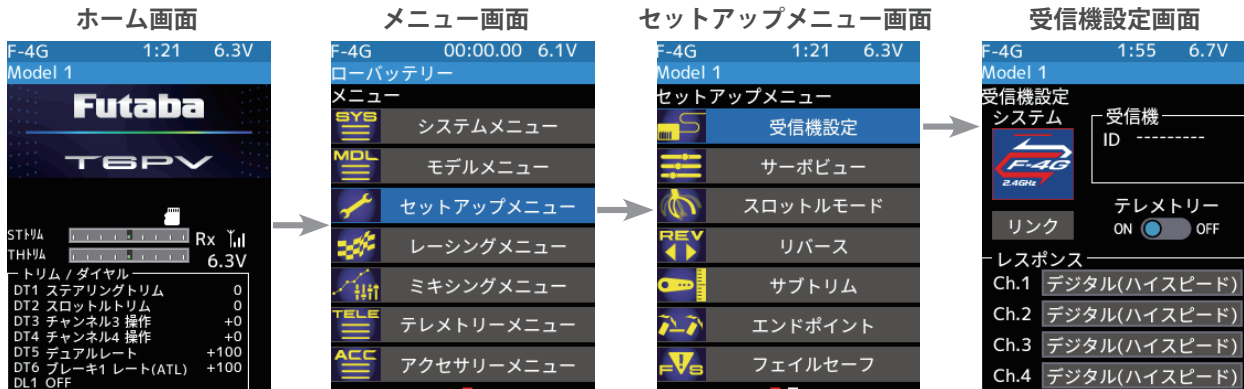
MINI-Z FS-RM005 モジュールの場合のリンク方法

※京商（株）より販売の MINI-Z FHSS 用 **FS-RM005 モジュール**が必要です。

システムの設定方法

T6PV の MINI-Z 用 FS-RM005 モジュールスロットに **FS-RM005 モジュール**を接続します。

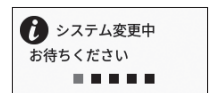
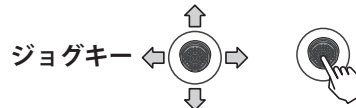
- 1 電源スイッチ (**PWR**) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。ジョグキーを操作して受信設定画面を開きます。



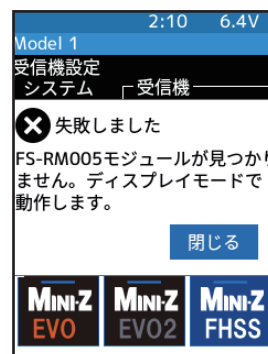
- 2 受信機設定からジョグキーでシステムタイプのアイコンをジョグキーで選択して押します。システムタイプ選択画面が表示されますので、**MINI-Z FHSS** をジョグキーで選択して押します。



MINI-Z FHSS を選ぶ



送信機に FS-RM005 モジュールが接続されていないとエラーメッセージが出ます。FS-RM005 モジュールを接続してください。





リンク方法

送信機 T6PV の電源が入った状態で、MINI-Z 受信機の 50 cm 以内に近づけます。

- 1 MINI-Z 受信機のリンクスイッチを押しながら電源を入れます。MINI-Z 受信機の LED が高速点滅することを確認し、リンクスイッチを離します。
- 2 T6PV の受信機設定画面の **[リンク]** をジョグキーで選択して押します。T6PV がリンクモードに入り、メッセージが表示されます。
- 3 MINI-Z 受信機の LED が点滅から**点灯**に変わったなら、リンク完了です。MINI-Z 受信機の LED が低速点滅に変わったことを確認し、**[閉じる]** が選択された状態でジョグキーか END ボタンを押します。



MINI-Z FHSS 受信機の機能設定方法

T6PV から、MINI-Z FHSS 受信機のステアリングフォース機能と、ジャイロ機能を設定することが出来ます。

- 1 (ステアリングフォースの調整)
[ステアリングフォース設定値] をジョグキーで選択すると、設定値が青く表示されます。**[+][-]** ボタンでステアリングフォースを調整します。



ステアリングフォース
0 ~ 100
初期値: 62

ジャイロゲイン
0 ~ 100
初期値: 62

調整

- [+][-] を押す
- [+][-] 同時押しでリセット

(ジャイロゲインの調整)

- 1 [ジャイロ (MINIZ FHSS) 設定値] をジョグキーで選択すると、設定値が青く表示されます。**[+][-]** ボタンでジャイロゲイン (感度) を調整します。



ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使ってステアリングフォースとジャイロゲインを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などでコントロールすることができます。





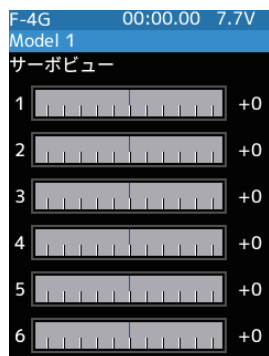
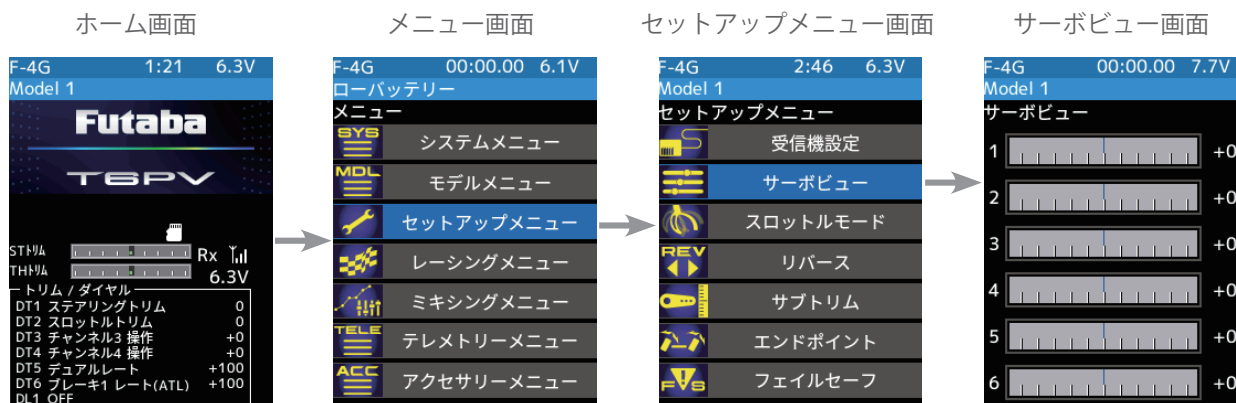
セットアップメニュー



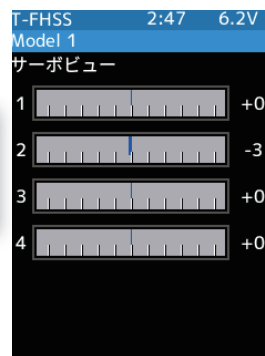
サーボビュー

全チャンネルのサーボ動作が確認できます。舵角調整やミキシング機能を設定したときなどに動作を確認できます。

サーボビューの画面は、次の方法で表示します。



システムが F-4G、S-FHSS (アナログ) の場合は、1ch ~ 6ch を表示します。



システムが T-FHSS、S-FHSS (デジタル) MINI-Z の場合は、1ch ~ 4ch を表示します。

サーボポジションの確認

- 1 ステアリングホイールやスロットルトリガーなど、各チャンネルを操作すると、グラフが移動してサーボ動作が確認できます
- 2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





セットアップメニュー



スロットルモード

●スロットルトリガーのニュートラル位置でブレーキをかける、ニュートラルブレーキが設定できます。ニュートラルブレーキ機能は、スイッチ設定機能でON/OFFスイッチを設定する必要があります。

* Futaba 製 ESC(モーターコントローラー) MC971CR, MC960CR, MC950CR, MC851C, MC602C, MC402CR などは安全上、電源を入れた時に瞬間的にモーターが回転するのを防ぐため、ニュートラル位置の確認がされないと動作しません。上記 ESC をご使用の場合は、ESC がニュートラル位置の確認後、動作可能になってからニュートラルブレーキ機能のスイッチを ON にしてください。

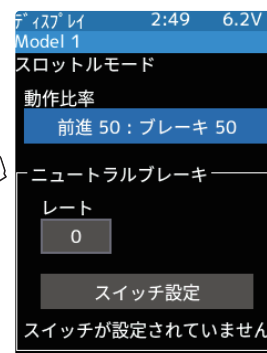
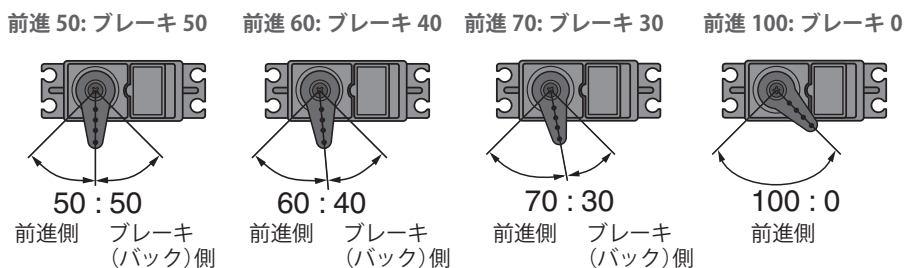
* モーターコントローラー側のニュートラルブレーキ機能と、T6PV のニュートラルブレーキ機能を同時に使用できますが、設定が解りにくくなりますので、どちらか片方の機能をご使用することをおすすめします。

●スロットルサーボのニュートラル位置を移動して、前進側とブレーキ(バック)側の動作比率を
 ◆前進 50: ブレーキ 50 ◆前進 60: ブレーキ 40 ◆前進 70: ブレーキ 30 ◆前進 100: ブレーキ 0 から選ぶことができます。

スロットルモードの画面は、次の方法で表示します。



動作比率



サーボニュートラルの選択方法

1 (スロットルモードの選択)

[動作比率] をジョグキーで選択して押し、モードリストのポップアップ画面を表示します。使用するモードをジョグキーで選択して押します。

2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。



[目次へもどる](#)

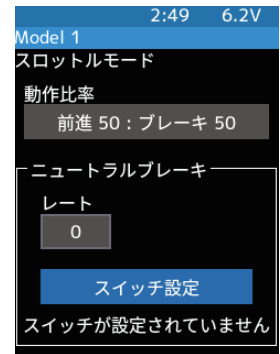


セットアップメニュー

画面上でニュートラルブレーキの調整をする場合

(準備)

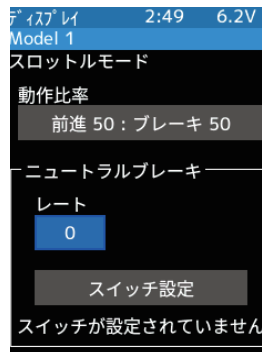
- ・スイッチ設定機能で、ニュートラルブレーキ機能の ON/OFF スイッチを設定します。設定されていない場合「**スイッチが割り当てられていません**」と表示されますので、**[スイッチ設定]**をジョグキーで選択して押し、スイッチ設定画面に移動してスイッチを設定します。



1 (ニュートラルブレーキ量の調整)

ニュートラルブレーキの **[レート]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][−]** ボタンを押しブレーキ量を調整します。

- ブレーキ量は0～100の範囲で調整が可能。



ニュートラルブレーキ量

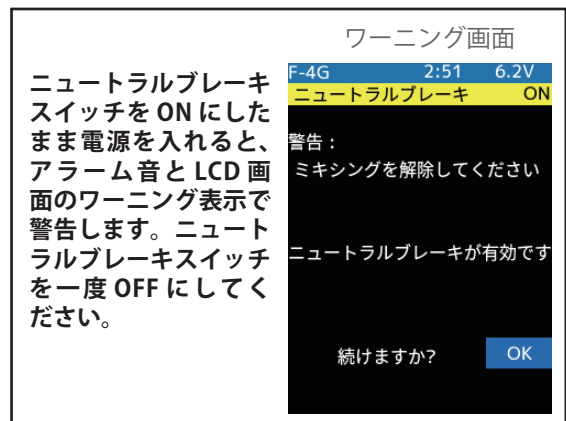
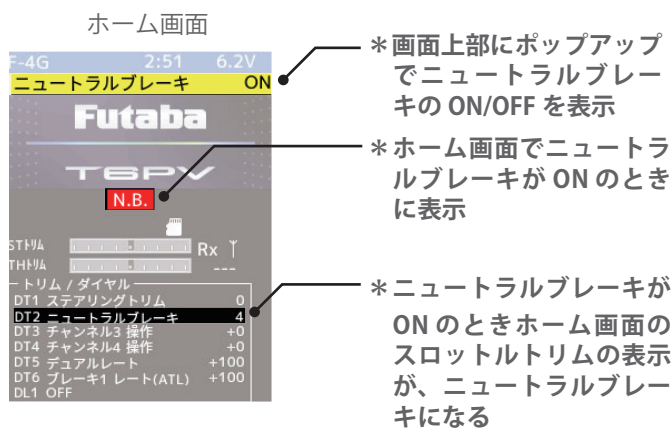
0～100

初期値：0

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

- 2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。



ニュートラルブレーキ量の調整

ブレーキ量の調整は画面上の他に、ニュートラルブレーキスイッチが ON の状態になると、自動的にスロットルトリムに設定されているデジタルトリムまたは、ダイヤルが、ニュートラルブレーキ量の調整用に切り替わります。動作方向はスロットルトリムと同様で、スロットルトリムのブレーキ側動作方向で、ニュートラルブレーキが強くなります。

その他の機能との関係

- スロットル ATL(ブレーキ最大)とスロットルエンドポイントのブレーキ1側のレート量は、ニュートラルブレーキ量に影響します。ニュートラルブレーキ量の設定後に、Ch.2 ブレーキレート (ATL) または、スロットルエンドポイントのブレーキ側のレート量を変更すると、ニュートラルブレーキの強さが変わりますので注意してください。
- アイドルアップまたはエンジンカット機能が優先されます。





セットアップメニュー



リバース

送信機のステアリング、スロットル、チャンネル3 / 4、その他の予備チャンネルの操作に対して、サーボやその他の機器が動作する方向を決める機能です。

トリムおよびサブトリムで位置をセンターから移動している場合、その移動した位置を中心に反対側になります。

サーボリバース画面は、次の方法で表示します。



リバース機能の設定方法

1 (チャンネルの設定)

設定するサーボのチャンネルをジョグキーで選択します。

2 (リバースの設定)

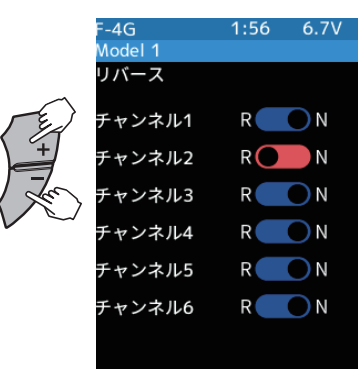
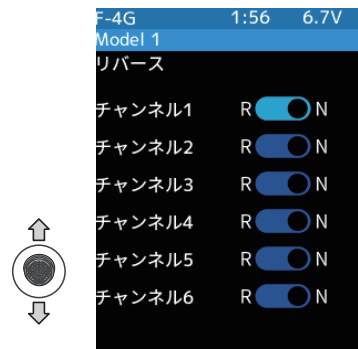
R(●) または (●)N を [+][-] ボタンで設定します。
表示 (●)N がノーマル方向 R(●) がリバース方向です。

- "(●)N" : ノーマル方向
- "R(●)" : リバース方向

3 終了する場合は、END ボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

設定

- チャンネルをジョグキーで選択。
 - [+][-]ボタンでR(●) / (●)N をジョグキーで選択。
- (N) ノーマル / (R) リバース



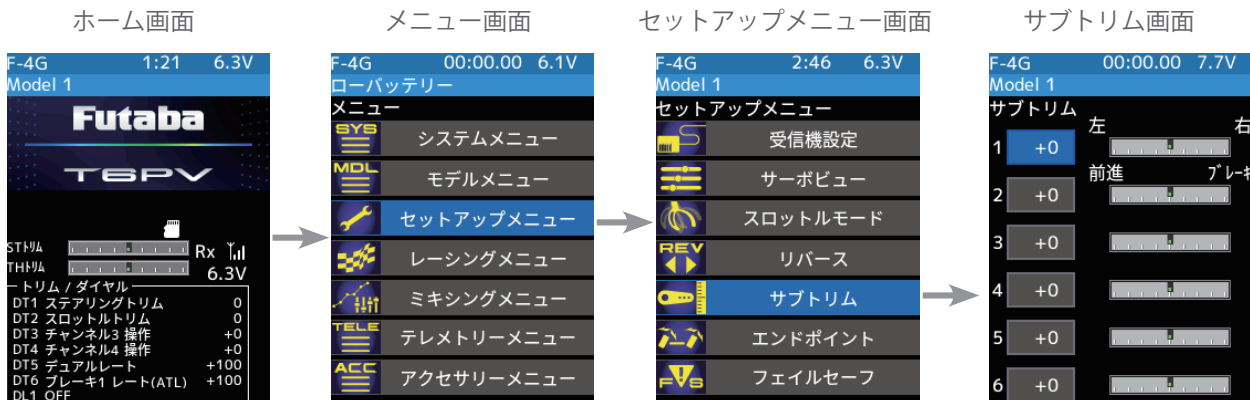


セットアップメニュー



サブトリム

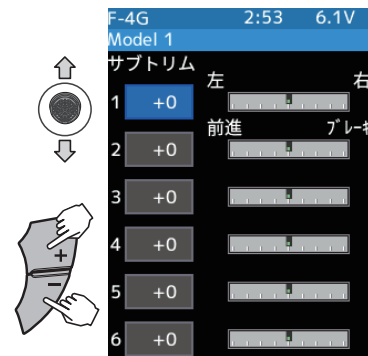
モデルの組み立てのとき、各サーボのサーボホーンと、部品をロッドで接続するリンケージで、基準となるサーボホーンのセンターの位置を微調整するときに使用します。サブトリム画面は、次の方法で表示します。



サブトリムの調整方法

(準備)

- モデルキットの説明書にしたがって、サーボホーンを取り付けてから次の調整をします。
- ステアリング、スロットルの各デジタルトリムをセンター"0"の位置に、Ch.3, Ch.4 やその他のチャンネルを使用している場合は、そのチャンネルもセンター"0"に設定しておきます。
- 設定するチャンネルの【レート】をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で【+】【-】ボタンを押し設定します。



1 (サブトリムの調整)

【+】【-】ボタンでセンター位置を調整します。

- サブトリム調整値【+】【-】ボタン 100 は実際の舵角の約 20% に相当。
- サブトリム調整値が大きくなる場合は、サーボホーンの取付角度や穴の位置を調整してやり直す。

(各チャンネルを同様に調整できます。)

調整

- 【+】か【-】を押す
- 【+】 【-】 同時押しでリセット

サブトリム調整範囲

+ 100 ~ -100

初期値：0

- 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





エンドポイント

リンケージのときに、ステアリング左右の舵角調整、スロットルのハイ側／ブレーキ側の動作量調整、およびチャンネル3 / 4 とその他の予備チャンネルのアップ側／ダウン側の動作量調整に使用する機能です。

- 車体の特性等で、左右の回転半径に差が出る場合は、ステアリング左右の各舵角量の調整をします。

最大舵角について

このエンドポイントで、各チャンネルの最大舵角が決定されますが、下に示す機能を調整した場合は、エンドポイントで設定された動作範囲を越える場合があります。これらの機能を調整した場合は、その都度リンケージに無理がないか確認してください。

- サブトリム（全チャンネル）
- プログラムミキシングのスレーブ側（全チャンネル）
- アイドルアップ（スロットル）
- エンジン・カット（スロットル）

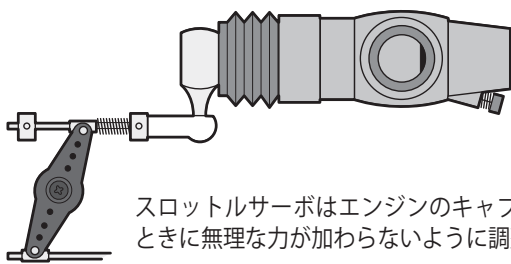
ATL 機能について

ATL 機能で走行中にブレーキ側の動作量が調整できます。そのため ATL を最大（100）にしたとき、ブレーキサーボに無理な力が加わらないように、スロットルエンドポイントで動作角度を調整してください。

警告

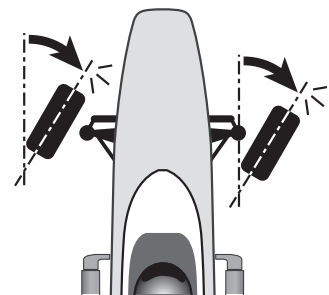
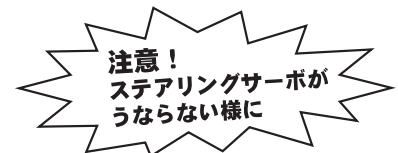
- ❶ ステアリング操作時、ナックルストッパーに当たったり、その他のチャンネル操作時にサーボに無理な力が加わらないように調整してください。

ステアリングやスロットルの操作時、サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損したり、電池の消耗が早くなって暴走の危険があります。



スロットルサーボはエンジンのキャブレターが全開、全閉とブレーキをいっばいにかけてときに無理な力が加わらないように調整する。

特にブレーキは、走行中にブレーキ本体が熱により効きが悪くなるため、ATL でブレーキ舵角を増やすケースがありますが、走行前に適正な最大舵角量をエンドポイントで調整し、走行中に ATL で舵角を増やしてもサーボに無理な力が加わらないようにする。



- ストッパーに触るところで最大動作量を決定

ステアリングサーボは、車体側の最大舵角で、サーボに無理な力が加わらないように調整する。





セットアップメニュー

エンドポイント画面は、次の方法で表示します。



ステアリングの舵角（エンドポイント）調整方法

（準備）

- ステアリングの舵角を調整する前に、ステアリング D/R レバー（初期設定は DT5）を最大舵角位置 100 に設定しておきます。
- 設定項目 **[ステアリング設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示されます。

調整範囲

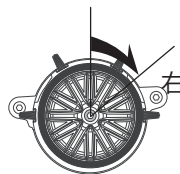
0 ~ 140（各方向）

初期値：100

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

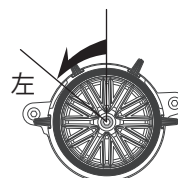
1 (ステアリング右側の調整)

ステアリングホイールを右側いっぱいに戻した状態にして、**[+][-]** ボタンを押して右側舵角を調整します。



2 (ステアリング左側の調整)

ステアリングホイールを左側いっぱいに戻した状態にして、**[+][-]** ボタンを押して舵角を調整します。



3 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

EPA トリム

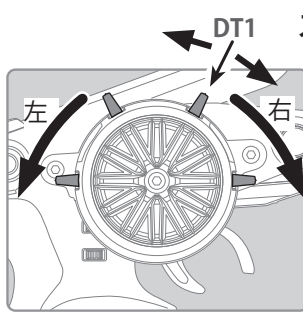
EPA トリムを ON にすると、ステアリングトリムを設定したデジタルトリムまたはダイヤルで、ステアリングの舵角調整（エンドポイント）ができます。（ステアリングトリムの初期設定は DT1）



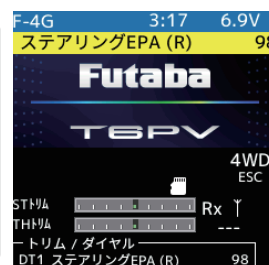
ステアリング左側の調整（ホーム画面）



ステアリングホイールを左側いっぱいに戻した状態で、ステアリングトリムを操作して舵角調整します。操作中はホーム画面の ST トリム表示の場所に表示されます。



ステアリング右側の調整（ホーム画面）



ステアリングホイールを右側いっぱいに戻した状態で、ステアリングトリムを操作して舵角調整します。操作中はホーム画面の ST トリム表示の場所に表示されます。





セットアップメニュー

スロットルの舵角（エンドポイント）調整方法

（準備）

- ・スロットルの舵角を調整する前に、スロットル ATL レバー（初期設定は DT6）を最大舵角位置 100 に設定しておきます。
- ・設定項目 **[スロットル前進設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示されます。

調整範囲

0 ~ 140（各方向）

初期値：100

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

1 (スロットル前進側の調整)

スロットルトリガーをハイ側いっぱいに引いた状態にして、**[+][-]**ボタンで前進側舵角を調整します。

ただし、ESC(モーターコントローラー)を使用するときには 100 に設定してください。



2 (スロットルブレーキ側/バック側の調整)

スロットルトリガーをブレーキ側いっぱいに押した状態にして、**[+][-]**ボタンでブレーキ側舵角を調整します。



- 3 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

スロットルモードを 100:0 に設定した場合、ブレーキ側の動作は停止していますので、スロットルのブレーキ側は調整できません。

予備チャンネルサーボの舵角（EPA）調整方法

（準備）

- ・舵角を調整するチャンネルと方向の設定値をジョグキーで選択して押します。

調整範囲

0 ~ 140（各方向）

初期値：100

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

1 **[+][-]**ボタンで舵角を調整します。

予備チャンネルの表示

予備チャンネルに、各ミキシングの機能を設定すると表示が変わります。

これは3チャンネル目にデュアル ESC ミキシング、4チャンネル目に4WS ミキシングを設定した例です。

デュアル ESC フロント ESC

4WS リアサーボ



- 2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





セットアップメニュー



フェイルセーフ機能

受信機が何らかの原因で、送信機の信号を受信できなくなった場合や、受信機のバッテリー電圧が低下した場合のサーボ動作位置の設定機能です。フェイルセーフ、ホールド、OFFの各モードは、送信機からの信号を再び受信できるようになった場合は、自動的に解除します。

●フェイルセーフ・モード

受信機が受信できなくなると、各チャンネルのサーボは事前に設定された位置に動作し、その位置を保持します。

* フェイルセーフのデータは、送信機の電源を入れた瞬間に送信機から送信され、その後 10 秒ごとにデータが送信されます。通常、先に送信機の電源を入れるため、受信機の電源を入れてから約 10 秒間データの転送がされていない場合がありますのでご注意ください。

* エンジンカーの場合、安全面からこのフェイルセーフ機能でスロットルチャンネルをブレーキがかかる方向に設定することをおすすめします。

●ホールド・モード

受信機が受信できなくなる直前の位置を保持するように働きます。

●オフ・モード (OFF)

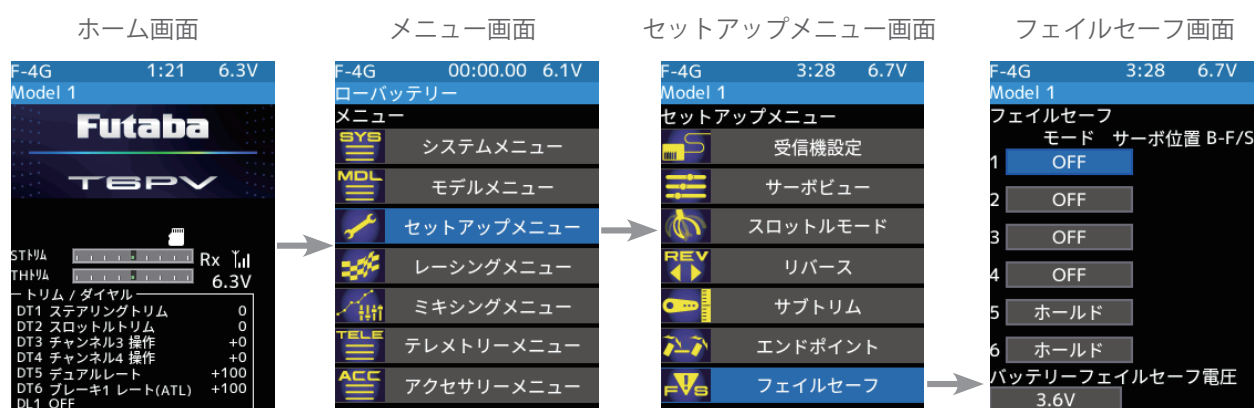
受信機が受信できなくなるとサーボへの信号出力を停止し、サーボはフリーの状態になります。

●バッテリーフェイルセーフ機能 (B-F/S)

この機能を有効にすると、受信機側のバッテリー電圧が一定電圧以下になった場合に、サーボが、フェイルセーフ機能で設定した位置に動作します。なお、電圧が回復するとバッテリーフェイルセーフ機能は自動的に解除されます。

* フェイルセーフに設定されていないチャンネルは使用できません。

フェイルセーフ画面は、次の方法で表示します。



フェイルセーフが設定されると、そのサーボポジションが表示されます。





セットアップメニュー

モードの設定方法

(準備)

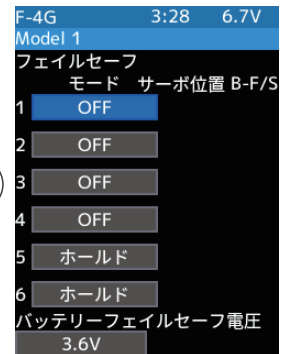
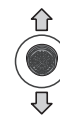
- ・フェイルセーフを設定するチャンネルの【モード】をジョグキーで選択して押します。

1 (モードの選択)

使用するモードを【+】【-】ボタンで選びます。

(各チャンネルを個別に設定します。)

- "OFF" : オフ・モード (F-4G 5CH 以降は設定できません。)
- "ホールド" : ホールド・モード
- "フェイルセーフ" : フェイルセーフ・モード



- 2 ホールド・モードまたはオフ・モードの設定で終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。フェイルセーフ・モードに設定した場合は、次の方法でサーボポジションを設定します。

フェイルセーフ機能 - サーボポジションの設定方法

1 (サーボポジションの設定)

設定するチャンネルの【サーボ位置の数値】をジョグキーで選択して押しステアリングホイール、スロットルトリガーなどを設定位置へ操作→保持し、ジョグキーを押します。画面にサーボポジションが数値で表示され、設定されます。(各チャンネルを同様に設定できます。)

- 2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。

F/S ポジション設定

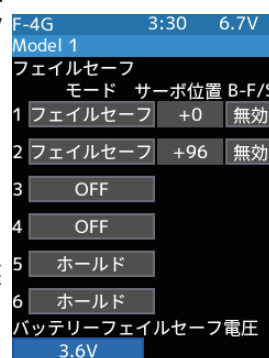
- ホイール/トリガーを保持したまま、サーボ位置のレートをジョグキーで選択。



バッテリーフェイルセーフ機能の ON/OFF

1 (バッテリーフェイルセーフ機能の ON/OFF)

各チャンネルの B-F/S(無効)をジョグキーで選択し、【+】【-】ボタンで(有効)に設定します。電圧設定は画面下のバッテリーフェイルセーフの【**V】をジョグキーで選択し【+】【-】ボタンで電圧を設定します。



※ F-4G の場合、バッテリーフェイルセーフ電圧はリンク時に受信機に設定されます。バッテリーフェイルセーフ電圧設定を変更した場合は、【受信機をリンクして下さい】とメッセージがでますので受信機を近付けて電源を入れ、画面の【リンク】をジョグキーで選択して押し受信機の SW を押し再度リンクしてください。

* 例：スロットルをフェイルセーフ (F/S) モードで、サーボポジションを設定。

バッテリーフェイルセーフ電圧

F-4G 3.5V~8.6V

T-FHSS

3.8, 4.0, 4.2, 4.4, 4.6, 4.8, 5.0, 5.3, 5.6, 5.9, 6.2, 6.5, 6.8, 7.1, 7.4(V)

S-FHSS 3.8V 固定

参考値：

- Ni-Cd /Ni-MH 4セル→ 3.8V
- Ni-Cd /Ni-MH 6セル→ 4.4V
- LiFe 2セル→ 4.8V
- Li-Po 2セル→ 5.6V

- 【+】か【-】を押す
- 【+】 【-】 同時押しでリセット

- 2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





セットアップメニュー

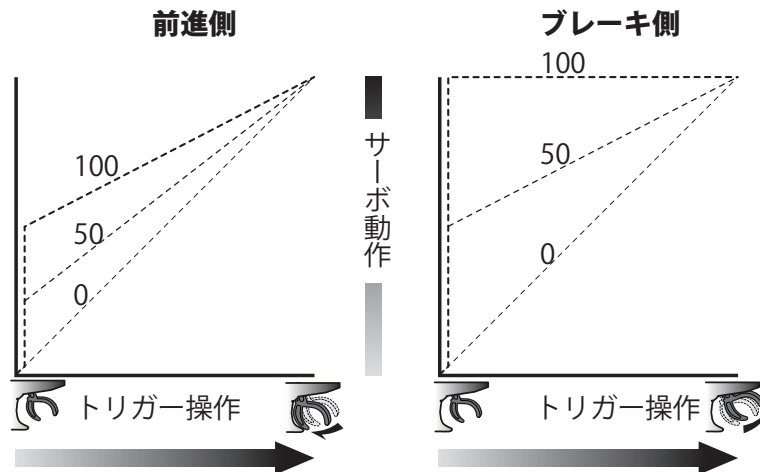


アクセレーション

スロットルの前進、ブレーキ側のニュートラル付近の立ち上がり特性を別々に調整できます。

動作

- スロットルトリガーのニュートラル付近の動作が急激な立ち上がりとなります。
- 前進側とブレーキ側を別々に設定できます。

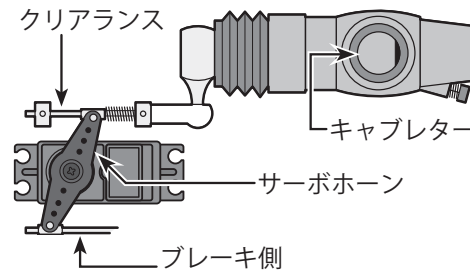


設定量について

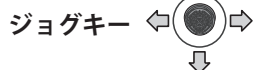
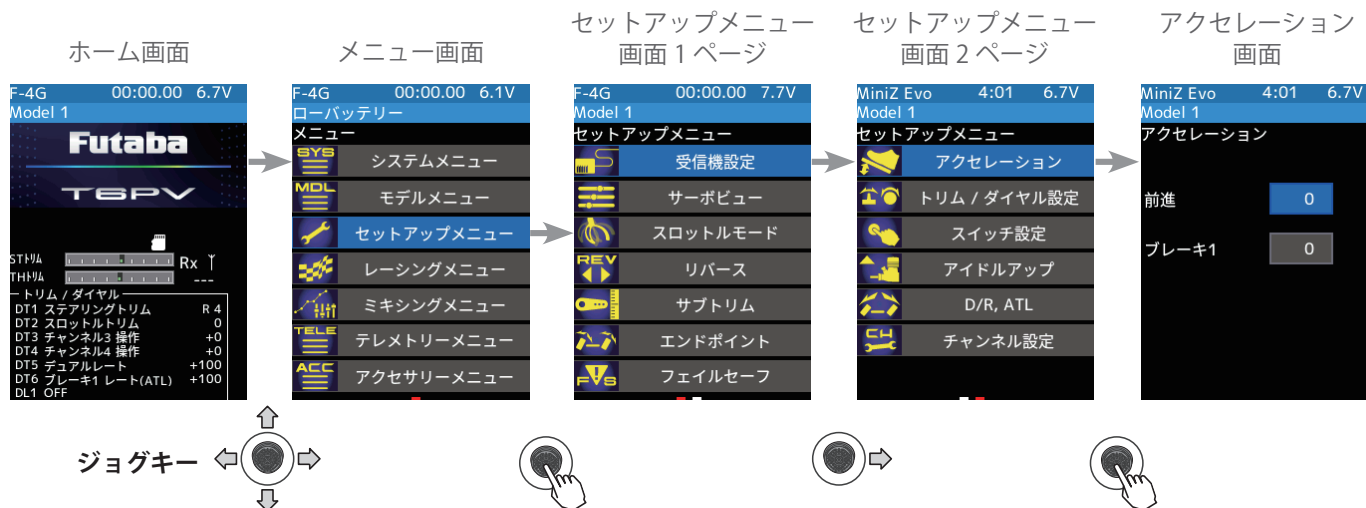
アクセレーションの最大値(100のポイント)は、スロットルのエンドポイント機能で設定された動作量に影響されます。

便利な使い方

エンジンカーの場合、1個のサーボでエンジンのキャブレターとブレーキを操作させるため、リンケージにクリアランス(遊び)が必要になります。そのため前進、ブレーキ側ともに若干のタイムラグが生じます。このタイムラグを送信機側で減らすことにより、電動カー並のするどいレスポンスになります。



アクセレーション画面は、次の方法で表示します。



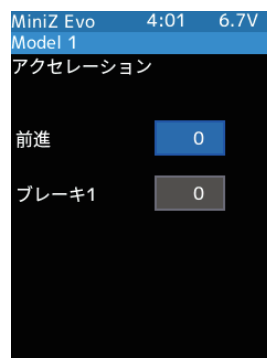


セットアップメニュー

スロットルアクセル調整方法

1 (前進側アクセル調整)

設定項目 **[前進設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押し設定します。



前進側調整量 (FWD)

0 ~ 100

初期値: 0

調整

● **[+]**か**[-]**を押す

● **[+]****[-]** 同時押しでリセット

"0" : アクセルなし

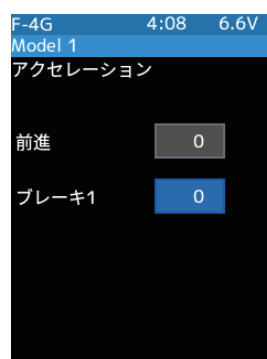
"100": アクセル最大

(前進側最大舵角の約半分)

2 (ブレーキ側アクセル調整)

設定項目 **[ブレーキ設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押し設定します。

ブレーキミキシング機能を使用すると、ブレーキ 2 側、ブレーキ 3 側またはブレーキ 2, 3 側両方のアクセル調整可能になります。



ブレーキ側調整量 (BRK)

0 ~ 100

初期値: 0

調整

● **[+]**か**[-]**を押す

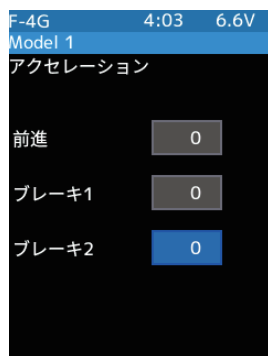
● **[+]****[-]** 同時押しでリセット

"0" : アクセルなし

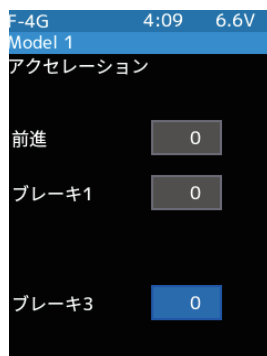
"100": アクセル最大

(ブレーキ側最大舵角)

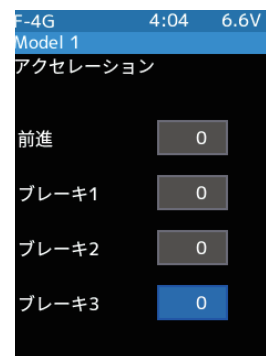
ブレーキ 2



ブレーキ 3



ブレーキ 2,3



3 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

注意

スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合、ブレーキ側機能は動作しません

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、前進側、ブレーキ 1 側、ブレーキ 2 側、ブレーキ 3 側の各アクセル調整が可能です。





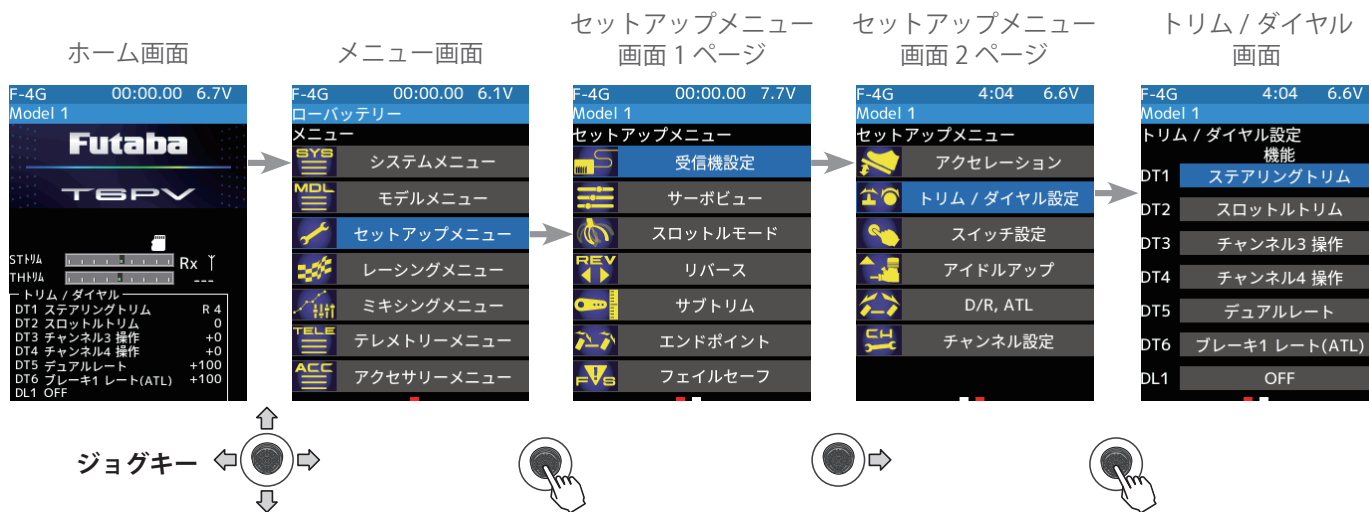
セットアップメニュー



トリム／ダイヤル設定

この機能で、デジタルトリム (DT1 ~ DT6) と、ダイヤル (DL1) で操作できる機能を設定できます。

- デジタルトリムとダイヤルに設定が可能な機能は、次々ページのリストに記載されています。
 - デジタルトリムとダイヤルの、1クリックで変化するステップ量と、動作方向（ノーマル／リバーズ）を設定することができます。（設定値とステップ量の関係は次ページの表に記載）
- トリム／ダイヤル設定画面は、次の方法で表示します。



トリム／ダイヤル操作の表示

トリム／ダイヤルを操作すると、画面上部に約 2 ~ 3 秒間割り付けた機能のレートを表示します。

例：ジャイロミキシングのゲイン調整を割り付けたトリム／ダイヤルを操作した場合。



ホーム画面の状態ではゲイン調整を操作すると、画面上部にポップアップでジャイロゲインを表示します。

トリム、ダイヤルの設定方法

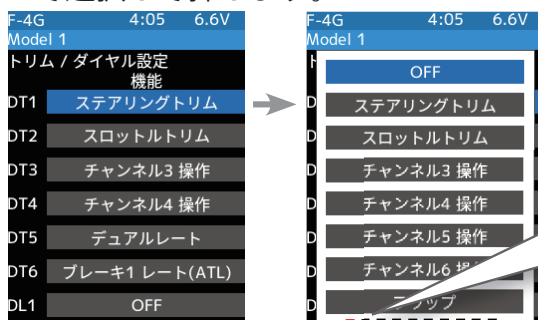
1 (設定トリム、ダイヤルの選択)

設定するトリムまたはダイヤルをジョグキーで選択して押します。

(DT1 / DT2 / DT3 / DT4 / DT5 / DT6 / DL1)

2 (機能を設定する)

機能リストのポップアップ画面を表示します。使用する機能をジョグキーで選択して押します。



機能の選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択。
- 各トリム／ダイヤルに割り付け可能な機能リスト参照

ジョグキーを左右に操作してページを移動



ページ数を表示





セットアップメニュー

(動作方向の設定)

方向の[ノーマル]または[リバース]をジョグキーで選択し[+][-]ボタンで方向を設定します。

F-4G		4:05	6.6V
Model 1			
トリム / ダイヤル設定			
	方向	ステップ	
DT1	ノーマル	2	
DT2	ノーマル	2	
DT3	ノーマル	2	
DT4	ノーマル	2	
DT5	ノーマル	2	
DT6	ノーマル	2	
DL1	ノーマル	2	

設定

- [ノーマル] / [リバース] をジョグキーで選択。
- [+]か[-]を押す
- ノーマル / リバース

(ステップ量の設定)

設定項目[ステップ設定値]をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+][-]ボタンを押しステップ量を調整します。

F-4G		4:05	6.6V
Model 1			
トリム / ダイヤル設定			
	方向	ステップ	
DT1	ノーマル	2	
DT2	ノーマル	2	
DT3	ノーマル	2	
DT4	ノーマル	2	
DT5	ノーマル	2	
DT6	ノーマル	2	
DL1	ノーマル	2	

調整

- [ステップ設定値] をジョグキーで選択。
- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

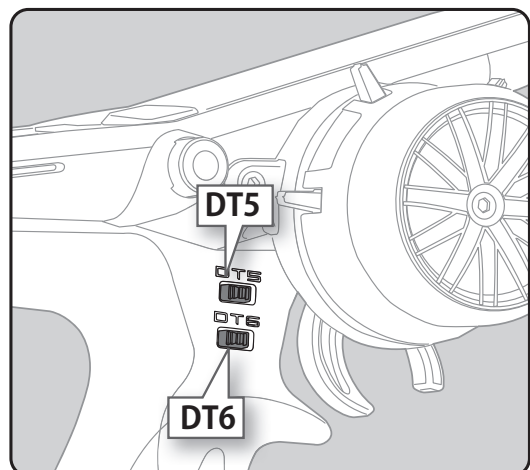
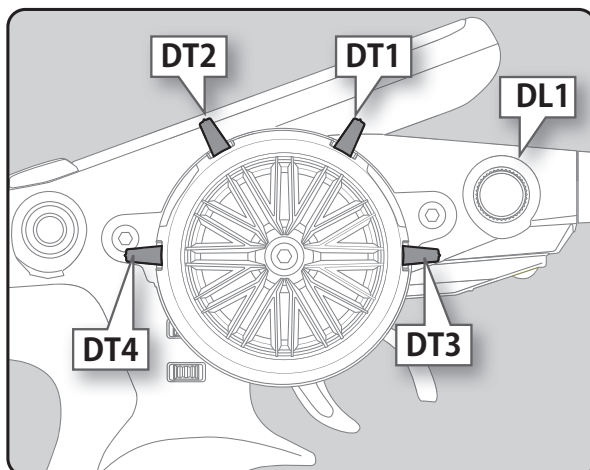
- 設定値とステップ量の関係は下の説明を参照してください。

3 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

設定値とステップ量の関係

(設定範囲 1 ~ 6, 20, 30, 40, 50, 100, 200)

- ステアリングトリム / スロットルトリムの場合最小"1"に設定した場合はトリムの全動作幅を 200 クリック、"100" は全動作幅を 2 クリック、200 は 1 クリックで動作します。
- レート等の設定の場合
それぞれのレートの設定値に対して、1 クリックで動作する % の値です。-100 ~ 0 ~ +100 のレートを持つ機能は全動作幅が 200% になりますので "100" に設定すると全動作幅を 2 クリック、0 ~ 100 レートの機能は全動作幅が 100% になりますので "100" と "200" は 1 クリックで動作します。
- Ch.3 / 4 の場合
最小"1"に設定した場合は Ch.3 / 4 の全動作幅を 200 クリック、"100" は全動作幅を 2 クリック、200 は 1 クリックで動作します。





セットアップメニュー

設定可能な機能／ダイヤル (DL1) , トリム (DT1 / DT2 / DT3 / DT4 / DT5 / DT6)	
機能名	機能など
ステアリングトリム	ステアリングトリム
スロットルトリム	スロットルトリム
チャンネル3～6操作	3～6チャンネル動作 (T-FHSSは3、4チャンネル)
デュアルレート	デュアルレート機能
サブトリム Ch.1～Ch.6	サブトリム (Ch.1～6)(T-FHSSはCh.1～4)
アクセレレーション(前進)	スロットルアクセレーション(前進側)
アクセレレーション(ブレーキ1)	スロットルアクセレーション(ブレーキ1側)
アクセレレーション(ブレーキ2)	スロットルアクセレーション(ブレーキ2側)
アクセレレーション(ブレーキ3)	スロットルアクセレーション(ブレーキ3側)
ステアリングカーブ	ステアリングカーブ(EXP)
スロットルカーブ	スロットルカーブ(前進側)
ステアリングスピード(ターン)	ステアリングスピード(ターン側)
ステアリングスピード(リターン)	ステアリングスピード(リターン側)
スロットルスピード(ターン)	スロットルスピード(ターン側)
スロットルスピード(リターン)	スロットルスピード(リターン側)
ABS(ブレーキ1戻り)	A.B.S機能ブレーキ1(戻り量)
ABS(ブレーキ1ディレイ)	A.B.S機能ブレーキ1(ディレイ)
ABS(ブレーキ1サイクル)	A.B.S機能ブレーキ1(ポンピングの速さ)
ABS(ブレーキ2戻り)	A.B.S機能ブレーキ2(戻り量)
ABS(ブレーキ2ディレイ)	A.B.S機能ブレーキ2(ディレイ)
ABS(ブレーキ2サイクル)	A.B.S機能ブレーキ2(ポンピングの速さ)
ABS(ブレーキ3戻り)	A.B.S機能ブレーキ3(戻り量)
ABS(ブレーキ3ディレイ)	A.B.S機能ブレーキ3(ディレイ)
ABS(ブレーキ3サイクル)	A.B.S機能ブレーキ3(ポンピングの速さ)
トラクションコントロール(戻り)	トラクションコントロール機能(戻り量)
トラクションコントロール(ディレイ)	トラクションコントロール機能(ディレイ)
トラクションコントロール(サイクル)	トラクションコントロール機能(ポンピングの速さ)
ブレーキ1レートATL	ブレーキ1レートATL機能
ブレーキEXP(ブレーキ1)	ブレーキミキシング(ブレーキ1EXP)
ブレーキディレイ(ブレーキ1)	ブレーキミキシング(Ch.2ブレーキディレイ)
ブレーキレート(ブレーキ2)	ブレーキミキシング(ブレーキ2レート)
ブレーキEXP(ブレーキ2)	ブレーキミキシング(ブレーキ2EXP)
ブレーキディレイ(ブレーキ2)	ブレーキミキシング(ブレーキ2ディレイ)
ブレーキレート(ブレーキ3)	ブレーキミキシング(ブレーキ3レート)
ブレーキEXP(ブレーキ3)	ブレーキミキシング(ブレーキ3EXP)
ブレーキディレイ(ブレーキ3)	ブレーキミキシング(ブレーキ3ディレイ)
ブレーキ2,3レート	ブレーキミキシング(ブレーキ2,3レート)
ウインチ	ウインチ操作
ウインチミキシング(THR→ウインチ)	ウインチミキシング(スロットル→ウインチ)レート
ウインチミキシング(ウインチ→THR)	ウインチミキシング(ウインチ→スロットル)レート
アイドルアップ	アイドルアップレート
プログラムミキシング(1～5)A	プログラムミキシング1～5レートA側
プログラムミキシング(1～5)B	プログラムミキシング1～5レートB側
4WSリア側動作量	4WSミキシング(リア側ステアリングレート)
デュアルESC	デュアルESCミキシング(駆動モード切り替え)
デュアルESC比率	デュアルESCミキシング(フロント&リアのレート比率)
ジャイロゲイン	ジャイロミキシングゲイン調整(感度調整)
アッカーマン	ステアリングミキシングアッカーマン調整
パワーレート	パワーレート
エンジンカット	エンジンカットスロットル位置
ジャイロデータ	ジャイロデータ1～5間の移動
ステアリングフィーリング	ステアリングのレスポンス設定
スロットルフィーリング	スロットルのレスポンス設定
OFF	未使用





セットアップメニュー

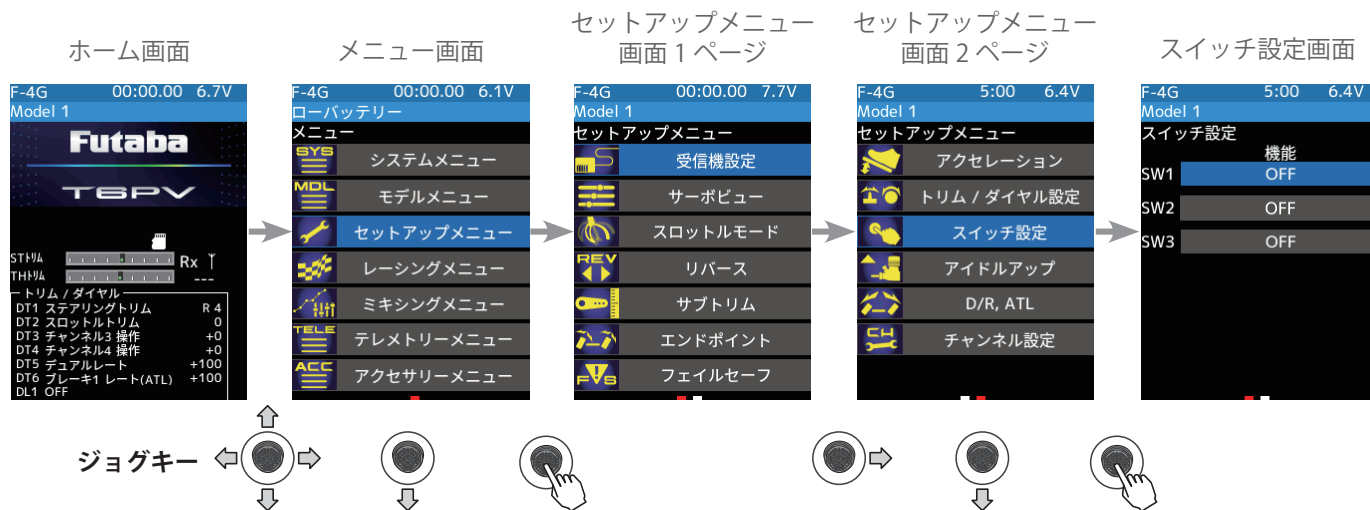


スイッチ設定

プッシュスイッチ SW1 ~ SW3 を操作する機能の選択および動作方式を設定します。

- SW3 は、DL1 と一体型のプッシュスイッチになっています。
- オルタネート動作 (押すたびに ON/OFF が切り替わる動作) にすることができます。
- ON/OFF 方向を反転することができます。(ノーマル / リバース) リバース設定した機能は常に ON の状態からスタートします。

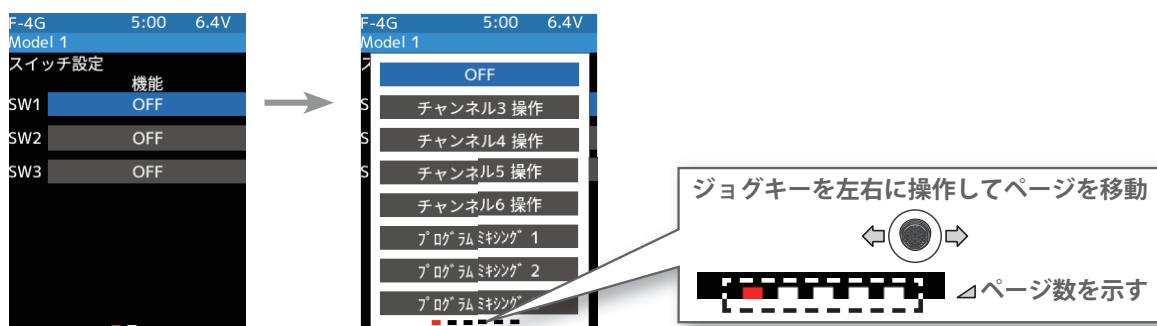
スイッチ設定画面は、次の方法で表示します。



スイッチの設定方法

1 (設定スイッチと機能の選択)

設定するスイッチをジョグキーで選択して押し、機能リストのポップアップ画面を表示します。使用する機能をジョグキーで選択して押します。キャンセルする場合は、**ENDボタン**を押します。



機能の選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択。
- 各スイッチに割り付け可能な機能リスト次々ページ





セットアップメニュー

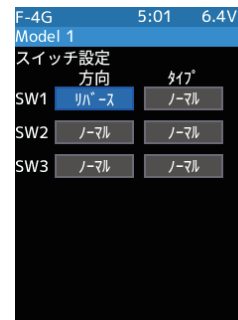
2 (動作方向を変更する場合)

ジョグキーを左右に操作して2ページ目にします。



ジョグキーを左右に操作してページを移動

設定するスイッチの方向 [ノーマル] また [リバース] をジョグキーで選択し [+] [-] ボタンで動作方向を設定します。



設定

- [ノーマル] / [リバース] をジョグキーで選択。
- [+]か[-]を押す
- ノーマル / リバース

3 (動作タイプを変更する場合)

タイプの [ノーマル] また [ALT.] をジョグキーで選択し、 [+] [-] ボタンで動作タイプを設定します。

"ノーマル": 押し続けている間だけ ON、離すと OFF

"ALT.": 押すたびに ON/OFF が切り替わる動作



設定

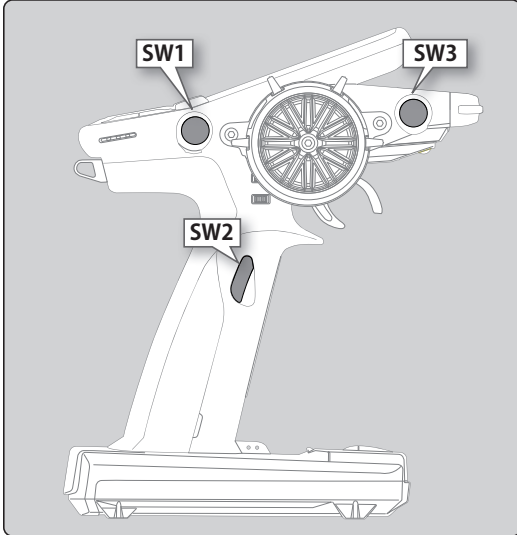
- [ノーマル] / [ALT.] をジョグキーで選択。
- [+]か[-]を押す
- ノーマル / オルタネート (ALT.)

4 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





セットアップメニュー



スイッチ SW1 ~ SW3 で設定可能な機能	
設定画面上の機能名	機能など
チャンネル 3,4,5,6 操作	3,4,5,6 チャンネル動作 (5,6 は F-4G,S-FHSS のみ使用可能)
プログラムミキシング 1~5	プログラムミキシング 1~5 機能の ON/OFF
A.B.S.(ブレーキ 1)	A.B.S 機能ブレーキ (Ch.2) の ON/OFF
A.B.S.(ブレーキ 2,3)	A.B.S 機能ブレーキ 2,3(Ch.3,Ch.4) の ON/OFF
トラクションコントロール	トラクションコントロール機能の ON/OFF
4WS タイプ切り替え	4WS 機能のタイプ切り替え
4WS タイプ 1 (フロント)	4WS 機能の各タイプ 1 (フロント) 指定
4WS タイプ 2 (逆位相)	4WS 機能のタイプ 2 (逆位相) 指定
4WS タイプ 3 (同位相)	4WS 機能のタイプ 3 (同位相) 指定
4WS タイプ 4 (リア)	4WS 機能のタイプ 4 (リア) 指定
デュアル ESC(リア)	デュアル ESC ミキシングのリア駆動モード ON
デュアル ESC(4WD)	デュアル ESC ミキシングの 4WD モード ON
デュアル ESC(フロント)	デュアル ESC ミキシングのフロント駆動モード ON
ジャイロミキシング	ジャイロミキシングの ON/OFF
ジャイロゲイン	ジャイロミキシングのゲイングループ内 1/2 または 3/4 の切り替え
ジャイログループ切替	ジャイロミキシングのゲイングループの切り替え
CPS ミキシング 1~3	CPS ミキシング 1~3 機能の ON/OFF
ブレーキ	ステアリングミキシングのブレーキ ON/OFF
スタート	スタート機能の待機 SW
エンジンカット	エンジンカット (エンジン停止)
アイドルアップ	アイドルアップ機能の ON/OFF
ニュートラルブレーキ	ニュートラルブレーキ機能の ON/OFF
タイマースタート	レーシングタイマーのスタート / ストップ
タイマーリセット	レーシングタイマー表示のリセット
テレメトリーログ	テレメトリーログ記録の ON/OFF
画面保存	現在表示している画面の画像を microSD カードに保存
バックライト	LCD バックライトの ON
パワーレート	パワーレート機能の ON/OFF
ジャイロデータ 1~5	ジャイロデータ 1~5 指定
トランスブレーキ	ブレーキ解除スイッチ

スイッチ ON/OFF の表示

スイッチを操作すると、画面上部に約 2 ~ 3 秒間割り付けた機能の ON/OFF の状態などを表示します。

例：ニュートラルブレーキを割り付けたスイッチを操作した場合。



ホーム画面の状態でのニュートラルブレーキスイッチを操作すると、画面上部にポップアップでニュートラルブレーキの ON/OFF を表示します。





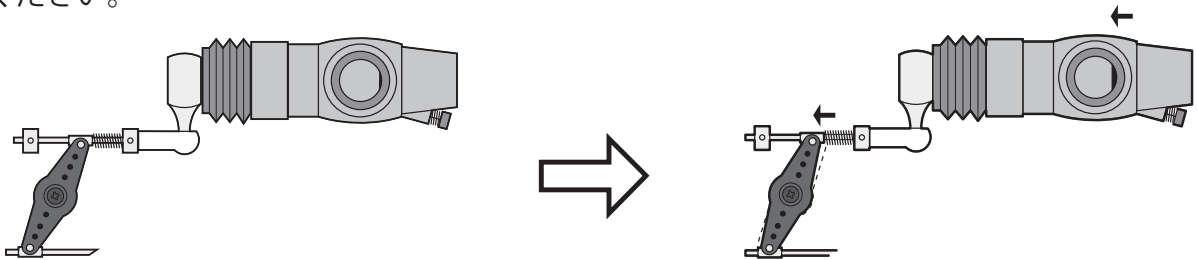
セットアップメニュー



アイドルアップ

この機能を使用するにはスイッチ設定機能でアイドルアップの ON/OFF スイッチを設定する必要があります。

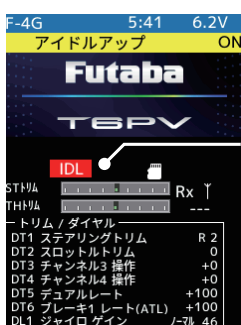
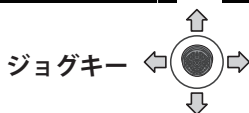
エンジンカー（ボート）のエンジンスタート時に、アイドルリングを上げておくことにより、エンジンの始動性を良くするために使用します。また、ギア比の設定や電動カーの使用モーターの影響で、走行中のパワーオフした時のブレーキ現象を防ぎたい場合にもこの機能が有効です。ただし、MC971CR, MC970CR, MC960CR, MC950CR, MC851C, MC602C, MC402CR などをご使用の場合は、ニュートラルブレーキ機能と同様に、ESC がニュートラル位置を認識して、動作可能になってからアイドルアップ機能のスイッチを ON にしてください。



動作

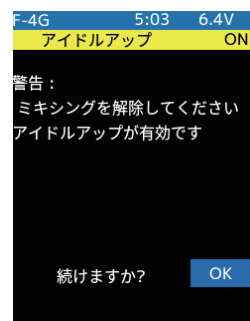
- スロットルのアイドルリング（ニュートラル）位置が前進側、またはブレーキ側にオフセットされます。この機能でニュートラルをオフセットしても最大動作角付近は変化しないので、リンクageのロック等はありません。

アイドルアップ画面は、次の方法で表示します。



- *画面上部に2～3秒間、ポップアップでアイドルアップのON/OFFを表示
- *ホーム画面でアイドルアップがONのときに表示

アイドルアップスイッチをONにしたまま電源を入れると、アラーム音とLCD画面のワーニング表示で警告します。アイドルアップスイッチを一度OFFにしてください。



ワーニング画面



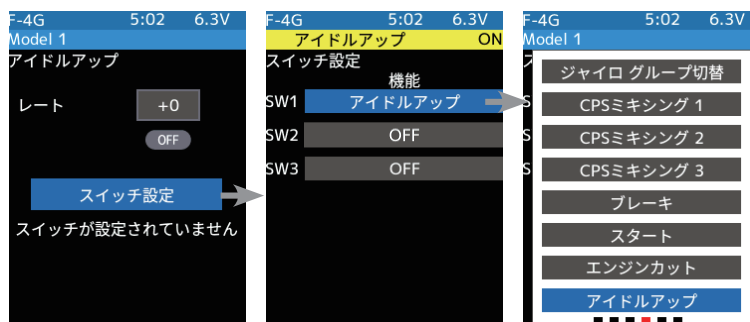


セットアップメニュー

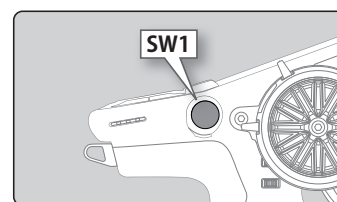
アイドルアップの調整方法

(準備)

- スイッチ 設定機能で、アイドルアップ機能の ON/OFF スイッチを設定します。設定されていない場合「**スイッチが割り当てられていません**」と表示されますので、**[スイッチ設定]**をジョグキーで選択して押し、スイッチ設定画面に移動してスイッチを設定します。



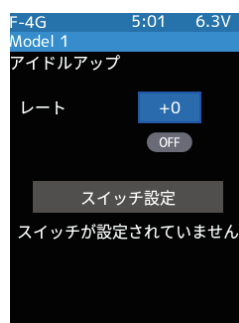
SW1 をアイドルアップスイッチ設定する例



1 (アイドルアップ量の調整)

設定項目 **[レート設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][−]** ボタンを押しブレーキ量を調整します。

- アイドルアップ量は -50 ~ +0 ~ 50 の範囲で調整が可能。



機能動作表示
ON/OFF

アイドルアップ量
-50 ~ +0 ~ 50
初期値：+0

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

- 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム／ダイヤル設定機能](#) (セットアップメニュー) で、アイドルアップ量の調整をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 に設定することができます。





セットアップメニュー



D/R, ATL

■ D/R デュアルレート

ステアリング全体の舵角が調整でき、送信機に D/R を設定したデジタルトリム（初期設定はグリップ部にある DT5）と連動しています。DT1 ～ DT6 をすべて他の機能に割り当てている場合、この画面で調整できます。

■ ATL

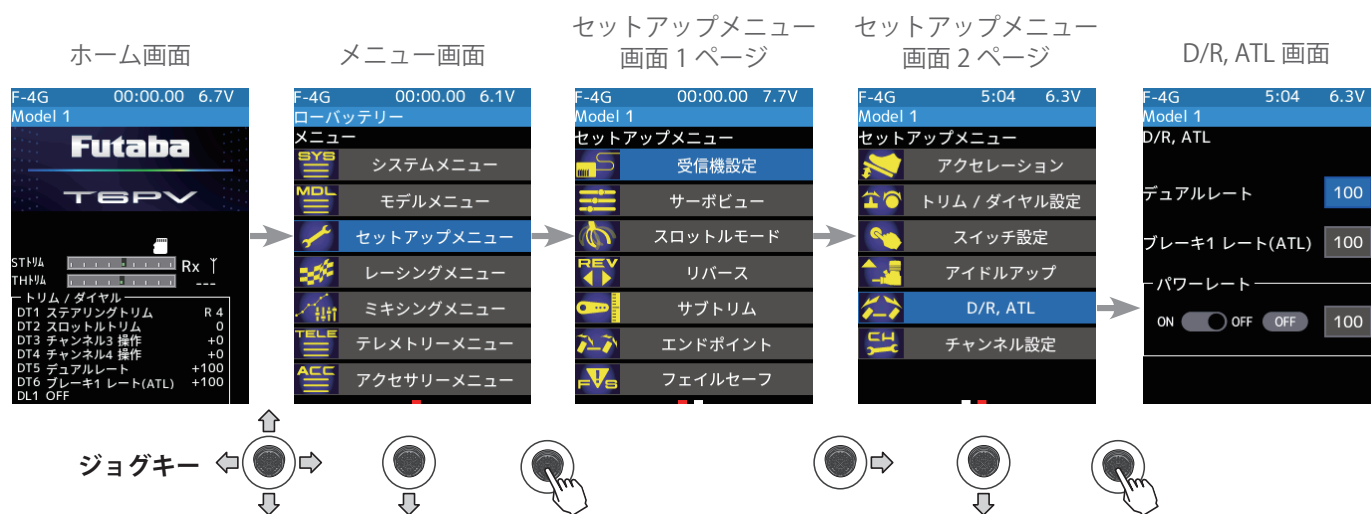
ブレーキの調整ができ、送信機に ATL を設定したデジタルトリム（初期設定はグリップ部にある DT6）と連動しています。DT1 ～ DT6 がすべて他の機能に割り当てている場合、この画面で調整できます。

■ パワーレート

スロットルトリガーをハイ側いっぱいにも引いても、フルスロットルにならないようにスロットルの動作量を調整することができます。

- スイッチ設定画面で [パワーレート] 機能を割り当てることで、機能の ON/OFF をスイッチで切り替えることができ、状況に応じてスロットルの動作量をフルスロットルに切り替えられます。
- トリム/ダイヤル設定 (セットアップメニュー) を使ってパワーレートを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ～ DT6 など調整することができます。

D/R ATL 画面は、次の方法で表示します。

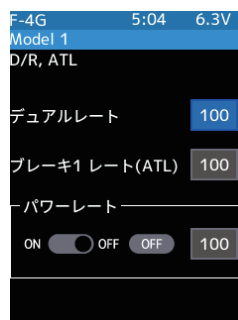


D/R の設定方法

1 (デュアルレートの設定)

設定項目 [デュアルレート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押してステアリングの全体の舵角を調整します。

2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。



D/R, ATL

0 ～ 100
初期値：100
調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット



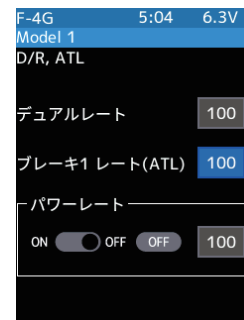


ATL の設定方法

1 (ATL の設定)

設定項目 **[ブレーキ1 レート(ATL)設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押しブレーキ量を調整します。

2 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。



パワーレートの調整方法

(準備)

- ・セットアップメニューまたはカスタムメニューから D/R, ATL 画面を開きます。

パワーレート

0 ~ 100

初期値: 100

調整

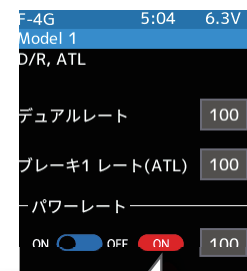
- **[+]か[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

1 (パワーレート ON/OFF の設定)

パワーレートの **ON(●)** または **(●)OFF** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。

"(●)OFF" : 機能 OFF

"ON(●)" : 機能が ON の状態



ON/OFF スイッチを設定した場合、パワーレート機能が働いている状態を ON/OFF で表示

2 (パワーレートの設定)

設定項目 **[パワーレート設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押しパワーレート機能動作時のスロットルの動作量を調整します。



3 終了する場合は、**END ボタン**を押してセットアップメニュー画面に戻ります。または **END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





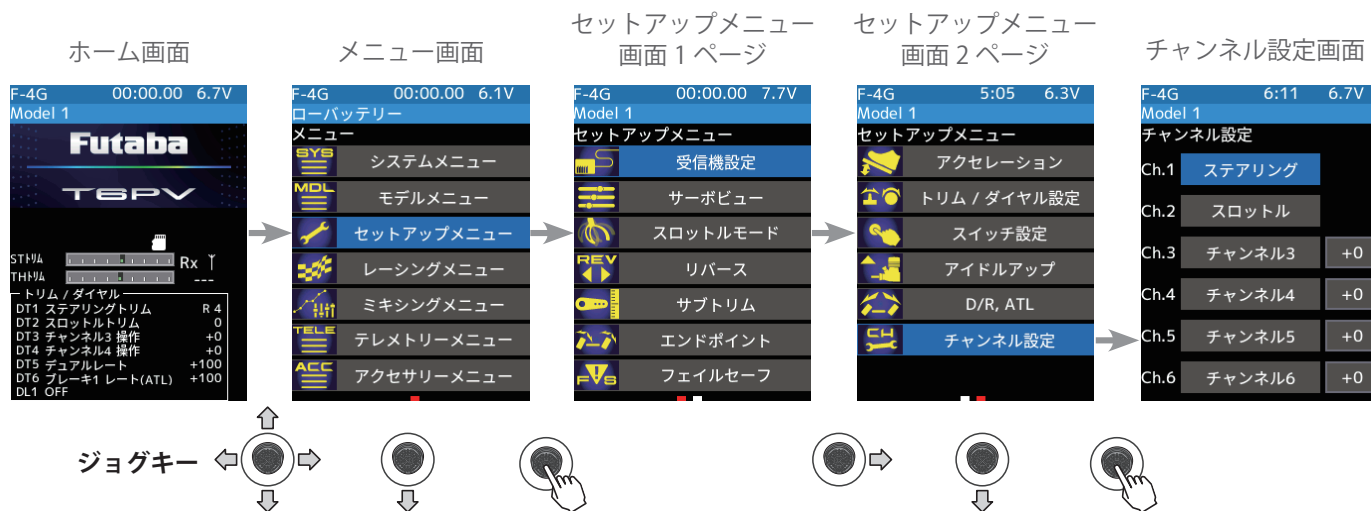
セットアップメニュー



チャンネル設定

任意のチャンネルに、ステアリングまたはスロットルを割り当てる機能です。別のチャンネルでステアリングやスロットルを使用したいときや、他のチャンネルをステアリングやスロットルと同じ動作をさせたいときに便利な機能です。

チャンネル設定画面は、次の方法で表示します。

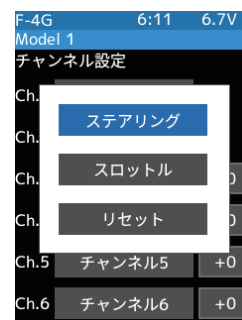
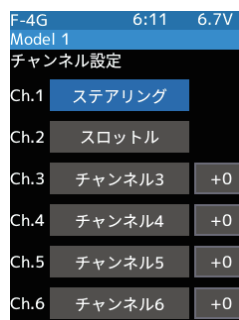


選択システムによりチャンネル数は異なります。

ステアリング／スロットルの設定方法

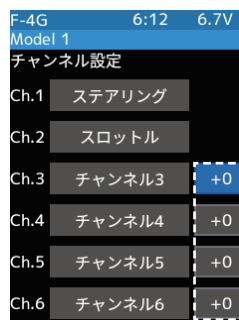
1 (チャンネル設定)

設定する【チャンネル】をジョグキーで選択、【ステアリング】【スロットル】のポップアップ画面が表示します。そのチャンネルに設定する【ステアリング】または、【スロットル】をジョグキーで選択して押します。



2 (予備チャンネルのポジション設定)

Ch.3 / 4などにスイッチ、トリム／ダイヤルなどが無い場合、ここでポジション設定ができます。調整するチャンネルの設定項目【ポジション設定値】をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で【+】【-】ボタンを押しポジションを設定します。



チャンネルの選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択。
- 【リセット】をジョグキーで選択で初期設定。

ポジションの設定

-100 ~ +0 ~ +100
初期値：+0

調整

- 【+】か【-】を押す
- 【+】 【-】 同時押しでリセット

3 終了する場合は、END ボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。



カーブ (EXP)

ステアリングカーブ

ステアリングホイール操作で、ニュートラル付近のサーボ動作をクイックにしたりマイルドにしたりする機能です。各レートを調整してもサーボの最大舵角には影響しません。EXP、VTRの2タイプが選べます。

ステアリングカーブ画面は、次の方法で表示します。

ホーム画面



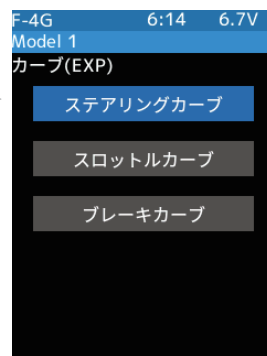
メニュー画面



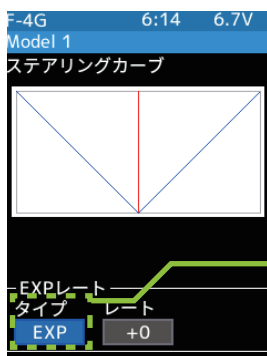
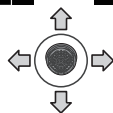
レーシングメニュー画面



カーブ (EXP) 画面

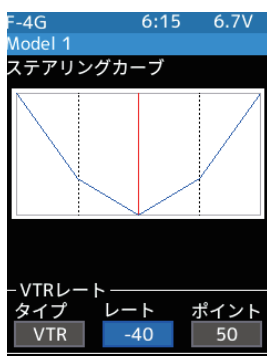
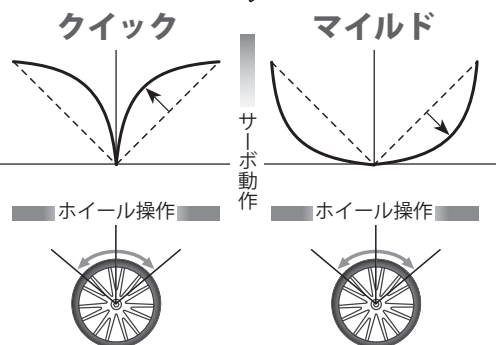


ジョグキー



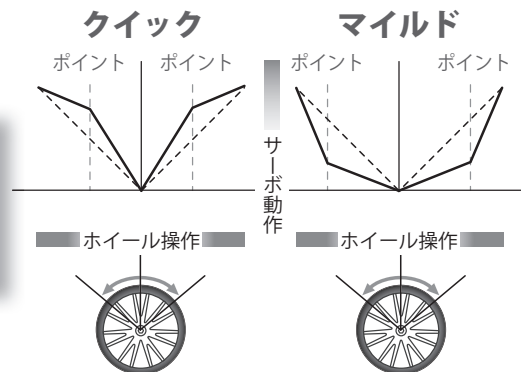
タイプをジョグキーで選択し[+][-]ボタンでEXP/VTRを切り替える。

ニュートラル付近で、ステアリングホイールを操作したときに、サーボの動作をクイックにしたりマイルドにしたりする機能です。サーボの最大舵角には影響しません。



● T6PVでは、ステアリングカーブの表示形式が前機種と異なり、左右対称の表示となります。

ニュートラルから最大舵角の間に、切り替わるポイントを設定し、2段階の直線的カーブで動作させるタイプ。サーボの最大舵角には影響しません。



ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム/ダイヤル設定 (セットアップメニュー) で、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ 6 などで、ステアリングカーブのレート調整ができます。



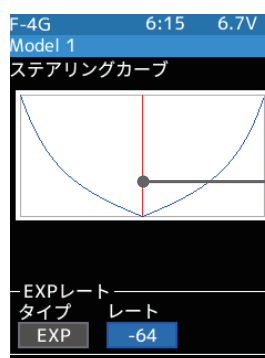


ステアリング EXP カーブの調整方法

(準備)

- ・ [タイプ] をジョグキーで選択し、[+][-] ボタンで [EXP] を選びます。

- 1 [レート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押して調整します。中立付近のサーボ動作をクイックにしたい場合は [+] 側に、マイルドにしたい場合は、[-] を押し - 側に調整します。



カーブレート調整
[レート] を選択して
● [+] か [-] を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット

調整範囲
-100 ~ +0 ~ +100
初期値: +0

* ステアリングホイールの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

- 2 終了する場合は、END ボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ステアリング VTR カーブの調整方法

(準備)

- ・ [タイプ] をジョグキーで選択し、[+][-] ボタンで [VTR] を選びます。

- 1 [レート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押して調整します。中立付近のサーボ動作をクイックにしたい場合は [+] 側に、マイルドにしたい場合は、[-] を押し - 側に調整します。



調整

- [+] か [-] を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

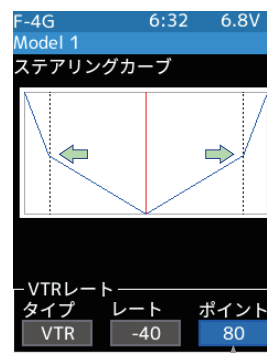
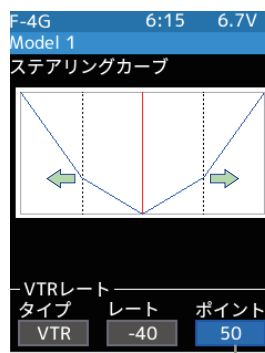
カーブレート調整範囲
-100 ~ +0 ~ +100
初期値: +0

ポイント調整範囲
1 ~ 99
初期値: 50

* ステアリングホイールの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

- 2 (カーブの切り替りポイントの調整)

カーブの切り替りポイントを変更したい場合は [ポイント設定値] をジョグキーで選択、[+][-] ボタンで、設定したいポイントに移動します。



- 3 終了する場合は、END ボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。





レーシングメニュー

スロットルカーブ（前進側）

スロットルトリガーの前進側の、サーボ動作をクイックにしたり、マイルドにしたりする機能です。サーボの最大動作量には影響しません。2種類のカーブタイプ(EXP/VTR)が選べます。

アドバイス

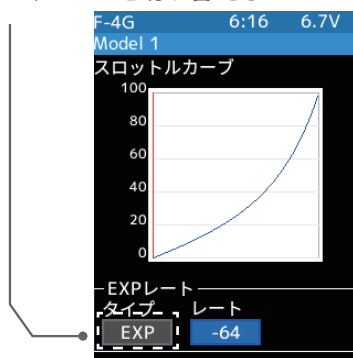
各カーブとも、コースコンディションが良くパワーユニットにトルク感がないときは+側(クイック側)とし、スリッピーな路面や、駆動輪がグリップしないときは-側(マイルド側)にします。

スロットルカーブ画面は、次の方法で表示します。

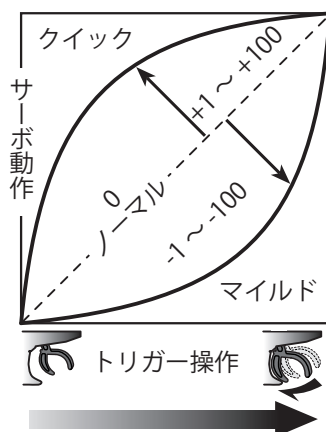


タイプをジョグキーで選択して押し

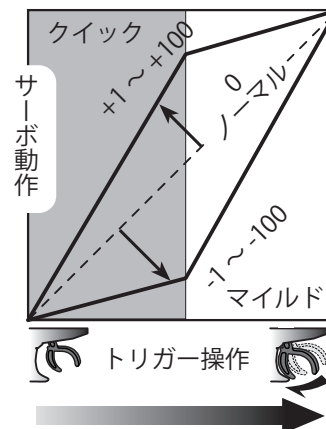
EXP / VTR を切り替える



EXP
スロットルのニュートラルからハイポイントまでを、曲線カーブで動作させるカーブタイプ。



VTR
スロットルのニュートラルとハイポイント間に切り替わるポイントを設定し、2段階の直線的カーブで動作させるタイプ。



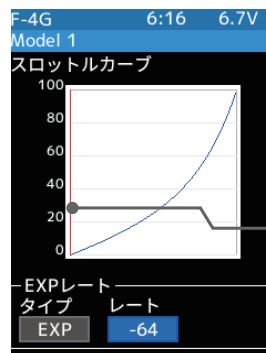


スロットル(前進側)EXP カーブの調整方法

(準備)

- ・ [タイプ] をジョグキーで選択し、[+][-] ボタンで [EXP] を選びます。

- 1 [レート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押して調整します。スロットル動作をクイックにしたい場合は [+] 側に、マイルドにしたい場合は、[-] を押し - 側に調整します。



カーブレート調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

調整範囲

-100 ~ +0 ~ +100
初期値: +0

*スロットルトリガーの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

- 2 終了する場合は、END ボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

スロットル(前進側)VTR カーブの調整方法

(準備)

- ・ [タイプ] をジョグキーで選択し、[+][-] ボタンで [VTR] を選びます。

- 1 [レート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押して調整します。スロットル動作をクイックにしたい場合は [+] 側に、マイルドにしたい場合は、[-] を押し - 側に調整します。



調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

カーブレート調整範囲

-100 ~ +0 ~ +100
初期値: +0

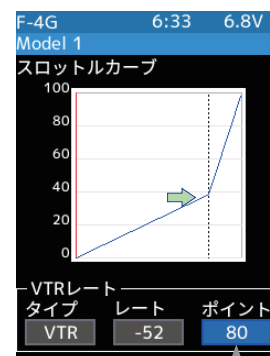
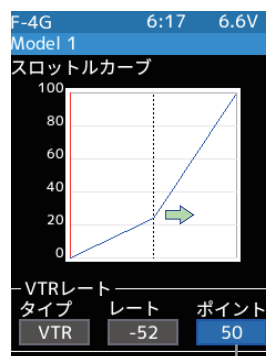
ポイント調整範囲

1 ~ 99
初期値: 50

*スロットルトリガーの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

2 (カーブの切り替わりポイントの調整)

カーブの切り替わりポイントを変更したい場合は [ポイント設定値] をジョグキーで選択、[+][-] ボタンで、設定したいポイントに移動します。



- 3 終了する場合は、END ボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム/ダイヤル設定(セットアップメニュー)を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、スロットル前進側 EXP/VTR のレート調整ができます。





レーシングメニュー

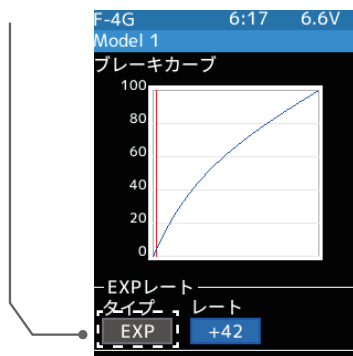
ブレーキカーブ

スロットルトリガーのブレーキ側の、サーボ動作をクイックにしたり、マイルドにしたりする機能です。サーボの最大動作量には影響しません。2種類のカーブタイプ (EXP/VTR) が選べます。ただし、スロットルモードを 100:0 に設定した場合、ブレーキ側機能は動作しません。各カーブの設定方法はスロットル(前進)側カーブと同じです。

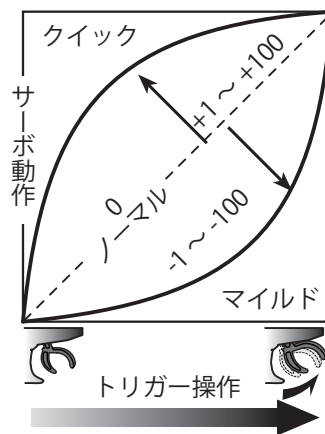
スロットルカーブ画面は、次の方法で表示します。



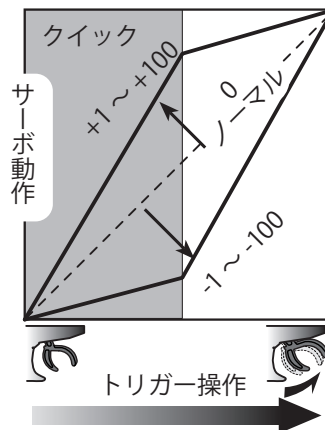
タイプをジョグキーで選択して押し EXP / VTR を切り替える



EXP
スロットルのニュートラルからフルブレーキまでを、曲線カーブで動作させるカーブタイプ。



VTR
スロットルのニュートラルとフルブレーキ間に切り替わるポイントを設定し、2段階の直線的カーブで動作させるタイプ。



ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

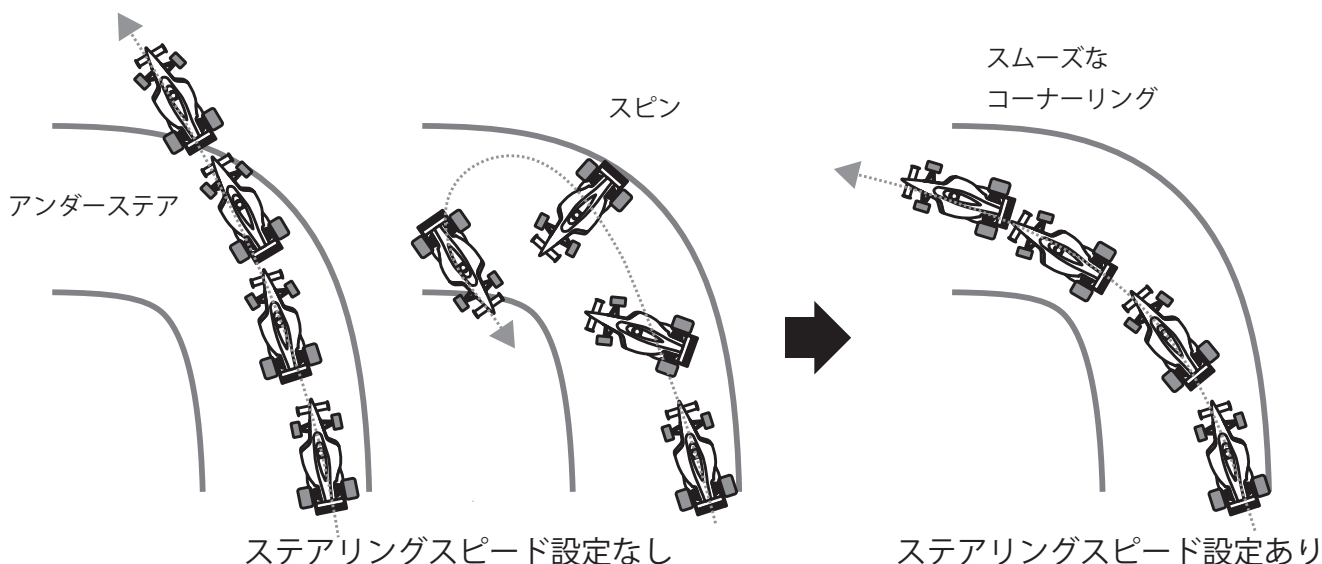
トリム/ダイヤル設定 (セットアップメニュー) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、ブレーキ側 EXP/VTR のレート調整ができます。



スピード

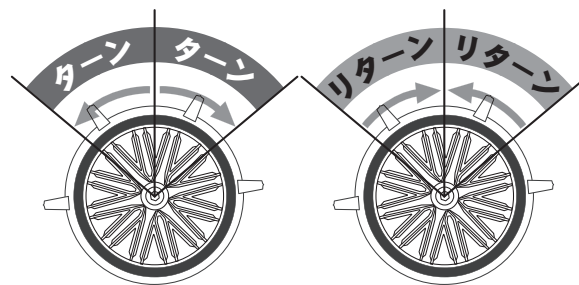
ステアリングスピード

すばやいステアリング操作をした場合、一瞬アンダーステアや失速またはスピンしてしまうことがあります。ステアリングスピード機能を使用することで、スムーズなコーナリングができます。

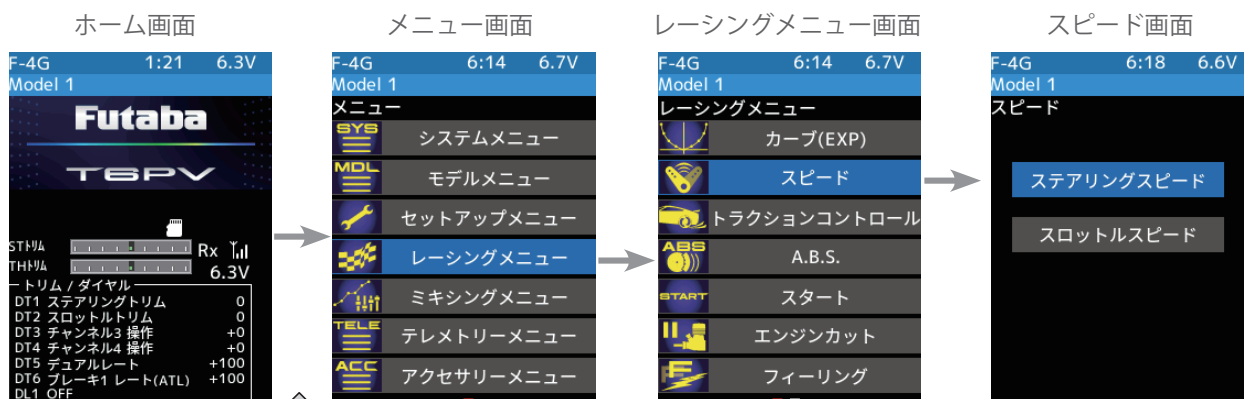


動作

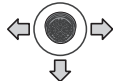
- ステアリングサーボの最高スピードを抑えるように働きます。(ディレイ機能)
- ステアリングホイールを操作するとき (ターン方向) と、戻すとき (リターン方向) のスピードを別々に設定できます。
- 設定されたスピードより遅いステアリング操作の場合は、ステアリング・サーボの動きには影響しません。



スピード画面は、次の方法で表示します。



ジョグキー

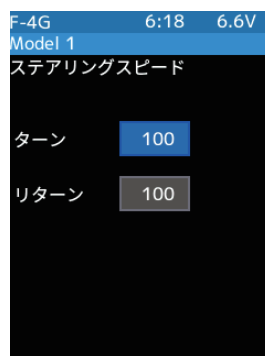
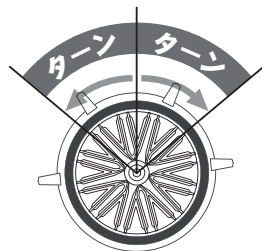




ステアリングスピードの調整方法

1 (ターン方向のディレイ量の調整)

[ターン設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+][-] ボタンを押してディレイ量を調整します。



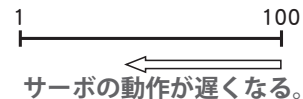
ターン : 操作時のスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値 : 100

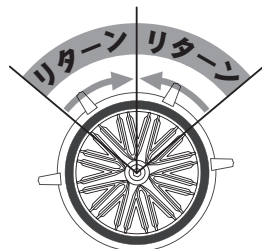


調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

2 (リターン方向のディレイ量の調整)

[リターン設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+][-] ボタンを押してディレイ量を調整します。



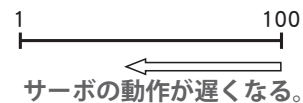
リターン : 戻りのスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値 : 100



調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

3 終了する場合は、END ボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、ステアリングのターンとリターンのディレイ量の調整ができます。

(設定目安)

- オンロードの場合 ターン ; 約 50 ~ 80 リターン ; 約 60 ~ 100
- オフロードの場合 ターン ; 約 70 ~ 100 リターン ; 約 80 ~ 100





スロットルスピード

スリッピーな路面での急激なトリガー操作は、無駄なホイールスピンを起こし、スムーズな加速ができません。スロットルスピード機能を使用することで、スムーズに操縦でき、同時に無駄なバッテリーの消耗を防げます。



SPEED あり/スムーズで速いスタートが可能



SPEED なし/タイヤがスリップして前に出ない

動作

- 急激なスロットル操作に対して、スロットルサーボ(モーターコントローラー)にディレイ(遅れ)を持たせます。トリガーを操作するとき(ターン方向)と、戻すとき(リターン方向)のスピードを別々に設定できます。設定されたスピードより遅いスロットル操作や、ブレーキ操作時には、このディレイ機能は働きません。

スロットルカーブ画面は、次の方法で表示します。

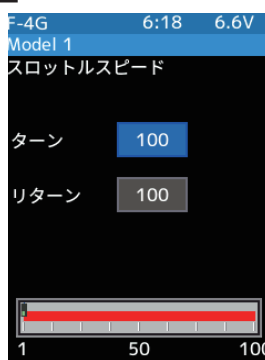




1 スピードの調整方法

1 (ターン方向のディレイ量の調整)

[**ターン設定値**] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+]**/**[-]** ボタンを押してディレイ量を調整します。



ターン : 操作時のスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値 : 全範囲 100



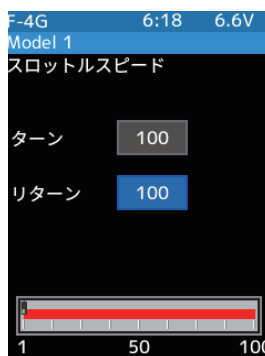
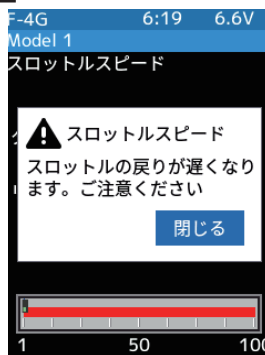
サーボの動作が遅くなる。

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+]** **[-]** 同時押しでリセット

2 (リターン方向のディレイ量の調整)

[**リターン設定値**] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+]**/**[-]** ボタンを押してディレイ量を調整します。この設定を行うとスロットルの戻りが遅くなり車の停止が遅くなります。確認画面が表示されますのであえて設定する場合のみジョグキーを押してください。キャンセルする場合は **END** キーを押してください。



リターン : 戻りのスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値 : 全範囲 100



サーボの動作が遅くなる。

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+]** **[-]** 同時押しでリセット

3 終了する場合は、**END** ボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、**END** ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、スロットルのターンとリターンのディレイ量の調整ができます。

⚠ 注意

- ❶ リターン側のスピード機能を設定すると、車体の減速が遅くなりますので、十分に注意して設定してください。





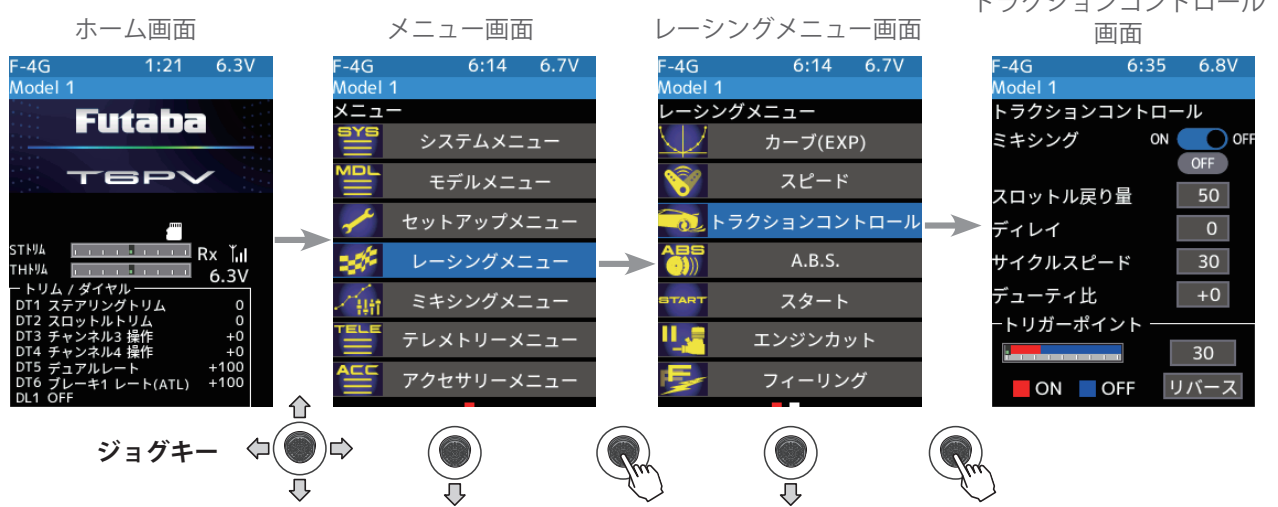
トラクションコントロール

スリッピーな路面でのコーナーリングでのトリガー操作は、トラクションが掛かりにくく、スムーズなコーナーリングができません。スロットルの動作を間欠動作させることで、スムーズに操縦でき、理想的なラインを走行できます。また、ドリフトカーでは、ハイポイント方向でモーターを間欠動作させることで、擬似的なレブリミッター音を再現できます。

動作

- スロットル操作時、スロットルサーボを断続的に前進方向へ動作させます。
- スロー側への戻り量、ディレイ量、ポンピングの速さ、動作ポイント、ポンピングのデューティー比を設定できます。
- ニュートラル付近のスロー側での動作と、ハイポイント側での動作を選べます。

トラクションコントロール画面は、次の方法で表示します。



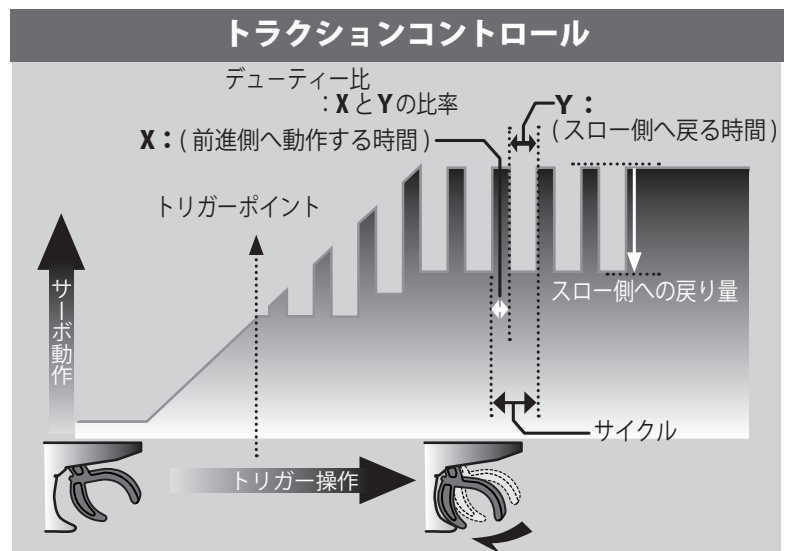
* ホーム画面のトラクションコントロールの ON/OFF 表示

● ON/OFF

トラクションコントロール機能の ON/OFF 設定、トラクションコントロール機能を使用する場合は "ON" に設定します。

● スロットル戻り量

トリガー操作に対してサーボがスロー側へ戻る比率を設定します。0% に設定するとトラクションコントロール機能は働きません。50% でトリガー操作量の 50% (半分)、100% でニュートラル位置まで戻ります。





●ディレイ

スロットル操作してから、トラクションコントロール動作が働くまでのディレイ(遅れ)を設定します。0%に設定すると遅れなしでトラクションコントロール機能が働きます。50%で約0.5秒遅れてトラクションコントロール機能が働き、100%で約1.0秒遅れてトラクションコントロール機能が働きます。

●サイクルスピード

ポンピングの速さ(サイクル)を設定します。設定数値が小さいほどポンピングサイクルが速くなります。

●デューティ比

ポンピング動作でハイ側へ動作する時間と、スロー側へ動作する時間の比率を設定します。比率は+4 ~ +0 ~ -4の9段階の設定ができます。

●トリガーポイント

スロットル操作で、トラクションコントロールが働き始めるトリガーの位置を設定します。ノーマル/リバースで、トラクションコントロールが動作するスロットル操作範囲を、トリガーポイントを境に逆転します。

トラクションコントロール機能の調整方法

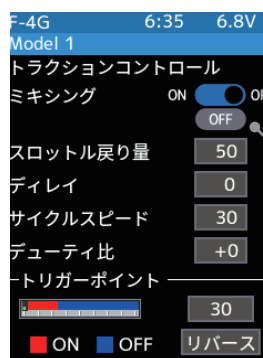
1 (トラクションコントロール機能のON/OFF)

ON(●) または **(●)OFF** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。

スイッチでON/OFFする場合は、セットアップメニュー→スイッチ 設定機能でスイッチを設定します。

"(●)OFF" : 機能 OFF
"ON(●)" : 機能がONの状態

●スイッチが設定されている場合、スイッチOFFで機能が動作しない状態でもONと表示します。



設定

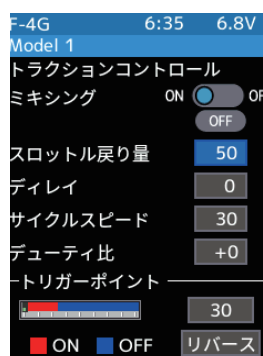
●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。

*実際にスロットルトリガーの操作でトラクションコントロールが働いている状態をON/OFFで表示

2 (スロットル戻り量の調整)

[スロットル戻り量設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押して戻り量を調整します。

"1": 戻りなし。
"50": スロットル操作量の50%の位置まで戻る。
"100": ニュートラル位置まで戻る。



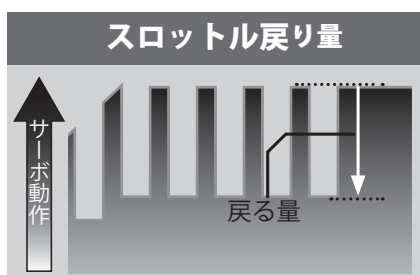
スロットルの戻り量

0 ~ 50 ~ 100
初期値: 50

*スロットルの戻り量は、スロットルカーブの設定値により変化します。

調整

● [+][-] を押す
● [+][-] 同時押しでセット

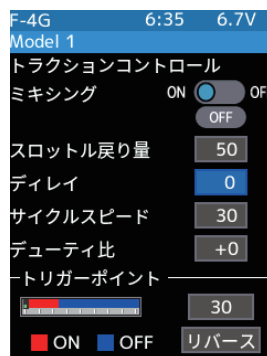




3 (ディレイ量の調整)

[ディレイ量設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+] [-] ボタンを押してディレイ量を調整します。

- "0" : 遅れなしでトラクションコントロール機能が働く。
- "50" : 約 0.5 秒遅れてトラクションコントロール機能が働く。
- "100" : 約 1.0 秒遅れてトラクションコントロール機能が働く。

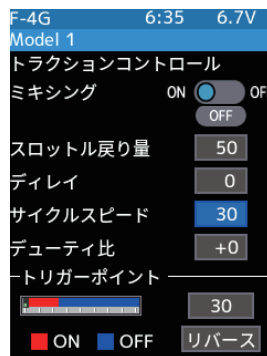


ディレイ量
0 ~ 100
初期値: 0
調整
● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット

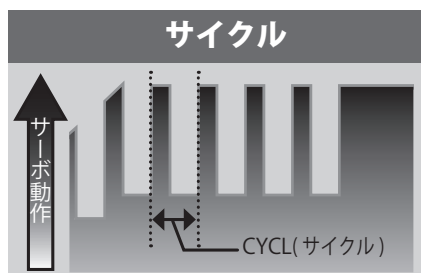
4 (ポンピングの速さの調整)

[サイクルスピード設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+][-] ボタンを押してポンピングの速さを調整します。

- 設定数値が小さい程ポンピングの速さが速くなります。



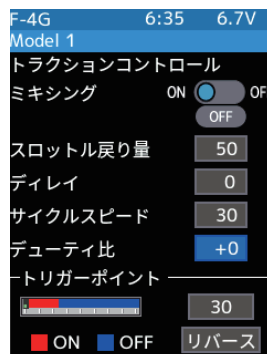
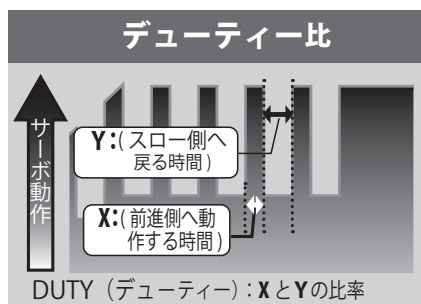
ポンピングの速さの調整
1 ~ 100
初期値: 30
調整
● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット



5 (断続のデューティ比の調整)

[デューティ比設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+] [-] ボタンを押してデューティ比を設定します。

- "-4" : ハイ側への動作時間が一番短くなります。
- "+4" : ハイ側への動作時間が一番長くなります。



デューティ比の設定
-4 ~ +0 ~ +4
初期値: +0
調整
● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット





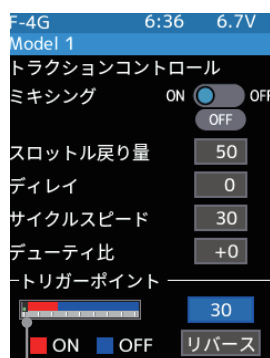
6 (トリガーポイントと動作範囲の設定)

[トリガーポイント設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押して、動作ポイントを設定します。

- スロットルトリガーのどの位置からトラクションコントロール機能を働かせるかを設定できます。数値はフルハイの位置を100とした%表示。

[ノーマル] または [リバース] をジョグキーで選択して押し動作範囲の設定をします。

- "ノーマル": トリガーポイントからハイ側が動作範囲。
- "リバース": ニュートラルからトリガーポイントまでが動作範囲。
- (参考) ドリフトカーで、擬似的なレブリミッター音を再現したい場合はノーマルに設定します。



トリガーポイントの設定

5 ~ 95
初期値: 30

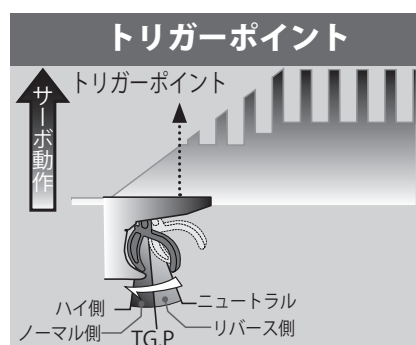
調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

動作範囲の設定

- **[ノーマル]** / **[リバース]** をジョグキーで選択。
- ノーマル/リバース

*スロットルトリガーの位置



7 終了する場合は、**END ボタン**を押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

スイッチの設定

[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) で、トラクションコントロール機能の ON/OFF スイッチを設定できます。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) で、スロットル戻り量、ディレイ量およびサイクル (ポンピングの速さ) の設定をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、コントロールすることができます。

フェイルセーフユニットについて

T-FHSS / S-FHSS が "**デジタル (ハイスピード)**" の場合と、受信機設定が **F-4G** の場合は、フェイルセーフユニットはシステムが異なるため使用できません。送信機側のフェイルセーフ機能を使用してください。また、T-FHSS / S-FHSS でレスポンスが "**アナログ (ノーマル)**" の場合、Futaba フェイルセーフユニット (FSU) を移用できますが、次のような動作となります。

FSU をスロットルチャンネルに接続してある場合、トラクションコントロール機能の動作により、サーボが動作する度に FSU の LED が点滅します。これはのポンピング動作による急激なデータ変化に対し、FSU が反応しているためで、フェイルセーフ機能が働いているわけではありません。サーボの動作には影響なく、そのままご使用になれます。



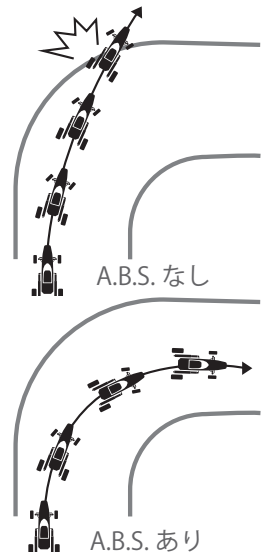


A.B.S.

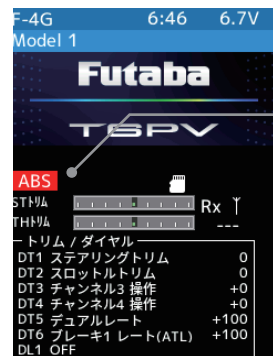
フルタイム 4WD 車などで、コーナーリング中にブレーキをかけると、アンダーステアになります。この機能を使うことにより、スムーズにコーナーをクリアできます。

動作

- ブレーキ操作時、スロットルサーボを断続的にブレーキ動作させる、ポンピングブレーキです。
- ブレーキの戻り量、ディレイ量、ポンピングの速さ、動作ポイント、ポンピングのデューティ比を設定できます。
- ブレーキミキシング機能を設定すると、3CH, 4CH ブレーキにも設定できます。



A.B.S. 画面は、次の方法で表示します。



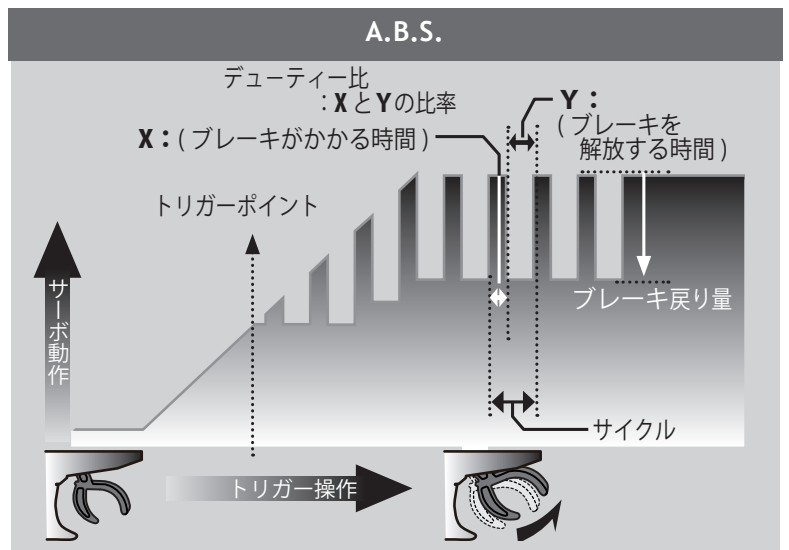
* A.B.S が実際に動作しているときにホーム画面で表示

● ON/OFF

A.B.S. 機能の ON/OFF 設定、A.B.S. 機能を使用する場合は "ON" に設定します。

●ブレーキ戻り量

ブレーキ解放のために、トリガー操作に対してサーボが戻る比率を設定します。0%に設定すると A.B.S. 機能は働きません。50%でトリガー操作量の50%(半分)、100%でニュートラル位置まで戻ります。





●ディレイ

ブレーキ操作してから、A.B.S. 動作が働くまでのディレイ (遅れ) を設定します。0%に設定すると遅れなしで A.B.S 機能が働きます。50%で約 0.5 秒遅れて A.B.S 機能が働き、100%で約 1.0 秒遅れて A.B.S 機能が働きます。

●サイクルスピード

ポンピングの速さ (サイクル) を設定します。設定数値が小さいほどポンピングサイクルが速くなります。

●デューティ比

ポンピング動作でブレーキのかかる時間と、解放する時間の比率を設定します。

比率は +4 ~ +0 ~ -4 の 9 段階の設定ができます。

●トリガーポイント

ブレーキ操作で、A.B.S. が働き始めるトリガーの位置を設定します。

注意

スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合、A.B.S. 機能は動作しません。

A.B.S 機能の調整方法

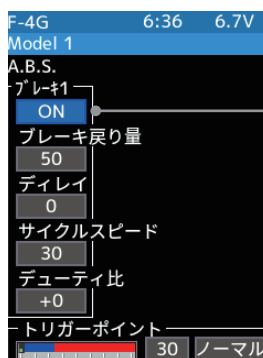
1 (A.B.S. 機能の ON/OFF)

ON または **OFF** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。

スイッチで ON/OFF する場合は、[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) でスイッチを設定します。

- "OFF" : 機能 OFF
- "ON" : 機能が ON の状態

- スイッチが設定されている場合、スイッチ OFF で機能が動作しない状態でも ON と表示します。



設定

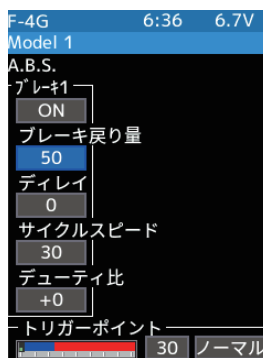
- ON/OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。

*実際にスロットルトリガーの操作で A.B.S が働いている状態を緑点減表示

2 (ブレーキの戻り量の調整)

[ブレーキの戻り量設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押して戻り量を調整します。

- "0" : 戻りなし。
- "50" : ブレーキ操作量の 50% の位置まで戻る。
- "100" : ニュートラル位置まで戻る。



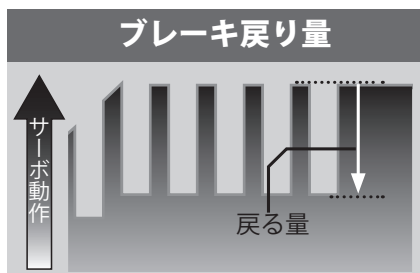
ブレーキの戻り量

0 ~ 50 ~ 100
初期値 : 50

*ブレーキの戻り量はブレーキ側のカーブ設定により変化します。

調整

- [+][-] を押す
- [+][-] 同時押しでリセット

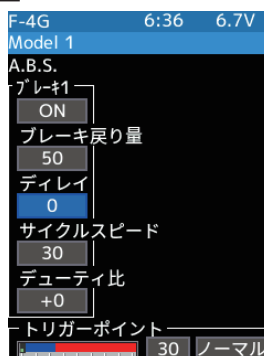




3 (ディレイ量の調整)

[ディレイ量設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+] [-] ボタンを押してディレイ量を調整します。

- "0" : 遅れなしで A.B.S 機能が働く。
- "50" : 約 0.5 秒遅れて A.B.S 機能が働く。
- "100" : 約 1.0 秒遅れて A.B.S 機能が働く。

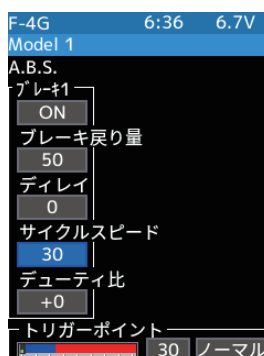


ディレイ量 (DELY)
0 ~ 100
初期値: 0
調整
● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット

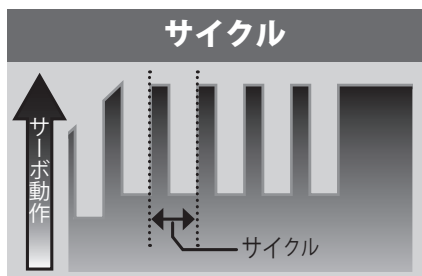
4 (ポンピングの速さの調整)

[サイクルスピード設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンでポンピングの速さを調整します。

- 設定数値が小さい程ポンピングの速さが速くなります。



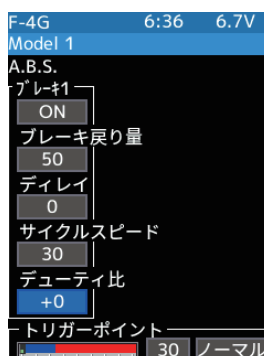
ポンピングの速さの調整
1 ~ 100
初期値: 30
調整
● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット



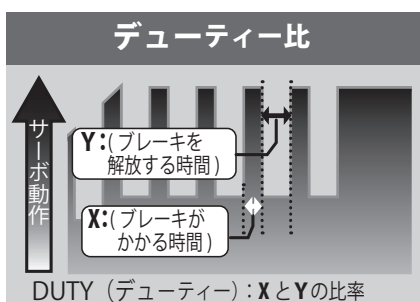
5 (断続のデューティ比の調整)

[デューティ比設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押してデューティ比を設定します。

- "-4" : ブレーキのかかる時間が一番短くなります。(ブレーキがロックしにくい)
- "+4" : ブレーキのかかる時間が一番長くなります。(ブレーキがロックしやすい)
- (参考) グリップの低い場合は-側、グリップが高い場合は+側に設定します。



デューティ比の設定
-4 ~ +0 ~ +4
初期値: +0
調整
● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット





6 (トリガーポイントの設定)

[トリガーポイント設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押して動作ポイントを設定します。

- スロットルトリガーのどの位置から ABS 機能を働かせるかを設定できます。数値はフルブレーキの位置を 100 とした % 表示。

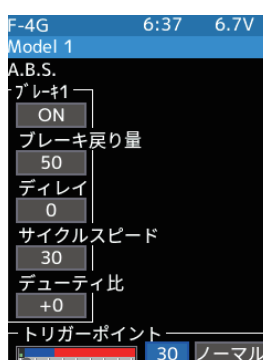
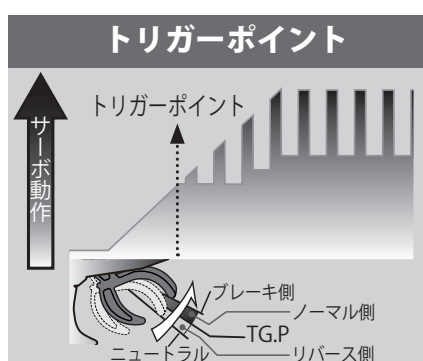
[ノーマル] または [リバース] をジョグキーで選択して押し動作範囲の設定をします。

- "ノーマル": トリガーポイントからフルブレーキ側が動作範囲。
- "リバース": ニュートラルからトリガーポイントが動作範囲。

トリガーポイントの設定
5 ~ 95
初期値: 30

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット



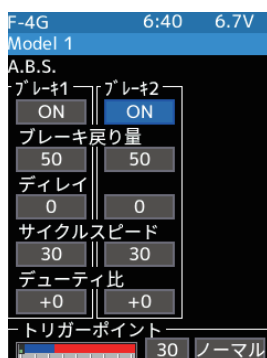
*スロットルトリガーの位置

7 終了する場合は、**END ボタン**を押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

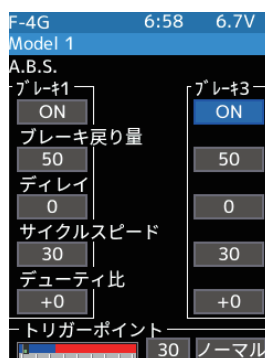
1/5 カーなどの単独ブレーキと ABS について

ミキシングメニュー→[ブレーキミキシング](#)を使用することにより、Ch.3 と Ch.4、またはその他の予備チャンネルで制御するブレーキ 2、ブレーキ 3 に単独で ABS を設定できます。

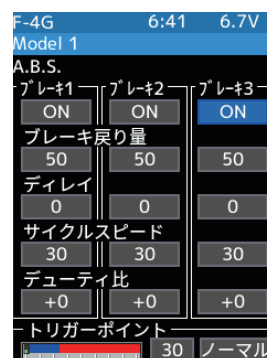
設定項目のトリガーポイント以外はそれぞれ単独で調整ができます。



ブレーキミキシングのブレーキ 2 "ON"



ブレーキミキシングのブレーキ 3 "ON"



ブレーキミキシングのブレーキ 2/3 "ON"





スイッチの設定

[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) で、A.B.S. 機能の ON/OFF スイッチを設定できます。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム／ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) で、ブレーキの戻り量、ディレイ量およびサイクル(ポンピングの速さ)の設定をダイヤルDL1やデジタルトリムDT1～DT6で、コントロールすることができます。

フェイルセーフユニットについて

T-FHSS / S-FHSS でレスポンスが "**アナログ (ノーマル)**" 場合、Futaba フェイルセーフユニット (FSU) を使用できますが、次のような動作となります。

FSU をスロットルチャンネルに接続してある場合、A.B.S 機能のブレーキ動作により、サーボが動作する度に FSU の LED が点滅します。これは A.B.S 機能のポンピング動作による急激なデータ変化に対し、FSU が反応しているためで、フェイルセーフ機能が働いているわけではありません。サーボの動作には影響なく、そのままご使用になれます。

A.B.S 機能設定例

*リンケージの状態でも多少違いが出ます。

●基本設定

- ブレーキ戻り量 : 約 30%(この数値を増やしすぎると制動距離が伸びます)
- サイクルスピード : 5 ~ 7
- デューティー比 : 0 (グリップの低い場合は-側、グリップの高い場合は+側が良い)
- ディレイ : 10 ~ 15%
- トリガーポイント : 約 70%

●フルブレーキでタイヤがロックあるいはスピンする場合

- ブレーキ戻り量 : 30% から増やす
- デューティー比 : 0 から-側 (-1,-2,-3,-4) に変更
- ディレイ : 量を減らす

●フルブレーキでブレーキの効きが悪く、制動距離が伸びてしまう場合

- ブレーキ戻り量 : 30% から減らす
- デューティー比 : 0 から+側 (+1,+2,+3,+4) に変更
- ディレイ : 量を増やす





START

スタート

スリッピーな路面で、スタートと同時にスロットルトリガーをフルスロットルにするとタイヤがホイールスピンしてうまく加速(スタート)できませんが、スタート機能を設定すると、グリップを失わない程度にゆっくりスロットルトリガーを操作するだけで、設定したトリガーポジションから自動的に、プリセットしたポイントに切り替わり、スムーズなスタートが可能となります。



SPEED なし/タイヤがスリップして前に出ない



SPEED あり/スムーズで速いスタートが可能

動作

- スロットルトリガーをトリガーポイントまで操作すると、サーボは事前に設定したサーボ動作位置(プリセット)に動作します。
- ホイールスピンしないようにゆっくりスロットルトリガーを操作していただくだけで、自動的に車は設定されたスピードまで加速していきます。
- この機能はスタート時の1回目のスロットルトリガー操作に対してのみ働きます。スタートする前に毎回機能を動作可能状態にセットして使用する必要があります。
- スロットルトリガーを少し戻すとスタート機能は自動解除され、通常のスロットルトリガー操作となります。

スタート画面は、次の方法で表示します。



スタート機能の調整方法

1 (スタート機能の ON/OFF)

モードの ON(●) または (●)OFF をジョグキーで選択し、[+][−] ボタンで変更します。

状態の表示が [待機] に変わります。

スイッチで [待機] の状態にする場合は、セットアップメニュー→[スイッチ設定機能](#)でスタートのスイッチを設定します。



待機操作

●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][−] ボタンで変更。

* 状態の表示が [待機] に変わる。





2 (トリガーポイントの設定)

[トリガーポイント設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押して、動作ポイントを設定します。

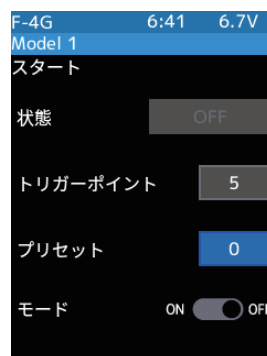


トリガーポイントの設定
5 ~ 95
初期値：5

調整
● [+]
● [-] 同時押しでリセット

3 (サーボ動作位置の設定)

[プリセット設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押して、サーボ動作位置 (プリセット) を設定します。

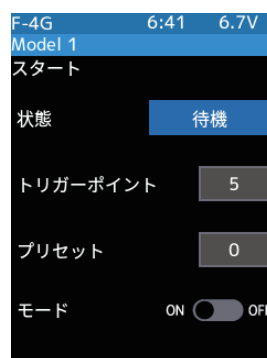


プリセット (サーボ動作位置)
0 ~ 100
初期値：0

調整
● [+]
● [-] 同時押しでリセット

4 (トリガー操作待ちとする方法)

再度トリガー待ちの状態にするには、状態の **[OFF]** をジョグキーで選択し押すと **[待機]** の表示に変わり、トリガー操作待ちの状態となります。また、[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) で、トリガー待ち状態にするスイッチを設定できます。



再スタート
[OFF] をジョグキーで選択し押すと [待機]

状態表示
OFF : 機能 OFF
待機 : トリガー操作待ち
動作中 : スタート機能動作中

5 終了する場合は、**END ボタン**を押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

上記4の**[待機]**のとき、スロットルトリガーをトリガーポジションの位置まで操作すると、3で設定されたサーボ動作位置までスロットルサーボが動作します。スロットルトリガーを戻した時点で解除されます。





エンジンカット

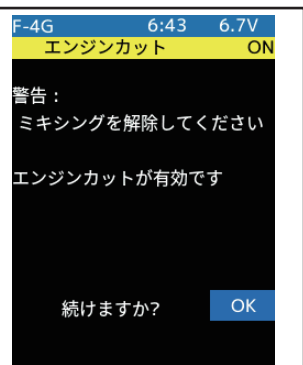
この機能を使用するにはスイッチ設定でエンジンカットの ON/OFF スイッチを設定する必要があります。スイッチでエンジンが停止するように、スロットルサーボをプリセット位置 (エンジンカットポジション) に動作させる機能です。

エンジンカット画面は、次の方法で表示します。



- * 画面上部に2~3秒間、ポップアップでエンジンカットのON/OFFを表示
- * ホーム画面でエンジンカットがONのときに表示

エンジンカットスイッチをONにしたまま電源を入れると、アラーム音とLCD画面のワーニング表示で警告します。エンジンカットスイッチを一度OFFにしてください。



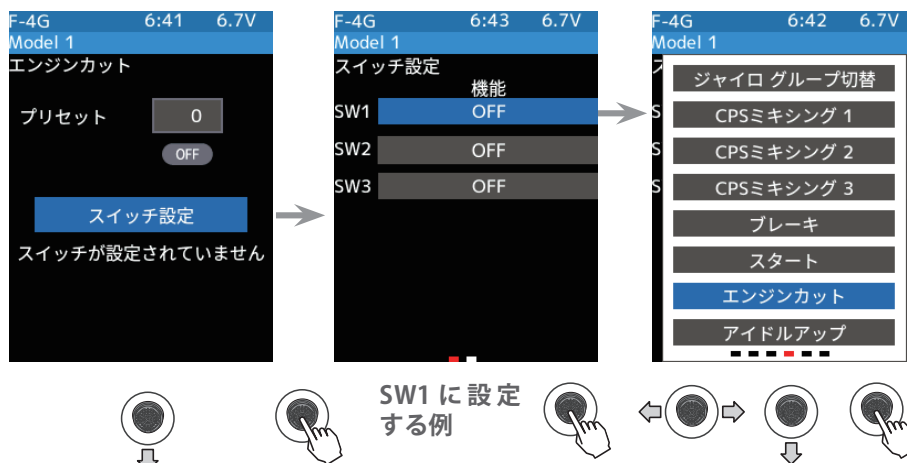
スロットルモードを100:0に設定した場合

スロットルモードを100:0に設定した場合、ブレーキ側機能は動作しません。ここで設定するプリセット位置がリンケージの基準となります。プリセット調整範囲で確実にキャブレターが全閉状態になり、エンジンが停止するようにリンケージを設定します。フルスロットル位置はエンドポイント機能の"前進"で設定します。アイドルリング位置はスロットルトリムで調整します。

エンジンカットの調整方法

(準備)

- スイッチ設定機能で、エンジンカット機能のON/OFFスイッチを設定します。設定されていない場合「スイッチが割り当てられていません」と表示されますので、[スイッチ設定]をジョグキーで選択して押し、スイッチ設定画面に移動してスイッチを設定します。

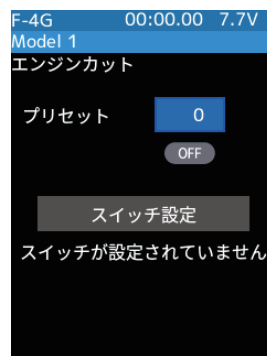




1 (エンジンカットのサーボ位置設定)

設定項目 **[プリセット設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][−]** ボタンを押しエンジンカットのサーボ位置を調整します。

- サーボ位置は 0 ~ 100 の範囲で調整が可能。



●機能動作表示
ON/OFF

プリセット (サーボ動作位置)

0 ~ 100

初期値: 0

調整

- [+]か[+]を押す
- [+] [+] 同時押しでリセット

- ## 2
- 終了する場合は、**END ボタン**を押してレーシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム／ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) で、エンジンカットのサーボ位置の調整をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 に設定することができます。

サーボ動作位置について

この設定によるスロットルサーボの動作位置 (プリセット位置) は、リバース機能以外の他の機能の設定とは無関係です。サーボの全舵角の最大から最小までの設定が可能です。

⚠警告

- この機能を使用する前に必ず動作確認を行ってください。

プリセット機能を設定したスイッチが "ON" の状態の間、サーボ (モーターコントローラー) は、プリセット位置に固定され、スロットルトリガーを操作しても動作しません。間違った設定で動作させた場合、車体 (ボート) が暴走する危険があります。





フィーリング

サーボのレスポンスが敏感過ぎて操作し難いと感じる場合に、レスポンスをマイルドにする機能です。マイルド側にするるとレスポンスが遅くなり、アグレッシブ側にするるとレスポンスがはやくなります。フィーリング調整 OFF はレスポンスが最速の状態です。フィーリング画面は、次の方法で表示します。



フィーリング機能の調整方法

1 (フィーリング機能の ON/OFF)

モードの **ON(●)** または (**●**)OFF をジョグキーで選択し、**[+][−]** ボタンで変更します。
表示が **[ON]** に変わります。

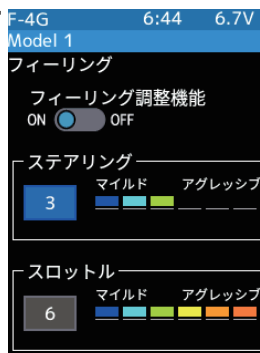


設定

●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][−] ボタンで変更。
*表示が [ON] に変わる。

2 (ステアリング 1・受信機 Ch.1 サーボのフィーリング調整)

ステアリングの設定ボタンをジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][−]** ボタンを押して数値を調整します。



ステアリングフィーリング

1～6 (レスポンス数値が小さいほどマイルドになります)
初期値：6

調整

● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット

3 (スロットル・受信機 Ch.2 サーボのフィーリング調整)

スロットルの設定ボタンをジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][−]** ボタンを押して数値を調整します。



スロットルフィーリング

1～6 (レスポンス数値が小さいほどマイルドになります)
初期値：6

調整

● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット





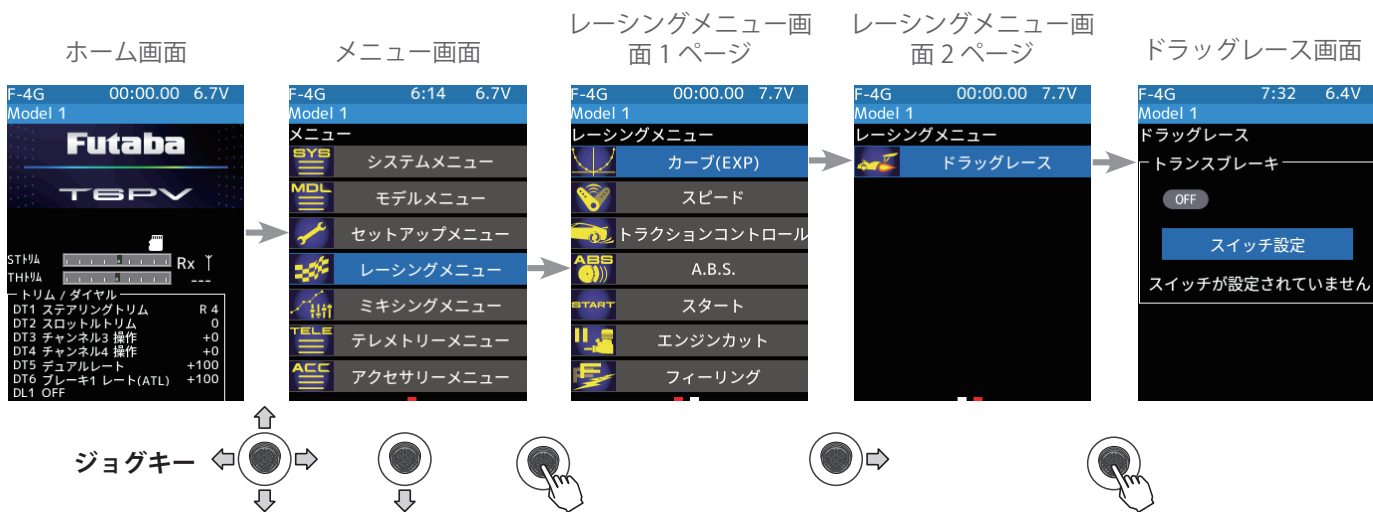
レーシングメニュー



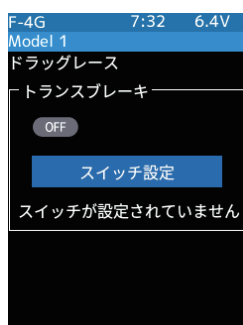
ドラッグレース

トランスブレーキ

トランスブレーキはドラッグレースのスタート時に使用します。スロットル（トリガー）を全開にした状態で車体を停止させ、トランスブレーキを解除させる事により鋭い加速が可能になります。



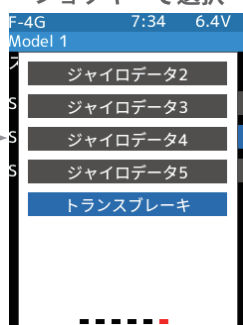
[スイッチ設定] が
選択された状態で



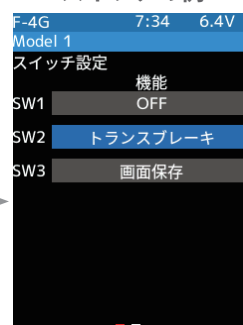
ブレーキ解除スイッチを
ジョグキーで選択



(最終ページの)
[トランスブレーキ]を
ジョグキーで選択



SW2 がブレーキ解除
スイッチの例

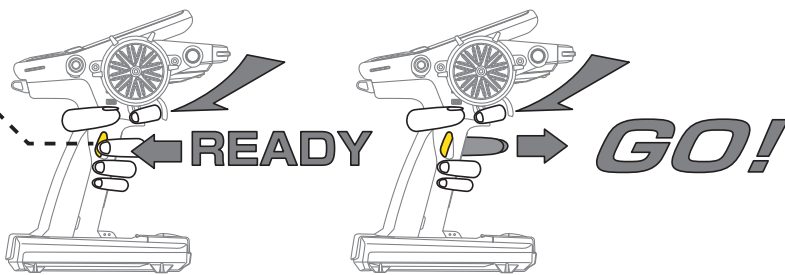


ホーム画面



- * 画面上部に2~3秒間、ポップアップでトランスブレーキのON/OFFを表示
- * ホーム画面でトランスブレーキがONのときに表示

SW2の操作例



ステアリングミキシング

この機能は、ステアリングの左右を別々に2個のサーボでコントロールするミキシング機能で、左右が完全に独立した設定ができスムーズなコーナリングを可能にします。

右側ステアリングサーボ、左側ステアリングサーボのどちらか片方を受信機の Ch.1、もう片方を Ch.3 か Ch.4 または、その他の空きチャンネルに接続します。左右のサーボは、接続するチャンネルに決まりはありません。左右別々に調整した後、アッカーマンレートでアッカーマン調整もできます。また、スイッチで左右のステアリングを両方とも内側に動作させ、ステアリングでブレーキ機能も設定できます。

ホーム画面 メニュー画面 ミキシングメニュー画面 ステアリングミキシング画面

*画面上部に2~3秒間、ポップアップでステアリングブレーキのON/OFFを表示

ステアリングのブレーキスイッチをONにしたまま電源を入れると、アラーム音とLCD画面のワーニング表示で警告します。緊急ブレーキスイッチを一度OFFにしてください。

ワーニング画面

ミキシング機能は、Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。ステアリング 1/2 両方のサーボをワイヤレス方式 (S.BUS/ サーボ機能) でパラメーター変更をしたい場合、ミキシング機能を Ch.2 に割り当て 1,2ch の両方をステアリングに設定します。スロットルはセットアップメニュー→"[チャンネル設定機能](#)"で Ch.3 また Ch.4 に変更します。

設定

●ON(●)/(●)OFF が選択された状態で [+][-] ボタンを押して変更

ステアリングミキシングの使用方法

1 (ステアリングミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの ON(●) または (●)OFF をジョグキーで選択し、[+][-] ボタンで変更します。

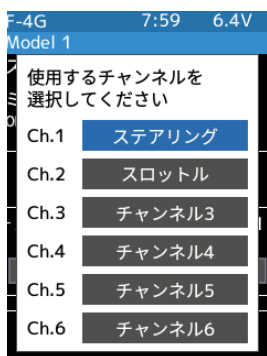
- "(●)OFF" : 機能 OFF
- "ON(●)" : 機能が ON の状態



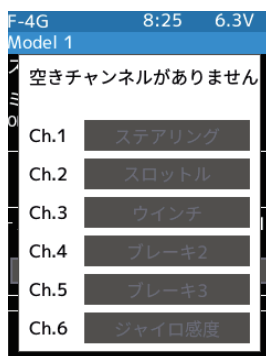
2 (使用チャンネルの設定)

ステアリング2に使用するチャンネルを設定する画面が表示されます。ステアリング2のサーボを接続したCh.3 / 4または、その他の空きチャンネルを選択します。

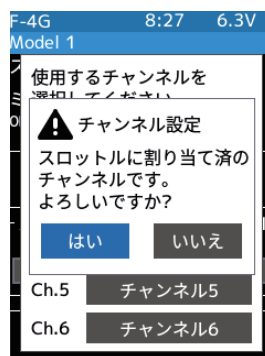
- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面が表示されますので、他のミキシングをOFFにするなどして空きチャンネルを作ってください。セットアップメニュー→チャンネル設定画面で使用しているミキシングが確認できます。
- T6PVは、チャンネル設定機能でCh2.スロットルを別のCh.3やCh.4に移動させ、空きチャンネルとしてステアリング2に使用することもできます。



選択システムによりチャンネル数は異なります。



空きチャンネルがない場合ENDボタンを押し他のミキシングをOFFにするなどして空きチャンネルを作る。



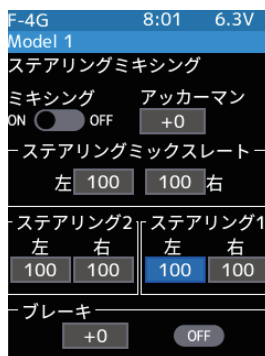
スロットルを別の空きチャンネルに移動させ、ステアリング2に使用する場合は[はい]、キャンセルする場合は[いいえ]をジョグキーで選択し押す。

チャンネルの選択

- ポップアップ画面のチャンネルをジョグキーで選択し押す。

3 (ステアリング1・受信機Ch.1サーボの舵角調整)

ステアリングホイールを左または右いっぱい操作した状態で、ステアリング1の左または右の[レート設定値]をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+][-]ボタンを押して左と右の舵角量を調整します。



ステアリング1左右レート

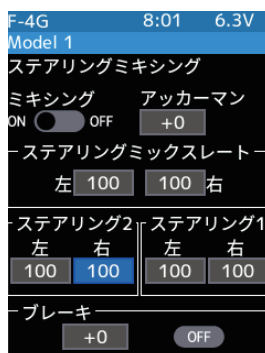
0 ~ 140
初期値: 100

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

4 (ステアリング2・受信機Ch.3またはCh.4サーボの舵角調整)

ステアリングホイールを左または右いっぱい操作した状態で、ステアリング2の左または右の[レート設定値]をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+][-]ボタンを押して左と右の舵角量を調整します。



ステアリング2左右レート

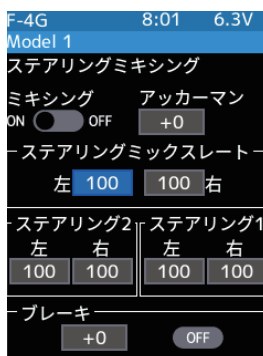
0 ~ 140
初期値: 100

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

5 (ステアリングミックスレートの調整)

ステアリング 1-2 のレートを同時に変更する場合に使用します。左または右の**[ステアリングミックスレート設定値]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態でステアリングホイールを左または右いっぱい(フルステア)に操作し、**[+][-]**ボタンで、左と右の舵角量を調整します。



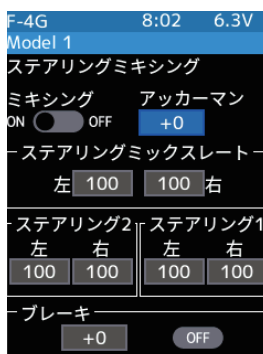
ステアリングミックスレート
0 ~ 100
初期値：100

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

6 (アッカーマン調整)

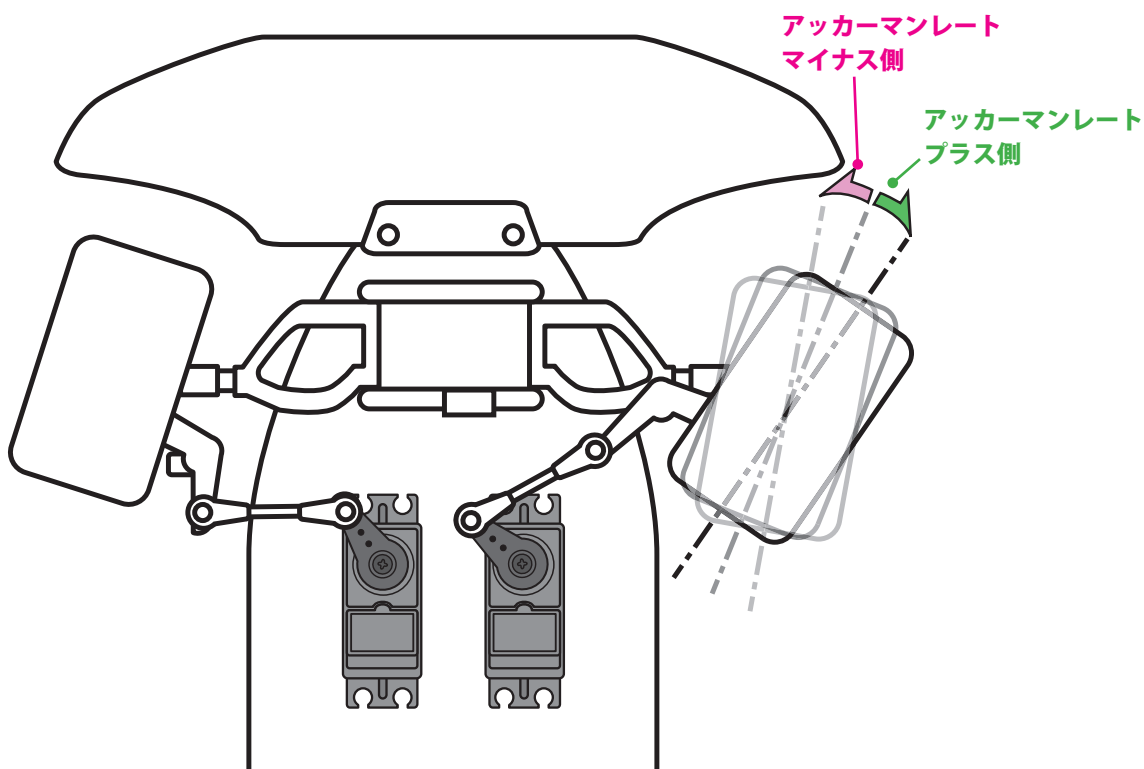
[アッカーマンレート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で**[+][-]** ボタンを押してアッカーマンレートを調整します。



アッカーマンレート
-100 ~ +0 ~ +100
初期値：+0

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

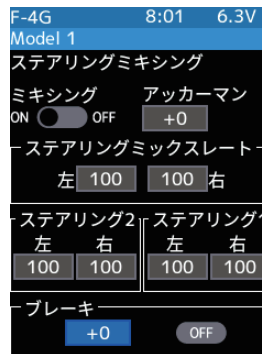
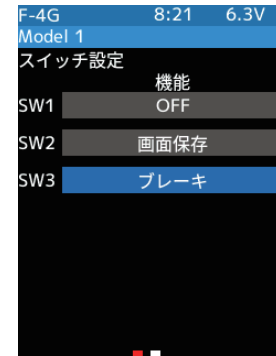
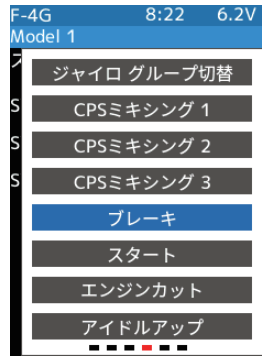


7 (ブレーキ)

(準備)

- この機能を使用する場合は、[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) でスイッチを設定します。

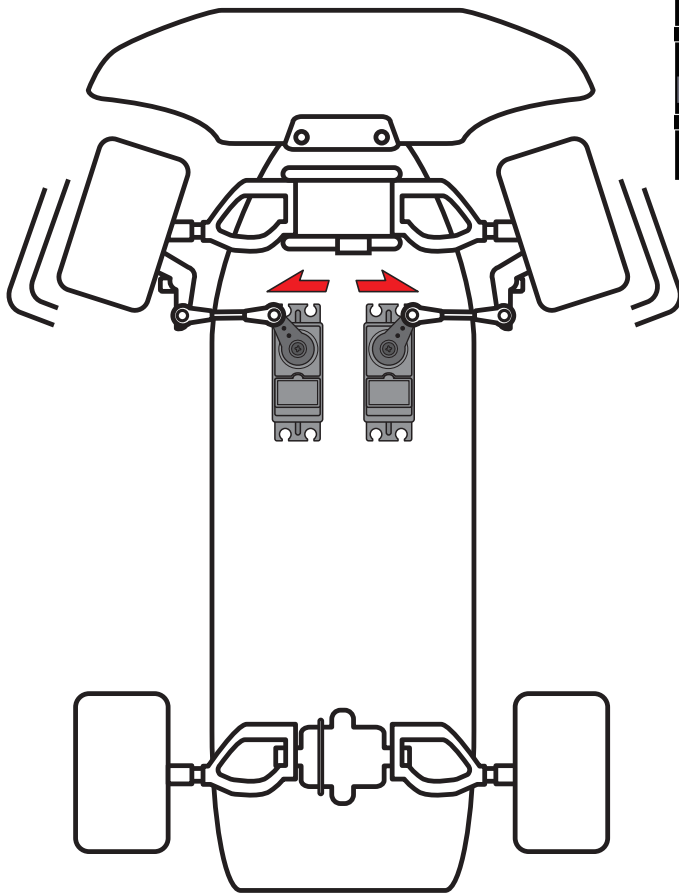
[ブレーキレート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押してステアリング 1 / 2 の動作位置を調整します。



ブレーキレート
-100 ~ +0 ~ +100
初期値: +0

調整

- [+] か [-] を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット



- 終了する場合は、**END ボタン**を押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使って、アッカーマンを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などでコントロールすることができます。

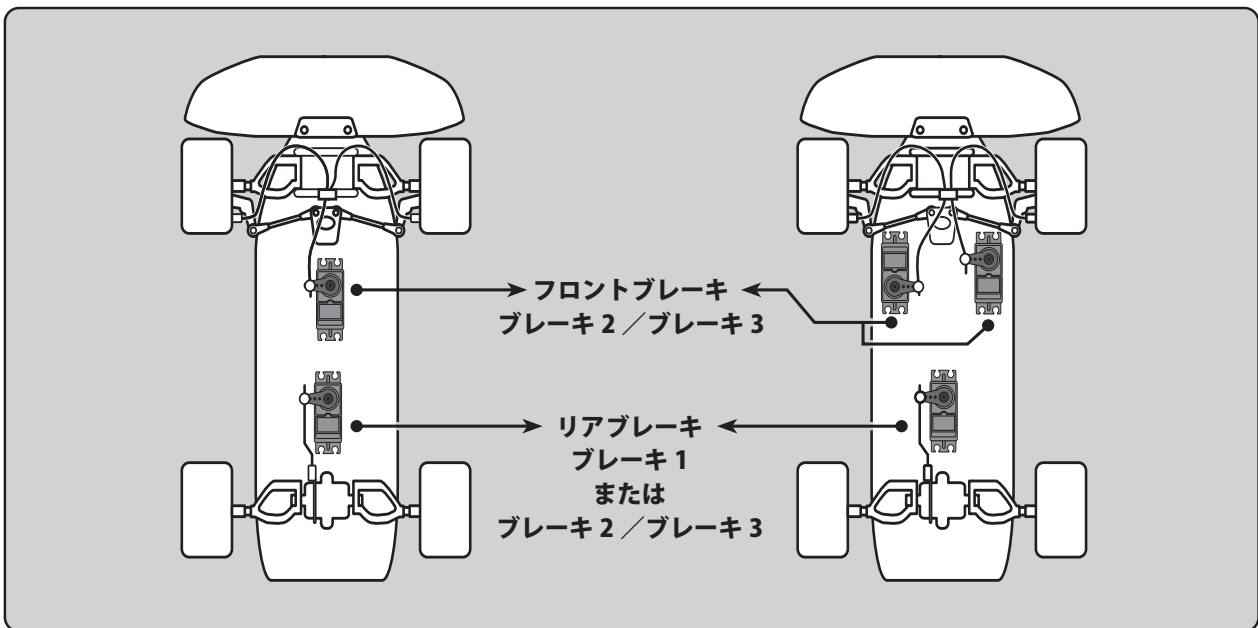


ブレーキミキシング

この機能は 1/5 GP カーのようにフロントとリアのブレーキが独立し、別々に調整する場合に使用します。Ch.3 か Ch.4 または、その他の空きチャンネルでブレーキ 2,3 を設定し、ブレーキ 1 をリア側、ブレーキ 2 または 3 をフロント側ブレーキに使用したり、フロント側ブレーキをブレーキ 2,3 の 2 個のサーボで制御、またはスロットルを Ch.2 で制御し、ブレーキ 2,3 でリア側とフロント側ブレーキを制御するミキシングです。また、ステアリング操作に比例して、各ブレーキレートを可変するミキシングも可能です。

動作

- ブレーキ操作時、ブレーキ 1 → ブレーキ 2,3 にミキシングがかかります。
- ブレーキ 1,2,3 のブレーキ量、ブレーキディレイ量、ブレーキの EXP の設定ができます。
- ステアリング操作に合わせてブレーキ 1,2,3 を可変する、ステアリングミキシングの設定ができます。ステアリングを右または左への操作量に応じて、ブレーキ 1,2,3 を同時または、別々に弱めることができます。



スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合

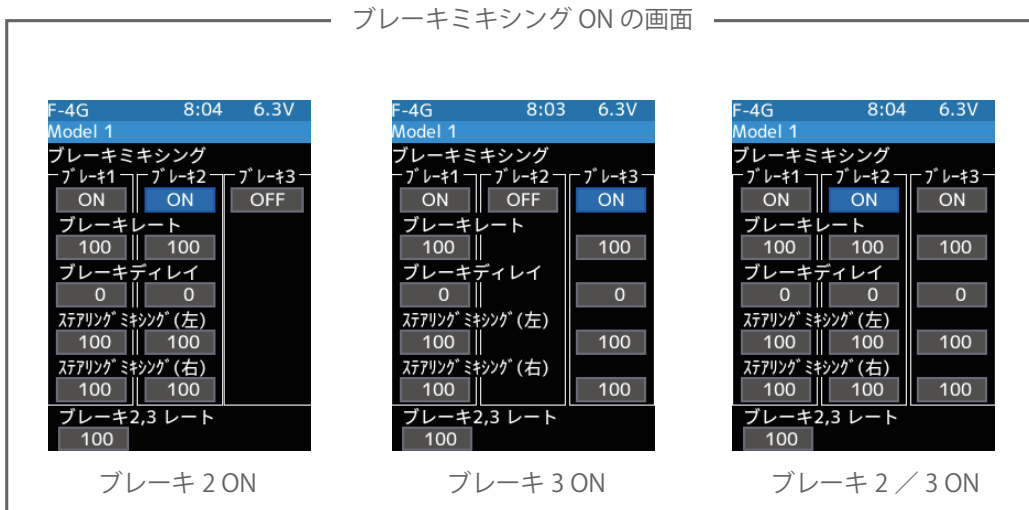
スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合、ブレーキ側の動作は停止していますので、ブレーキミキシングを使用する場合は、スロットルモードを 70 : 30 または 50 : 50 に設定してください。

ブレーキ 2 / 3 A.B.S 機能について

ブレーキミキシングでブレーキ 2,3 も A.B.S 機能が使用できます。トリガーポイントと、ステアリングミキシング以外はフロントブレーキ 2,3 側専用に設定ができます。ブレーキ 1 (2 チャンネル) 側の A.B.S 機能が OFF の状態でもブレーキ 2,3 側単独で A.B.S 機能を使用することもできます。[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) で A.B.S (ブレーキ 2,3) 機能の ON/OFF が設定できます。



ブレーキミキシング画面は、次の方法で表示します。



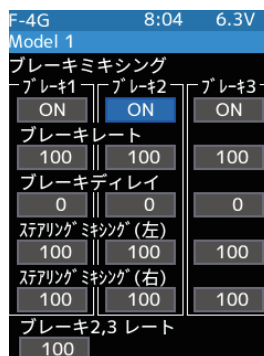
ミキシング機能は、Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

ブレーキミキシングの使用方法

1 (ブレーキミキシング機能の ON/OFF)

ブレーキ 2 または、ブレーキ 3 の **ON** または **OFF** をジョグキーで選択して押し、ON の状態にします。

- "OFF" : 機能 OFF
- "ON" : 機能が ON の状態



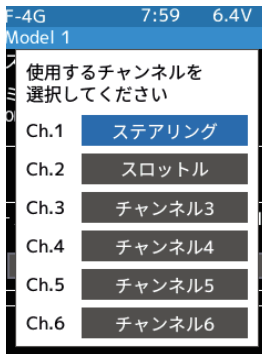
設定

- ON / OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。

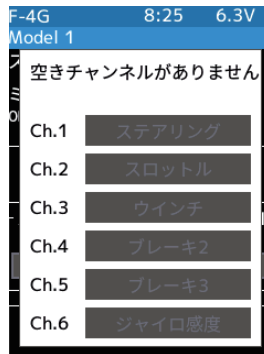
2 (使用チャンネルの設定)

ブレーキ 2 または、ブレーキ 3 に使用するチャンネルを設定する画面が表示されます。ブレーキ 2 または、ブレーキ 3 のサーボを接続した Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルをジョグキーで選択して押します。

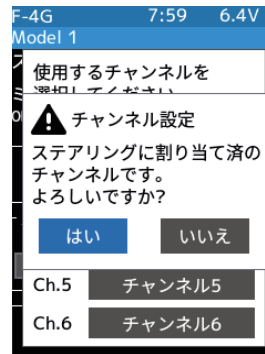
- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面が表示されますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。セットアップメニュー → チャンネル設定画面で使用しているミキシングが確認できます。
- T6PV は、セットアップメニュー → チャンネル設定機能で Ch.1 ステアリングを別の Ch.3 や Ch.4 に移動させ、空きチャンネルとしてブレーキ 2 に使用することもできます。



選択システムによりチャンネル数は異なります。



空きチャンネルがない場合 END ボタンを押し他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。



ステアリングを別の空きチャンネルに移動させ、ブレーキ 2 に使用する場合 [はい]、キャンセルする場合は [いいえ] をジョグキーで選択し押す。

チャンネルの選択

- ポップアップ画面のチャンネルをジョグキーで選択し押す。

3 (ブレーキ量の調整)

ブレーキ 1、ブレーキ 2 または、ブレーキ 3 の [ブレーキレート] をジョグキーで選択して押します。ブレーキ 2,3 を別々に調整の後、両方のブレーキ量を同時に調整する場合、[ブレーキ2,3レート] をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押してブレーキ量を調整します。

- ブレーキ量は 0 ~ 100% の範囲で調整が可能です。
- ブレーキ 1 のレートはスロットルチャンネル (ATL) の設定と連動しています。



ブレーキ量 (レート)

0 ~ 100
初期値: 100

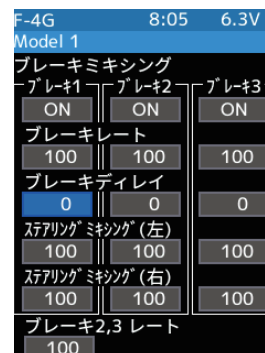
調整

- [+] が [-] を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

4 (ディレイ量の設定)

ブレーキ 1、ブレーキ 2 または、ブレーキ 3 の [ブレーキディレイ] をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で [+] [-] ボタンを押してディレイ量を調整します。

- すべてのブレーキに遅れがあると危険なため、最後に調整しようとするブレーキにはディレイが働かないようになっています。例えば、ブレーキ 1,2,3 をすべて使用している場合、ブレーキ 2/3 にディレイを設定するとブレーキ 1 はディレイが設定できません。ブレーキ 1 にディレイの設定が必要な場合は、ブレーキ 2 またはブレーキ 3 のどちらかのディレイを "0" にする必要があります。



ディレイ

0 ~ 100
初期値: 0

"0" : 遅れなし。
"100" : 最大ディレイ量

調整

- [+] が [-] を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

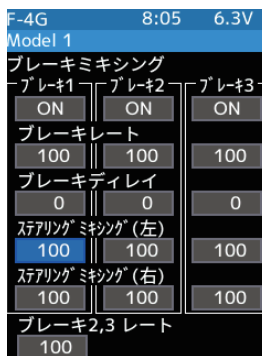


5 (ステアリングミキシング)

ステアリングを操作したときに、ブレーキを弱めたい時に使用します。

ブレーキ 1、ブレーキ 2 または、ブレーキ 3 の **[ステアリングミキシング(左)レート]** または、**[ステアリングミキシング(右)レート]** をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で **[+/-] ボタン** を押してステアリング操作時のブレーキ量を調整します。数値が小さいほどブレーキが弱くなります。設定値 "100" はステアリングミキシングが働いていない状態で、ステアリングを操作したときに、ブレーキは弱くなりません。

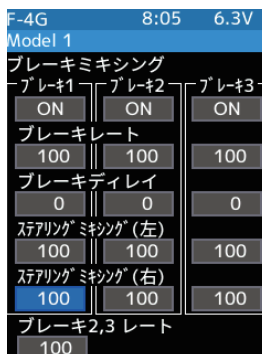
- ミキシング量は 0 ~ 100 の範囲で調整が可能です。



ブレーキ量 (ステアリング操作時)
(ブレーキ量小) 0 ~ 100
初期値: 100

調整

- [+/-] を押す
- [+/-] 同時押しでリセット



- 6 終了する場合は、**END ボタン** を押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使って、ブレーキ 1,2,3 ブレーキ量 (ブレーキレート)、ブレーキ 1,2,3 ディレイ量を、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などでコントロールすることができます。



ジャイロミキシング

この機能は、Futaba カー用レートジャイロの感度調整を T6PV 側で調整するリモートゲイン機能で、Ch.3 か Ch.4 または、その他の空きチャンネルで、ジャイロの感度を調整するミキシングです。

4ゲインタイプは、グループを2つ作り、各グループで2系統、全4系統のゲインが設定できます。

グループの切り替えや、グループ内の AVCS とノーマルのモードを切り替えまたは、同じモードで2系統の感度を切り替えて使用する場合は、[スイッチ設定機能](#)（セットアップメニュー）で使用するスイッチを設定します。また、ジャイロミキシング自体の ON/OFF スイッチも設定できます。また、切り替えスイッチをステアリングスイッチに設定すると、ニュートラル付近と左右にステアリングを振ったときのゲインを切り替えたり、スロットルスイッチに設定すると、ハイ側とロー側でゲインを切り替えたりできます。

カー用レートジャイロの搭載方法や取り扱いについては、レートジャイロの説明書をお読みください。

SR モード対応ジャイロを SR モードのチャンネルで使用する場合、ステアリング入力とジャイロ感度入力を接続するチャンネルの両方を SR モードに設定してください。どちらか片方でもノーマルモードになっていると、ジャイロが正常に動作しません。

AVCS とノーマルモード

Futaba 製ジャイロの動作モードは、ノーマルモードと AVCS モードがあります。AVCS モードでは、ノーマルモード時のレート（旋回速度）制御の他に角度制御も同時に行う動作をします。AVCS モードでは、ノーマルモード時より、直進安定性が増加します。操作フィーリングが異なるため、好みのモードをジョグキーで選択してください。

ジャイロミキシング画面は、次の方法で表示します。



ミキシング機能は、Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。



ジャイロミキシングの使用方法

(準備)

- ジャイロの説明書を参考にジャイロを受信機に接続します。リモートゲインを使用する場合は、ジャイロの感度調整を受信機のジャイロミキシングを割り当てたチャンネルに接続します。
- スイッチで ON/OFF する場合や、レートを切り替えて使用する場合は、[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) で、使用するスイッチを設定します。

1 (ジャイロミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの (●)OFF をジョグキーで選択して押します。

- "(●)OFF" : 機能 OFF
- "ON(●)" : 機能が ON の状態



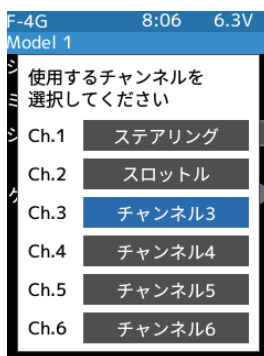
設定

- (●)OFF をジョグキーで選択。
- [+][-] ボタンで ON/OFF を設定。

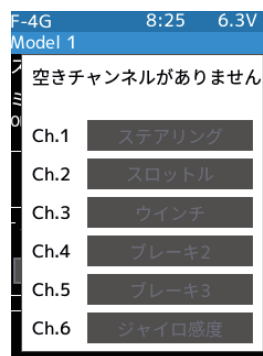
2 (使用チャンネルの設定)

ゲイン調整に使用するチャンネルを設定する画面が表示されます。ゲイン調整コネクターを接続した Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルをジョグキーで選択して押します。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面が表示されますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。セットアップメニュー → チャンネル設定画面で使用しているミキシングが確認できます。



選択システムによりチャンネル数は異なります。



空きチャンネルがない場合 END ボタンを押し他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

チャンネルの選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択。

3 (ジャイロ ミキシングの設定)

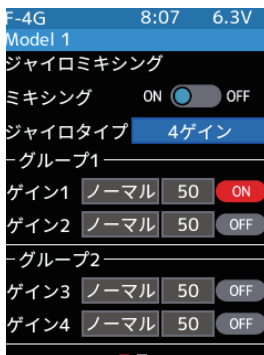
設定項目 **[ジャイロタイプ]** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンでタイプを設定します。

- "1 ゲイン" : 固定ゲインで使用
- "2 ゲイン" : スイッチでゲインを切り替えて使用
- "4 ゲイン" : グループの切り替えスイッチと、グループ内のゲインの切り替えスイッチの2個のスイッチを使用

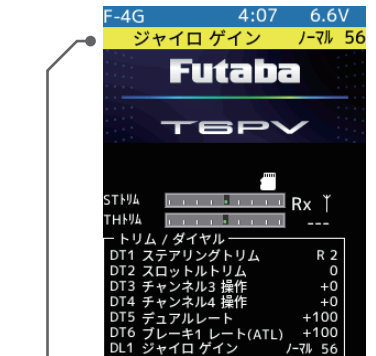
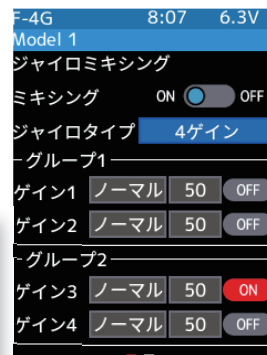


設定

- [1ゲイン] / [2ゲイン] / [4ゲイン] をジョグキーで選択し [+][-] ボタンを押す。
- 1 ゲイン / 2 ゲイン / 4 ゲイン



グループ切り替えスイッチでグループを切り替えることができます。



* スイッチで切り替えた時、画面上部に2～3秒間ポップアップ画面が表示し、ゲインを知らせる。

* ゲイン切り替えのスイッチで、どのジャイロゲインになっているかを表示

4 (ジャイロゲインの調整)

設定する **[ゲインレート値]** をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押し、ゲイン(感度)を調整します。

[ノーマル] または **[AVCS]** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンでノーマルとAVCSを選びます。



ジャイロゲイン

AVCS : 0 ~ 120
ノーマル : 0 ~ 120
初期値 : ノーマル 50

調整

- [+][-] を押す
- [+][-] 同時押しでリセット

AVCS とは → <https://www.rc.futaba.co.jp/support/tips/detail/59>

5 終了する場合は、**END ボタン** を押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム/ダイヤル設定 (セットアップメニュー) を使って、ゲイン(感度)をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などで、コントロールすることができます。

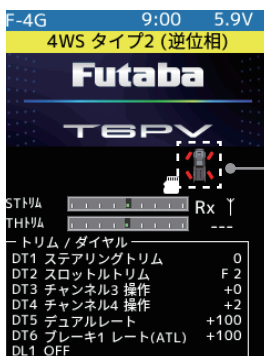
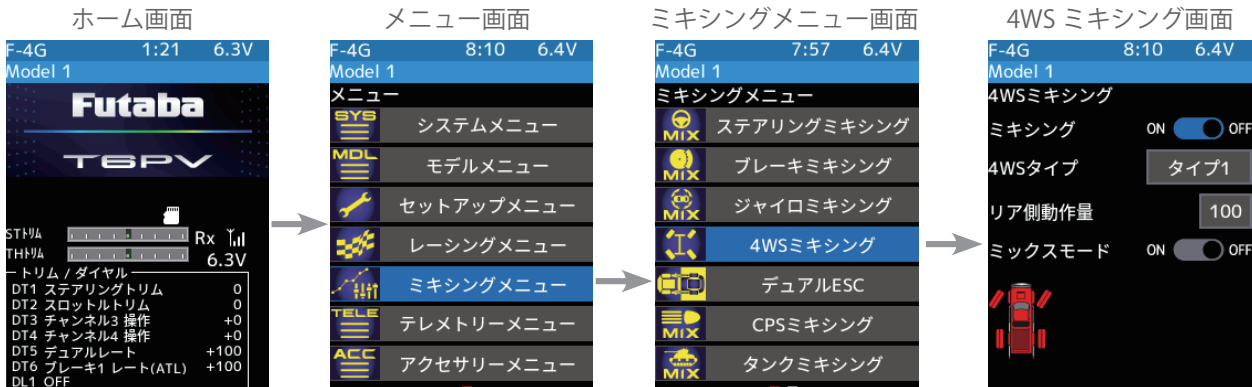




4WS ミキシング

この機能は、クローラー等の4WSタイプの車体に使用できます。Ch.1でフロント側のステアリング、Ch.3かCh.4または、その他の空きチャンネルで、リア側のステアリングを制御するミキシングです。OFF(フロント側のみ)、逆位相、同位相、リア側のみ等の4WSタイプの切り替えスイッチは、[スイッチ設定機能](#)(セットアップメニュー)で選びます。スイッチは各タイプを順送りで切り替える方法と、単独の指定したタイプに切り替える方法があります。

4WS ミキシング画面は、次の方法で表示します。



* スイッチで切り替えた時、画面上部に2~3秒間、ポップアップでモードを表示

* 設定がONの時にホーム画面に4WSタイプを表示

ミキシング機能は、Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

4WS ミキシングの調整方法

この機能はスイッチで4WSのタイプを切り替えて使用しますので、[スイッチ設定機能](#)(セットアップメニュー)で使用するスイッチを設定します。

1 (4WS ミキシング機能のON/OFF)

ミキシングのON(●)または(●)OFFをジョグキーで選択し、[+][-]ボタンで変更します。

"(●)OFF" : 機能 OFF
 "ON(●)" : 機能がONの状態



設定

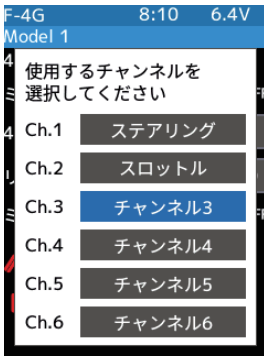
●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。



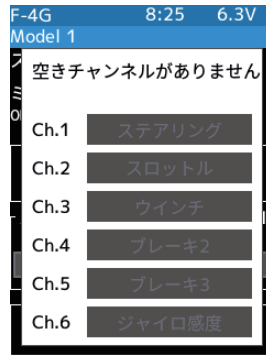
2 (使用チャンネルの設定)

リアステアリングに使用するチャンネルを設定する画面が表示されます。リアステアリングのサーボを接続した Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルをジョグキーで選択して押します。

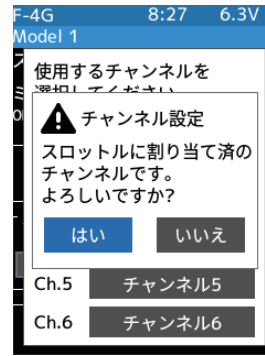
- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面が表示されますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。セットアップメニュー → チャンネル設定画面で使用しているミキシングが確認できます。



選択システムによりチャンネル数は異なります。



空きチャンネルがない場合 END ボタンを押し他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。



スロットルを別の空きチャンネルに移動させ、ステアリング 2 に使用する場合 [はい]、キャンセルする場合は [いいえ] をジョグキーで選択し押す。

チャンネルの選択

- ポップアップ画面のチャンネルをジョグキーで選択し押す。

3 (4WS タイプの選択)

設定項目 [4WSタイプ] をジョグキーで選択し、[+][−] ボタンでタイプを設定します。

- "タイプ 1": フロント側のみ (機能 OFF)。
- "タイプ 2": フロント側のみと逆位相の切り替え。
- "タイプ 3": フロント側のみ、逆位相と同位相の切り替え。
- "タイプ 4": フロント側のみ、逆位相、同位相とリア側のみ切り替え。

設定した [4WSタイプ切り替えスイッチ] で下の図の順に切り替わり、画面上でそのモードが赤く表示されます。

単独で指定したタイプに切り替えるスイッチの場合は、直接そのタイプに切り替わります。

設定

- [タイプ1] / [タイプ2] / [タイプ3] / [タイプ4] を [+][−] ボタンで選択。
- タイプ 1 / タイプ 2 / タイプ 3 / タイプ 4

[タイプ2] の場合
フロント側のみと逆位相の切り替え。



[タイプ3] の場合
フロント側のみ、逆位相と同位相の切り替え。



[タイプ4] の場合
フロント側のみ、逆位相、同位相とリア側のみ切り替え。



4 (リア側の動作量の調整)

[リア側動作量値] をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押し、リア側の動作量を調整します。



リア側動作量
0 ~ 100
初期値：100

調整

- [+][-] を押す
- [+][-] 同時押しでリセット

5 (ミックスモードの設定)

ミックスモードの **ON(●)** または **OFF(●)** をジョグキーで選択して押し、ミックスモードの ON/OFF を **[+][-]** ボタンで設定します。



設定

- ON(●) / (●) OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。

ミックスモードの設定

OFF, ON
初期値：OFF

"(●)OFF"：フロント側の EXP 機能などの設定をミックスしません。

"ON(●)"：フロント側の EXP 機能などの設定をミックスします。

6 終了する場合は、**END ボタン** を押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム／ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使って、リア側動作量をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などで、コントロールすることができます。



デュアル ESC

この機能は、クローラー等の 4WD タイプの車体で Ch.2 でリア側の ESC(モーターコントローラー)、Ch.3 か Ch.4 または、その他の空きチャンネルで、フロント側のモーターコントローラーを制御するミキシングです。駆動をフロント側のみ、リア側のみ、フロント／リア側の両方 (4WD) の切り替えは、トリムダイヤルで切り替える方法と、モードごとにスイッチを設定して切り替える方法があります。
 セットアップメニュー→スロットルモードの設定は必ず 50：50 で使用してください。
 デュアル ESC 画面は、次の方法で表示します。



デュアル ESC ミキシングの調整方法

(準備)

- この機能はどれか 1 箇所のデジタルトリム／ダイヤルで 4WD / フロント / リアの駆動タイプを切り替えて使用する方法と、4WD / フロント / リアのモードごとにスイッチを 1 個ずつ割り当てて切り替える方法があります。どちらの方法にするかは、[トリム／ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) で DL1, DT1 ~ DT6 の中から設定するか、[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) で SW1 ~ SW3 の中から設定するかで決めます。

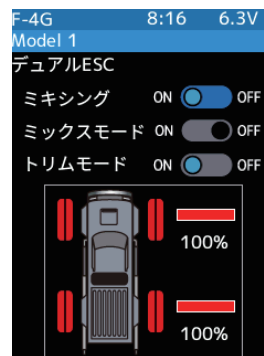
1 (デュアル ESC ミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの ON(●) または (●)OFF をジョグキーで選択し、[+][−] ボタンで変更します。

- "(●)OFF" : 機能 OFF
- "ON(●)" : 機能が ON の状態

ダイヤル設定で 1 箇所のデジタルトリムで切り替えを設定すると、設定したトリムの操作で下記のように切り替わります。

フロント駆動 ⇄ 4WD ⇄ リア駆動



設定

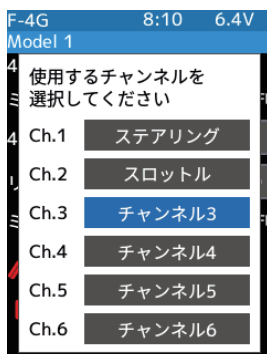
- ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][−] ボタンで変更。
- ON/OFF



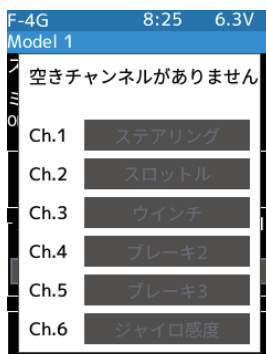
2 (使用チャンネルの設定)

フロント側 ESC に使用するチャンネルを設定する画面が表示されます。フロント側 ESC を接続した Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルをジョグキーで選択して押します。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面が表示されますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。セットアップメニュー→チャンネル設定画面で使用しているミキシングが確認できます。



選択システムによりチャンネル数は異なります。

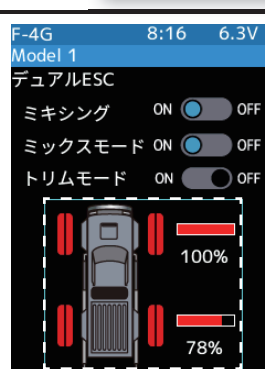


チャンネルの選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択。

3 (駆動比率の調整)

駆動比率(車体画像) 選択して、フロント側とリア側のモーターコントローラーの動作量(比率)を調整します。**+ボタン**でリア側の比率が増え、**-ボタン**で減ります。フロント側かリア側どちらかは100%です。



フロント：リア駆動率

フロント 0%：リア 100%
～フロント 100%：リア 0%
初期値：
フロント 100% / リア 100%

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

設定

●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。

4 (ミックスモードの設定)

ミックスモードの ON(●) または、(●)OFF をジョグキーで選択して [+][-] ボタンを押し、ミックスモードを選びます。

- "(●)OFF" : リア側の EXP 機能などの設定をミックスしません。
- "ON(●)" : リア側の EXP 機能などの設定をミックスします。

ミックスモードの設定

OFF, ON
初期値：OFF

5 (トリムモードの設定)

トリムモードの ON(●) または、(●)OFF をジョグキーで選択して [+][-] ボタンを押し、トリムモードを選びます。

- "(●)OFF" : リア側のトリムデータは含みません。
- "ON(●)" : リア側のトリムデータを含みます。

トリムモードの設定

OFF, ON
初期値：OFF

- 6 終了する場合は、**END ボタン**を押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

注意

2個のESCを同時に駆動させるため、お互いに負荷が掛かります。ESCが故障しないように充分注意してください。この機能によるESC、その他機材の故障に関し、弊社では一切の責任を負いません。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定を使って、フロント側／リア側の動作量を、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1～DT6などでコントロールすることができます。

CPS ミキシング (1,2,3)

通常 CPS-1 ユニットを使用して、ドレスアップ等の電飾 (LED) を点灯させる場合、LED を接続した CPS-1 ユニートを空きチャンネルに接続し、スイッチで走行中に LED を ON/OFF しますが、CPS ミキシング機能を使用することで、スイッチ以外に、ステアリングやスロットル操作で ON/OFF できます。また、LED を点滅させることもでき、点滅のスピード (サイクル) も設定ができます。例えば、ブレーキランプとしてスロットルのブレーキ側操作で、LED を点滅させることができます。この CPS ミキシングは 3 系統使用できます。

CPS-1 ユニートは UR/SR モードでは動作しません。UR/SR モードに設定していないチャンネルに接続してください。

CPS ミキシング画面は、次の方法で表示します。

ジョグキー

*画面上部に 2~3 秒間、ポップアップで CPS ミキシングの ON/OFF を表示

ミキシング機能は、Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

CPS ミキシングの調整方法

(準備)

- CPS-1 を受信機の空きチャンネルに接続します。
- スイッチで LED を ON/OFF させる場合は、[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) で、使用するスイッチを "CPS ミキシング (1,2,3)" に設定します。
- CPS ミキシング画面から [CPS ミキシング 1] / [CPS ミキシング 2] / [CPS ミキシング 3] をジョグキーで選択して押し設定画面に移動します。

1 (CPS ミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの ON(●) または (●)OFF をジョグキーで選択し、[+][-] ボタンで変更します。

- "(●)OFF" : 機能 OFF
- "ON(●)" : 機能が ON の状態

設定

●ON(●) / (●)OFF
をジョグキーで選択し
[+][-] ボタンで変更。



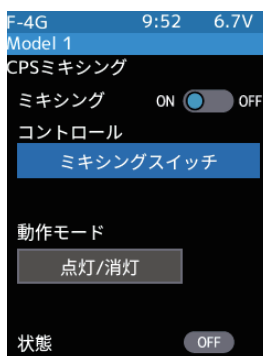
2 (使用チャンネルの設定)

ミキシングチャンネルを設定する画面が表示されます。CPS-1 を接続した Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルをジョグキーで選択して押します。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面が表示されますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。セットアップメニュー → チャンネル設定画面で使用しているミキシングが確認できます。

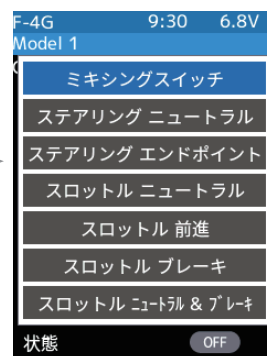
3 (コントロール方式の設定)

[コントロール] をジョグキーで選択、コントロール方式のリストのポップアップ画面が表示しますので、点灯させる操作をリストから選びジョグキーを押します。キャンセルする場合は、**ENDボタン**を押します。



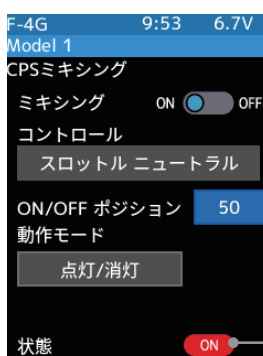
コントロール方式の選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択。



4 (ON/OFF 切り替えポジションの設定)

[ON/OFFポジション設定値] をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押して ON/OFF のポジションを設定します。"状態" に ON/OFF のマークが表示されますので、コントロールするファンクション (例えばスロットル) を操作しながら設定できます。



設定範囲

5 ~ 95
初期値 : 50

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

*実際にスロットルトリガーの操作で CPS-1 が働いている状態を ON/OFF で表示

- コントロール方式が " ミキシングスイッチ " の場合 ON/OFF ポジションの設定はありません。

5 (動作モードの設定)

設定項目 **[動作モード]** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで LED 点灯のタイプを設定します。通常の ON/OFF のタイプと点滅タイプのどちらかを選ぶことができます。

"点灯 / 消灯" : 通常の ON/OFF タイプ
"点滅" : 点滅表示

設定

- [点灯/消灯]** / **[点滅]** をジョグキーで選択。
- [点灯/消灯]** / **[点滅]**

6 (点滅スピードの設定)

[動作モード] で、[点滅] を設定した場合、点滅のスピードが設定できます。[点滅スピード設定値] をジョグキーで選択し設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押し、点滅のスピード (サイクル) を設定します。

点滅スピード

1 ~ 60
初期値 : 50

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

7 終了する場合は、**END ボタン**を押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

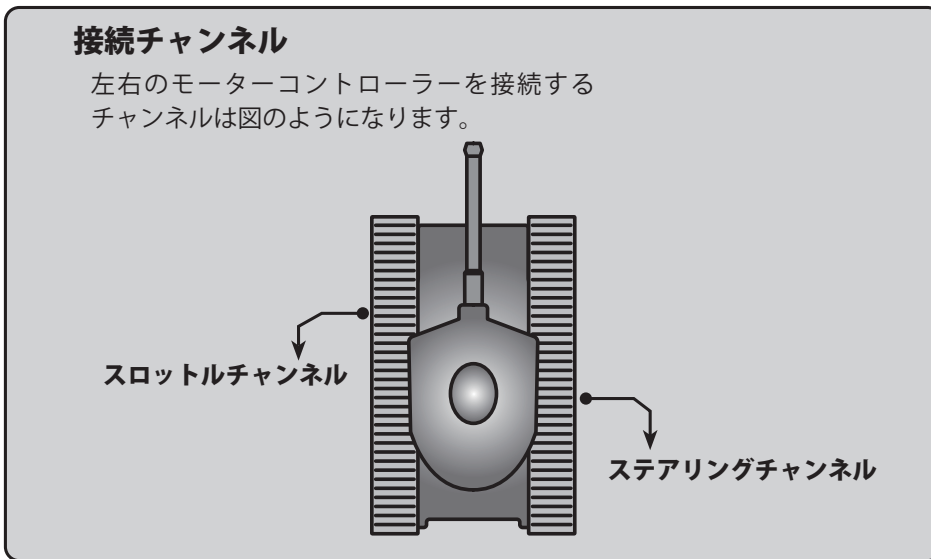




タンクミキシング

この機能は、戦車などの履帯車両向けのミキシングです。ステアリングチャンネルとスロットルチャンネルにミキシングがかかり、ステアリングとスロットルの操作で信地旋回および超信地旋回が行えます。

タンクミキシング画面は、次の方法で表示します。



タンクミキシングの調整方法

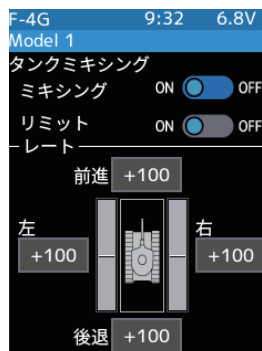
1 (タンクミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの ON(●) または (●)OFF をジョグキーで選択し、[+]/[-] ボタンで変更します。

- "(●)OFF" : 機能 OFF
- "ON(●)" : 機能が ON の状態

設定

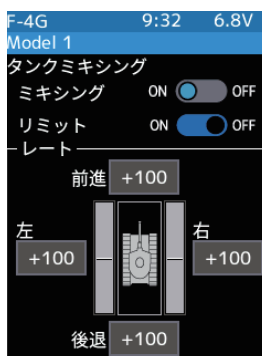
●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+]/[-] ボタンで変更。



2 (リミットのON/OFF)

ミキシング量により、ステアリングとスロットルチャンネルの最大動作量が限界を超えないように制限する機能です。リミットのON(●)または(●)OFFをジョグキーで選択し、[+][-]ボタンで変更します。

- "(●)OFF" : リミット機能 OFF
- "ON(●)" : リミット機能がONの状態



設定

- ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。
- ON/OFF

3 (前進/後退レート調整)

[前進レート値]/[後退レート値] をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で [+][-] ボタンを押し、前進側/後退側のスピードを調整します。

- スロットルチャンネルとステアリングチャンネルが連動して動作し、トリガーをハイ側に操作で、「前進」レートで車体は前進します。トリガーをブレーキ側に操作した場合は「後退」レートで動作します。



前進/後退動作量

-100 ~ +100
初期値: +100

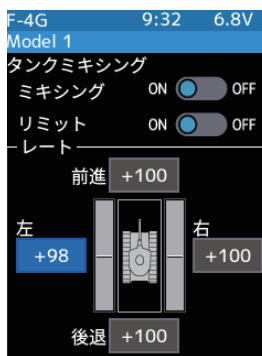
調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

4 (左/右レート調整)

[左レート値]/[右レート値] をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で [+][-] ボタンを押し、左旋回側/右旋回側の量を調整します。

- スロットルチャンネルとステアリングチャンネルが連動して動作し、ステアリングを右に操作した場合は、「右」のレートで車体は右方向に超信地旋回します。左に操作した場合は、「左」のレートで車体は左方向に超信地旋回します。



左/右動作量

-100 ~ +100
初期値: +100

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

5 終了する場合は、**END ボタン**を押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

ステアリングとトリガーを同時に操作した場合

トリガーをハイ側に操作し、ステアリングを右に操作した場合は、**[前進]、[右]**のレートで車体は右方向に信地旋回します。

トリガーをハイ側に操作し、ステアリングを左に操作した場合は、**[前進]、[左]**のレートで車体は左方向に信地旋回します。

トリガーをブレーキ側に操作しながらステアリングの操作は、後退方向で前進側と同じ動作をします。

PMIX プログラムミキシング (1, 2, 3, 4, 5)

ステアリング、スロットル、Ch.3 ~ 6、その他の空きチャンネルの任意のチャンネル間で、ミキシングをかけることができます。プログラムミキシングは5系統使用できます。

付加機能

- マスターチャンネル (ミキシングをかける側) がステアリングまたはスロットルの場合、トリムのデータを加えることができます。(トリムモード)
- マスターチャンネルに関連する機能の設定の影響をジョグキーで選択できます。関連機能は下記のとおりです。(ミックスモード)
ステアリング関連機能：エンドポイント、カーブ、D/R、およびスピード機能
スロットル関連機能：エンドポイント、ATL、カーブ、A.B.S、スピード、ブレーキ、ニュートラルブレーキおよびアクセレーション機能
- マスターチャンネルのミキシングに EXP, VTR を設定できます。

スレーブチャンネル側の動作

スレーブチャンネル側の操作またはトリムに、マスターチャンネル側からの動作が足された動作となります。

スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合

スロットルモードを 100 : 0 を設定した場合、ブレーキ側の動作は停止していますので、マスターチャンネルをスロットルに設定すると、ミキシングは前進側のみ動作します。ブレーキ側は動作しません。

プログラムミキシング画面は、次の方法で表示します。



ミキシング機能は、Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。



プログラムミキシングの調整方法

(準備)

- プログラムミキシングをスイッチで ON/OFF する場合は、[スイッチ設定機能](#) (セットアップメニュー) でスイッチを設定します。
- プログラムミキシング画面から使用する **[プログラムミキシング1]** ~ **[プログラムミキシング5]** をジョグキーで選択して押し設定画面に移動します。

1 (プログラムミキシング機能の ON/OFF)

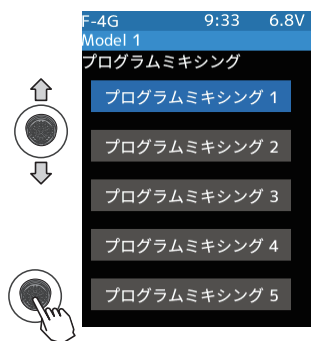
ジョグキーを左右に操作して、ページ 2 に移動します。

ミキシングの **ON(●)** または **(●)OFF** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。

"(●)OFF" : 機能 OFF
 "ON(●)" : 機能が ON の状態

設定

- ジョグキーで選択し押す



設定

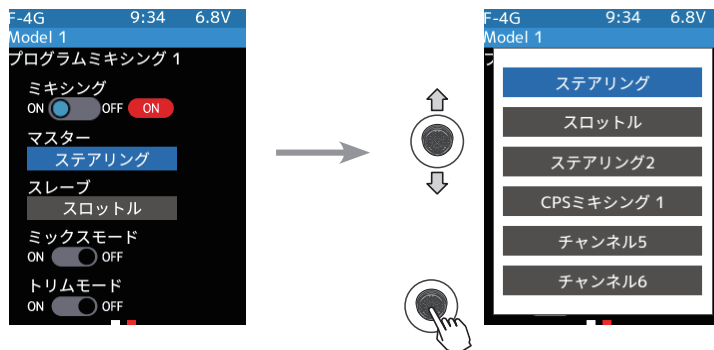
- ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。



スイッチ (機能) が ON の場合表示します。

2 (マスター/スレーブチャンネルの設定)

ミキシングをかける側の **[マスター]** または、ミキシングを受ける側の **[スレーブ]** チャンネルをジョグキーで選択、押すとチャンネルリストのポップアップ画面が表示しますので、リストからジョグキーで選択して押します。



チャンネルの選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択し押す。

選択システムによりチャンネル数は異なります。

3 (ミックスモードの設定)

ミックスモードの **ON(●)** または **(●)OFF** をジョグキーで選択して押し、ON/OFF を選びます。

"OFF" : マスターチャンネルの EXP 機能などをミックスしません。
 "ON" : マスターチャンネルの EXP 機能などをミックスします。



ミックスモードの設定

OFF, ON
初期値 : OFF

4 (トリムモードの設定)

トリムモードの **ON(●)** または **(●)OFF** をジョグキーで選択して押し、ON/OFF を選びます。

"OFF" : マスターチャンネルのトリムデータは含みません。
 "ON" : マスターチャンネルのトリムデータを含みます。



トリムモードの設定

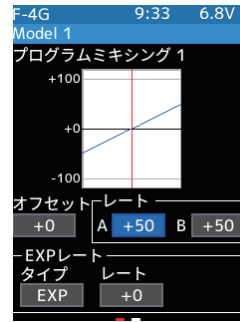
OFF, ON
初期値 : OFF



5 (左/前進/A側ミキシングレートの調整)

ジョグキーを左右に動かしてページ1へ移動します。

[レート]枠内のA側の設定値を選択し[+] [-] ボタンで、A側のミキシング量を調整します。



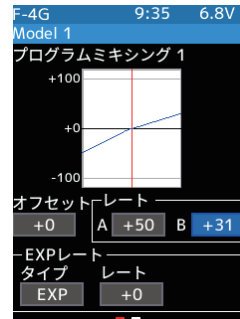
ミキシング量
-120 ~ +50 ~ +120
初期値: +50

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

6 (右/ブレーキ/B側ミキシングレートの調整)

[レート]枠内のB側の設定値を選択し[+] [-] ボタンで、B側のミキシング量を調整します。



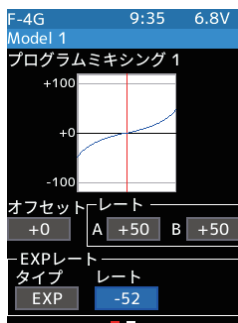
ミキシング量
-120 ~ +50 ~ +120
初期値: +50

調整

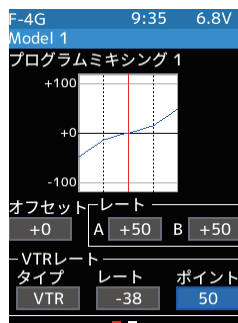
- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

7 (ミキシングカーブの調整)

マスターチャンネルからスレーブチャンネルにEXP / VTR ミキシングが設定できます。



EXP



VTR

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

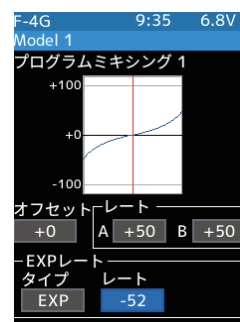
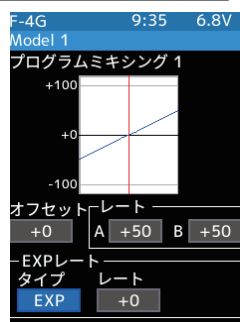
トリム/ダイヤル設定 (セットアップメニュー) を使ってミキシングレートを、ダイヤルDL1やデジタルトリムDT1 ~ DT6などでコントロールすることができます。

EXP カーブの調整方法

(準備)

- ・タイプをジョグキーで選択して押し、**[EXP]** を選びます。

[EXPレート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で**[+][-]** ボタンを押して調整します。スレーブサーボ動作をクイックにしたい場合は+側へ、マイルドにしたい場合は、-側に調整します。



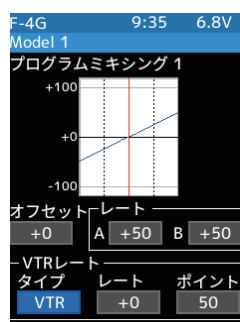
レート調整
 ● [+][-] を押す
 ● [+][-] 同時押しでリセット
調整範囲
 -100 ~ +0 ~ +100
 初期値: +0

VTR カーブの調整方法

(準備)

- ・タイプをジョグキーで選択して押し、**[VTR]** を選びます。

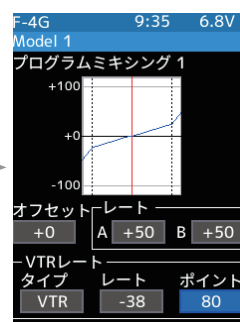
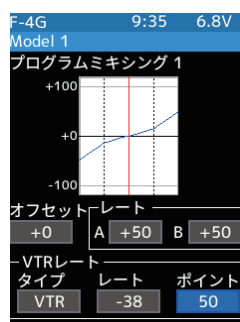
[VTRレート設定値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で**[+][-]** ボタンを押して調整します。スレーブサーボ動作をクイックにしたい場合は+側へ、マイルドにしたい場合は、-側に調整します。



調整
 ● [+][-] を押す
 ● [+][-] 同時押しでリセット
レート調整範囲
 -100 ~ +0 ~ +100
 初期値: +0

(カーブの切り替わりポイントの調整)

カーブの切り替わりポイントを変更したい場合は**[ポイント設定値]** をジョグキーで選択、**[+][-]** ボタンで、設定したいポイントに移動します。



ポイント調整範囲
 1 ~ 99
 初期値: 50

- 終了する場合は、**END ボタン** を2回押してミキシングメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。



ウインチミキシング

このミキシング機能は、任意のトリム / ダイヤルでウインチを制御します。トリム設定の場合はトリムレバーで ON にしたとき、またはトリムレバーが押された状態ときのみ、デバイスを動作させ、トリムレバーを離すと動きが止まります。

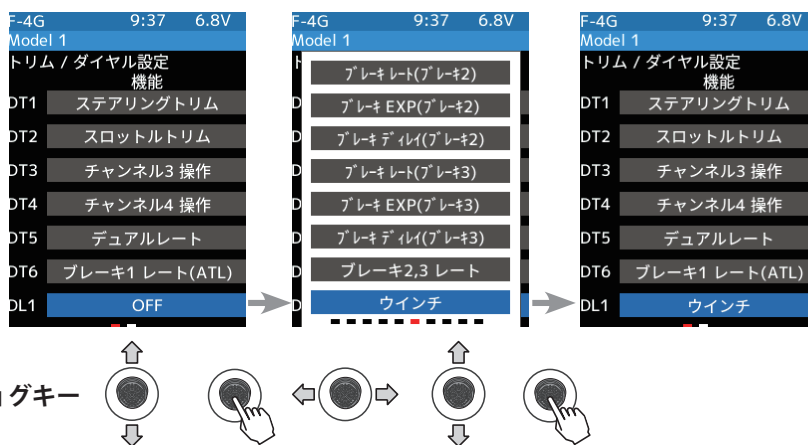
ウインチミキシングはウインチを使用し、スロットルからウインチ、ウインチからスロットルの双方向ミキシングを行うことで、車体とウインチを1つのコントロールで同時に作動させることができます。



ウインチミキシングの調整方法

(準備)

- ・ トリム / ダイヤル設定 (セットアップメニュー) で、ダイヤル DL1 または、デジタルトリム DT1 ~ DT6 のどれかを "**ウインチ**" に設定してください。



1 (ウインチミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンを押します。

- "(●)OFF": 機能 OFF
- "ON(●)": 機能が ON の状態



設定

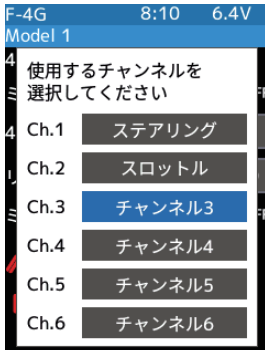
●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで変更。



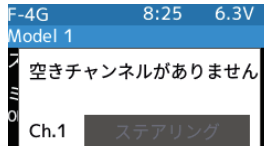
2 (使用チャンネルの設定)

ウインチに使用するチャンネルを設定する画面が表示されます。ウインチを接続した Ch.3 / 4 または、その他の空きチャンネルをジョグキーで選択して押します。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面が表示されますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。セットアップメニュー→チャンネル設定画面で使用しているミキシングが確認できます。



選択システムによりチャンネル数は異なります。



空きチャンネルがない場合 END ボタンを押し他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

チャンネルの選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択。

3 (イン/アウトレート調整)

【インレート値】／【アウトレート値】をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で【+】【-】ボタンを押し、ウインチの正転/逆転の各々の動作量を調整します。



イン/アウト：ウインチ動作量
0 ~ 100
初期値：100

調整

- 【+】か【-】を押す
- 【+】 【-】 同時押しでリセット

4 (スロットル→ウインチミックスレートの調整)

【スロットル→ウインチ設定値】をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で【+】【-】ボタンを押し、スロットルからウインチへのミキシング量を調整します。

- スロットル→ウインチミキシング動作は、【イン】／【アウト】で設定したウインチの動作量の範囲を超えません。



ミキシング量
-100 ~ +100
初期値：+0

調整

- 【+】か【-】を押す
- 【+】 【-】 同時押しでリセット

5 (ウインチ→スロットルミックスレートの調整)

【ウインチ→スロットル設定値】をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で【+】【-】ボタンを押し、ウインチからスロットルのミキシング量を調整します。



ミキシング量
-100 ~ +100
初期値：+0

調整

- 【+】か【-】を押す
- 【+】 【-】 同時押しでリセット

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

[トリム/ダイヤル設定](#) (セットアップメニュー) を使ってミキシングレートを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などコントロールすることができます。



テレメトリーシステム

テレメトリーシステムは、車体に各種センサーユニットを搭載することにより走行中の状態を送信機に表示することができ、ログデータとして記録することもできます。(S-FHSSシステムに、テレメトリー機能はありません。)

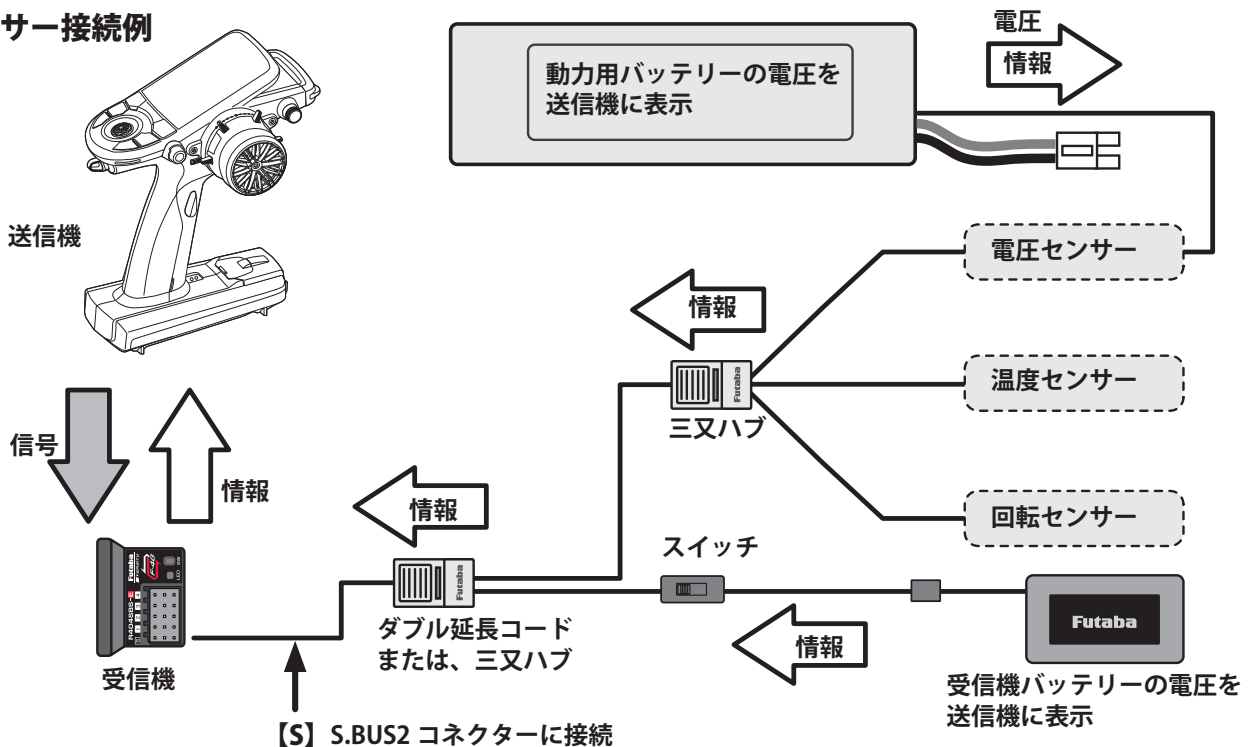
- 各種別売のテレメトリーセンサーを R404SBS の **【S】** (S.BUS2) コネクタに接続することにより、センサーの情報を送信機で確認することができます。
- テレメトリーの情報をログデータとして市販の microSD カードに記録できます。ログを実行するためには、セットアップメニュー→スイッチ設定でスタート/ストップのスイッチを設定します。

microSD カードに記録したログデータは、Futaba ホームページで公開しているテレメトリーログコンバーターで、CSV 形式に変換することができます。ログファイルをコピーまたは移動する場合は、必ず .FLI と .FLD ファイルの両方をジョグキーで選択して押しください。

- 図はテレメトリーセンサーの接続例です。別売の三又コードやダブル延長コードを使用します。受信機電源は **【S】** S.BUS2 コネクタまたは、Ch.1～4 のどこに接続しても使用できます。

受信機電源電圧用のセンサーは必要ありません。

センサー接続例



●使用できるセンサーオプション (2025年1月現在)

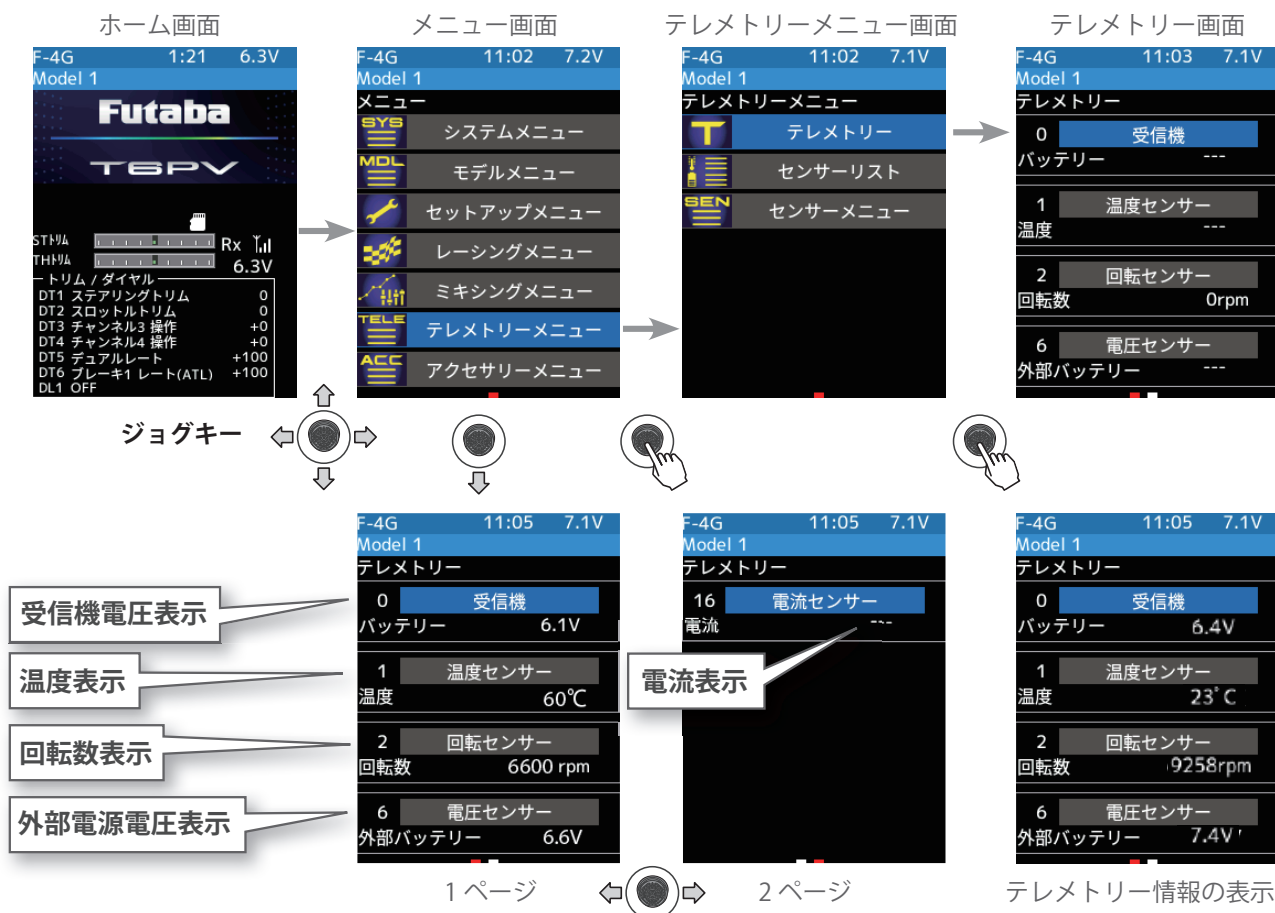
- *温度センサー (SBS-01T) エンジンヘッド等に最適です。-20～200℃の範囲で測定できます。
- *温度センサー (SBS-01TE) モーター等に張り付けて使用します。0～125℃の範囲で測定できます。
- *磁気回転センサー (SBS-01RM) 回転数 360～100,000rpm の範囲で測定できます。
- *ブラシレス回転センサー (SBS-01RB) 回転数 360～300,000rpm の範囲で測定できます。
- *電圧センサー (SBS-01V) 100V までの外部電源の電圧が計れます。
- *電流センサー (SBS-01C) 外部電源の 70V までの電圧と 150A までの電流および消費容量が計れます。

T テレメトリー

テレメトリー機能を使用するために受信機設定画面でテレメトリーを ON にする必要があります。受信機からの各種情報を表示、設定する画面です。各情報に応じてアラームを起動することができます。例えば車体に積まれた受信機バッテリーの電圧が低下したことを送信機でアラーム警告することができます。各テレメトリーの画面で設定します。

テレメトリーの各情報は、最後に受信した情報を記憶します。そのため、受信機の電源を OFF にしても、情報の表示、警告アラームは送信機の電源を OFF にするまで続きます。

テレメトリー画面は、次の方法で表示します。



テレメトリーの使用方法

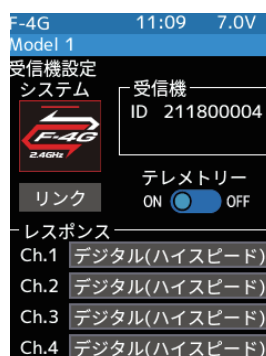
(準備)

- 使用するセンサーを受信機の S.BUS2(S) ポートに接続します。

1 (テレメトリー ON)

セットアップメニュー→受信機設定画面でテレメトリーをジョグキーで選択し [+] [-] ボタンで ON にします。

テレメトリー情報の表示ができるようになります。



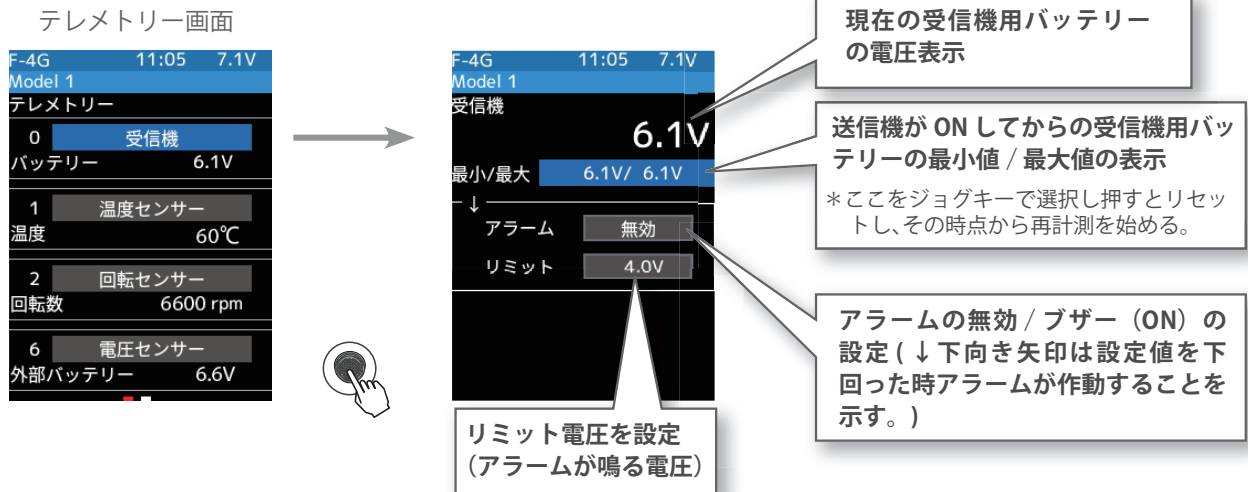
設定

●ON(●) / (●)OFF をジョグキーで選択し [+] [-] ボタンで変更。

- 終了する場合は、END ボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

テレメトリー：受信機電圧

受信機の電源バッテリーの表示／設定です。別売センサーの取り付けは不要で、送信機も初期状態で電圧表示されます。電圧低下時のアラーム設定はこのページの手順を参照ください。



アラーム／の設定方法

1 (アラームの設定)

アラームの **[無効]** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンを押し設定します。

"無効": 警告音はしません

"ブザー": アラーム音で知らせます

設定

- [ブザー]/[無効] をジョグキーで選択し [+][-] ボタンで設定

2 (リミットの設定)

[リミット] をジョグキーで選択、設定値の表示が青くなった状態で **[+][-]** ボタンを押し、リミット電圧を設定します。

調整

- [+]か[-]を押す
- [+] [-] 同時押しでリセット

3 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押ししてホーム画面に戻ります。

テレメトリー：外部電圧

外部電圧は、受信機用バッテリーとは別に車体に積まれたバッテリー（動力用バッテリー、サーボ用別電源バッテリーなど）の電圧を、送信機に表示できます。受信機の S.BUS2 コネクタを使用し SBS-01V とバッテリーを接続します。

- 必ず別売の SBS-01V を使用してください。搭載／接続／使用方法は SBS-01V の説明書にしたがってください。（はんだ付け作業が必要です。）

テレメトリー画面

現在の受信機用バッテリーの電圧表示

送信機が ON してからの外部バッテリーの最小値 / 最大値の表示
*ここをジョグキーで選択し押しとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↓下向き矢印は設定値を下回った時アラームが作動することを示す。)

リミット電圧を設定 (アラームが鳴る電圧)

アラーム／の設定方法

1 (アラームの設定)

アラームの **[無効]** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンを押し設定します。

- "無効": 警告音はしません
- "ブザー": アラーム音で知らせます

設定

- **[ブザー]/[無効]** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンで設定

2 (リミットの設定)

[リミット] をジョグキーで選択、設定値の表示が青くなった状態で **[+][-]** ボタンを押し、リミット電圧を設定します。

調整

- **[+]か[-]** を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

3 終了する場合は、**END ボタン** を押し、テレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

テレメトリー：回転数

回転数は別売の SBS-01RM（テレメトリー回転センサー）からの回転数情報を表示／設定する画面です。走行中の車体のエンジンやモーターなどの回転数を送信機で見ることができます。設定回転数より高くなるとアラームで知らせることができます。

●別売の回転センサーが必要です。搭載／接続／使用方法はセンサーの説明書にしたがってください。

テレメトリー画面

現在の回転数表示

送信機が ON してからの最高回転数の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↑上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。)

減速比を設定
ギヤダウンしている場所の減速比

リミット上限回転数を設定
(アラームが鳴る回転数)

アラーム／の設定方法

1 (アラームの設定)

アラームの **[無効]** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンを押して設定します。

"無効": 警告音はしません
"ブザー": アラーム音で知らせます

設定

- **[ブザー]/[無効]** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンで設定

2 (リミットの設定)

[リミット] をジョグキーで選択、設定値の表示が青くなった状態で **[+][-]** ボタンを押して、リミット回転数を設定します。

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

3 (減速比の設定)

[減速比] をジョグキーで選択、設定値の表示が青くなった状態で **[+][-]** ボタンを押して、減速比を設定します。

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

4 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

テレメトリー：温度

温度は別売のSBS-01T（テレメトリー温度センサー）からの温度情報を表示／設定する画面です。走行中の車体のエンジンやモーター、ESCなどの温度を送信機で見ることができます。設定温度より高く（低く）なるとアラームで知らせることができます。

●別売の温度センサーが必要です。搭載／接続／使用方法はセンサーの説明書にしたがってください。

テレメトリー画面

現在の温度表示

送信機がONしてからの最小／最高温度の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効／ブザー（ON）の設定（↑上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。）

アラームの無効／ブザー（ON）の設定（↓下向き矢印は設定値を下回った時アラームが作動することを示す。）

リミット上限／下限温度を設定（アラームが鳴る温度）

アラーム／の設定方法

1 (アラームの設定)

アラームの **[無効]** をジョグキーで選択し **[+][−]** ボタンを押し設定します。

"無効": 警告音はしません
"ブザー": アラーム音で知らせます

設定

- [ブザー]/[無効] をジョグキーで選択し [+][−] ボタンで設定

2 (リミットの設定)

[リミット] をジョグキーで選択、設定値の表示が青くなった状態で **[+][−]** ボタンを押し、リミット温度を設定します。

調整

- [+][−] を押す
- [+][−] 同時押しでリセット

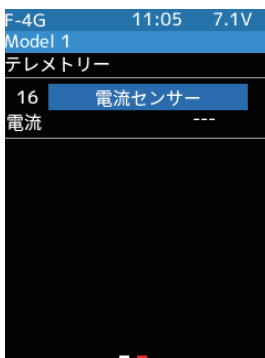
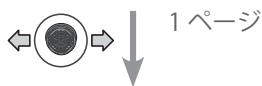
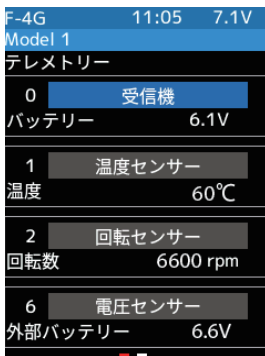
3 終了する場合は、**END ボタン** を押し、テレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

テレメトリー：電流

別売のSBS-01C（テレメトリー電流センサー）を車体に搭載すると、動力用バッテリーなどの電流・電圧・消費容量を送信機で見ることができます。設定電流より高く（低く）なるとアラームで知らせることができます。

●別売の電流センサーが必要です。搭載／接続／使用方法はセンサーの説明書にしたがってください。

テレメトリー画面



●上段：
現在の電流 / 電圧 / 消費容量表示
●下段：
送信機が ON してからの測定電流 / 電圧 / 消費容量の最低値 / 最高値の表示
*最低値/最高値の表示をジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

電流 設定

現在の測定電流表示

送信機が ON してからの測定電流の最小値 / 最大値の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↑ 上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。)

積算容量のリセット

リミット電流を設定 (アラームが鳴る電流)

電圧 設定

現在のバッテリーの電圧表示

送信機が ON してからのバッテリー電圧最小値 / 最大値の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時アラームが作動することを示す。)

積算容量のリセット

リミット電圧を設定 (アラームが鳴る電圧)

消費容量 設定

現在の消費容量表示

送信機が ON してからの測定消費容量の最小値 / 最大値の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時アラームが作動することを示す。)

積算容量のリセット

リミット容量を設定 (アラームが鳴る容量)

アラーム／の設定方法

1 (アラームの設定)

[アラーム] をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンでブザーを選びます。

"無効": 警告音はしません
"ブザー": アラーム音で知らせます

アラーム
無効 (OFF), ブザー (ON)
設定
● [ブザー]/[無効]
を [+][-] ボタンで設定。

2 (リミットの設定)

[リミット] をジョグキーで選択、設定値の表示が青くなった状態で **[+][-]** ボタンを押し上限と下限のリミット電流／電圧／消費容量を設定します。

調整
● [+][-] を押す
● [+][-] 同時押しでリセット

3 終了する場合は、**END ボタン** を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン** を長押しでホーム画面に戻ります。

消費容量表示のリセット方法

SBS-01C で測定した消費容量は SBS-01C のリセットボタンを押さない限り保持され、画面に "積算容量" として表示されます。一走行ごとの消費容量を測定するような場合は、送信機側の消費容量表示を次の操作でリセットすることができます。ただし、送信機の表示をリセットする機能で、SBS-01C 本体の積算容量の記録はリセットできません。

1 (リセット操作)

電流／電圧／消費容量のどの画面でも構いませんので、**[積算容量リセット]** をジョグキーで選択して押します。消費容量表示が 0 にリセットされます。その後、再度リセットを行うまで、消費容量の再計測を始めます。また、SBS-01C のリセットボタンを押して、消費容量をリセットすると、送信機側の消費容量表示もリセットします。



送信機側でのリセット操作は、T6PV の積算容量表示をリセットする機能で、SBS-01C 本体の積算値をリセットするものではありません。SBS-01C の消費容量測定範囲は最大 32767mAh です。これを超えた場合、送信機の消費容量表示も自動的にリセットされます。タイミングによっては計測中にリセットされてしまう場合がありますので、積算容量の表示が 32767mAh になる前に、SBS-01C 側の積算をリセットしてください。

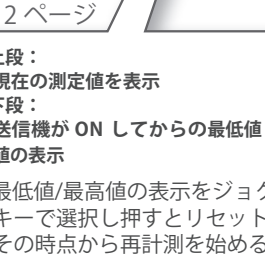
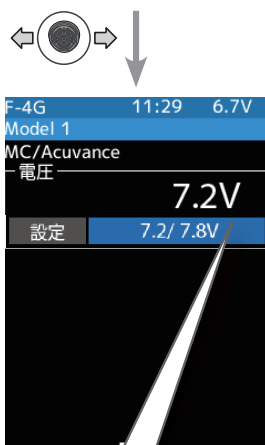
テレメトリー：MC/Acuvance

MC971CR/Acuvance 対応 ESC の●回転数／●ESC 内部温度／●モーター温度*／●バッテリー電圧を表示することができます。

*モーター温度測定機能に対応しているモーターは、(株)アキュヴァンス製の「LUXON AGILE」シリーズです。その他のモーターを接続した場合はモーター温度測定は保証外となります。

●テレメトリーで表示するには、MC971CR 側を【MC リンクモード】にします。【ESC モード】では表示できません。

テレメトリー画面



●上段：
現在の測定値を表示
●下段：
送信機が ON してからの最低値 / 最高値の表示
*最低値/最高値の表示をジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

内部温度

設定

現在の温度表示

送信機が ON してからの最小 / 最高温度の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↑ 上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。)

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時アラームが作動することを示す。)

リミット上限 / 下限温度を設定 (アラームが鳴る温度)

回転数

設定

現在の回転数表示

送信機が ON してからの最高回転数の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↑ 上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。)

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時アラームが作動することを示す。)

リミット上限回転数を設定 (アラームが鳴る回転数)

モーター温度

設定

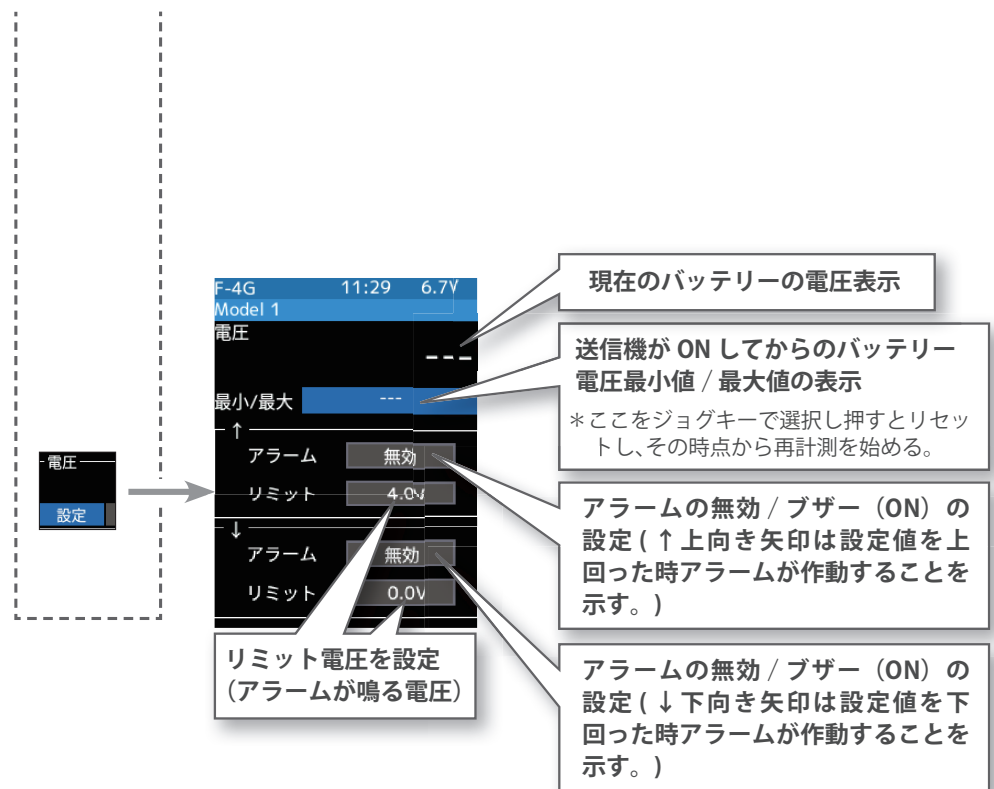
現在の温度表示

送信機が ON してからの最小 / 最高温度の表示
*ここをジョグキーで選択し押すとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↑ 上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。)

アラームの無効 / ブザー (ON) の設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時アラームが作動することを示す。)

リミット上限 / 下限温度を設定 (アラームが鳴る温度)



アラーム／の設定方法

1 (アラームの設定)

[アラーム] をジョグキーで選択し [+][-] ボタンでブザーを選びます。

"無効": 警告音はしません
"ブザー": アラーム音で知らせます

アラーム
無効 (OFF), ブザー (ON)
設定
● [ブザー]/[無効]
を [+][-] ボタンで設定。

2 (リミットの設定)

[リミット] をジョグキーで選択、設定値の表示が青くなった状態で [+][-] ボタンを押し上限と下限の内部温度 / 回転数 / モーター温度を設定します。

調整
● [+]か[-]を押す
● [+] [-] 同時押しでリセット

3 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。



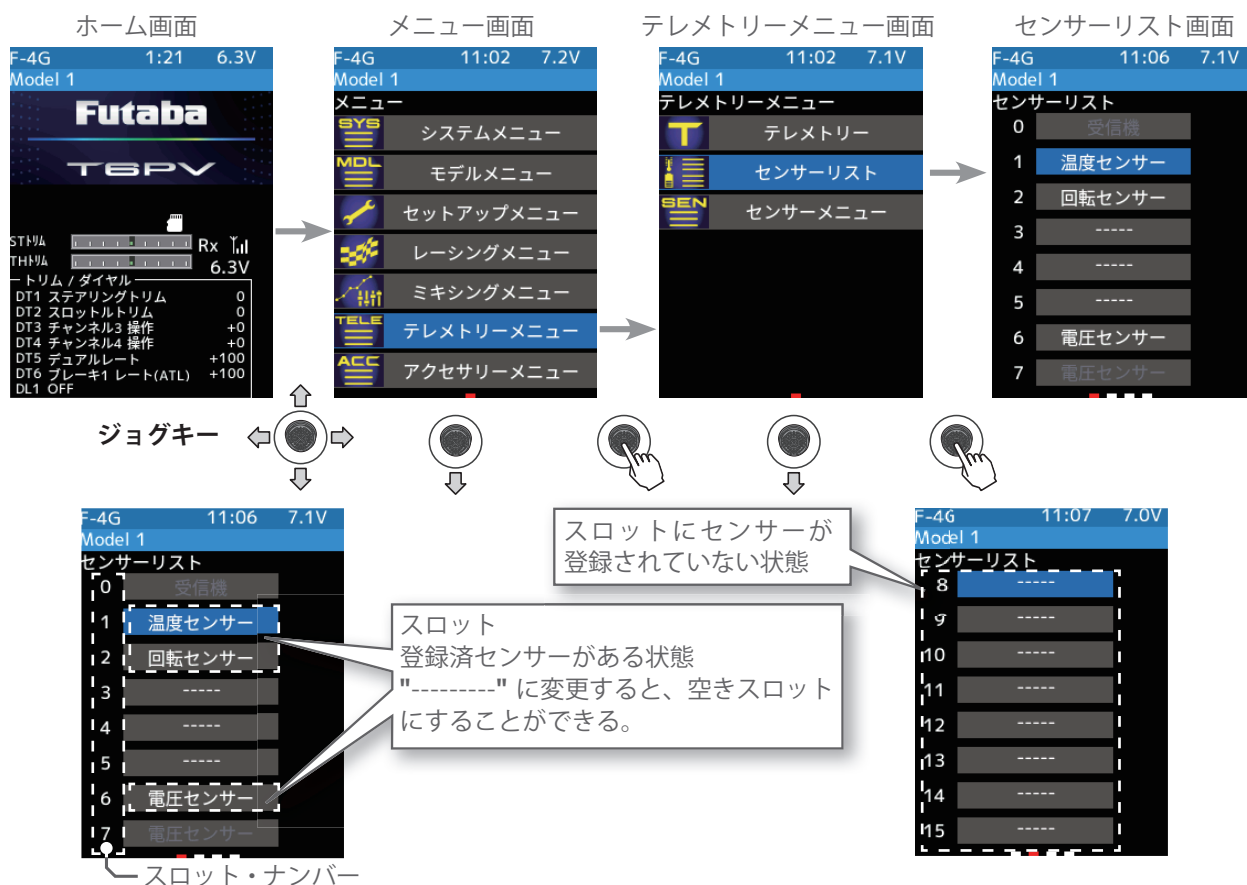
センサーリスト

この画面は、テレメトリーセンサーをご使用の送信機に登録することができます。初期設定の各センサーを各種1個ずつ使用する場合ここでの設定は不要で、購入されたセンサーを受信機のS.BUS2ポートに接続するだけで使用できます。同じ種類のセンサーを複数使用する場合そのセンサーの送信機への登録が必要となります。

スロットとは？

サーボはCHで分けられますが、センサーは「スロット」という単位で分けられます。各センサーにはあらかじめT6PVの初期値スロット・ナンバーが設定されていますので接続すればそのまま使用できます。NO.1 から No.31 までのスロットがあります。センサーの初期設定では同じ種類のセンサーは、同じスロット・ナンバーが設定されています。そのため、同じ種類のセンサーを複数使用する場合は、センサーメニューでセンサーの登録をする必要があります。

センサーリスト画面は、次の方法で表示します。



割当て可能スロットについて

下表のように電流計は連続する3スロットが必要です。

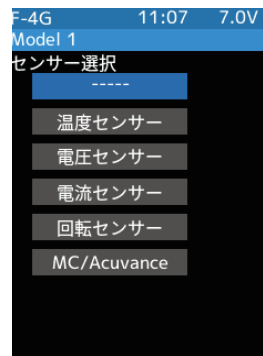
センサー	必要スロット数	割当て可能な開始スロット
温度計 (SBS-01T)	1 個	1 ~ 31
回転計 (SBS01RM)	1 個	1 ~ 31
電圧計 (SBS-01V)	2 個	1,2,3,4,5,6,8,9,10,11,12,13,14,16,17,18,19,20,21,22,24,25,26,27,28,29,30
電流計 (SBS-01C)	3 個	1,2,3,4,5,8,9,10,11,12,13,16,17,18,19,20,21,24,25,26,27,28,29
MC, Acuvance	7 個	1,8, 9, 16, 17, 24, 25



スタートスロットの変更と空きスロットの設定方法

1 (スタートスロットの選択)

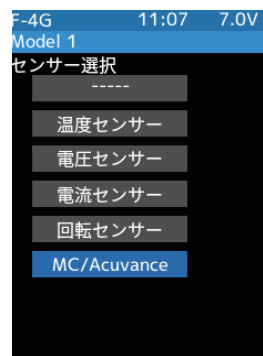
[スロット]をジョグキーで選択し押すと、スタートスロットに登録できるセンサーの**センサー選択画面**が表示されます。変更できないセンサーは表示されません。



スタートスロットの選択
●スロットをジョグキーで選択。

2 (センサーの選択)

センサーのリストから、スタートスロットに登録するセンサーをジョグキーで選択して押します。空きスロットに設定する場合は [-----] をジョグキーで選択して押します。これで変更は完了です。



センサーの選択
●センサーをジョグキーで選択。

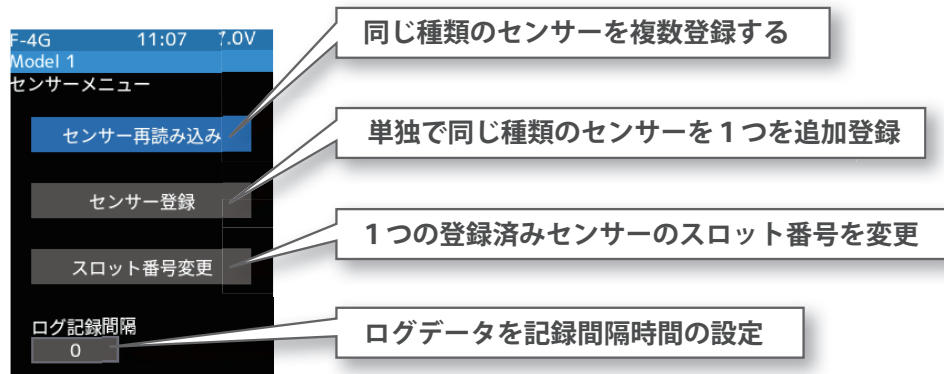
3 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

センサーメニュー

このメニューで、ホーム画面にテレメトリーメーターを表示できます。

また、テレメトリーセンサーをご使用の送信機に登録することができます。初期設定のセンサーを各種1個ずつ使用する場合は、ここでの設定は不要です。購入されたセンサーを受信機のS.BUS2ポートに接続するだけで使用できます。同じ種類のセンサー、例えば温度センサーをバッテリーと、モーターの両方に使用するなど複数使用する場合、そのセンサーを送信機に登録する必要があります。

センサーメニュー画面は、次の方法で表示します。

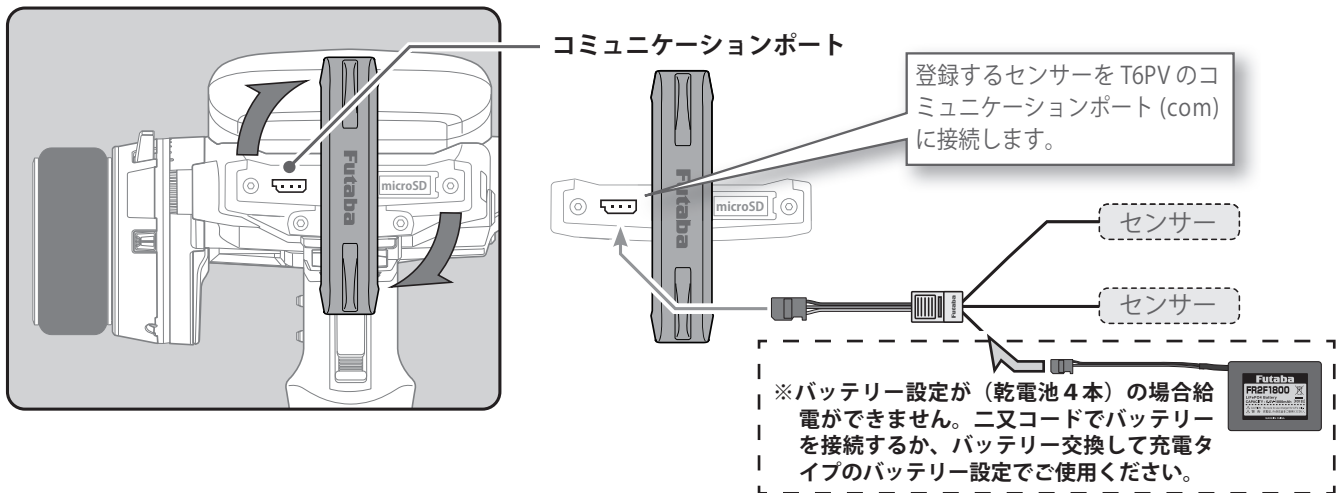


センサー再読み込み

同じ種類のセンサーを複数使用する場合、センサーを送信機に登録する必要があります。それぞれのセンサー ID が送信機に登録されます。

●センサーの再読み込みは、下図のように使用するセンサーをすべて、T6PV のコミュニケーションポートに接続します。電源は必要ありません。また、センサーの登録をすべてクリアしたい場合は、センサーを接続しないで、この再読み込みを実行します。登録がクリアされ、センサーリストのスロットが、すべて未登録の状態になります。

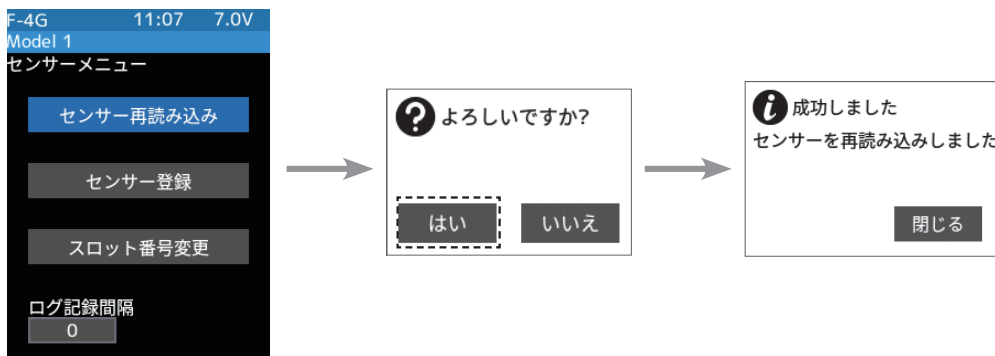
T6PV とセンサーの接続図



センサー再読み込み

1 (再読み込み)

[センサー再読み込み] をジョグキーで選択して押します。「よろしいですか」と確認メッセージが表示されますので、実行する場合は [はい] が選択された状態でジョグキーを押します。キャンセルする場合は [いいえ] をジョグキーで選択して押します。「成功しました」とメッセージが表示されると、再読み込みが完了です。

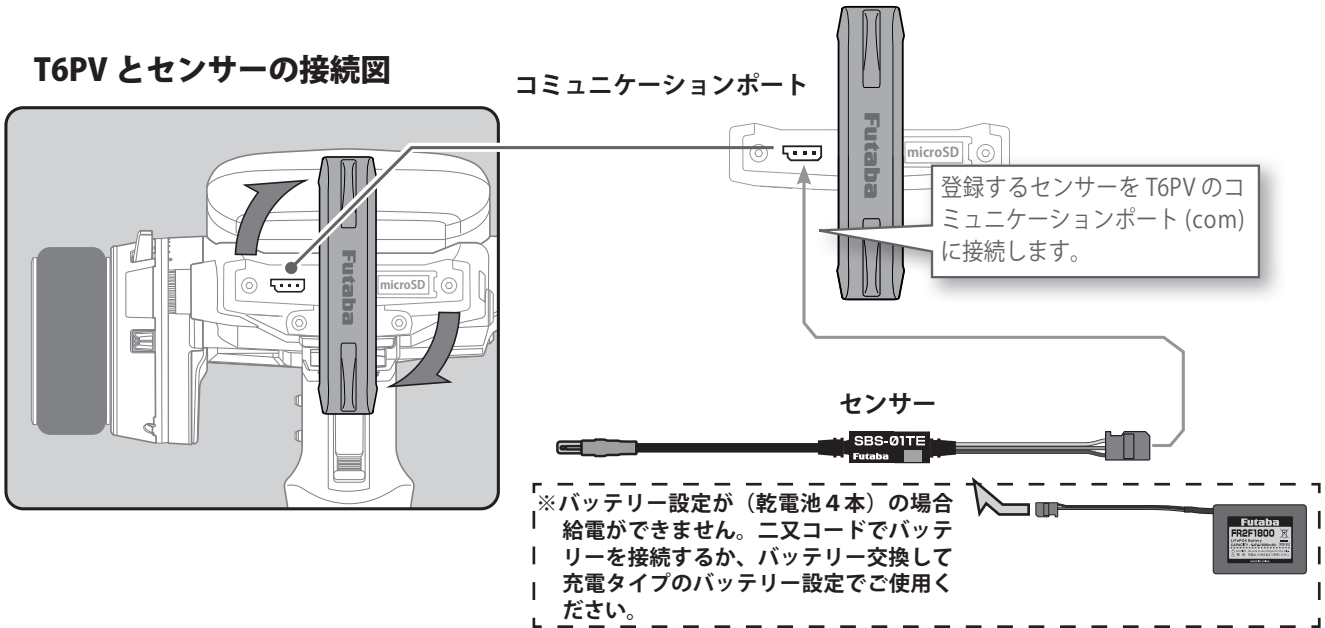


2 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

センサー登録

単独で同じ種類のテレメトリーセンサー1つを追加登録する機能です。下図のようにセンサーを接続して次の手順で登録します。センサーIDが送信機に登録されます。

T6PV とセンサーの接続図

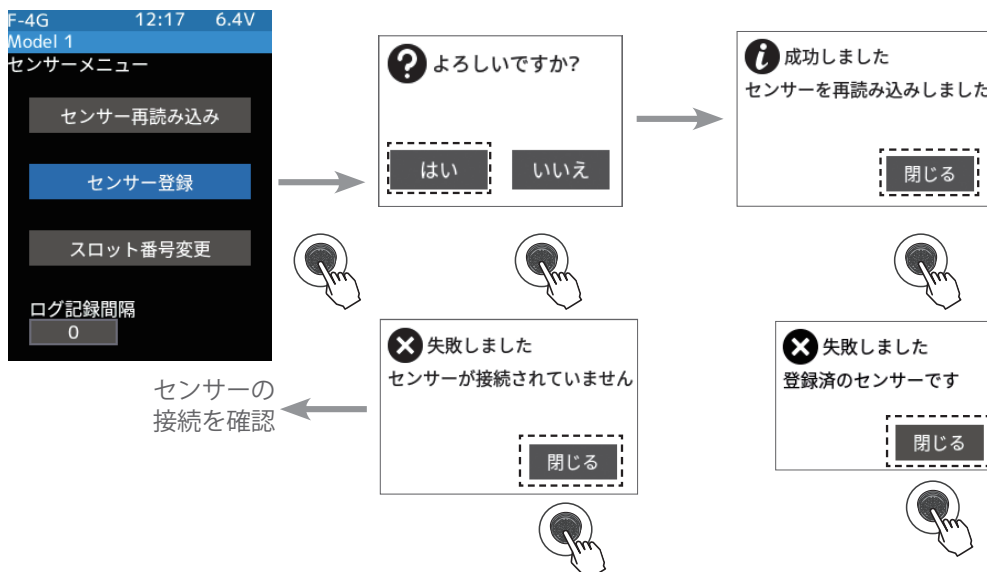


センサー登録

1 (登録)

[センサー登録] をジョグキーで選択して押します。「よろしいですか」と確認メッセージが表示されますので、実行する場合は [はい]。キャンセルする場合は [いいえ] をジョグキーで選択して押します。「成功しました」とメッセージが表示されると、登録が完了です。すでに登録済みのセンサーを登録しようとすると、「失敗しました 登録済みのセンサーです」とメッセージが表示されます。

「失敗しました センサーが接続されていません」というメッセージが表示された場合、センサーの接続を確認してください。確実に接続されている場合は、センサーまたは、送信機の故障が考えられます。



2 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

スロット番号変更

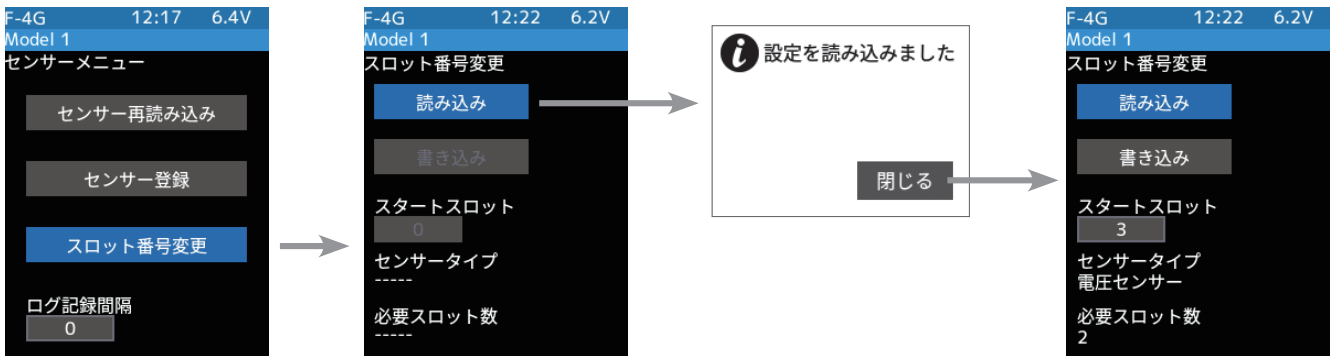
1つの登録済みセンサーに記憶されている、スタートスロット・ナンバーを変更するメニューです。送信機のコミュニケーションポートにセンサーを接続して次の手順で変更します。センサーのスロット・ナンバーが変更されます。

センサーのスロット No. 変更

1 (変更)

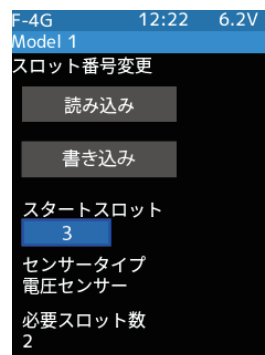
[**スロット番号変更**] をジョグキーで選択して押します。センサー詳細画面が表示されます。

[**読み込み**] をジョグキーで選択して押します。「**設定を読み込みました**」とメッセージが表示され、現在のセンサー情報が表示されます。



2 (ナンバーの設定)

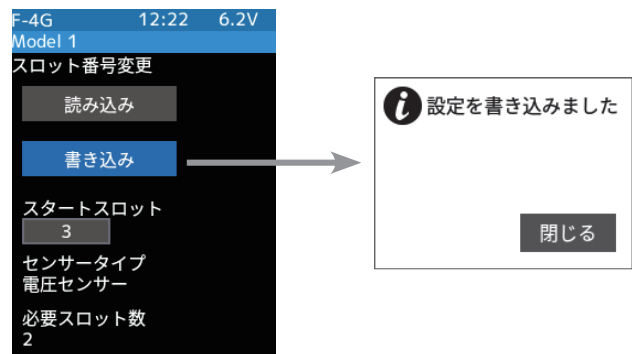
[**スタートスロット**] をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で [**+**] [**-**] ボタンを押し、新しいスタートスロット・ナンバーを設定します。



調整

●ジョグキーで選択し [+][-] ボタンで設定。

3 [**書き込み**] をジョグキーで選択して押します。「**設定を書き込みました**」とメッセージが表示されると、番号の変更が完了です。



4 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

ログデータ間隔の設定

ログデータを記録する間隔を設定できます。

間隔時間の設定

1 (ログ記録間隔時間の設定)

[ログ記録間隔]をジョグキーで選択して設定値が青く表示された状態で[+][-]ボタンを押し、時間を設定します。



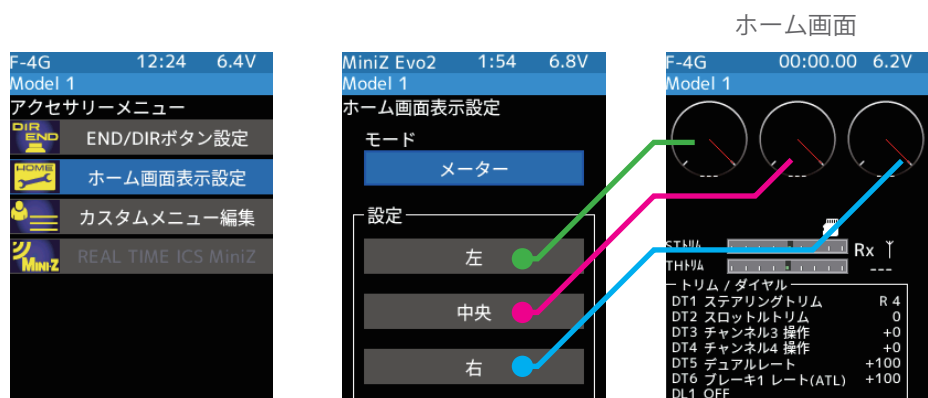
記録間隔
0 ~ 30/秒
初期値：0

調整
● [+][-]を押し
● [+][-] 同時押しでリセット

2 終了する場合は、**END ボタン**を押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押ししてホーム画面に戻ります。

ホーム画面にテレメトリーメーターの表示

アクセサリメニューのホーム画面表示設定でホーム画面にテレメトリー情報を確認できる、グラフィックメーターを表示できます。



[ホーム画面表示設定]画面で、モードを[メーター]に変更します。

3個のメーターがホーム画面に表示されます。設定を変更するメーターを選択してジョグキーを押します。

ホーム画面に表示されるメーターは、白い指針が最大値を示し、赤い指針は現在の値を示します。



タイマー

アップタイマー、フューエルダウンタイマー、ラップタイマーおよびラップナビゲートタイマーの4種類のタイマーから1つを選んで使用します。

アップタイマー

アップタイマーの機能について

- スタート～ストップ間の時間の計測等に使用できます。
- スイッチを押すたびにスタート、ストップを繰り返し、各スタート～ストップ間の時間が積算されます。(99分59秒までカウントすると00分00秒にもどりカウントを繰り返します)
- スロットルトリガーで、最初のスタート操作をさせることができます。
- アラーム音を設定できます。その他、スタートしてから1分ごとにブザー(「ピー」音)を鳴らして時間の経過を知らせます。
 - * アラーム：設定した時間(分)に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より10秒前に鳴り始めます。(ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ)
- スタート後、他の画面に切り替えてもタイマーはカウントを続け、スイッチでストップできます。



フューエルダウンタイマー

フューエルダウンタイマーの機能について

- おもにエンジンカーの給油時間の確認に使用します。(残り時間を表示)
- スイッチを押すたびにリスタートを繰り返し、設定時間がリセットされます。スタート時間はアラーム設定時間となります。(00分00秒までカウントすると以降アップタイマーの動作となります)
- スロットルトリガーで、最初のスタート操作をさせることができます。
- アラーム音を設定できます。その他、スタートしてから1分ごとにブザー(「ピー」音)を鳴らして時間の経過を知らせます。
 - * アラーム：設定した時間(分)に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より10秒前に鳴り始めます。(ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ)
- スタート後、他の画面に切り替えてもタイマーはカウントを続けます。



ラップタイマー

ラップタイマーの機能について

- スイッチ操作で各ラップタイムを記憶できます。(200 周分)
- レース時間を設定できます。アラームで設定した時間が経過した後のスイッチ操作でタイマーが自動的にストップします。プリアラームの設定もできます。その他、スタートしてから1分ごとにブザー(「ピー」音)を鳴らして時間の経過を知らせます。
 - * アラーム：設定した時間に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より10秒前に鳴り始めます。(ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ)
- スロットルトリガーで、最初のスタート操作をさせることができます。



(ラップタイマーの動作)

- ラップタイマーをジョグキーで選択すると、設定画面上には周回数(ラップ)と現在の周回時間が表示されます。
- * 周回数(ラップ)：スタート後、スイッチを押すたびにカウントアップされます。また、スイッチを押した後ラップタイム表示が3秒間停止します。この間は誤カウントを防止するためスイッチを受け付けません。
- * ラップメモリー：各周回時間はラップメモリーに200ラップ記憶されます。
- * ラップメモリーに記憶された周回時間のデータはラップリストの画面で確認できます。

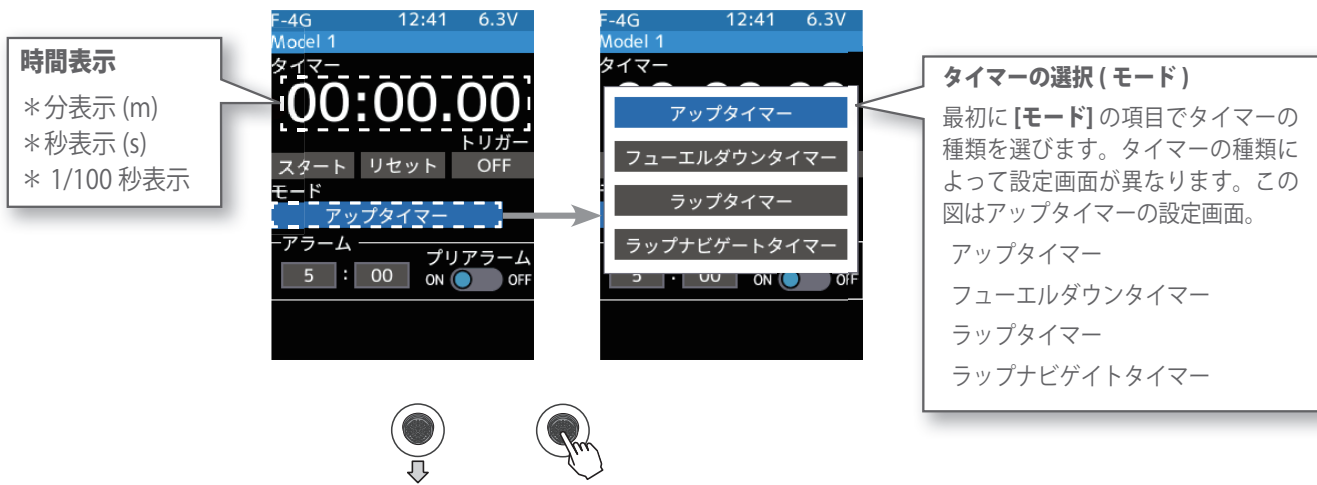
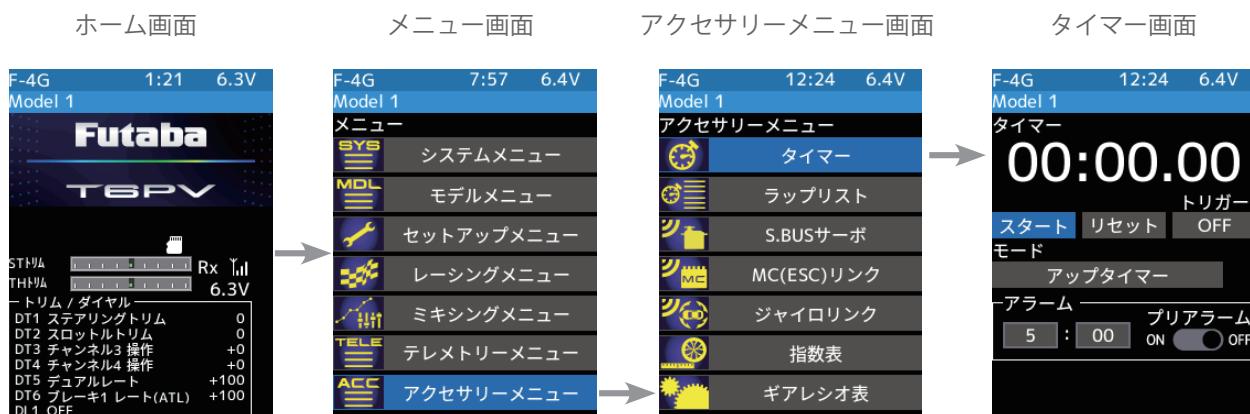
ラップナビゲートタイマー

ラップナビゲートタイマーの機能について

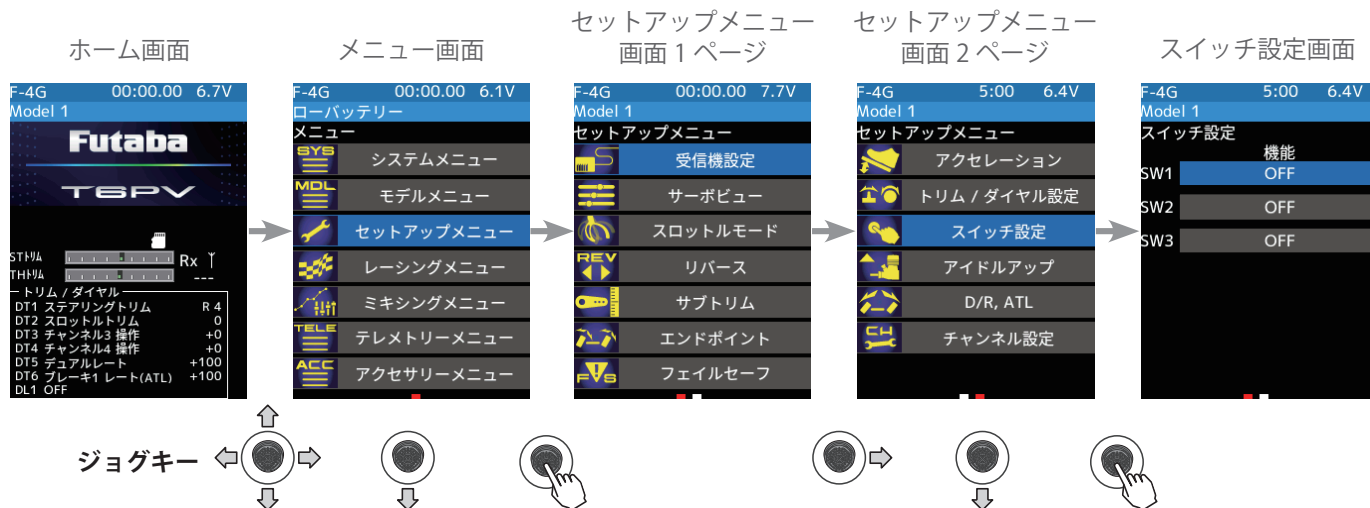
- タイマースタート後、一定時間ごとにブザーを鳴らす機能です。また、タイマー動作中にスイッチを押すとブザーのみをリスタートできるので、練習走行時等の目標タイムとして活用できます。(ラップナビアラーム)その他、スタートしてから1分ごとにブザー(「ピー」音)を鳴らして時間の経過を知らせます。
- スロットルトリガーで、最初のスタート操作をさせることができます。
- 一定時間ごとのブザーとは別にアラーム音(アラーム/プリアラーム)を設定できます。
 - * アラーム：設定した時間(分)に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より10秒前に鳴り始めます。(ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ)
- スタート後、他の画面に切り替えてもタイマーはカウントを続け、スイッチでストップできます。



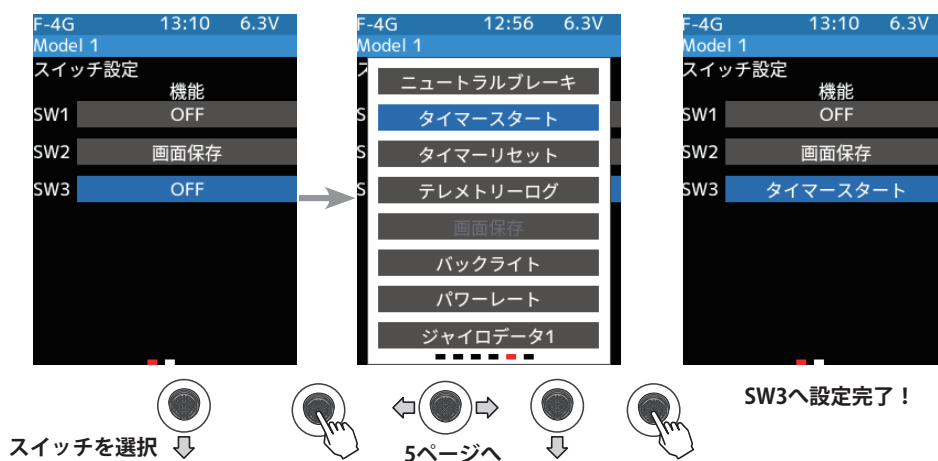
タイマー画面は、次の方法で表示します。



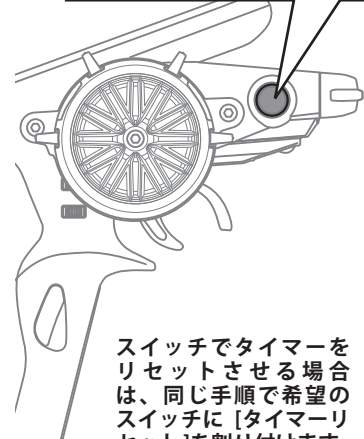
タイマーのスイッチ選択方法



■ SW3でタイマーをスタートさせる例



例: SW3でタイマーをスタート/ストップ



タイマーのタイプ選択方法

(準備)

- ・ **スイッチ設定機能** (セットアップメニュー) で "タイマースタート" のスイッチを選び、"ノーマル方向"、"ノーマルタイプ" に設定します。タイマーリセットをスイッチで操作する場合は "タイマーリセット" も設定します。

1 (タイマータイプ選択)

タイマータイプをジョグキーで選択し押すと、タイマータイプのポップアップ画面を表示します。使用するタイマータイプをジョグキーで選択して押します。



タイプの選択

- ポップアップ画面をジョグキーで選択し押す。

2 終了する場合は、**END ボタン**を押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。

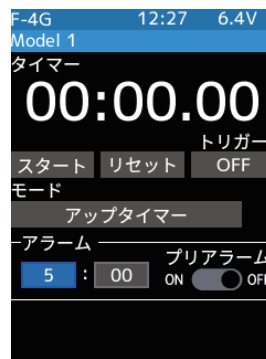
アップタイマーの使用法

1 (アラーム時間の設定)

設定項目 **[アラーム分/秒]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押してアラーム時間を設定します。

(プリアラームの設定)

プリアラームの **ON(●)** または **(●)OFF** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。ON にすると設定時間 10 秒前から予告音が鳴ります。



アラーム時間

0 ~ 99 (分)
初期値: 5 (分)

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

プリアラーム

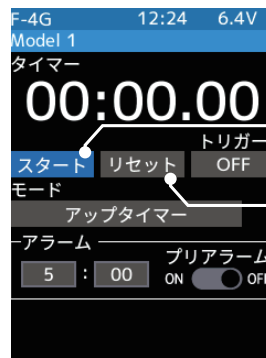
ON/OFF
初期値: OFF

設定

- **ON(●)** / **(●)OFF** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンで変更。

2 (タイマーのスタート/ストップ操作)

スイッチ設定機能で設定した **スイッチ(タイマースタート)** または、画面中の **[スタート]** をジョグキーで選択し押しとタイマーがスタートします。タイマーの動作中に再度 **スイッチ(タイマースタート)** または、画面中の **[スタート]** をジョグキーで選択し押しとストップします。また、画面中の **[リセット]** をジョグキーで選択し押しとストップします。



スタート/リスタート/ストップ

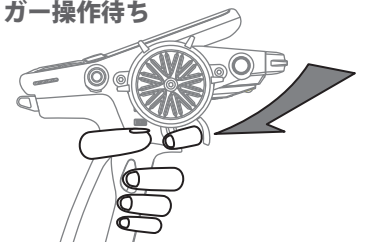
ストップ/リセット

●スロットトリガーでスタートさせる方法

トリガーの **[OFF]** をジョグキーで選択し押しと、**[待機]** の表示になり、トリガー操作待ちの状態となります。トリガーを前進側に操作するとタイマーがスタートします。ストップは、スイッチでスタートする場合と同じです。



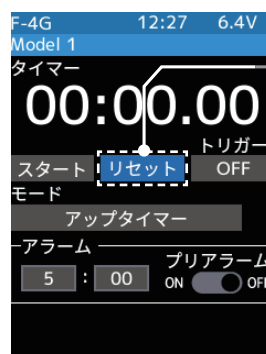
スタート/リスタート
トリガー操作待ち



スタート/リスタート

3 (タイマーのリセット操作)

タイマーが停止した状態で、スイッチ設定機能で設定した **スイッチ(タイマーリセット)** を押すか、または画面中の **[リセット]** をジョグキーで選択して押しと、タイマーがリセットします。



タイマーリセット

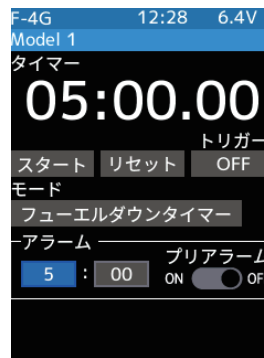
フューエルダウンタイマーの使用法

1 (アラーム時間の設定)

設定項目 [アラーム分/秒] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押してアラーム時間を設定します。

(プリアラームの設定)

プリアラームの **ON(●)** または (**●**) **OFF** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。ON にすると設定時間 10 秒前から予告音が鳴ります。



アラーム時間
0 ~ 99 (分)
初期値：5 (分)

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

プリアラーム

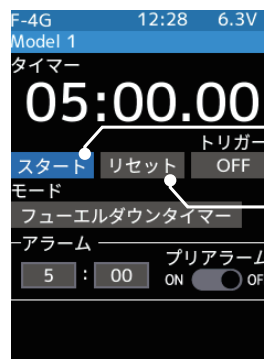
ON/OFF
初期値：OFF

設定

- **ON(●)** / (**●**) **OFF** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンで変更。

2 (タイマーのスタート/ストップ操作)

[スイッチ設定機能](#)で設定した**スイッチ(タイマースタート)**または、画面上の**[スタート]**をジョグキーで選択し押しすとタイマーがスタートします。タイマーの動作中に再度**スイッチ(タイマースタート)**または、画面上の**[スタート]**をジョグキーで選択し押しすとストップします。また、画面上の**[リセット]**をジョグキーで選択し押しすとストップします。

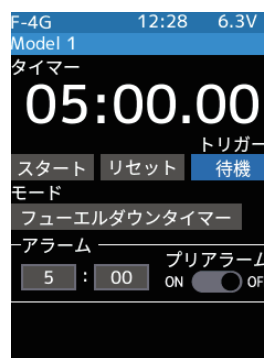


スタート/リスタート/ストップ

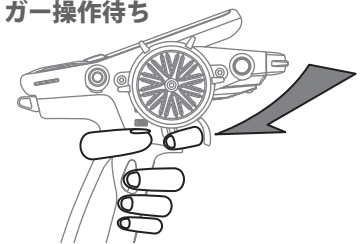
ストップ/リセット

●スロットルトリガーでスタートさせる方法

トリガーの **[OFF]** をジョグキーで選択し押しすと、**[待機]** の表示になり、トリガー操作待ちの状態となります。トリガーを前進側に操作するとタイマーがスタートします。ストップは、スイッチでスタートする場合と同じです。



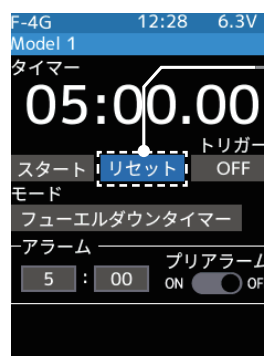
スタート
トリガー操作待ち



スタート

3 (タイマーのリセット操作)

タイマーが停止した状態で、[スイッチ設定機能](#)で設定した**スイッチ(タイマーリセット)**を押すか、または画面上の**[リセット]**をジョグキーで選択して押しします。ピッピッという音とともに、タイマーがリセットします。



タイマーリセット

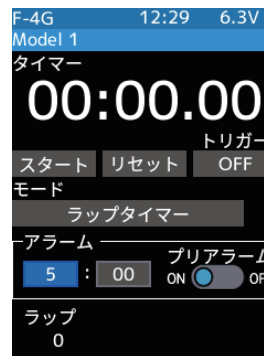
ラップタイマーの使用法

1 (アラーム時間の設定)

設定項目 [アラーム分/秒] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押してアラーム時間を設定します。

(プリアラームの設定)

プリアラームの ON(●) または (●) OFF をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。ON にすると設定時間 10 秒前から予告音が鳴ります。



アラーム時間

0 ~ 99 (分)

初期値：5 (分)

調整

- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

プリアラーム

ON/OFF

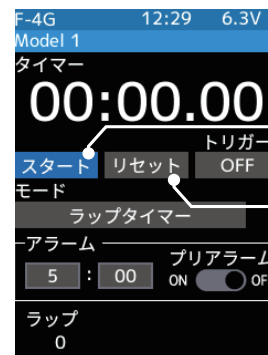
初期値：OFF

設定

- ON(●) / (●) OFF をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンで変更。

2 (タイマーのスタート/ラップカウント操作)

[スイッチ設定機能](#) で設定した **スイッチ (タイマースタート)** または、画面上の **[スタート]** をジョグキーで選択し押しすとタイマーがスタートします。タイマー動作中に同じスイッチを押すとラップカウントされます。



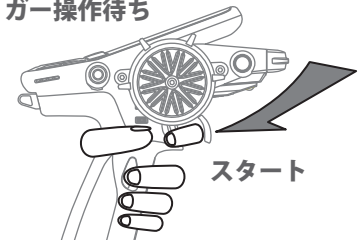
●スロットトリガーでスタートさせる方法

トリガーの **[OFF]** をジョグキーで選択し押しすと、**[待機]** の表示になり、トリガー操作待ちの状態となります。トリガーを前進側に操作するとタイマーがスタートします。

- **[リセット]** をジョグキーで選択して押し、前回のラップタイマーをリセットしないとスタートできません。タイマーリセットでラップリストが消去しますので注意してください。



スタート
トリガー操作待ち



▲ ラップリスト記録済です
スタート前にタイマーをリセットして、ラップリストを消去してください。

閉じる

前回のラップリストをリセットしないでスタートしようとすると表示します。

3 (タイマーのストップ/リセット操作)

"アラーム" で設定した時間の経過後にラップカウントの **スイッチ** または、**タイマーリセット** を設定したスイッチを押すとタイマーがストップし、ラップタイム、トータルタイム、平均ラップタイムがメモリーされますので確認します。

タイマーが停止した状態で、[スイッチ設定機能](#) で設定した **スイッチ (タイマーリセット)** を押しすとタイマーがリセットします。スイッチを設定していない場合は、画面上の **[リセット]** をジョグキーで選択して押します。ピッピッという音とともに、タイマーがリセットします。

- タイマーリセットでラップリストが消去します。

タイマーリセット



ラップナビゲートタイマーの使用法

1 (アラーム時間の設定)

設定項目 **[アラーム分/秒]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンを押してアラーム時間を設定します。

(プリアラームの設定)

プリアラームの **ON(●)** または (**●**) **OFF** をジョグキーで選択し、**[+][-]** ボタンで変更します。ON にすると設定時間 10 秒前から予告音が鳴ります。

(ラップナビアラーム時間の設定)

設定項目 **[ラップナビゲート時間]** をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][-]** ボタンでラップナビアラーム (目標) 時間を設定します。



アラーム時間
0 ~ 99 (分)
初期値: 5 (分)

調整

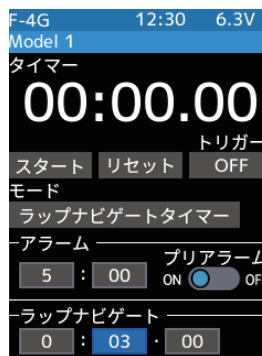
- **[+]**か**[-]**を押す
- **[+] [-]** 同時押しでリセット

プリアラーム

ON/OFF
初期値: OFF

設定

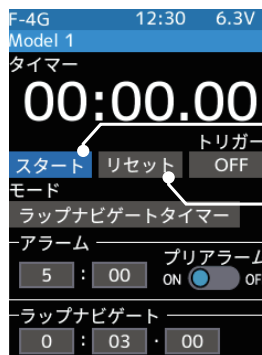
- **ON(●)** / (**●**) **OFF** をジョグキーで選択し **[+][-]** ボタンで変更。



ラップナビゲート時間
0 ~ 99 (分)
初期値: 3 (分)

2 (タイマーのスタート/ナビリスタート操作)

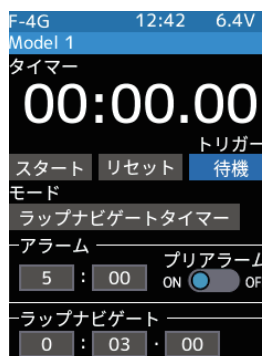
スイッチ設定機能で設定した**スイッチ (タイマースタート)** または、画面上の **[スタート]** をジョグキーで選択し押すとタイマーがスタートします。タイマーリセットを設定したスイッチを押すか、画面の **[リセット]** をジョグキーで選択し押すとストップします。



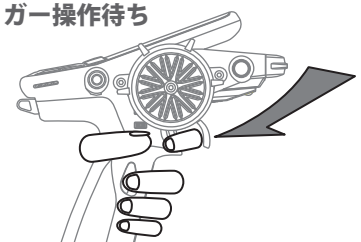
スタート
ストップ/リセット

●スロットルトリガーでスタートさせる方法

トリガーの **[OFF]** をジョグキーで選択し押すと、**[待機]** の表示になり、トリガー操作待ちの状態となります。トリガーを前進側に操作するとタイマーがスタートします。ストップはスタートと同じ操作です。



スタート
トリガー操作待ち



- 自分のラップタイムが目標時間より遅れて周回数を重ねると、ラップナビアラームのタイミングが大きくなってきます。計測中にスイッチ (タイマースタート) を押すとアラームのタイミングを修正できます。

3 (タイマーのストップ/リセット操作)

タイマーが停止した状態で、[スイッチ設定機能](#)で設定したスイッチ(タイマーリセット)を押すか、または画面上の[リセット]をジョグキーで選択して押します。ピッピッという音とともに、タイマーがリセットします。



ラップリスト

このラップリストはラップタイマーの操作で記憶した、ラップメモリーのデータ(各周回タイム)を確認するとき呼び出します。

- ラップタイマーをスタート後、スイッチ操作のたびに周回時間が順に記憶されます。
- トータルタイムと平均タイムが表示されます。最速タイムは赤字で表示されます。
- ラップタイムデータは、モデルデータごとに保存されます。
- 最大 200 ラップまで保存できます。
- ラップタイマーをリセットすると、ラップリストもクリアされます。

ラップリスト画面は、次の方法で表示します。



ラップリストの使用法

1 (ラップリストの確認)

ラップリストは最大 200 ラップを表示します。2 ページにリストがある場合、ジョグキーを左右に操作してページを移動します。

2 終了する場合は、**END ボタン**を押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。





S.BUS サーボ

T6PV 本体で Futaba 製 S.BUS / S.BUS2 サーボのパラメーター変更ができる専用機能です。一部の機能のデータ変更は PC と S-Link ソフトが必要です。

サーボを直接送信機のコミュニケーションポートに接続して設定する有線と、サーボを受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレスの 2 通りの設定方法があります。有線で設定する場合は、必要に応じてオプションの各種サーボ用延長コードをご使用ください。なお、各設定項目の詳しい内容は、弊社ホームページで公開している、S-Link ソフトの説明書をお読みください。(SR/UR モード設定は送信機からの専用パラメーターです。S-Link ソフトでは設定できません。) また、ワイヤレスでの設定では制限事項がありますので、下記「**使用上の注意**」をお読みください。

使用上の注意：

- パラメーターの書き込み中に電源が失われると、サーボが故障する場合があります。バッテリー残量が十分ある状態でこの機能を使用してください。
- 安全のため、ワイヤレス設定ではサーボをノーマルモードから SR モードの変更や SR モードからノーマルモードの変更はできません。モードを切り替える場合は、サーボを送信機のコミュニケーションポートに接続して切り替えてください。ただし、SR /UR モードに設定されたサーボは、SR1 / SR2 / SR3 および UR1 / UR2 / UR3 / UR4 の切り替えをワイヤレス設定で行うことができます。
- 受信機とサーボの間に、ジャイロや FSU (フェイルセーフユニット) のような信号を変換するデバイスが接続されていると、ワイヤレス設定は使用できません。
- ワイヤレス設定機能に対応した受信機が必要です。
- バッテリー設定でバッテリータイプが [LiFe] [LiPo] [ニッケル水素] のいずれかに設定されている場合には、有線接続で送信機から電源がサーボに供給されますが、対応電圧がハイボルテージサーボ (HV) 用です。それ以外のサーボは過電圧になりますので、サーボに対応したバッテリーを接続してください。バッテリーを接続すると送信機からの電源は自動的に停止します。バッテリータイプが [乾電池 4 本] の場合もサーボ電源を接続してください。
- ワイヤレス設定では周囲の電波環境によっては読み込み / 書き込み / リセット / 初期化に時間がかかる、または失敗する場合があります。失敗した場合は再度読み込み等を実行してください。

⚠ 警告

- ❶ ワイヤレス設定では、通信中はサーボが一時的に動作しなくなり、不意に車 (ボート) が暴走する危険があります。安全のため、電動カー (ボート) の場合は駆動輪 (スクリュー) が路面 (水面) に接しない状態で設定してください。また、エンジンカー (ボート) の場合は、エンジンを停止させて設定してください。

⚠ 注意

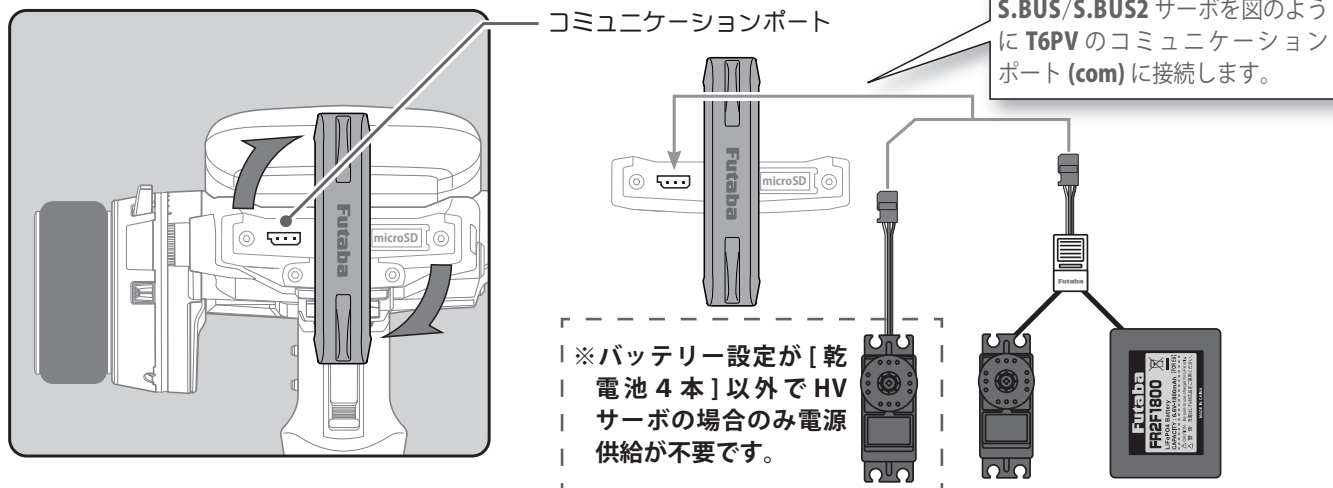
- ❶ ハイボルテージに対応していない S.BUS サーボを接続する場合は、サーボの規格にあったバッテリーを接続する。

送信機からはハイボルテージサーボ対応の電圧が供給されます。ハイボルテージに対応していないサーボを接続すると過電圧になり、サーボに無理がかかり、故障の原因になります。

- ❷ パラメーターの書き込み中に、サーボのコネクターを抜いたり、送信機の電源を切ったりしない。サーボの故障の原因になります。



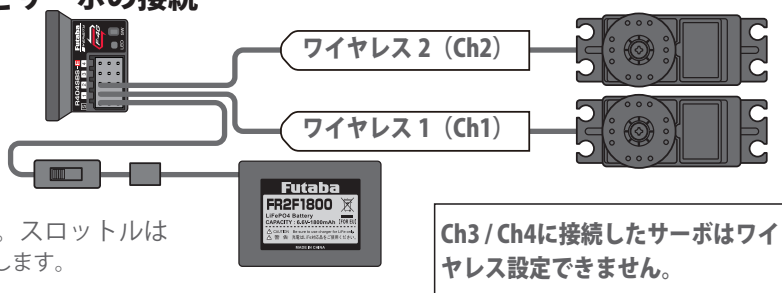
有線方式の送信機とサーボの接続



ワイヤレス(無線)方式の受信機とサーボの接続

●参考

S.BUS/S.BUS2 サーボを 1/5 カーなどの 2 サーボ仕様で、ステアリングミキシングを使用する場合、Ch.2 に割り当て 1,2ch の両方をステアリングに設定すると両方のサーボがワイヤレス設定を使用できます。スロットルはチャンネル設定機能で Ch.3 また 4 に変更します。



S.BUS サーボ画面は、次の方法で表示します。



S.BUS サーボメニューの使用法

(準備)

- 上の接続図にしたがって S.BUS または S.BUS2 サーボを接続します。
- 送信機電源が乾電池 4 本の場合、およびハイボルテージ (HV) 非対応の S.BUS / S.BUS2 サーボの場合はバッテリーを二又接続します。
- UR/SR モードの設定変更をする場合は、必ず有線方式で行ってください。ワイヤレス設定ではサーボをノーマルモードと UR/SR モードの変更はできません。

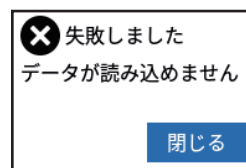
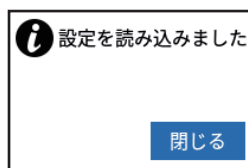
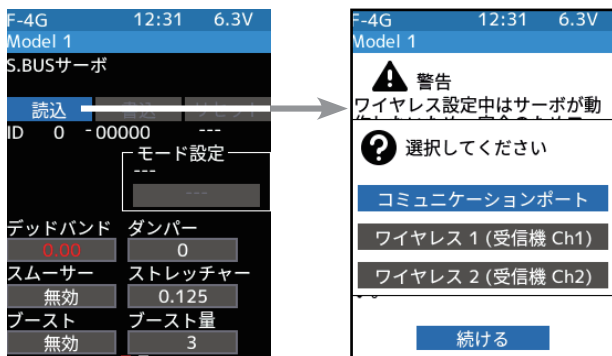
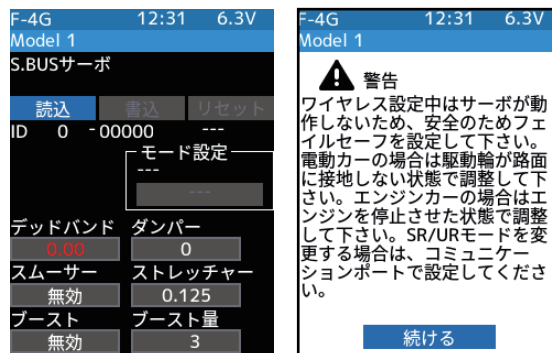
1 有線の場合は、送信機の電源スイッチ DSP または PWR を ON にします。

ワイヤレスの場合は、電源スイッチの PWR 側を ON にして電波を出力します。DSP 側ではワイヤレス設定は使用できません。受信機のバッテリースイッチを ON にして、サーボの動作を確認します。S.BUS サーボ画面を表示します。

2 (S.BUS / S.BUS2 サーボの読み込み)

接続したサーボのタイプと、設定されているデータを読み込む場合に実行します。設定項目 **[読み]** をジョグキーで選択して押します。ワイヤレス設定に関する注意事項を表示します。本画面は、一度表示されると、電源を入れなおすまで再表示されません。注意事項をよく読み **[続ける]** ボタンをジョグキーで選択して押します。次に、サーボの選択画面を表示しますので、接続されているチャンネルをジョグキーで選択して押します、サーボから設定データを読み込みます。

- ・ **[コミュニケーションポート]** : T6PVのコミュニケーションポート (有線設定)
- ・ **[ワイヤレス 1 (受信機 Ch1)]** : 受信機のチャンネル 1
- ・ **[ワイヤレス 2 (受信機 Ch2)]** : 受信機のチャンネル 2

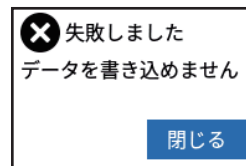
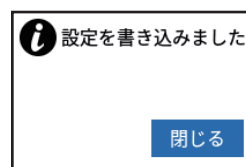
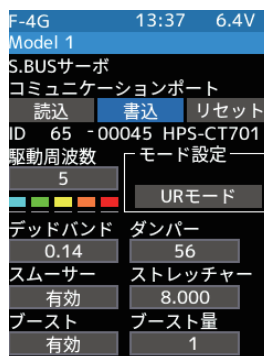


- 画面に「**データを読み込みました**」が表示され、サーボの ID と現在の設定内容が読み込まれます。「**失敗しました**」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T6PV とサーボの接続を確認し電源が必要なサーボは電源も確認して、再度 **[読み]** 操作を実行してください。

3 (サーボへの書き込み)

設定データをサーボに書き込む場合に実行します。設定項目 **[書込]** をジョグキーで選択して押します。「**よろしいですか**」と確認画面を表示しますので **[はい]** をジョグキーで選択して押します。

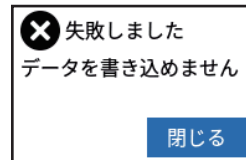
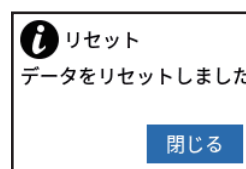
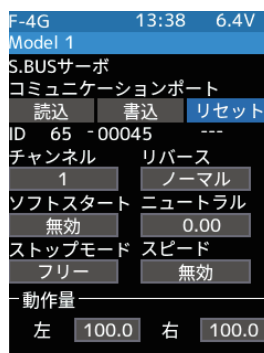
- 画面に「**データを書き込みました**」と表示され、設定データがサーボに書き込まれます。「**失敗しました**」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T6PV とサーボの接続を確認し電源が必要なサーボは電源も確認して、再度 **[書込]** 操作を実行してください。



4 (リセット/初期化)

接続されているサーボに、工場出荷時の設定データを書き込みます。設定項目 **[リセット]** をジョグキーで選択して押します。「**よろしいですか**」と確認画面を表示しますので **[はい]** をジョグキーで選択して押します。ただし、UR/SR モードの設定は初期化されません。

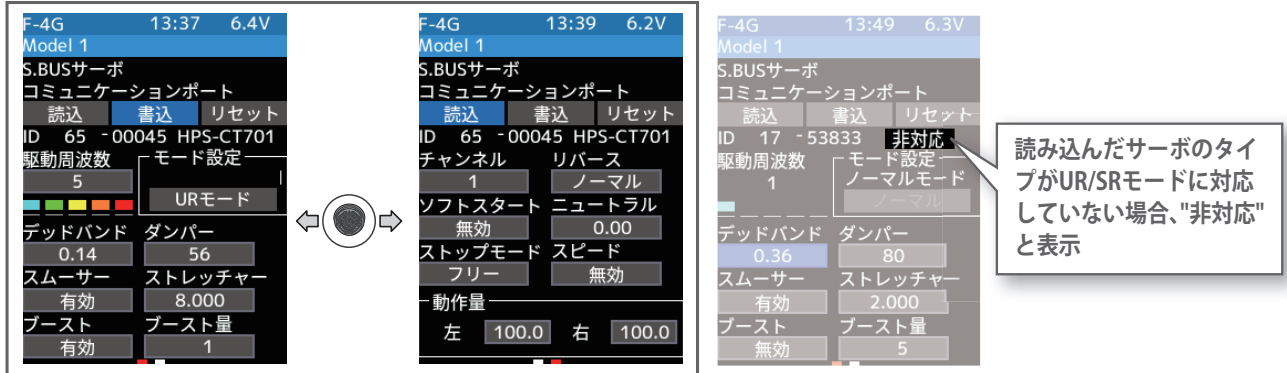
- 画面に「**データを書き込みました**」と表示され、初期データがサーボに書き込まれます。「**失敗しました**」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T6PV とサーボの接続を確認し電源が必要なサーボは電源も確認して、再度 **[リセット]** 操作を実行してください。



データリスト表示

1 読み込んだサーボの種類とデータが表示されます。

設定項目が2ページありますので、以下のようにページの移動をします。



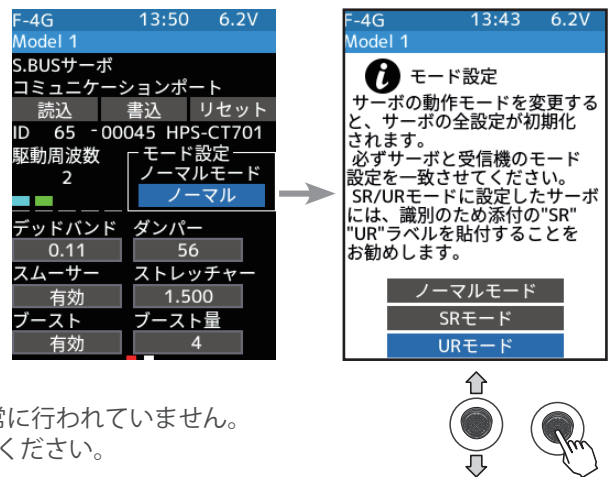
- **[読込]** でデータを読み込んだ画面のまま、サーボの抜き差しまたは、他のサーボを接続しないでください。必ず **[書込]** か **[リセット]** が終わった状態か、もしくはジョグキーを押してアクセサリメニュー画面の状態ですべてのサーボを接続してください。
- 読み込んだデータを、他のサーボに書き込むことはできません。

UR/SR モードの設定 (有線専用)

1 (サーボへの書き込み)

UR/SR モードの **[ノーマルモード]** または、**[URモード]** か **[SRモード]** をジョグキーで選択して押します。「UR/SR設定の注意」の確認画面を表示しますので、良くお読みの上 **[ノーマルモード]**、**[URモード]**、**[SRモード]** をジョグキーで選択して押します。

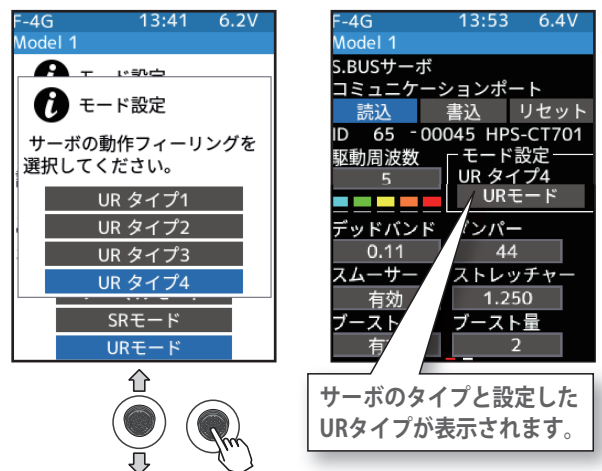
- **[ノーマルモード]** を選んだ場合は、画面に「データを書き込みました」と表示され、設定データがサーボに書き込まれます。「失敗しました」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T6PVとサーボの接続を確認し、再度 **[書込]** 操作を実行してください。



2 (サーボへの書き込みで UR モードを選んだ場合)

「UR設定の注意」の確認画面で、**[URモード]** をジョグキーで選択すると、UR タイプを選ぶ画面が表示されます。フィーリングの異なる4タイプが用意されていますので、実際に使用して好みのタイプを選んでください。

- 画面に「データを書き込みました」と表示され、設定データがサーボに書き込まれます。「失敗しました」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T6PVとサーボの接続を確認し、再度 **[書込]** 操作を実行してください。
- UR/SR モードに設定したサーボは、モードが認識できるように付属の UR/SR ラベルを貼ってください。



サーボのタイプと設定したURタイプが表示されます。

⊙ UR/SR モードに設定したサーボは、すべての受信機の S.BUS チャンネルには、絶対接続しないでください。サーボが故障します。

UR モードの設定 (有線専用)

T6PV F-4G システムは Futaba UR サーボと組み合わせて使用すると高速レスポンスとなります。次の手順で設定を切り替えて使用してください。UR モードは F-4G システムのみ使用できます。

送信機の設定変更手順

レスポンスの変更は送受信機の再リンクと受信機電源の再起動が必要です。

1 電源スイッチ (PWR) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。ジョグキーを操作して**セットアップメニュー**→**受信設定画面**を開きます。

2 受信機設定からジョグキーで F-4G のアイコンを選択し、ジョグキーを押します。システムタイプ選択画面が表示されますので、設定するシステムをジョグキーで選択して押します。



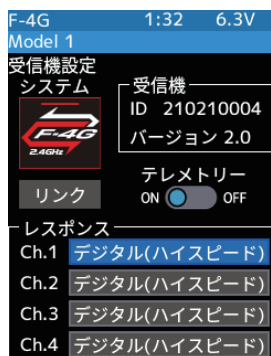
3 F-4G の場合、使用するサーボに合わせてレスポンス設定がチャンネル単位で設定できます。**CH1 ステアリングに UR モード**を設定してください。

- ・SR モード SR 対応サーボ (SR モードに設定)
- ・UR モード UR 対応サーボ (UR モードに設定)
- ・デジタル (ハイスピード) デジタルサーボ
- ・アナログ (ノーマル) アナログサーボ

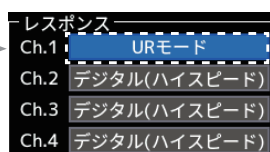
注意：

- * SR/UR モードでは、通常のサーボは動作しません。SR/UR モードに対応した Futaba サーボをご使用ください。間違った組合せで使用すると、サーボ、その他の機器が故障しますので注意してください。
- * SR/UR モードに対応していない ESC やジャイロ、その他の機器を使用する場合は SR/UR モードに設定しないでください。

受信機設定画面



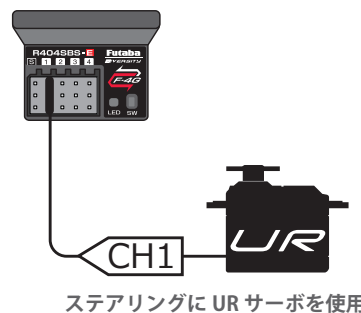
設定したいチャンネル (Ch.1 ステアリング) をジョグキーで選択



サーボに合わせて UR の場合は UR モードをジョグキーで選択



「受信機をリンクして下さい。」と表示されます。受信機をリンクしないと UR モードに変更されません。



ジョグキー



[+][-] ボタン



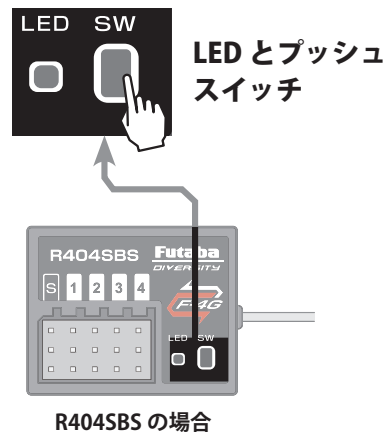
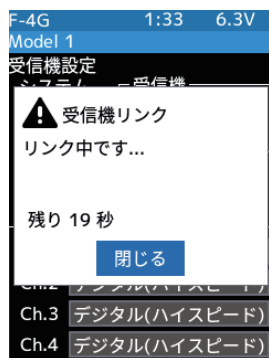
バッテリーフェイルセーフ使用時はセットアップメニューのフェイルセーフ設定のバッテリーフェイルセーフ電圧を設定してください。

※各 CH のバッテリーフェイルセーフの ON/OFF は別途設定してください。

※ F-4G の場合、バッテリーフェイルセーフ電圧はリンク時に受信機に設定されます。バッテリーフェイルセーフ電圧設定を変更した場合は、受信機を再度リンクしてください。

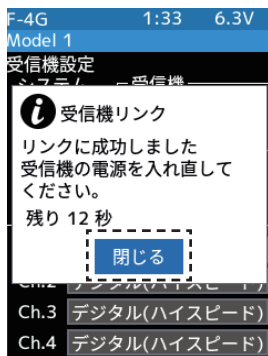
- 4 送信機と受信機を 50 cm 以内に近付け、(お互いのアンテナは接触させない) 受信機側の電源を ON にします。
- 5 送信機 T6PV のジョグキーで **[リンク]** をジョグキーで選択し押し、チャイム音がして T6PV が 20 秒間のリンクモードに入ります。20 秒のリンクモードの間に受信機側のプッシュスイッチを約 2 秒以上押します。
- 6 LED が赤点灯から緑点灯に変わり、T6PV のピピッと電子音と、画面に「**リンクに成功しました**」と表示したら、受信機の Link スイッチを離し、送信機のジョグキーか END ボタンを押します。これでお互いの ID の読み込みが終わり、T6PV の画面に受信機の ID ナンバーを表示します。F-4G/T-FHSS でテレメトリ ON では、受信機ソフトウェアバージョンも表示します。「**受信機が見つかりません**」とエラー画面を表示した場合は、リンクが失敗していますので **[閉じる]** ジョグキーまたは END ボタンを押して設定内容を確認して、再度リンク操作をしてください。設定が完了したら一旦受信機の電源を入れなおします。レスポンスとバッテリーフェイルセーフ電圧の設定は受信機の再起動後に反映されます。

(受信機設定画面)



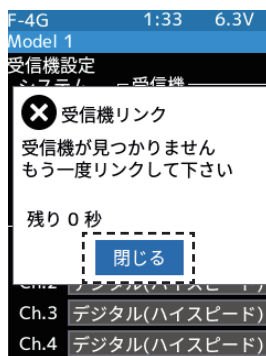
R404SBS の場合

リンク成功



リンク完了

リンク失敗



再リンクへ

- T6PV と F-4G 受信機 (R404SBS / R404SBS-E 等) または、T-FHSS 受信機 (R334SBS 等) は、モデルメモリーごとに最後にリンクした組み合わせの ID を送信機と受信機が互いに記憶します。
- T6PV は各モデルメモリーで、受信機の ID を 1 つしか記憶できませんので、同じモデルメモリーで複数の F-4G 受信機は使用できません。同じモデルメモリーで受信機を交換する場合は、以前リンク済みの受信機でも、再度リンクさせる必要があります。
- 複数の受信機を使用する場合は、T6PV のモデルメモリーごとにリンクした組み合わせで使用してください。1 台の受信機で複数のモデルメモリーにリンクして使用することはできません。
- テレメトリー機能の通信状態は T6PV のホーム画面で確認できます。

リンクの注意

警告

- ⊘ リンク操作時は動力用モーターが接続された状態では行わないでください。
■ 不意にモーターが回転すると大変危険です。

- ① リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源を OFF とし、リンクした送信機で操作ができることを確認してください。
■ リンク後に再起動しなければリンク時の設定は反映されません。

警告

- ⊘ T6PV の受信機設定と使用するサーボは必ず決められた条件で使用する。

その他の条件では動作できない場合や、動作できる場合でも所定の性能は発揮されません。また、サーボ、その他の機器の故障の原因となります。他社製品との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。

システム	受信機	レスポンス	対応サーボ
	R404SBS R404SBS-E	UR モード	・ Futaba UR サーボ
		SR モード	・ Futaba SR サーボ
		デジタル (ハイスピード)	・ Futaba カー用デジタルサーボ
		アナログ (ノーマル)	・ Futaba カー用アナログサーボ・デジタルサーボ
	R334SBS R334SBS-E R324SBS R314SB R314SB-E R304SB R304SB-E	デジタル (ハイスピード)	・ Futaba カー用デジタルサーボ
		アナログ (ノーマル)	・ Futaba カー用アナログサーボ・デジタルサーボ
	R202GF R203GF R204GF-E R214GF-E R2104GF	アナログ (ノーマル)	・ Futaba カー用アナログサーボ・デジタルサーボ
	MINI-Z EVO 用 レシーバー ユニット 82042 (KYOSHO)	-	・ KYOSHO MINI-Z
	MINI-Z EVO2 用 レシーバー ユニット 82044、82046 (KYOSHO)	-	・ KYOSHO MINI-Z
	Mini-Z FHSS 対応 (KYOSHO) (送信機に FS-RM005 モジュール を使用する)	-	・ KYOSHO MINI-Z

- 動作モードが設定できるサーボは、使用するシステムに合わせて、サーボの動作モードを変更してください。使用するシステムに合わない動作モードに設定されている場合、故障や破損する恐れがあります。
- UR モードは UR サーボ (UR モードに設定した) を、SR モードは SR サーボ (SR モードに設定した) を使用してください。
- UR (SR) モード ON 時、Futaba UR (SR) 対応サーボ専用となります。UR (SR) 対応サーボ以外を使用するとサーボや受信機の故障の原因となります。
- UR/SR モードが ON の CH にノーマルサーボを接続すると破損する危険性があります。
- デジタルサーボモードで UR/SR サーボ (UR/SR モードに設定した) とアナログサーボを接続してはいけません。
- アナログサーボモードで UR/SR サーボ (UR/SR モードに設定した) を接続してはいけません。
- UR/SR サーボはノーマルモードに設定するとデジタル、アナログでも使用可能です。
- UR/SR モードに設定した UR/SR 対応サーボを受信機の S.BUS2 ポート (S) に接続するとサーボや受信機の故障の原因となります。
- 受信機側使用電源は受信機および接続するサーボの規格に合わせてください。
- F-4G および、その他のシステムのデジタル (ハイスピード) モードでは、システムが異なるためフェイルセーフユニットは使用できません。送信機側のフェイルセーフ機能を使用してください。

UR サーボの設定変更手順

UR サーボの初期設定はノーマルです。

UR モードで使用するためにはつぎの手順で UR モードに切り替える必要があります。

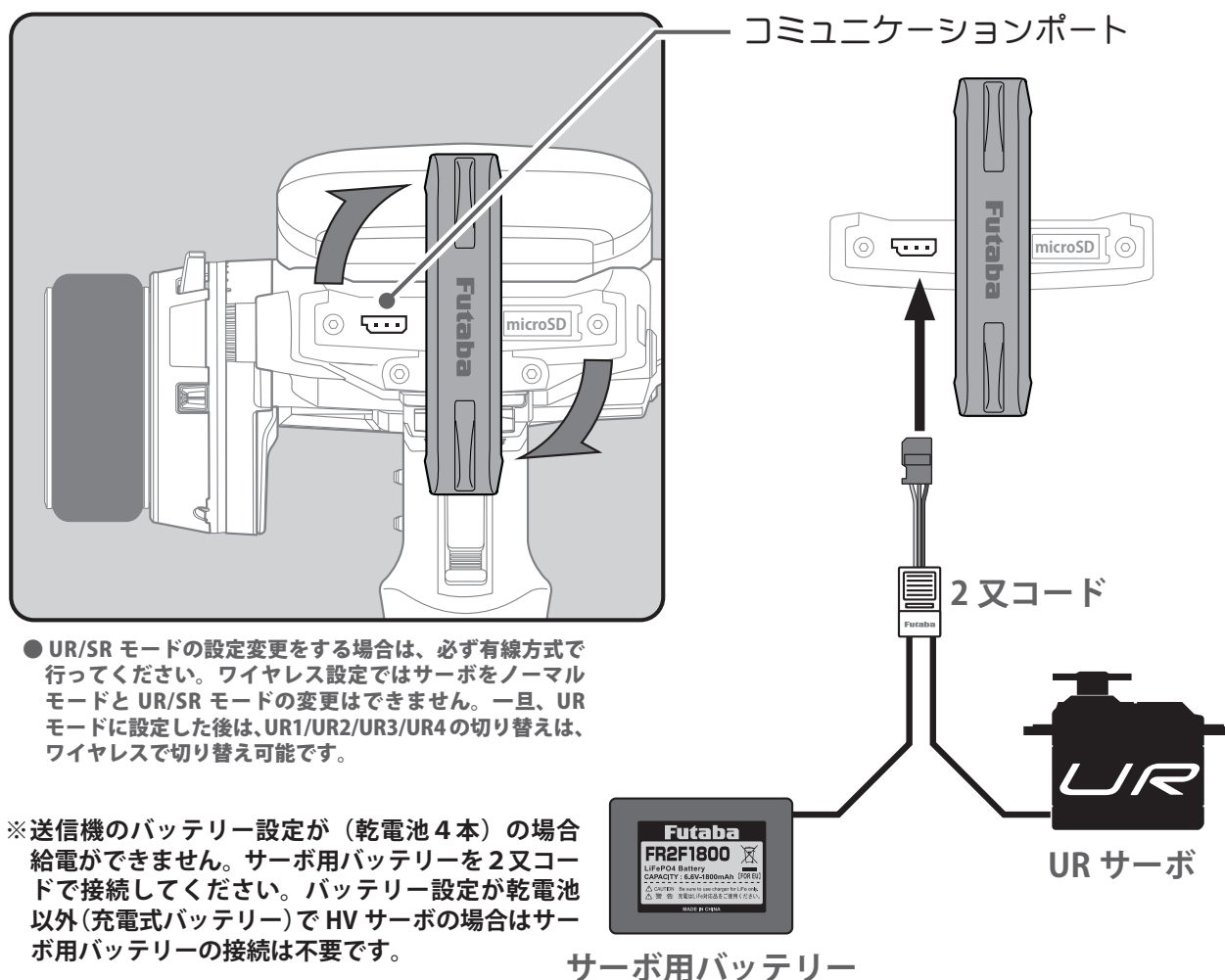


初期設定は
ノーマルモード

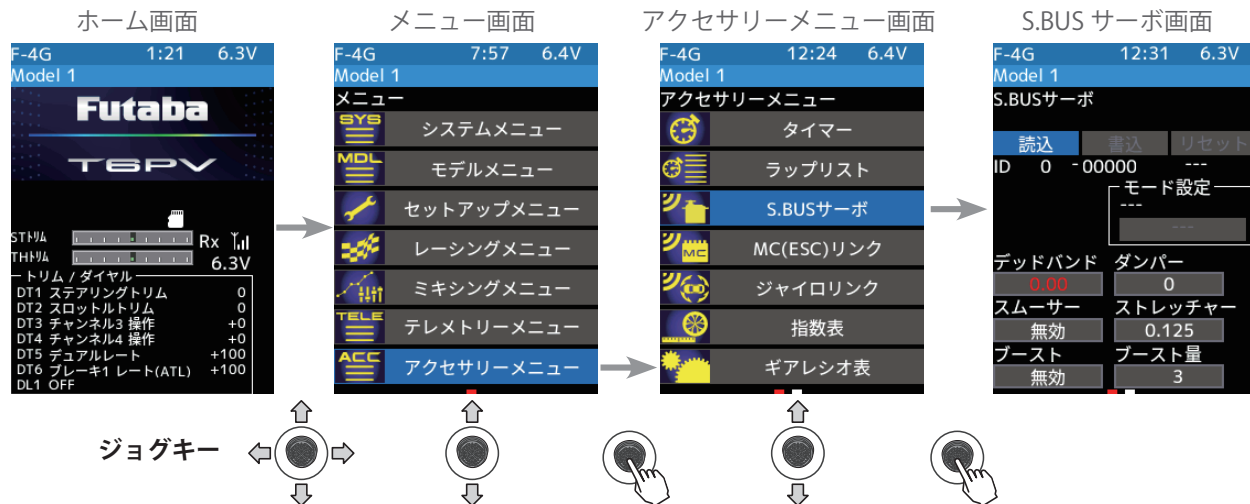
UR サーボは下記のモードが選択できます。

ノーマル			
SR タイプ 1	SR タイプ 2	SR タイプ 3	
UR タイプ 1	UR タイプ 2	UR タイプ 3	UR タイプ 4

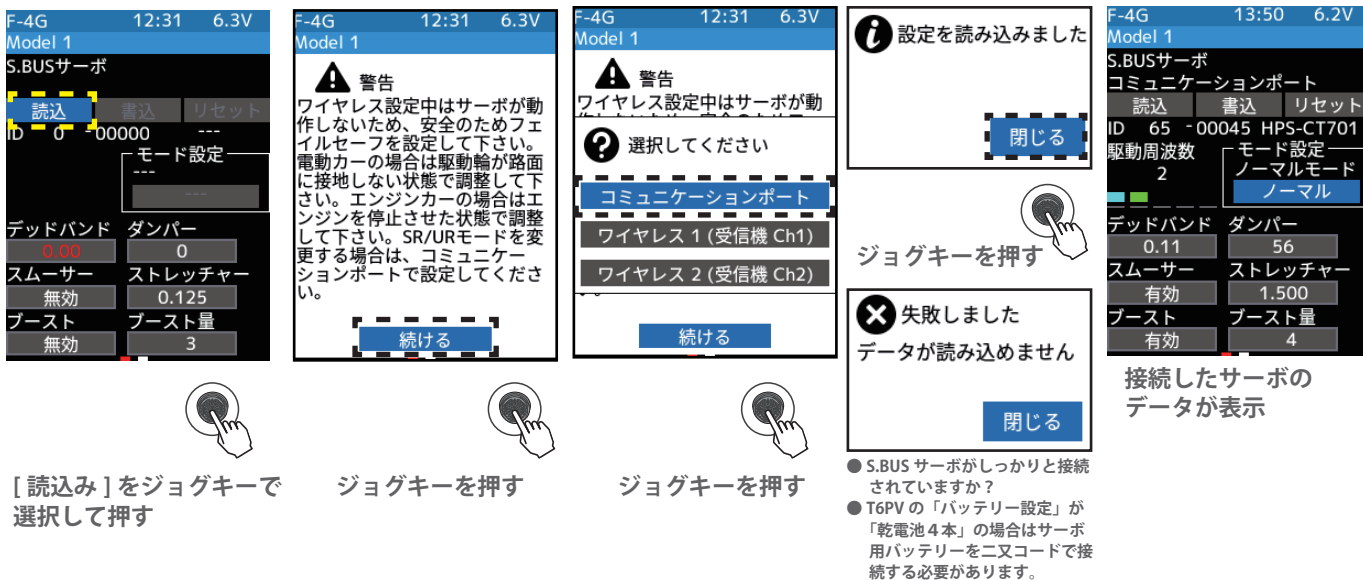
1 UR サーボを図のように接続します。



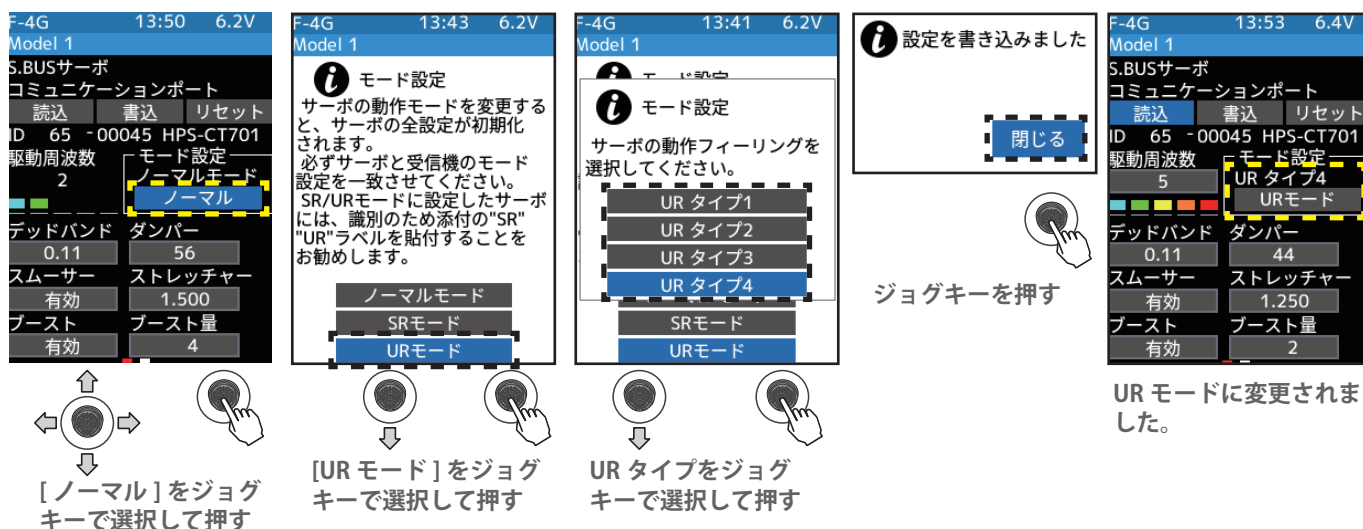
2 電源スイッチ(PWR)を入れます。
ホーム画面でジョグキーをどちらかへ操作して[メニュー]画面を呼び出し、次に[アクセサリメニュー]をジョグキーで選択して押しアクセサリメニューから[S.BUS サーボ]をジョグキーで選択して押します。



3 下記の通り接続したUR サーボのデータを T6PV に読み込みます。



4 UR モードへ変更して UR タイプをジョグキーで選択して押し、接続した UR サーボへデータを書込みます。



5 UR サーボを送信機からはずします。これで UR モードのサーボとして使用できます。

「駆動周波数を高く設定するとハンチングは出やすくなりますが異常ではありません。」
「ハンチングが気になるようであれば駆動周波数を下げて使用してください。」

UR モード



目次へもどる

各項目の設定方法

1 [数値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で、[+][-] ボタンで設定します。複数選択式の場合（項目に枠がない場合）項目をジョグキーで選択するとポップアップ画面が表示されますのでジョグキーで選択して押します。

* ID

パラメーターを読み込んだサーボの ID を表示します。変更はできません。

* デッドバンド

停止位置の不感帯の範囲（角度）を設定できます。（設定範囲：0.00 度～ 3.98 度）

デッドバンドの設定値と、サーボの動作との関係

小さくする⇒停止位置の不感帯幅が小さくなる。小さな信号変化でサーボがすぐに動き出すようになる。
大きくする⇒停止位置の不感帯幅が大きくなる。小さな信号変化でサーボが動きださなくなる。

注意：不感帯幅の角度を小さく設定しすぎると、サーボが常に動作し続ける状態になりますので、消費電流が増えることになり、サーボの寿命も短くなる場合があります。

* ダンパー

サーボが停止する際の特性を設定できます。

標準値の数値より小さくすると、オーバーシュート（行き過ぎてから戻る）特性となります。数値を大きくすると、停止位置手前からブレーキがかかったように止まる設定となります。

特に、大きい負荷がかかるときに、慣性によるオーバーシュート等を抑えて、条件によって起こるハンチング（サーボが痙攣するように動く現象）を起こりにくくすることができます。デッドバンド、ストレッチャー、ブーストなどのパラメーターが適正であっても、ハンチングが起こる場合は、初期値より大きい値に調整してください。

ダンパー設定値とサーボ動作の関係

小さくする⇒オーバーシュートさせたい場合。ハンチングが起こらないような設定にしてください。
大きくする⇒ブレーキがかかるような動作にしたい場合。ただしサーボのレスポンスが下がったように感じる。

注意：ハンチングが発生した状態で使用すると、消費電流が多くなるばかりでなく、サーボの寿命も短くなります。

* スムーサー

サーボの動きを滑らかにする機能です。好みに応じて設定を行ってください。通常は有効の設定でご使用ください。特に素早い動作を希望する場合には無効にします。

* ストレッチャー

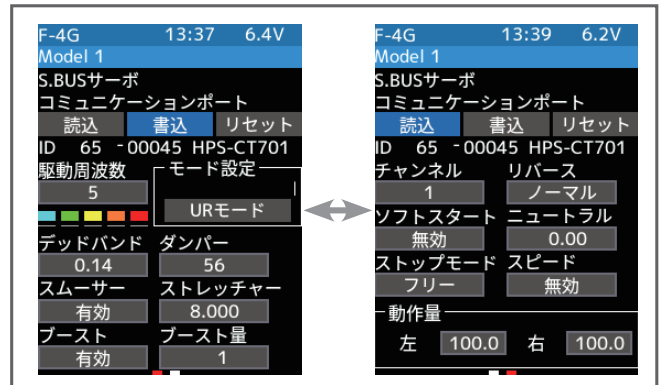
サーボの保持特性の設定ができます。

サーボの現在位置が目標位置とずれているときに、目標位置へ戻ろうとするトルクを調整することができます。ハンチングを止めるときなどに利用しますが、下記のように保持特性が変わります。

ストレッチャー設定値とサーボ動作の関係

小さくする⇒サーボの保持力が弱くなります。
大きくする⇒サーボの保持力が強くなります。

注意：ストレッチャーを大きくすると、消費電流が増えていきます。



***ブースト / ブースト量**

サーボを低速で動作させた場合のみブーストモードと、常時ブーストを有効させるモードの切り替え設定とブースト量の設定ができます。

無効：低速のみモード (通常は無効 でお使いください)

有効：常時ブーストモード (素早い動作を希望する場合)

ブーストはサーボを駆動するときに、内部のモーターにかかる最小動作量を設定できます。モーターは小さな動作量では起動しないので、感覚的にデッドバンドが拡大するように感じます。そこで起動できる最小動作量 (ブースト) を調整して、モーターが直ぐに起動できるようにします。

***チャンネル**

サーボに割り当てられた S.BUS システムのチャンネルです。S.BUS システムとして、受信機の S.BUS2 コネクタに接続して使用する場合は、送信機で使用するチャンネルの割り当てをします。通常の実機チャンネルで使用する場合は特に設定をする必要はありません。

***リバース**

サーボの回転する方向を変更することができます。

***ソフトスタート**

電源投入時の瞬時に指定位置に動く動作を制限します。この設定を行うことにより、電源を立ち上げたときの最初の 1 動作だけゆっくりと指定位置に移動します。またそのときの動作速度を設定できます。

***ニュートラル**

ニュートラル位置を変更することができます。ただし、ニュートラル位置を大きく変更した場合、最大舵角時にサーボの動作範囲を超え、サーボが動作しない不感帯が発生することがあります。

***ストップモード**

サーボの入力信号が途絶えたときのサーボの状態を指定することができます。

ただし **[フリー]** のときは脱力し、**[ホールド]** のときは信号が途絶える直前の角度を保持します。AM および FM システムでも、サーボのホールド・モードを設定することができますようになります。ただし、フェイルセーフ機能ではありません。

***スピード**

動作スピードを設定できます。使用電圧、負荷トルク、モーターのばらつき等の影響を受けることなく、複数のサーボのスピードを揃えることができます。

(設定範囲：最大 0.047 秒 /60 度～ 12 秒 /60 度、または **[無効]**)

ただし、各動作電圧におけるサーボの最大スピード以上の設定を行っても、最大スピード以上のスピードにはなりませんので注意してください。

***動作量 (左/右)**

サーボの左右の動作量を別々に設定できます。



MC(ESC) リンク

Futaba MC971CR, Acuvance Xarvis のデータ変更を T6PV 本体で設定できる専用機能です。ESC を直接送信機のコミュニケーションポートに接続して使用します。必要に応じて、オプションの各種サーボ用延長コードをご使用ください。受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレスの設定方法もあります。

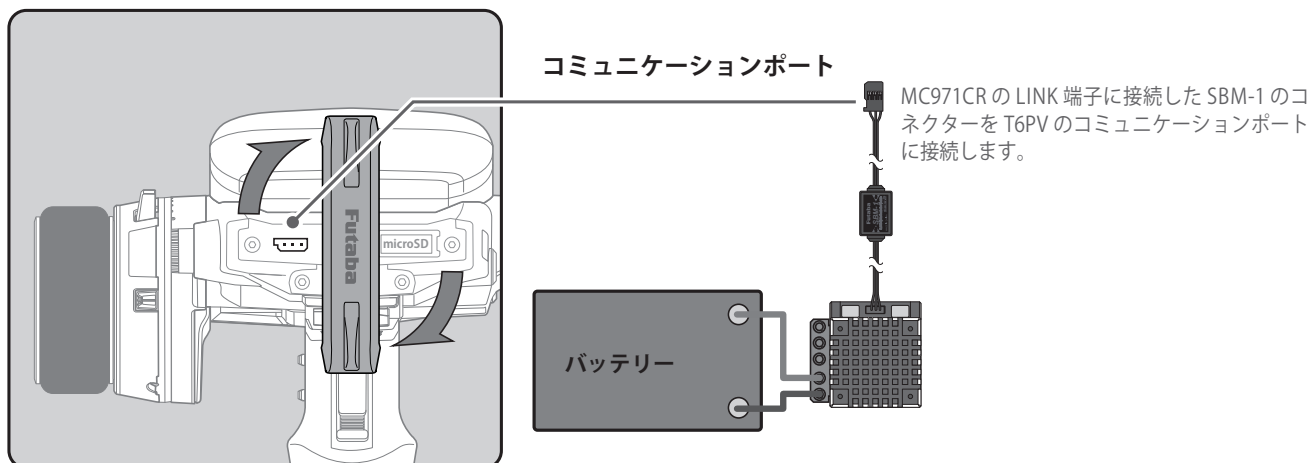
※ワイヤレス設定では周囲の電波環境によっては読み込み / 書き込み / リセット / 初期化に時間がかかる、または失敗する場合があります。失敗した場合は再度読み込み等を実行してください。

MC971CR の設定 (Acuvance Xarvis)

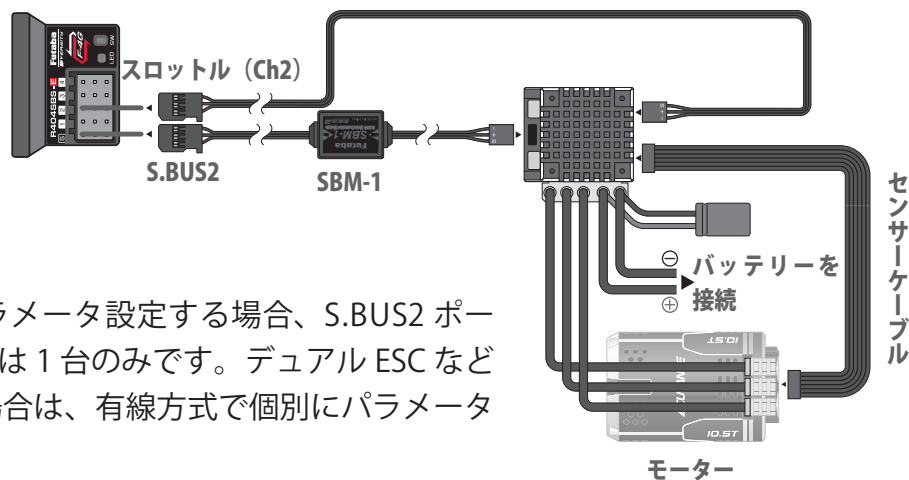
MC971CR は有線方式と、受信機に接続した状態で設定できるワイヤレス方式 (F-4G / T-FHSS) が可能です。また、テレメトリーシステムで送信機へのモーター回転数や、ESC 本体温度などのデータ表示が可能 (F-4G / T-FHSS システム専用) です。

- ワイヤレス方式はワイヤレス設定機能に対応した受信機が必要です。
- MC971CR は、株式会社アキュヴァンスとの共同開発品です。
- Acuvance Xarvis は、株式会社アキュヴァンスの製品です。

有線方式の送信機とMC971CRの接続



ワイヤレス(無線)方式の受信機とMC971CRの接続

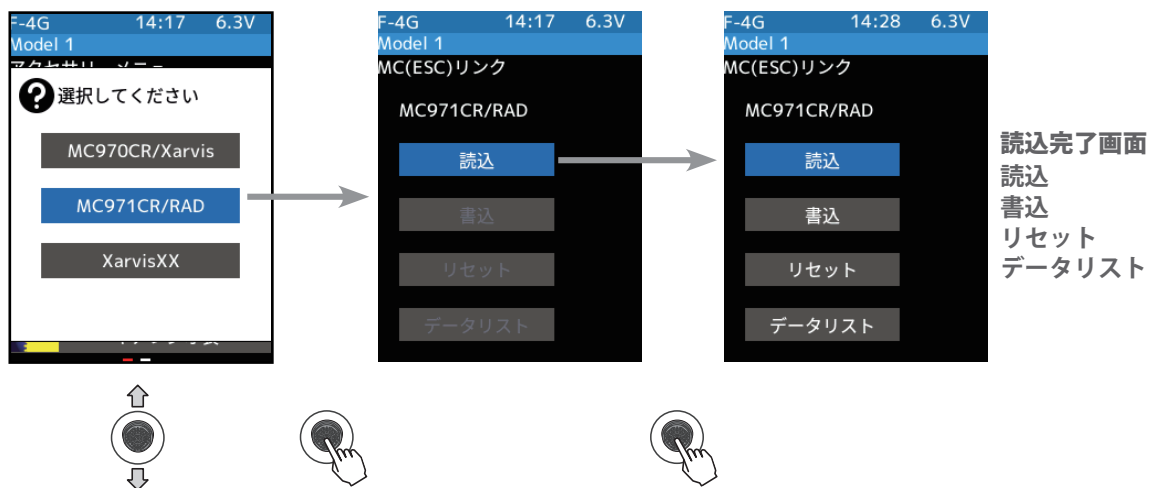
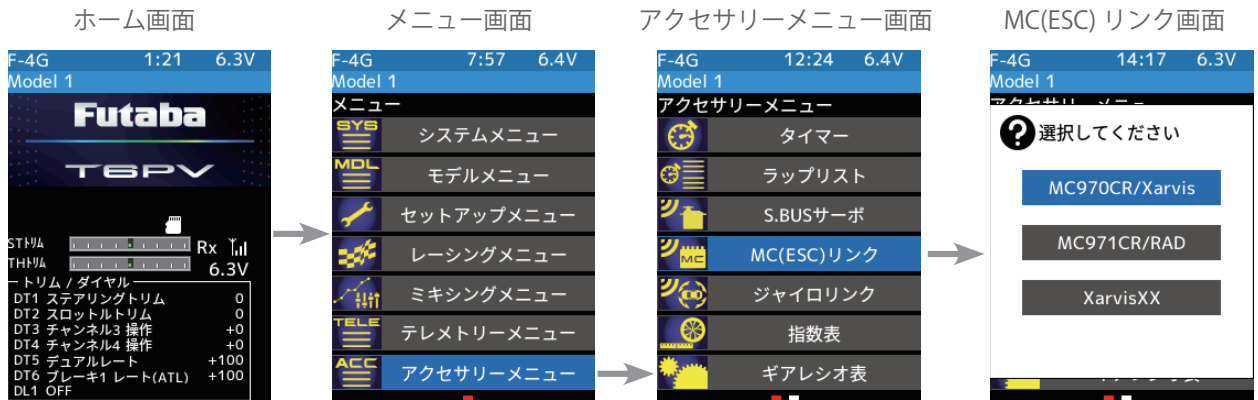


- ワイヤレス方式でパラメータ設定する場合、S.BUS2 ポートへ MC971CR の接続は 1 台のみです。デュアル ESC など、複数台使用する場合は、有線方式で個別にパラメータ設定してください。
- 他のパラメータ設定デバイスを、同時に S.BUS2 ポートへ接続しないでください。
- MC(ESC) 側にもバッテリーを接続してください。
- センサーケーブルを必ず接続してください。



● MC(ESC) 側にもバッテリーを接続してください。

MC(ESC) リンク画面は、次の方法で表示します。



Acuvance Xarvis/XarvisXX に対応していますが、機能詳細につきましては、株式会社アキュヴァンスにお問い合わせください。

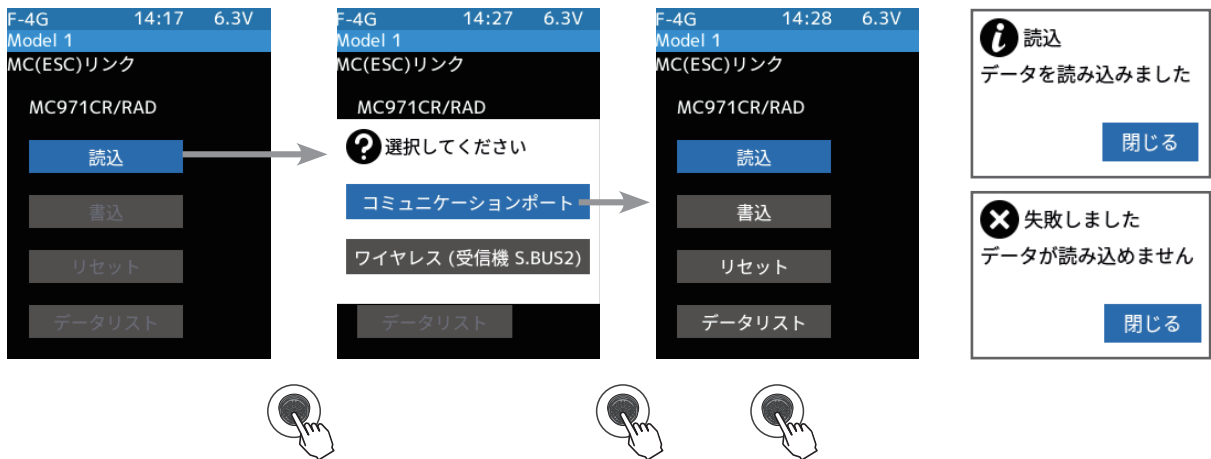
MC(ESC) リンクの使用法

(準備)

- ・ 接続図にしたがって ESC を接続します。
- ・ 送信機の電源スイッチ PWR を ON にし、MC(ESC)リンク画面を表示します。(有線方式の場合は DSP 側でも可能)
- ・ ESC にバッテリーを接続し、ESC の電源 SW を ON にします。
- ・ MC971CR 側を【MC リンクモード】にします。(MC971CR 取扱説明書参照)

1 (ESC の読み込み)

現在 MC971CR に設定されているデータを読み込む場合に実行します。[読み]をジョグキーで選択して押します。接続方法の選択画面が表示されますので、有線方式の場合は「コミュニケーションポート」を、ワイヤレス方式の場合は「ワイヤレス(受信機 S.BUS2)」をジョグキーで選択して押します。



- 画面に「データを読み込みました」が表示され、ESC のタイプと現在の設定内容が読み込まれます。「失敗しました」と表示した場合は、ESC との通信が正常に行われていません。T6PV と ESC の接続および ESC へのバッテリーの接続と ESC の電源 SW を確認して、再度 [読み] 操作を実行してください。

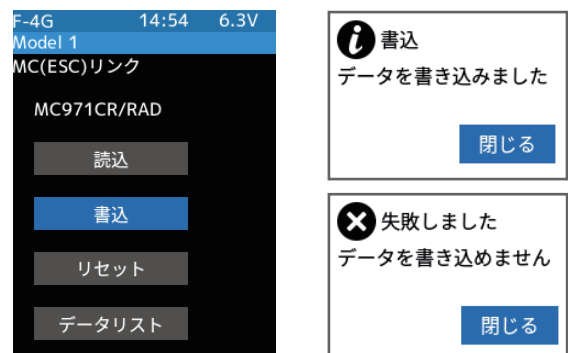
注意：

「ワイヤレス (受信機 S.BUS2)」をジョグキーで選択するときは、MC971CR のニュートラルポイントで、スロットルトリガーまたは、スティックから完全に指を放し、スタンバイ LED(赤)が点灯している状態で行ってください。ニュートラルポイントから少しでも外れている場合は、正常に読み込みできません。(MC971CR 取扱説明書の P10 に記載しているスロットルポジションのスタンバイ LED は、MC リンクモードでは赤になり、ESC モードでは青になります。)

2 (ESC への書き込み)

設定データを ESC に書き込む場合に実行します。設定データを ESC に書き込む場合に実行します。設定入力後に [書込] をジョグキーで選択して押します。

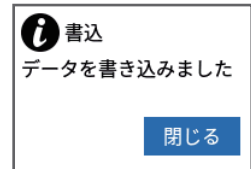
- 画面に「データを書き込みました」と表示され、設定データが ESC に書き込まれます。「失敗しました」と表示した場合は、ESC との通信が正常に行われていません。T6PV と ESC の接続および ESC へのバッテリーの接続と ESC の電源 SW を確認して、再度 [書込] 操作を実行してください。



3 (リセット／初期化)

接続されている MC(ESC) に、工場出荷時の設定データを書き込みます。設定項目 **[リセット]** をジョグキーで選択して押します。

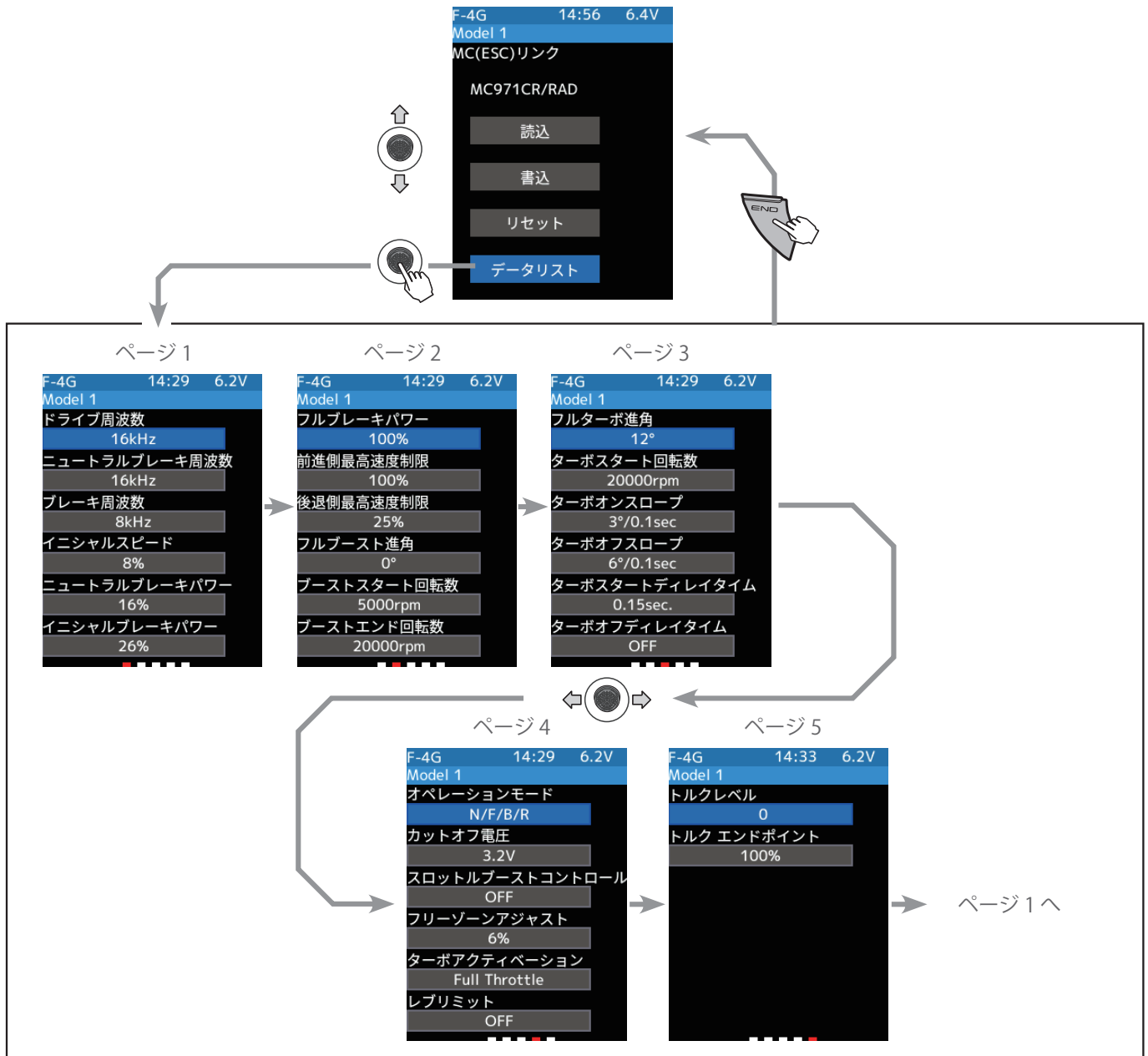
- 画面に「データを書き込みました」と表示され、初期データが ESC に書き込まれます。「失敗しました」と表示した場合は、ESC との通信が正常に行われていません。T6PV と ESC の接続および ESC へのバッテリーの接続と ESC の電源 SW を確認して、再度 **[リセット]** 操作を実行してください。



データリスト表示

1 設定項目 **[データリスト]** をジョグキーで選択して押し、読み込んだ ESC のデータを表示します。

以下のようにページの移動をします。



各データの設定方法

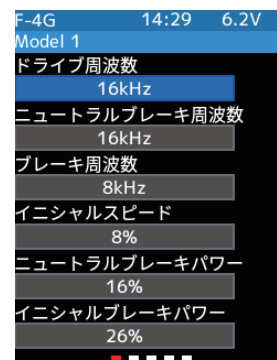
1 [数値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で
[+][-] ボタンを押して設定します。

* ドライブ周波数 (kHz)

- 1 ~ 16kHz(1kHz Step) & 16 ~ 32kHz(2kHz Step) & 35・38・42・55・64kHz

加速のフィーリングを決定します。

数値が低いほど【加速力 = 増 / リニア感 = 減】となり、高いほど【加速力 = 減 / リニア感 = 増】となります。



* ニュートラルブレーキ周波数 (kHz)

- 0.5kHz (500Hz), 1kHz (1000Hz) ~ 32kHz (32000Hz) (1-16=1kHz step, 16-32kHz=2kHz step)

走行中にスロットルをニュートラル位置に戻した際にかかるブレーキフィーリングを決定します。数値が低いほど【制動力 = 増 / ブレーキングの滑らかさ = 減】となり、高いほど【制動力 = 減 / ブレーキングの滑らかさ = 増】となります。

* ブレーキ周波数 (kHz)

- 0.5kHz (500Hz), 1kHz (1000Hz) ~ 32kHz (32000Hz) (1-16=1kHz step, 16-32kHz=2kHz step)

走行中にスロットルをブレーキ側に入れた際にかかるブレーキフィーリングを決定します。数値が低いほど【制動力 = 増 / ブレーキングの滑らかさ = 減】となり、高いほど【制動力 = 減 / ブレーキングの滑らかさ = 増】となります。

* イニシャルスピード (%)

- 0 ~ 50% (2% step)

停止状態から加速し始める際の初速を決定します。数値が大きいほど唐突な走り出しになります。過度な設定はモーターやギヤ等に負担がかかるためご注意ください。

* ニュートラルブレーキパワー (%)

- 0 ~ 100% (2% step)

走行中にスロットルをニュートラル位置に戻した際にかかるブレーキパワーを決定します。数値が低いほど緩やかなブレーキングになり、高いほど唐突感のあるブレーキングになります。

* イニシャルブレーキパワー (%)

- 0 ~ 50% (2% step)

走行中にスロットルをブレーキ側に入れた瞬間にかかるブレーキパワーを決定します。数値が低いほど緩やかなブレーキングになり、高いほど唐突感のあるブレーキングになります。

***フルブレーキパワー (%)**

- 0 ~ 100% (2% step)

走行中にスロットルをフルブレーキに入れた際にかかるブレーキパワーを決定します。数値が低いほど緩やかなブレーキングになり、高いほど唐突感のあるブレーキングになります。

***前進側最高速度制限 (%)**

- 50 ~ 100% (2% step)

前進側の最高速度を制限する機能です。

***前進側最高速度制限 (%)**

- 25 ~ 100% (25% step)

後退側の最高速度を制限する機能です。

***フルブースト進角 (deg.)**

- 初期値 (0) ~ 60deg. (1deg. step)

ブースト機能により上昇する進角の最高到達値です。

ブーストとターボにて増幅可能な進角は最大 60deg. です。フルブースト進角値とフルターボ進角値の合計が 60deg. を超える場合は、自動的に 60deg. で頭打ちします。

*モーター本体で機械的進角が設定可能な場合、60deg. に機械的進角が加算されます。各機器に大きな負荷がかかりますので、モーターの機械的進角値には十分ご注意ください。

***ブーストスタート回転数 (rpm)**

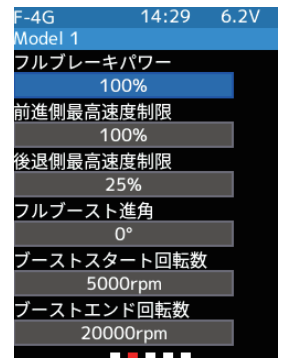
- 1,000 ~ 40,000rpm (500rpm step)

ブーストが掛かり始めるモータ回転数です。この回転数に達するまでは、スロットルに対しリニアな加速となります。

***ブーストエンド回転数 (rpm)**

- 10,000 ~ 100,000rpm (500rpm step)

「フルブースト進角」にて設定した進角値に到達するモータ回転数です。この回転数を超えるとブーストがかからなくなり、フルブースト進角で設定した進角をキープしたまま、スロットルに対しリニアな加速となります。

**ブーストスタート回転数／ブーストエンド回転数**

この2項目により進角の上昇率が決まります。ブーストスタート回転数とブーストエンド回転数の間隔が狭いほど進角の上昇が急激に、間隔が広いほど進角の上昇が緩やかになります。

【注】初めてこの機能を使用する際は、両回転数の間隔を十分に空けた設定で走行し、徐々に狭めながらベストポイントを探るようにしてください。【重要】必ずブーストスタート回転数よりブーストエンド回転数の方が十分に大きくなるように設定してください。

*フルターボ進角 (deg.)

• 0 ~ 60deg. (1deg. step)

ターボ機能により上昇する進角の最高到達値です。

ブーストとターボにて増幅可能な進角は最大 60deg. です。フルブースト進角値とフルターボ進角値の合計が 60deg. を超える場合は、自動的に 60deg. で頭打ちします。

* モータ本体で機械的進角が設定可能な場合、60deg. に機械的進角が加算されます。各機器に大きな負荷がかかりますので、モータの機械的進角値には十分ご注意ください。

F-4G	14:29	6.2V
Model 1		
フルターボ進角	12°	
ターボスタート回転数	2000rpm	
ターボオンスロープ	3°/0.1sec	
ターボオフスロープ	6°/0.1sec	
ターボスタートディレイタイム	0.15sec.	
ターボオフディレイタイム	OFF	

*ターボスタート回転数 (rpm)

• 10,000 ~ 50,000rpm (500rpm step)

ターボが作動し始める回転数です。

この項目は、ターボアクティベーションにて **【RPM】・【Full Throttle & RPM】** に設定した場合のみ有効です。

*ターボオンスロープ (deg./0.1sec.)

• 1 ~ 50deg./0.1sec. (1deg./0.1sec. step)

ターボが作動し始めてからフルターボ進角に到達するまでの進角上昇率です。数値が大きいほど、より急激に進角が上昇します。

数値を1段階変化させただけで走行フィーリングが急激に変化するので、初めてこの機能を使用する際は 0.1sec に設定して走行し、徐々に上げながらベストポイントを探るようにしてください。

*ターボオフスロープ (deg./0.1sec.)

• 1 ~ 50deg./0.1sec. (1deg./0.1sec. step)

フルターボ進角からターボが解除されるまでの減速感を調整します。数値が小さいほどフルターボ状態からの減速が緩やかになります。

*ターボスタートディレイタイム (sec.)

• OFF(0) ~ 1.00sec. (0.05sec. step)

フルスロットルに入れてからターボが作動し始めるまでの時間です。

(例) 0.50sec に設定した場合、フルスロットルに入れてから 0.5 秒後にターボが作動する。

この項目は、ターボアクティベーションにて **【Full Throttle】・【Full Throttle & RPM】** に設定した場合のみ有効です。

*ターボオフディレイタイム (sec.)

• OFF(0) ~ 1.00sec. (0.05sec. step)

フルスロットルを緩めた瞬間からターボが OFF になるまでの時間。

(例) 0.50sec に設定した場合、フルスロットルを緩めてから 0.5 秒後にターボが OFF になる。

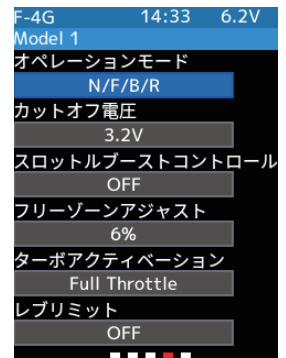
この項目は、ターボアクティベーションにて **【Full Throttle】・【Full Throttle & RPM】** に設定した場合のみ有効です。

*オペレーションモード

- N/F/B • N/F/B/R • N/F/R
R/F/B • R/F/B/R • R/F/R

N=Norma (正回転) / 最左の R=Reverse(逆回転) / F=Forward(前進)
/B=Brake(ブレーキ) / 最右の R=Reverse(後退)

【重要】"B"の表記がない項目は、スロットルを後退側に入れた際、ブレーキがかからずに突然後退回転を始めます。クローラー向けの設定となりますので、クローラー以外では絶対にご使用にならないでください。



*カットオフ電圧(V)

- NONE, 2.6 ~ 3.6V/cell (0.1V/cell step)

バッテリー電圧が設定値まで低下した際に超低速での定速走行となることで、バッテリー電圧が低下していることをドライバーに知らせ、受信機がノーコン状態に陥ることを防ぎます。過放電に弱いバッテリーをご使用の場合は、バッテリー破損電圧(バッテリーにより異なります)より高い値に設定していただくことで、バッテリーの破損を未然に防ぐことができます。

*スロットルブーストコントロール

- ON / OFF

ブースト機能を使用する際、急激なスロットル操作をした場合でも、回転数が急激に変化しないよう自動制御するセーフティ機能です。

*フリーゾーンアジャスト (%)

- 1 ~ 6% (1% step)

ブースト機能を使用する際、急激なスロットル操作をした場合でも、回転数が急激に変化しないよう自動制御するセーフティ機能です。

*ターボアクティベーション

- Full Throttle & RPM • RPM • Full Throttle

ターボが作動する要因を決定します。

【Full Throttle】・・・スロットルをフルスロットルに入れた時点でターボが作動します。

【RPM】・・・モーター回転数が「ターボスタート回転数」に達した時点でターボが作動します。

【Full Throttle & RPM】・・・フルスロットルとターボスタート回転数のいずれか先に到達した方を切っ掛けにターボが作動します。

*レブリミット (rpm)

- OFF, 10,000-100,000rpm (1,000rpm step)

モーター回転数の上限を設定する機能です。

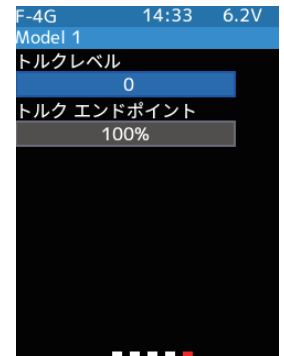
スロットル位置に応じて出力を制限する「最高速度制限」に対し、こちらはモーター回転数に応じて出力を制限します。高回転のモーターをご使用の際等、思わぬ速度上昇を防ぐことができます。

トルクレベル*• -5 ~ 0 ~ +5**

設定値0がノーマル状態。数値が高いほどトルク感のある加速&緩やかな減速となり、低いほど緩やかなふけ上がり&急激な減速となります。

トルクエンドポイント*• 20 ~ 100% (5% step)**

トルクレベル機能が作動するスロットル範囲(0% ~ 設定値まで作動)を設定します。トルクエンドポイント以降は通常の出力行特性となります。



MC971CR (テレメトリーセンサーの登録)

MC971CRは、以下のデータをテレメトリーで表示することができ、回転数はMCリンクのパラメータ設定画面にも表示できます。

- 回転数／●ESC 内部温度／●モーター温度*／●バッテリー電圧

*MC971CRのモーター温度測定機能に対応しているモーターは、(株)アキュヴァンス製の「LUXON AGILE」シリーズです。その他のモーターを接続した場合はモーター温度測定は保証外となります。

- テレメトリーで表示するには、ESC側を【MCリンクモード】にします。【ESCモード】では表示できません。

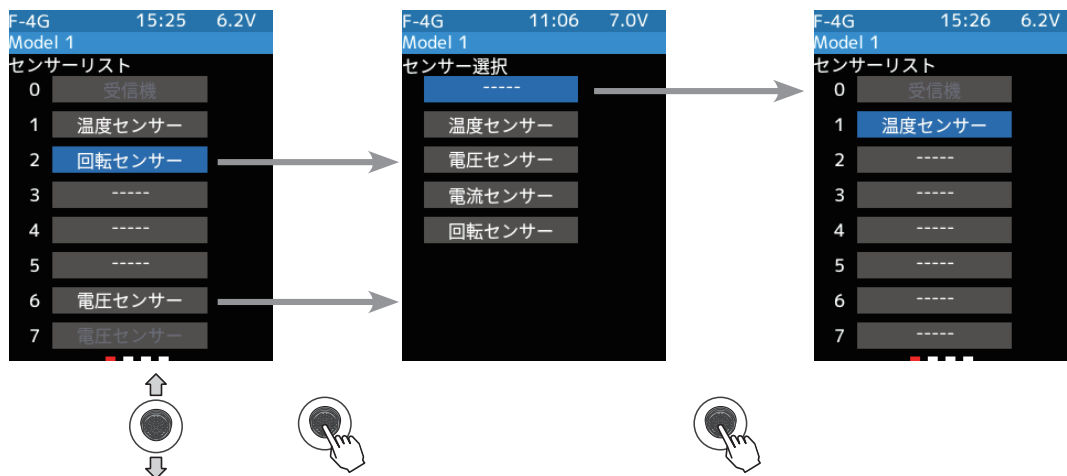
- MC971CRは連続する7つのスロットを使用します。初期設定でスタートスロットは1です。スタートスロットに割り当て可能なスロットナンバーは1, 8, 9, 16, 17, 24, 25です。

センサーリストでMC971CRを割り当てる方法(MC971CR初期設定の、スロット1で使用する場合)

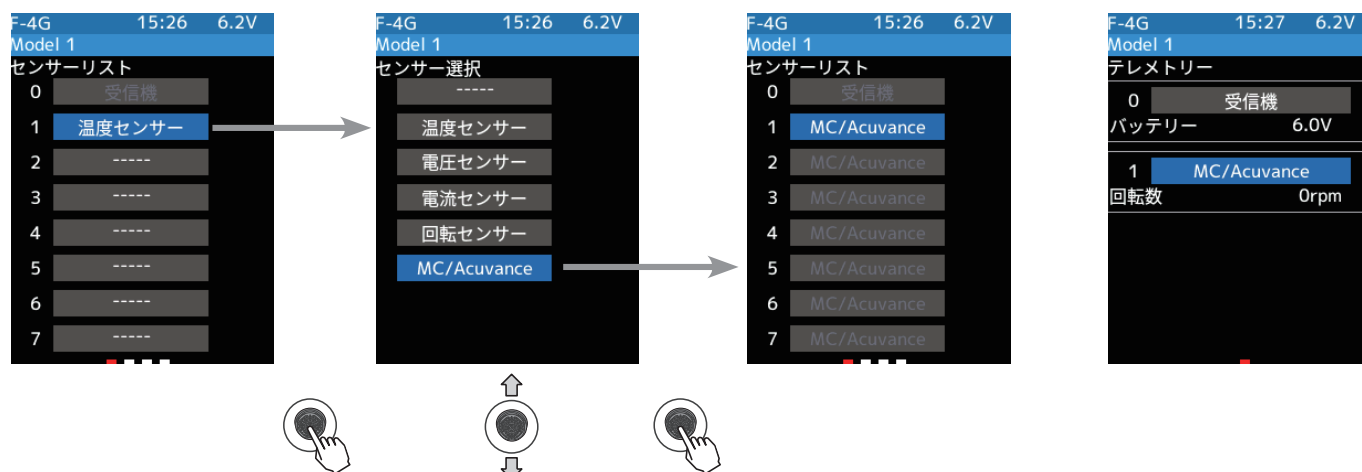
1 テレメトリーメニューのセンサーリストの画面を表示します。

2 スタートスロットを設定します。

MC971CRは、スロット・ナンバー1に設定されて出荷されています。T6PVに初期設定されているスロット2[回転センサー]とスロット6[電圧センサー]をセンサー選択画面で[---]をジョグキーで選択して押し、センサーの割り当てを解除します。



3 センサーリストのスロット1[温度センサー]をジョグキーで選択して押し、センサー選択画面に表示される【MC/AcuVance】を選びます。テレメトリー画面のスロット1に【MC/AcuVance】が表示されます。



センサー登録機能を使用する方法（送信機の空きスロットに自動的に登録する場合）

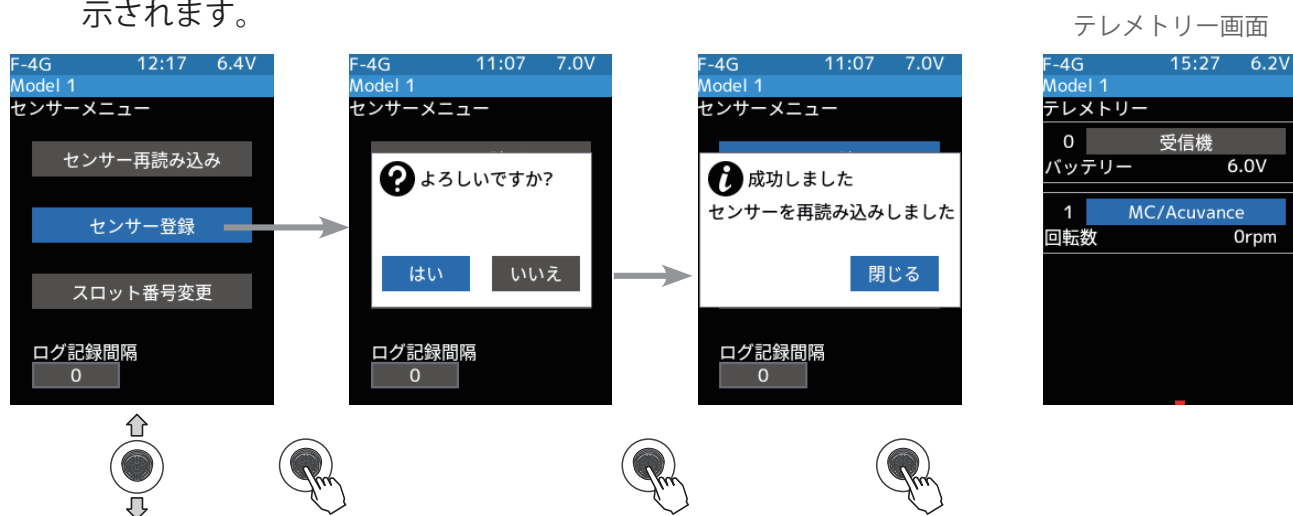
1 SBM-1 のみを送信機のコミュニケーションポートに接続します。

ESC を接続したまま SBM-1 のセンサー登録もできますが、その場合 ESC にバッテリーを接続し電源を ON にした状態で、送信機のコミュニケーションポートに接続してください。

2 テレメトリーメニュー→センサーメニュー画面を表示します。

センサーメニュー画面で **[センサー登録]** を行います。

ESC のスロット・ナンバーが自動設定され、テレメトリー画面に **[MC/Acuvance]** が表示されます。



ESC がテレメトリーセンサーとして登録されると、他の温度センサーや回転センサー等と同じようにリミット、アラーム、の設定が可能です。

他のテレメトリーセンサーと同じ方法で、スロット番号の変更もできます。



ジャイロリンク

Futaba カー用ジャイロのデータ変更を T6PV 本体で設定できる専用機能です。

- ジャイロのデータを送信機からワイヤレスで設定することができます。
※対応ジャイロ：GYD550 (2025 年 1 月現在)
- ジャイロデータ切り替え機能で最大 5 種類のデータを、走行中に切り替えることができます。
- S.BUS サーボのデータを、ジャイロに接続したままの状態、送信機からワイヤレスで設定することができます。

※ワイヤレス方式はワイヤレス設定機能に対応した受信機が必要です。
 ※対応受信機：R404SBS/R404SBS-E /R334SBS(Ver.4.0~)/R334SBS-E(Ver.4.0~)
 ※受信機の S.BUS 接続の場合は、ワイヤレスでサーボの設定はできません。
 ※ワイヤレス設定では周囲の電波環境によっては読み込み / 書き込み / リセット / 初期化に時間がかかる、または失敗する場合があります。失敗した場合は再度読み込み等を実行してください。

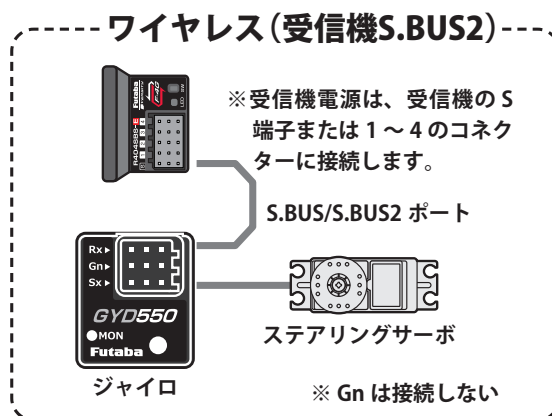
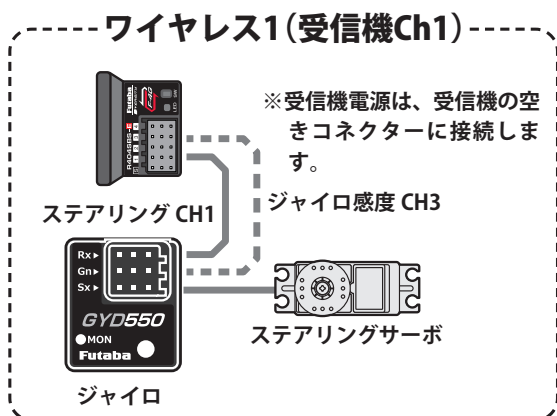
- 送信機からジャイロゲイン等をコントロール可能にするために、送信機のジャイロミキシング機能を ON にする必要があります。

ジャイロリンク画面は、次の方法で表示します。



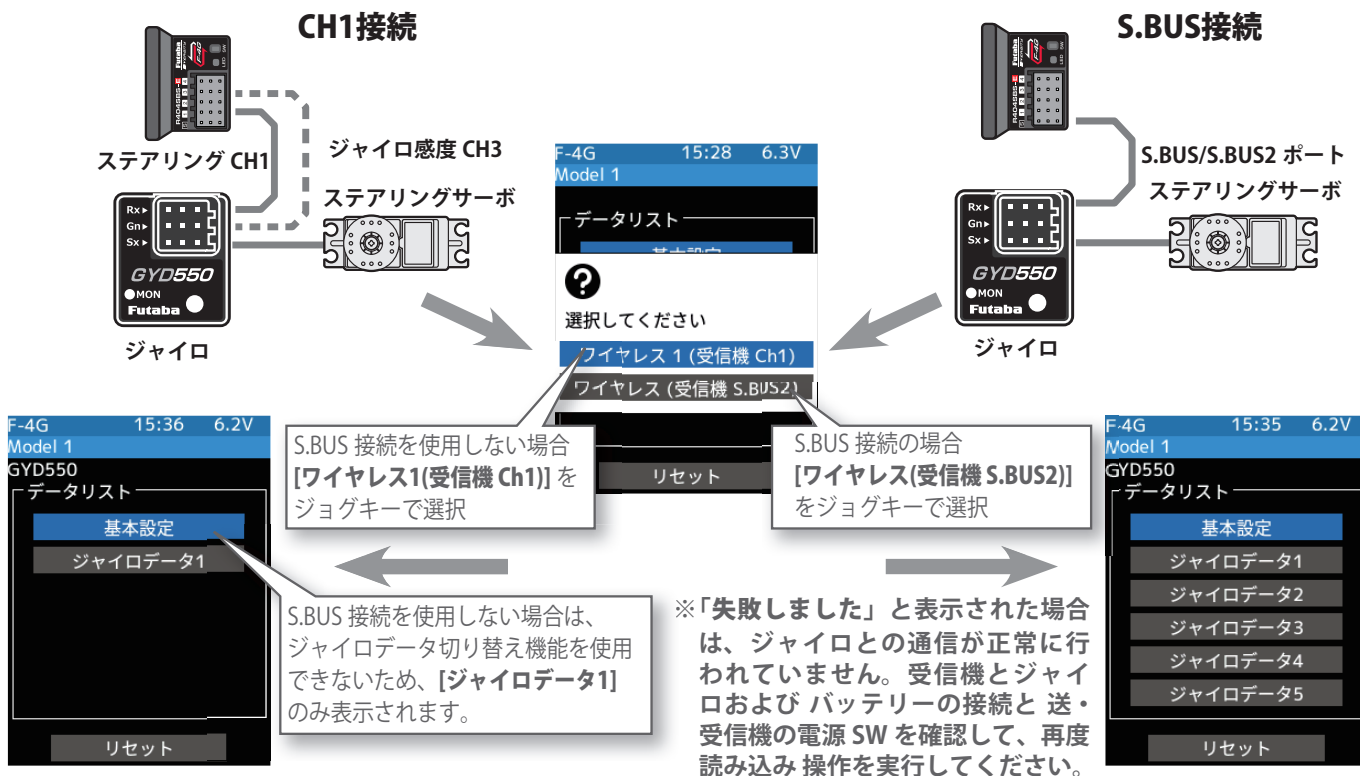
ジャイロリンクの使用方法

- ・下の接続図にしたがってジャイロを接続します。
※接続図は、ジャイロリンクの接続方法を選ぶ際の参考図です。SR モードや、S.BUS 接続の詳細または、注意については、ジャイロの説明書をお読みください。
- ・送信機の電源スイッチ PWR を ON にし、ジャイロリンク画面を表示します。
※ディスプレイスイッチ DSP では使用できませんので注意してください。
- ・受信機の電源 を ON にします。



1 (ジャイロデータの読み込み)

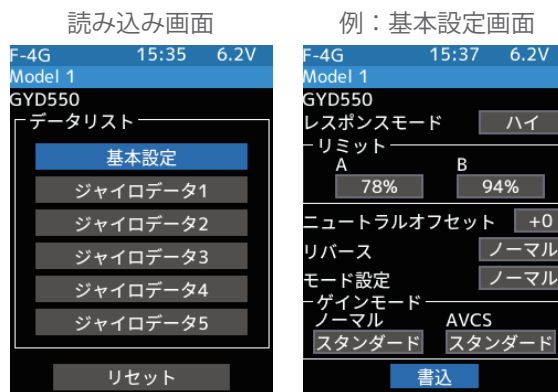
現在 ジャイロ に設定されているデータを読み込む場合に実行します。アクセサリメニューからジャイロリンク画面を開くと、接続方法の選択画面が表示されますので、ジャイロと受信機の接続方法に合わせて、ボタンをジョグキーで選択して押します。ジャイロからデータが読み込まれます。



2 (ジャイロへのデータ書き込み)

設定データをジャイロに書き込む場合に実行します。基本設定画面とジャイロデータ画面の両方にある、設定項目 **[書込]** をジョグキーで選択して押します。「書き込みお待ちください」と表示した後、電子音が鳴り書き込みが終了します。設定を変更したら必ず書き込みをしてください。

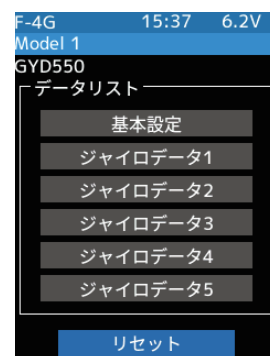
- 「失敗しました」と表示した場合は、ジャイロとの通信が正常に行われていません。ジャイロの接続、電源等を確認し、再度 [書込] 操作を実行してください。



3 (リセット／初期化)

接続されているジャイロに、工場出荷時の設定データを書き込みます。ジャイロ読み込み画面にある、設定項目 **[リセット]** をジョグキーで選択して押します。「よろしいですか」と確認画面を表示しますので [はい] をジョグキーで選択して押します。(中止する場合は [いいえ] をジョグキーで選択) 「リセットお待ちください」と表示した後、電子音が鳴り「データを書き込みました」と表示し、リセットが完了します。**[閉じる]** が選択された状態でジョグキーを押します。

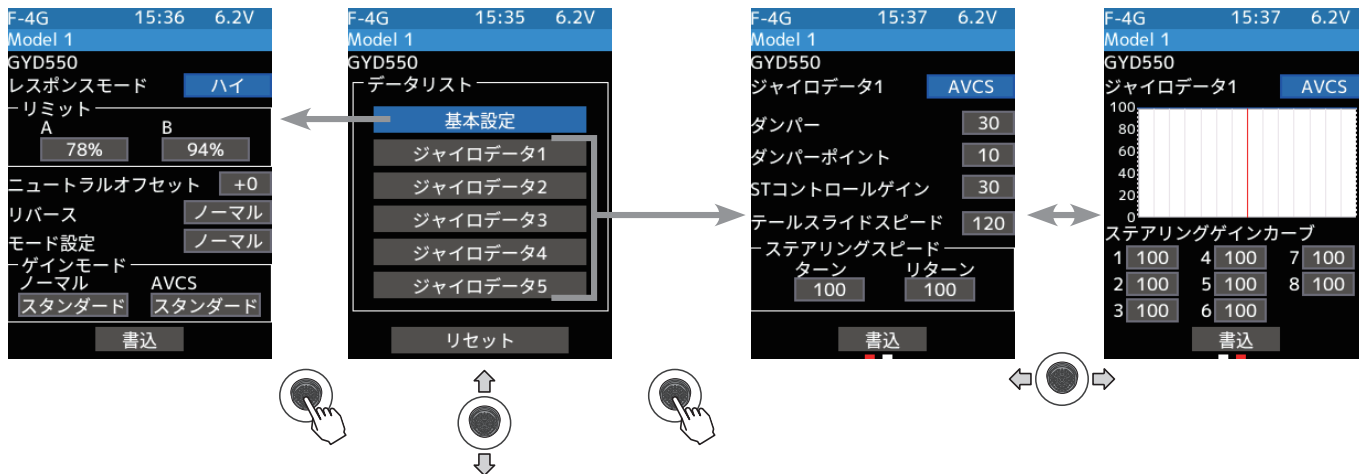
- 「失敗しました」と表示された場合は、ジャイロとの通信が正常に行われていません。ジャイロの接続、電源等を確認し、再度 [リセット] 操作を実行してください。



各データ画面の表示

ジャイロの設定データは、基本設定とジャイロデータ (1 ~ 5) の画面に別れ、ジョグキーを左右に操作して表示します。

※S.BUS 接続を使用しない場合は、ジャイロデータ切り替え機能を使用できないため、**[ジャイロデータ1]**のみ表示されます。



各データの設定方法

[数値] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で **[+][−]** ボタンを押し設定します。設定を変更したら必ず **[書込]** をします。

基本設定

*レスポンスモード

ジャイロセンサーレスポンス設定

※ロー → ミドル → ハイでレスポンスが速くなる。

※ハイモードで、デッドバンドを極端に狭く設定したサーボを使用すると、若干ジッタが発生しますが走行に問題はありません。ただし、強いジッタが発生する場合は、ミドルまたは、ローモードに設定してください。

*リミット

ステアリング最大舵角の調整機能

※ステアリング操作して、タイヤがアーム等に干渉しない範囲で最大舵角になるよう左右別々に調整する。

※リミットの調整値が少ない（最大舵角まで調整が取れていない）とスピンしやすくなります。

※リミット調整時は、ステアリング舵角が 1.5 倍に増幅されますが異常ではありません。ただし、走行はリミット調整を終了してから行ってください。

*リバース

ジャイロの制御方向の設定

※電源を入れて車体を持って左に振ってみます。ステアリングが右に切れると OK です。

※反対の場合はジャイロ・リバースで方向を変更します。

*モード設定

ノーマル ⇄ SR モードの設定

※SR 対応サーボを SR モード使用時のみ SR に設定します。

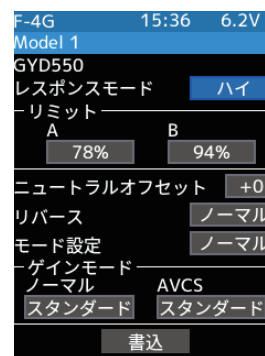
*ゲインモード

ジャイロの内部制御ゲイン（感度）の切替

※ハイゲインはスタンダードゲインに対して 1.5 倍の感度となります。

※通常はスタンダードに設定、送信機の感度設定を最大値にしても足りない場合にハイゲインに設定します。

基本設定画面



ジャイロデータ

ジャイロデータ設定画面は2ページあり、ジョグキーを左右に操作してページを切り替えます。また、ジャイロの各動作モード(ノーマル/AVCS)で独立にデータを設定することができます。

ジャイロデータ 1/2

* AVCS とノーマルモード切り替えボタン

ジャイロ動作モード設定

- ※ノーマルモードは、ドリフト中に送信機からカウンター舵を打つような操縦になります。ドライバーのコントロール優先モードとなります。
- ※AVCSモードは、ドリフト中にジャイロから大きなカウンター舵が入るため、コーナリング時は進行方向に舵を打つ感覚となります。ジャイロ優先モードとなり、強固にドリフト中の車体の姿勢をコントロールします。
- ※ドライビングスタイルに合ったモードをジョグキーで選択して押しください。

*ダンパー

ハンチング抑制機能

- ※数値を大きくするほど、ハンチングの抑制力は強くなりますが、サーボの動きは遅くなります。

*ダンパーポイント

ジャイロの回転方向のスピードに対してサーボへの出力信号にダンパーが働く割合を調整

- ※数値を小さくするとダンパーの影響が強くなり、スピードが遅く感じます。
- ※数値を大きくするとダンパーが遅く働き、レスポンスが上がりますが、ハンチングが出やすくなります。

*STコントロールゲイン

ジャイロ制御に対して、送信機からステアリング操作量の割合を調整

- ※数値を大きくすると操縦者のステアリング操作が大きく反映される(ステアリングレスポンスが速く感じます)

*テールスライドスピード

走行させた時のテールスライド(テールを振る)のスピード調整

- ※数値を小さくすると、テールスライドのスピードが遅くなり、数値を大きくすると速くなる。
- ※ステアリング操作時の、テールスライド量の調整にも有効です。

*ステアリングスピード

ステアリング操作に対してサーボの動作スピードを調整する機能(送信機のサーボスピードと同等機能)

- ※数値を小さくするとサーボスピードが遅くなります。

ジャイロデータ 1/2 画面



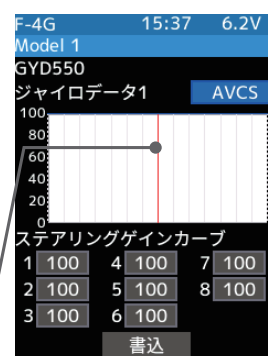
ジャイロデータ 2/2

*ステアリングゲインカーブ

ニュートラルを基準に、エンドポイントまで8ポイントのゲイン設定可能

- ※左右対称に連動して設定されます。

ジャイロデータ 2/2 画面



*ステアリングの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

ジャイロデータ切り替え機能

ジャイロデータを、送信機のプッシュスイッチまたはトリムレバー / ダイアルで切り替えることができます。(最大5ジャイロデータまで)

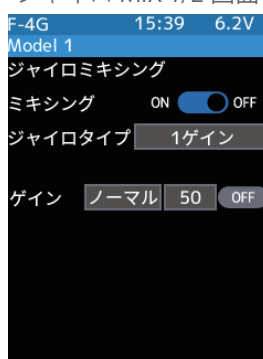
※対応ジャイロ：GYD550 (2025年1月現在)

- ジャイロを受信機のS.BUS2端子に接続してください。
- ジャイロミキシング機能をONにする必要があります。

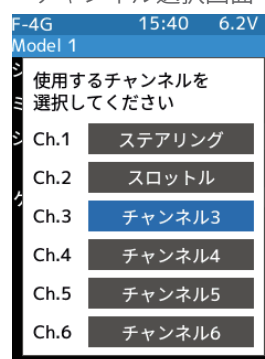
プッシュスイッチで切り替える場合

- 1 ミキシングメニュー→ジャイロミキシング画面で、ミキシングOFFをジョグキーで選択して押し使用するチャンネルをジョグキーで選択して押します。

ジャイロ MIX 1/2 画面

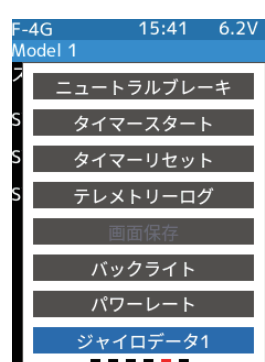
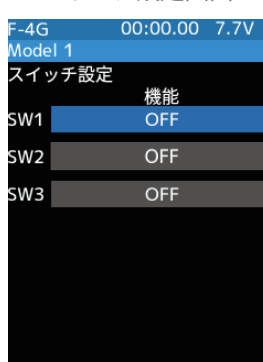


チャンネル選択画面



- 2 セットアップメニュー→スイッチ設定画面を開き、データ切り替えに使用したいスイッチをジョグキーで選択して押します。

スイッチ設定画面



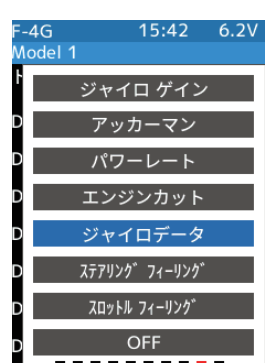
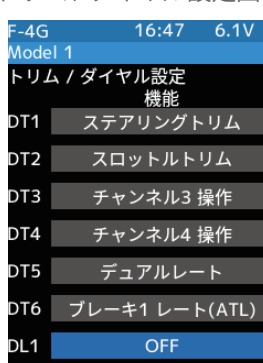
- 3 機能選択画面で、[ジャイロデータ1]～[ジャイロデータ5]の中から、使用するジャイロデータを割り当てます。

トリムレバー / ダイアルで切り替える場合

- 1 ジャイロミキシング画面で、機能をONに設定します。

- 2 セットアップメニュー→トリム / ダイアル設定画面を開き、データ切り替えに使用したいトリムレバー / ダイアルをジョグキーで選択して押します。

トリム / ダイアル設定画面



- 3 機能選択画面で、[ジャイロデータ]をジョグキーで選択して押します。



指数表

DD カー用の指数表を表示できます。入力したスパークギア、ピニオンギアの歯数とタイヤの直径から指数を算出し、一覧表で表示することができます。

指数表画面は、次の方法で表示します。



指数表機能の使用法

設定

- [+]/[-] を押し
- [+]/[-] 同時押しでリセット

1 (タイヤ径入力のステップ量設定)

[ステップ] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+]/[-] ボタンを押し、タイヤ径入力のステップ量を設定します。

- ステップ量は 0.1 mm から 1.0 mm の範囲で設定できます。

2 (スパークギアの歯数の設定)

[スパーク] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+]/[-] ボタンを押し、スパークギアの歯数を設定します。

- 指数が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた指数です。

ピニオン	スパーク	タイヤ径			
30	90	50.0	50.5	51.0	51.5
30	52.4	52.9	53.4	53.9	
31	54.1	54.6	55.2	55.7	
32	55.9	56.4	57.0	57.5	
33	57.6	58.2	58.7	59.3	
34	59.3	59.9	60.5	61.1	

3 (ピニオンギアの歯数の設定)

[ピニオン] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+]/[-] ボタンを押し、ピニオンギアの歯数を設定します。

- 指数が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた指数です。

4 (タイヤ径の設定)

[タイヤ径] をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で [+]/[-] ボタンを押し、タイヤ径を設定します。

- 指数が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた指数です。

5 終了する場合は、END ボタンを押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、END ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。



ギアレシオ表

ギアレシオ表を表示できます。入力したピニオンギア、スパーギア、ギアボックスの2次減速比から最終減速比を算出し、一覧表で表示することができます。ギアレシオ表画面は、次の方法で表示します。



ギアレシオ機能の使用法

1 (ピニオンギアの歯数の設定)

[ピニオン]をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+][-]ボタンを押し、ピニオンギアの歯数を設定します。

- 最終減速比が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた最終減速比です。

F-4G 15:43 6.2V Model 1			
ギアレシオ表			
ピニオン 2次減速比			
30	1.00		
スパー			
90	91		
30	3.000	3.033	3.067
31	2.903	2.935	2.968
32	2.812	2.844	2.875
33	2.727	2.758	2.788
34	2.647	2.676	2.706

設定

- [+][-]を押す
- [+][-] 同時押しでリセット

2 (スパーギアの歯数の設定)

[スパー]をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+][-]ボタンを押し、スパーギアの歯数を設定します。

- 最終減速比が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた最終減速比です。

3 (2次減速比の設定)

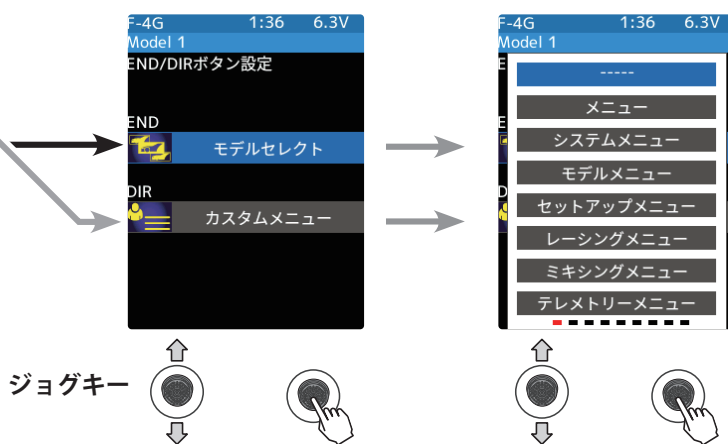
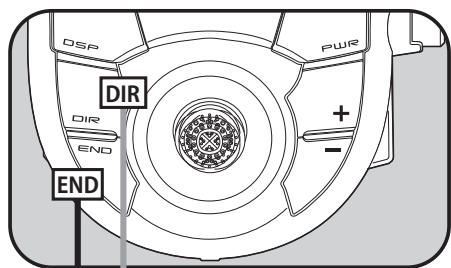
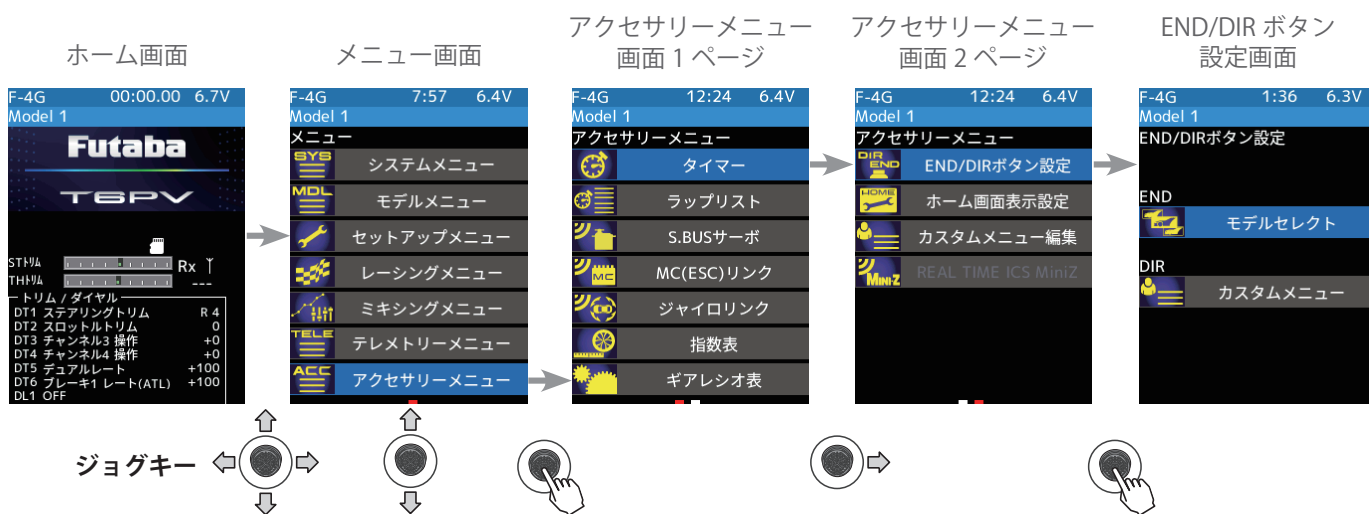
[2次減速比]をジョグキーで選択、設定値が青く表示された状態で[+][-]ボタンを押し、2次減速比を設定します。

- 最終減速比が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた最終減速比です。

4 終了する場合は、**END** ボタンを押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、**END** ボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

END/DIR ボタン設定

END/DIR ボタンをホーム画面から希望の画面の呼び出しボタンとして使用できます。



END/DIR ボタンの呼び出し設定
 特定の機能画面の表示を選ぶことができます。機能の一覧からジョグキー操作で選びます。

複数のページがありますので、ジョグキーを右または左方向に操作してページを移動します。



ホーム画面表示設定

ホーム画面の表示をカスタマイズすることができます。

●ノーマル

工場出荷時のホーム画面の表示設定です。T6PV ロゴが表示されます。

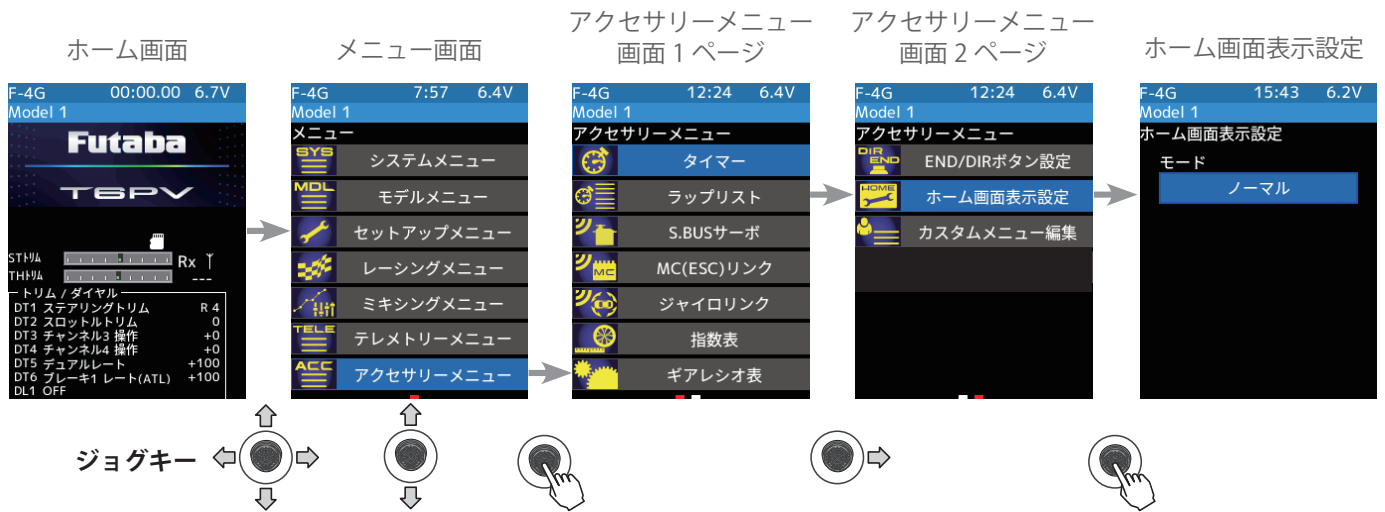
●サーボビュー

すべてのチャンネルのサーボ動作状況を表示します。

●メーター

ホーム画面にテレメトリー情報を確認できる、グラフィックメーターや、ステアリング、スロットルの動作メーターを表示できます。3つのデータが表示できます。

ホーム画面表示設定画面は、次の方法で表示します。



ホーム画面表示の設定方法

1 (ホーム画面表示の変更)

ホーム画面表示の **[モード]** が選択された状態で **[+]/[-]** ボタンを押し変更します。



メーターの選択方法

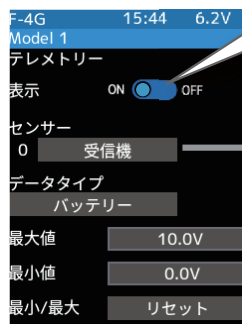
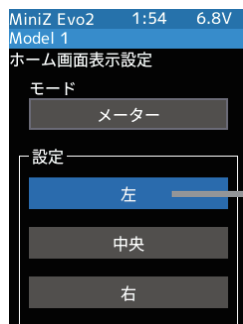
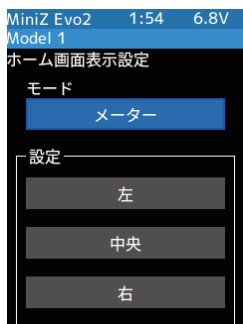
1 (メーターの種類の設定)

ホーム画面表示の設定で**[メーター]**を選びます。

ホーム画面で設定するメーターをジョグキーで選択して押します。

以下の手順で、表示するデータを選びます。

ホーム画面表示設定



メーター毎に表示のON/OFFができます。



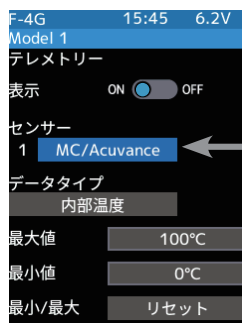
"ステアリング":
ステアリングホイールの操作に追従してメーター表示



"スロットル":
スロットルトリガーの前進操作に追従してメーター表示



"各種センサー":
テレメトリーのデータをメーター表示



メーター表示最大値 / 最小値をジョグキーで選択し [+][-] ボタンを押して設定します。

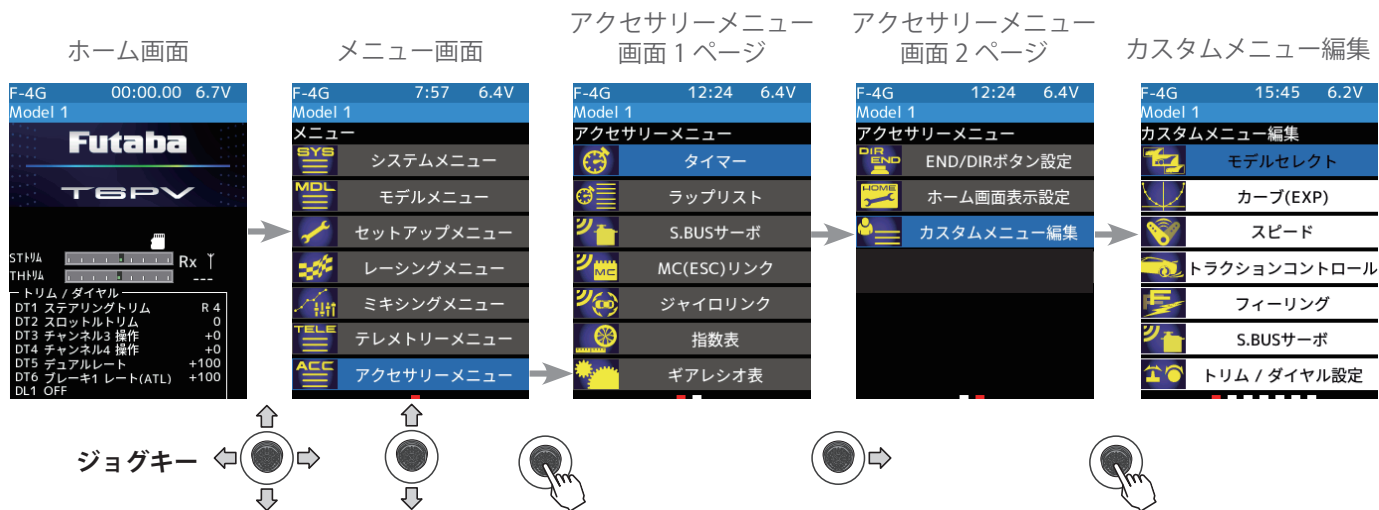
2 終了する場合は、**END ボタン**を押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、**END ボタン**を長押しでホーム画面に戻ります。



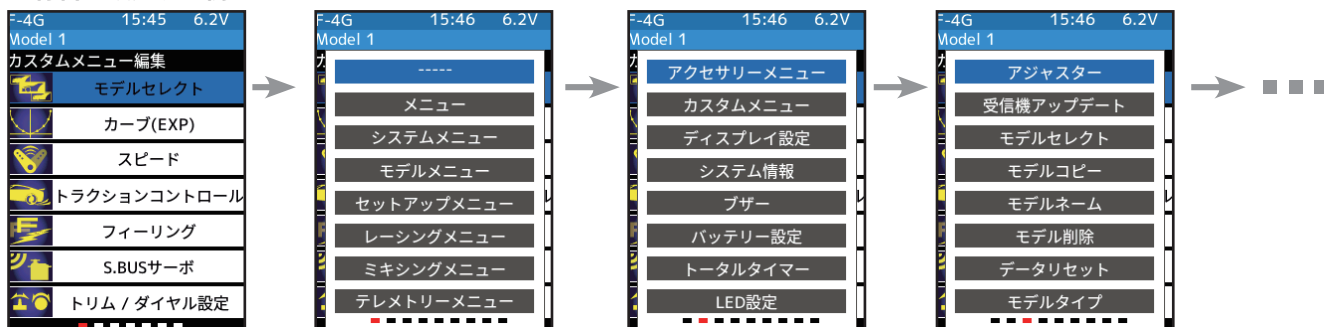
カスタムメニュー編集

よく使用する機能を自分で作成することができます。

カスタムメニュー編集画面は、次の方法で表示します。



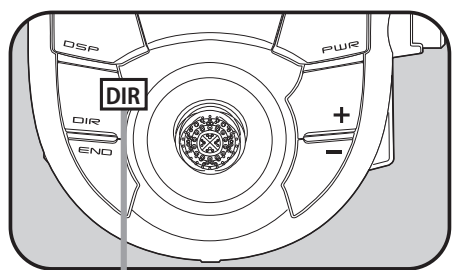
1 行目を設定する例



変更したい行をジョグキーで選択し押しします。

一行目に表示されたい機能をジョグキーで選択して押します。

9 ページあるのでジョグキーを左右に操作して希望の機能を探します。



ホーム画面から DIR ボタンを押して自分の作成したカスタムメニューを表示させることができます。



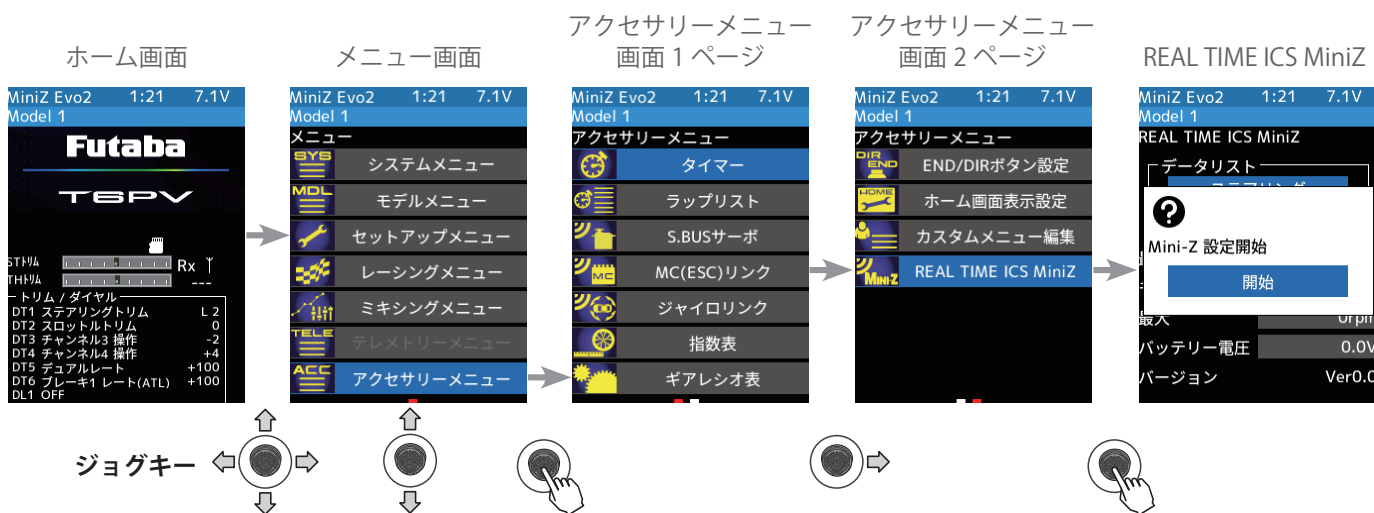


REAL TIME ICS MiniZ

T6PVでKyosho MINI-Z EVO2 レシーバーユニット V2(82046) を操作する場合、MINI-Z EVO2へシステム変更時に双方向（テレメトリー）をONに設定すると送信機でステアリング・スロットルのパラメーター設定が可能になります。

※システムが **MINI-Z EVO2** で双方向が **ON** 時の限定機能

1 [アクセサリメニュー] → [アクセサリメニュー 2 ページ目] → [REAL TIME ICS MiniZ] をタッチして、"REAL TIME ICS MiniZ" 画面を表示します。



2 [開始] をタッチするとシャシーからの情報が表示されます。

双方向 ON OFF
レスポンス **スロー**

データリスト
ステアリング
スロットル
モーター種別 制限無
モーター回転数 0rpm
最大 0rpm
バッテリー電圧 5.8V
バージョン Ver1.0

レスポンスがスローの場合の表示
(セットアップメニュー→受信機設定→システム)

※ MiniZ初期 Verの場合は [モーター種別] が [最高回転数] と表示されます。

- モーター種別…… REAL TIME ICS MiniZ では表示のみです。設定する場合は ICS マネージャーをご使用ください。
- モーター回転数…… モーターの回転数を表示します
- 最大…… モーターの最大回転数を表示します。表示エリアをタッチするとクリアします。
- バッテリー電圧…… シャシーのバッテリー電圧を表示します。表示エリアをタッチすると詳細画面が表示されます。
- バージョン…… シャシーのバージョンが表示されます。

双方向 ON OFF
レスポンス **ファスト**

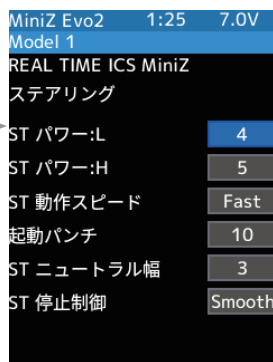
データリスト
ステアリング
スロットル
最高回転数 Normal
バージョン Ver0.1

レスポンスがファストの場合の表示
(セットアップメニュー→受信機設定→システム)

- テレメトリー情報は表示されません。



3 [ステアリング] をタッチすると送信機からステアリングのパラメーター設定ができます。



- ST パワー:L (ニュートラル付近の保持特性設定) 1~5
- ST パワー:H (ニュートラル付近以外の範囲の保持特性設定) 1~5
- ST 動作スピード (最大スピード設定) Slow、2~4、Fast
- 起動パンチ (初期レスポンス設定) 1~20
- ST ニュートラル幅 (ニュートラル帯設定) 0~10
- ST 停止制御 (ブレーキ特性設定) Over、Middle、Smooth



各項目の設定値をジョグキーで選択し±ボタンで設定します。
±ボタンで設定するとすぐに車体へ反映されます。

4 [スロットル] をタッチすると送信機からスロットルのパラメーター設定ができます。



スロットル 1 ページ



バック禁止とブラシレスの項目はジョグキーを押すと確認画面が出現します。
「はい」をジョグキーで選択し押すと変更されます。

- バック禁止 OFF(バック有)/ON(バック無)
- ブラシレス (モーター種類の選択) ON(ブラシレスモーター)/OFF(ブラシモーター)
- リバースタイマー (バック開始までのタイムラグ) スロー:2.8ms~700ms ファスト:0.99ms~250ms
- ニュートラルブレーキ (ニュートラル時のブレーキ効き具合) 1~5
- モーター時定数 (モーターの立ち上がり時間) 1~5
- カーブコントロール (スロットル開度に対する反応) Minus、Flat、Plus
- 起動パンチ (スロットル初期レスポンス設定) 0~10



スロットル 2 ページ



- TH ニュートラル幅 (ニュートラル帯設定) Narrow、Middle、Wide
- 駆動タイミング 0~8 ※ MiniZ初期 Verの場合は [駆動タイミング]が表示されません。

各項目の設定値をジョグキーで選択し±ボタンで設定します。
±ボタンで設定するとすぐに車体へ反映されます。



ワーニング表示

ローバッテリーアラーム



送信機のバッテリー電圧が使用可能範囲より下がると、警告音とともに、LCD画面に「ローバッテリー」と表示が現われて警告します。

すぐに車(ボート)を回収し、走行(走航)を中止してください。

警告音：
ピピピピッ・・・・・・(連続)

⚠注意

ローバッテリーアラームが発生した場合、すぐに車(ボート)を回収し、走行(走航)を中止してください。

走行(走航)中に電池がなくなると、車(ボート)が暴走する危険があります。

使用電源とローバッテリーについて

ローバッテリーアラームの設定は使用電池によって異なります。システムメニューで使用する電源に合ったバッテリータイプの設定を必ず行ってください。誤った設定で使用すると、正常なローバッテリーアラームが働かなくなり、システムが停止する場合があります。また使用時間が極端に短くなる場合もあります。

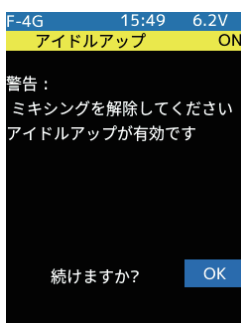
電源切り忘れワーニング



T6PVを何も操作していない時間が10分継続すると、警告音とともに、LCD画面に「警告: オートパワーオフ」と表示されます。ステアリングホイール、スロットルトリガーまたは、ダイヤル、スイッチ、ボタンを操作すると警告音は止ります。また使用しないのであれば電源を切ってください。

警告音：
ピピピピッ・・・・・・(連続)

MIX ワーニング



アイドルアップ、スロットルオフ(エンジンカット)、ニュートラルブレーキの機能のスイッチが入っている状態で、電源スイッチを入れたときに、警告音が鳴り、LCD画面に「警告: ミキシングを解除してください」と表示されます。

該当する機能のスイッチを切ると警告音は止ります。左の参考図は、アイドルアップの場合です。

警告音：
ピピピピピピピッ、休止(繰り返し)



修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、もう一度この取扱説明書をお読みになって、チェックしていただき、なお異常のあるときは、次の要領で修理を依頼してください。

<依頼先>

Futaba ラジコンカスタマーサービスまで修理依頼してください。

<修理の時に必要な情報>

トラブルの状況をできるだけ詳しく書いて修理品と一緒に送りください。

- 症状（トラブル時の状況も含めて）
- 使用プロポ（送信機、受信機、サーボの型番）
- 搭載車体（車体名、搭載状況）
- お送りいただいた修理品の型番および個数
- ご住所、お名前、電話番号

<保証内容>

保証書をご覧ください。

- 保証書の範囲内で修理をお受けになる場合は、修理品と一緒に保証書を送付してください。この場合、販売店印と購入日付の記入があるもののみ有効です。

<本製品に関するご質問、ご相談>

Futaba ラジコンカスタマーサービスに、ご連絡ください。

ラジコンカスタマーサービスセンター

修理・アフターサービス、プロポに関するお問い合わせは Futaba ラジコンカスタマーサービスセンターへどうぞ。

双葉電子工業（株）ラジコンカスタマーサービス
〒299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚 1080 TEL.0475-32-4395

本製品は、以下のオープンソースソフトウェアを使用しております。
ソフトウェアのライセンスは、以下の URL よりご確認ください。

- Google Noto Fonts

<https://github.com/googlefonts/noto-fonts/blob/main/LICENSE>

- Newlib

<https://sourceware.org/newlib/COPYING.NEWLIB>

双葉電子工業株式会社 TEL:0475-32-6111
〒299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚 1080

© FUTABA CORPORATION 2025 年 1 月 (1)

